

金沢医科大学 研究者一覧

2007年版



金沢医科大学

凡 例

- ◇ この研究者一覧は、「金沢医科大学教育学術情報管理システム」に登録された情報に基づき作成した。
- ◇ 掲載対象者は、平成19年12月1日現在で本学に在籍する研究者(学長・教授・准教授・講師・学内講師・助教)とした。
- ◇ 掲載順は、次のとおりとした。部門内の掲載順は、原則として2006年版業績集の掲載順とした。
 - ・ 医学部医学科(旧 一般教育・基礎医学・臨床医学)
 - ・ 看護学部看護学科
 - ・ 大学病院
 - ・ 総合医学研究所
- ◇ 巻末の索引は、「五十音順」とした。
- ◇ 掲載項目は、次のとおりとした。
 - ① 氏 名(カナ・英文名)
 - ② 生 年 月
 - ③ 所 属
 - ④ 職 名
 - ⑤ 最 終 学 歴
 - ⑥ 学 位
 - ⑦ 電 子 メール
 - ⑧ 専 門 分 野
 - ⑨ 職 歴 (主なもの5件以内)
 - ⑩ 所 属 学 会 (主なもの5件以内)
 - ⑪ 研 究 課 題 (主なもの2件以内・英訳)
 - ⑫ 研究の概要
 - ⑬ 著 書 (主なもの2件以内)
 - ⑭ 学 術 論 文 (主なもの5件以内)
 - ⑮ 学 術 賞 (主なもの2件以内)
 - ⑯ その他の業績(主なもの2件以内)
 - ⑰ 研究費採択状況(主なもの10件以内)

※文部科学省補助金5件、厚生労働省他補助金3件、その他2件

なお、⑨～⑰の項目は、登録がない場合は表記しないこととした。

※ 問い合わせ先:金沢医科大学 研究助成センター事務課(Tel.076-218-8055)

目 次

所属	職名	氏名	フリガナ	ページ
金沢医科大学				
	学長	山田 裕一	ヤマダ ユウイチ	1
医学部／人間科学科目(人文科学)				
	教授	平口 哲夫	ヒラグチ テツオ	2
	准教授	竹田 浩一	タケダ コウイチ	3
医学部／人間科学科目(数学)				
	教授	松田 博男	マツダ ヒロオ	4
	准教授	吉野 健一	ヨシノ ケンイチ	5
医学部／生命科学科目(自然科学)【旧 物理学】				
	准教授	杉谷 道男	スギタニ ミチオ	6
	講師	中村 清	ナカムラ キヨシ	7
医学部／生命科学科目(自然科学)【旧 化学】				
	講師	前田 雅代	マエダ マサヨ	8
医学部／生命科学科目(自然科学)【旧 生物学】				
	教授	堀 功	ホリ イサオ	9
	准教授	朝井 悦夫	アサイ エツオ	10
医学部／人間科学科目(外国語)【旧 英語】				
	教授	澁谷 良穂	シブヤ ヨシホ	11
	講師	柿崎 謙一	カキザキ ケンイチ	12
	講師	Carla Jane Curry	カリー カーラ	13
医学部／人間科学科目(外国語)【旧 ドイツ語】				
	准教授	原 亮	ハラ アキラ	14
	講師	公地 宗弘	コウチ ムネヒロ	15
医学部／生命科学科目(体育学)				
	教授	田村 暢熙	タムラ ノブキ	16
	准教授	山科 忠彦	ヤマシナ タダヒロ	17
	講師	上田 文夫	ウエダ フミオ	18
医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅰ】				
	教授	八田 稔久	ハッタ トシヒサ	19
	講師	東 伸明	ヒガシ ノブアキ	20
	講師	島田 ひろき	シマダ ヒロキ	21
	学内講師	島村 英理子	シマムラ エリコ	22

所属	職名	氏名	フリガナ	ページ
医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅱ】				
	教授	篠原 治道	シノハラ ハルミチ	23
	准教授	下川 隆	シモカワ タカシ	24
	学内講師	安高 悟	ヤスタカ サトル	25
	学内講師	木南 利栄子	コミナミ リエコ	26
医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅰ】				
	教授	加藤 伸郎	カトウ ノブオ	27
	准教授	須貝 外喜夫	スガイ トキオ	28
	助教	山本 亮	ヤマモト リョウ	29
医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅱ】				
	教授	芝本 利重	シバモト トシシゲ	30
	准教授	倉田 康孝	クラタ ヤスタカ	31
	講師	宮前 俊一	ミヤマエ シュンイチ	32
	助教	高野 博充	タカノ ヒロミチ	33
医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅰ】				
	教授	伊達 孝保	ダテ タカヤス	34
	准教授	岩淵 邦芳	イワブチ クニヨシ	35
	助教	松井 理	マツイ タダシ	36
	助教	橋本 光正	ハシモト ミツマサ	37
医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅱ】				
	教授	米倉 秀人	ヨネクラ ヒデト	38
	准教授	吉竹 佳の	ヨシタケ ヨシノ	39
	助教	鶴岡 直樹	ツルオカ ナオキ	40
医学部／生体情報薬理学(薬理学)				
	教授	西尾 眞友	ニシオ マトモ	41
	講師	吉田 純子	ヨシダ ジュンコ	42
医学部／腫瘍病理学(病理学Ⅰ)				
	教授	田中 卓二	タナカ タクジ	43
	教授	杉江 茂幸	スギエ シゲユキ	44
	助教	安井 由美子	ヤスイ ユミコ	45
医学部／病理病態学(病理学Ⅱ)				
	教授	勝田 省吾	カツダ ショウゴ	46
	教授	上田 善道	ウエダ ヨシミチ	47
	講師	佐藤 勝明	サトウ カツアキ	48

所属	職名	氏名	フリガナ	ページ
医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 微生物学】				
	教授	大原 義朗	オオハラ ヨシロウ	49
	准教授	齊藤 峰輝	サイトウ ミネキ	50
	助教	谷浦 直子	タニウラ ナオコ	51
	助教	斎藤 孔良	サイトウ コウスケ	52
医学部／代替基礎医学(血清学)				
	教授	山口 宣夫	ヤマグチ ノブオ	53
	准教授	清水 昌寿	シミズ ショウジ	54
	講師	松野 栄雄	マツノ ヒデオ	55
	助教	松葉 慎太郎	マツバ シンタロウ	56
医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 医動物学】				
	准教授	池田 照明	イケダ テルアキ	57
	学内講師	及川 陽三郎	オイカワ ヨウサブロウ	58
	学内講師	市川 秀隆	イチカワ ヒデタカ	59
医学部／病態診断医学(臨床病理学)				
	教授	野島 孝之	ノジマ タカユキ	60
	教授	湊 宏	ミナト ヒロシ	61
	講師	福永 壽晴	フクナガ トシハル	62
	助教	黒瀬 望	クロセ ノゾム	63
	助教	木下 英理子	キノシタ エリコ	64
医学部／社会環境保健医学(衛生学)				
	准教授	石崎 昌夫	イシザキ マサオ	65
	講師	中田 実	ナカタ ミノリ	66
	学内講師	登坂 由香	ノボリサカ ユカ	67
医学部／健康増進予防医学(公衆衛生学)				
	教授	中川 秀昭	ナカガワ ヒデアキ	68
	准教授	三浦 克之	ミウラ カツユキ	69
	准教授	西条 旨子	ニシジヨウ ムネコ	70
医学部／法医学				
	教授	北村 修	キタムラ オサム	71
医学部／医学教育学【旧 医学教育・情報学】				
	教授	安田 幸雄	ヤスダ ユキオ	72
	准教授	相野田 紀子	アイノダ ノリコ	73
	准教授	堀 有行	ホリ アリユキ	74

所属	職名	氏名	フリガナ	ページ
	助教	黒田 尚宏	クロダ ナオヒロ	75
医学部／循環制御学(循環器内科学)				
	教授	梶波 康二	カジナミ コウジ	76
	准教授	津川 博一	ツガワ ヒロイチ	77
	准教授	浅地 孝能	アサジ タカヨシ	78
	准教授	北山 道彦	キタヤマ ミチヒコ	79
	講師	河合 康幸	カワイ ヤスユキ	80
	学内講師	上西 博章	ウエニシ ヒロアキ	81
	助教	赤尾 浩慶	アカオ ヒロノブ	82
	助教	竹田 健史	タケダ ケンジ	83
	助教	藤岡 央	フジオカ ナカバ	84
	助教	佐竹 主道	サタケ オサミチ	85
	助教	佐藤 良子	サトウ リョウコ	86
	助教	粕野 健一	カセノ ケンイチ	87
	助教	野村 祐介	ノムラ ユウスケ	88
	助教	本山 敦士	モトヤマ アツシ	89
医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)				
	教授	梶 博久	トガ ヒロヒサ	90
	准教授	長内 和弘	オサナイ カズヒロ	91
	講師	黄 正寿	ファン ジョンス	92
	学内講師	高橋 昌克	タカハシ マサカツ	93
	学内講師	井口 晶晴	イグチ マサハル	94
	助教	戸部 勇保	トベ タケヤス	95
	助教	土原 一真	ツチハラ カツマ	96
	助教	及川 卓	オイカワ タク	97
	助教	中川 研	ナカガワ ケン	98
	助教	舘 由貴	タチ ユキ	99
	助教	及川 理恵子	オイカワ リエコ	100
	助教	小島 好司	コジマ コウジ	101
医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)				
	教授	高瀬 修二郎	タカセ シュウジロウ	102
	准教授	川原 弘	カワハラ ヒロム	103
	学内講師	土島 睦	ツチシマ ムツミ	104
	助教	岡村 英之	オカムラ ヒデユキ	105
	助教	尾崎 一晶	オザキ カズアキ	106
	助教	島中 公志	シマナカ コウシ	107
	助教	白枝 昌子	シロエダ ショウコ	108
	助教	福村 敦	フクムラ アツシ	109
	助教	福羅 匡普	フクラ マサユキ	110

所属	職名	氏名	フリガナ	ページ
	助教	矢野 博一	ヤノ ヒロカズ	111
	助教	大塚 俊美	オオツカ トシミ	112
	助教	林 伸彦	ハヤシ ノブヒコ	113
	助教	山田 真善	ヤマダ マサヨシ	114
医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)				
	教授	横山 仁	ヨコヤマ ヒトシ	115
	准教授	浅香 充宏	アサカ ミツヒロ	116
	学内講師	山谷 秀喜	ヤマヤ ヒデキ	117
	助教	今村 秀嗣	イマムラ ヒデツグ	118
	助教	足立 浩樹	アダチ ヒロキ	119
	助教	奥山 宏	オクヤマ ヒロシ	120
	助教	近澤 芳寛	チカザワ ヨシヒロ	121
	助教	中川 卓	ナカガワ マサル	122
	助教	羽山 智之	ハヤマ サトシ	123
	助教	森田 恭子	モリタ キヨウコ	124
	助教	渥美 浩克	アツミ ヒロカツ	125
	助教	井村 淳子	イムラ ジュンコ	126
	助教	藤本 圭司	フジモト ケイジ	127
医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)				
	教授	古家 大祐	コヤ ダイスケ	128
	教授	木越 俊和	キゴシ トシカズ	129
	准教授	中川 淳	ナカガワ アツシ	130
	講師	西澤 誠	ニシザワ マコト	131
	学内講師	伊藤 智彦	イトウ トモヒコ	132
	助教	今泉 範子	イマイズミ ノリコ	133
	助教	津田 真一	ツダ シンイチ	134
	助教	古屋 圭介	フルヤ ケイスケ	135
	助教	前島 勝之	マエジマ カツユキ	136
	助教	小西 一典	コニシ カズノリ	137
	助教	上原 啓吾	ウエハラ ケイゴ	138
医学部／血液免疫制御学(血液免疫内科学)				
	教授	梅原 久範	ウメハラ ヒサノリ	139
	教授	廣瀬 優子	ヒロセ ユウコ	140
	准教授	福島 俊洋	フクシマ トシヒロ	141
	准教授	正木 康史	マサキ ヤスフミ	142
	講師	田中 真生	タナカ マサオ	143
	助教	河南 崇典	カワナミ タカフミ	144
	助教	金 哲雄	キン テツオ	145

所属	職名	氏名	フリガナ	ページ
医学部／脳脊髄神経治療学(神経内科学)				
	教授	松井 真	マツイ マコト	146
	講師	長山 成美	ナガヤマ シゲミ	147
	助教	永石 彰子	ナガイシ アキコ	148
	助教	中西 恵美	ナカニシ メグミ	149
	助教	垣内 無一	カイト ムイチ	150
	助教	権藤 雄一郎	ゴンドウ ユウイチロウ	151
	助教	川村 和之	カワムラ カズユキ	152
医学部／高齢医学(老年病学)				
	教授	森本 茂人	モリモト シゲト	153
	准教授	岩井 邦充	イワイ クニミツ	154
	講師	土屋 博	ツチヤ ヒロシ	155
	講師	中橋 毅	ナカハシ タケシ	156
	講師	宮内 英二	ミヤウチ エイジ	157
	学内講師	村井 裕	ムライ ヒロシ	158
	助教	大黒 正志	オオクロ マサシ	159
	助教	石神 慶一郎	イシガミ ケイイチロウ	160
医学部／発生発達医学(小児科学)				
	教授	高橋 弘昭	タカハシ ヒロアキ	161
	教授	高 永煥	コウ エイカン	162
	学内講師	柳瀬 卓也	ヤナセ タクヤ	163
	学内講師	中村 常之	ナカムラ ツネユキ	164
	学内講師	小林 あずさ	コバヤシ アズサ	165
	助教	中村 利美	ナカムラ トシミ	166
	助教	伊藤 順庸	イトウ マサツネ	167
	助教	山村 淳一	ヤマムラ ジュンイチ	168
	助教	藤木 拓磨	フジキ タクマ	169
	助教	佐藤 仁志	サトウ ヒトシ	170
	助教	岡田 直樹	オカダ ナオキ	171
	助教	池田 友美	イケダ トモミ	172
医学部／精神神経科学(神経精神医学)				
	教授	地引 逸亀	ジビキ イツキ	173
	准教授	窪田 孝	クボタ タカシ	174
	講師	岩崎 真三	イワサキ シンゾウ	175
	講師	中川 東夫	ナカガワ ハルオ	176
	講師	渡辺 健一郎	ワタナベ ケンイチロウ	177
	学内講師	北本 福美	キタモト フクミ	178
	助教	江夏 偉岳	エナツ イガク	179
	助教	亀廣 摩弥	カメヒロ マヤ	180

所属	職名	氏名	フリガナ	ページ
	助教	小泉 葉月	コイズミ ハツキ	181
	助教	小岩 大輔	コイワ ダイスケ	182
	助教	南野 壽利	ナンノ ヒサトシ	183
	助教	廣保 究	ヒロヤス キウム	184
	助教	石川 暁	イシカワ アキラ	185
	助教	川村 友美	カワムラ トモミ	186
	助教	清水 聰	シミズ サトル	187
	助教	増田 信二	マスダ シンジ	188
医学部／放射線診断治療学(放射線医学)				
	教授	利波 久雄	トナミ ヒサオ	189
	教授	東 光太郎	ヒガシ コウタロウ	190
	准教授	的場 宗孝	マトバ ムネタカ	191
	准教授	横田 啓	ヨコタ ハジメ	192
	講師	大口 学	オオグチ マナブ	193
	講師	谷口 充	タニグチ ミツル	194
	学内講師	西川 高広	ニシカワ タカヒロ	195
	助教	太田 清隆	オオタ キヨタカ	196
	助教	高橋 知子	タカハシ トモコ	197
医学部／心血管外科学(胸部外科学)				
	教授	秋田 利明	アキタ トシアキ	198
	教授	坂本 滋	サカモト シゲル	199
	教授	四方 裕夫	シカタ ヒロオ	200
	准教授	飛田 研二	ヒダ ケンジ	201
	学内講師	永吉 靖弘	ナガヨシ ヤスヒロ	202
	学内講師	西澤 永晃	ニシザワ ヒサテル	203
	助教	神野 正明	カンノ マサアキ	204
	助教	小畑 貴司	コバタ タカシ	205
	助教	野中 利通	ノナカ トシミチ	206
	助教	野口 康久	ノグチ ヤスヒサ	207
	助教	清澤 旬	キヨサワ ジュン	208
	助教	長谷川 広樹	ハセガワ ヒロキ	209
医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)				
	教授	高島 茂樹	タカシマ シゲキ	210
	教授	小坂 健夫	コサカ タケオ	211
	教授	斎藤 人志	サイトウ ヒトシ	212
	講師	表 和彦	オモテ カズヒコ	213
	学内講師	中野 泰治	ナカノ ヤスハル	214
	学内講師	吉谷 新一郎	ヨシタニ シンイチロウ	215
	学内講師	田中 弓子	タナカ ユミコ	216

所属	職名	氏名	フリガナ	ページ
	助教	菅谷 純一	スガヤ ジュンイチ	217
	助教	長谷川 泰介	ハセガワ タイスケ	218
	助教	向井 弘圭	ムカイ ヒロカド	219
	助教	横井 美樹	ヨコイ ミキ	220
	助教	黒田 雅利	クロダ マサトシ	221
	助教	尾山 勝信	オヤマ カツノブ	222
	助教	林 圭	ハヤシ ケイ	223

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

教授	松本 忠美	マツモト タダミ	224
講師	藤田 拓也	フジタ タクヤ	225
講師	兼氏 歩	カネウジ アユミ	226
講師	横山 光輝	ヨコヤマ ミツテル	227
講師	奥田 鉄人	オクダ テツヒト	228
講師	杉森 端三	スギモリ タンゾウ	229
学内講師	前岡 勇人	マエオカ ハヤト	230
助教	小川原 雅隆	オガワラ マサタカ	231
助教	納富 憲二	ノウトミ ケンジ	232
助教	細川 栄隆	ホソカワ ヒデタカ	233
助教	市堰 徹	イチセキ トオル	234
助教	北村 憲司	キタムラ ケンジ	235
助教	波多野 栄重	ハタノ エイジュウ	236
助教	廣村 健太郎	ヒロムラ ケンタロウ	237
助教	福井 清数	フクイ キヨカズ	238
助教	安田 佳史	ヤスダ ヨシヒト	239
助教	山田 兼吾	ヤマダ ケンゴ	240
助教	三秋 恒平	ミアキ コウヘイ	241

医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)

教授	飯塚 秀明	イイツカ ヒデアキ	242
准教授	赤井 卓也	アカイ タクヤ	243
准教授	立花 修	タチバナ オサム	244
講師	飯田 隆昭	イイダ タカアキ	245
講師	高田 久	タカタ ヒサシ	246
学内講師	岡本 一也	オカモト カズヤ	247
助教	笹川 泰生	ササガワ ヤスオ	248
助教	白神 俊祐	シラガ シュンスケ	249
助教	村坂 憲史	ムラサカ ケンシ	250
助教	山本 謙二	ヤマモト ケンジ	251
助教	山本 治郎	ヤマモト ジロウ	252

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

所属	職名	氏名	フリガナ	ページ
医学部／臓器機能再建学(小児外科学)	教授	川上 重彦	カワカミ シゲヒコ	253
	講師	島田 賢一	シマダ ケンイチ	254
	学内講師	吉田 純	ヨシダ ジュン	255
	学内講師	岸邊 美幸	キシベ ミユキ	256
	学内講師	山元 康德	ヤマモト ヤスノリ	257
	助教	山下 昌信	ヤマシタ マサノブ	258
	助教	西部 泰弘	ニシブ ヤスヒロ	259
	助教	黒澤 智子	クロサワ トモコ	260
	助教	氷見 祐二	ヒミ ユウジ	261
	助教	篠川 靖夫	シノカワ ヤスオ	262
	助教	榎本 仁	エノモト ジン	263
	助教	原島 要人	ハラシマ ヨウト	264
	助教	森田 礼時	モリタ レイジ	265
	助教	宮下 松樹	ミヤシタ マツキ	266
	助教	皐月 玲子	サツキ レイコ	267
医学部／臓器機能再建学(小児外科学)	教授	伊川 廣道	イカワ ヒロミチ	268
	准教授	河野 美幸	コウノ ミユキ	269
	講師	小沼 邦男	コヌマ クニオ	270
	学内講師	増山 宏明	マスヤマ ヒロアキ	271
	助教	福本 泰規	フクモト ヒロノリ	272
	助教	森村 絵里	モリムラ エリ	273
医学部／感覚機能病態学(眼科学)	教授	佐々木 洋	ササキ ヒロシ	274
	教授	中泉 裕子	ナカイズミ ヒロコ	275
	教授	北川 和子	キタガワ カズコ	276
	講師	福田 正道	フクダ マサミチ	277
	助教	永井 康太	ナガイ コウタ	278
	助教	河上 裕	カワカミ ユタカ	279
	助教	藤田 信之	フジタ ノブユキ	280
	助教	萩原 健太	ハギハラ ケンタ	281
医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	教授	友田 幸一	トモダ コウイチ	282
	准教授	鈴鹿 有子	スズカ ユウコ	283
	准教授	辻 裕之	ツジ ヒロユキ	284
	講師	村田 英之	ムラタ ヒデユキ	285
	学内講師	堀口 章子	ホリグチ アキコ	286
	学内講師	下出 祐造	シモデ ユウゾウ	287
	助教	石政 寛	イシマサ ヒロシ	288

所属	職名	氏名	フリガナ	ページ
	助教	岩崎 紀子	イワサキ ノリコ	289
	助教	中泉 俊彦	ナカイズミ トシヒコ	290
	助教	宮澤 徹	ミヤザワ トオル	291
	助教	北村 みわ	キタムラ ミワ	292
	助教	酒井 あや	サカイ アヤ	293
	助教	山田 奏子	ヤマダ カナコ	294
医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)				
	教授	望月 隆	モチヅキ タカシ	295
	准教授	田邊 洋	タナベ ヒロシ	296
	講師	河崎 昌子	カワサキ マサコ	297
	講師	渡邊 晴二	ワタナベ セイジ	298
	学内講師	阿部 真也	アベ シンヤ	299
	学内講師	藤井 俊樹	フジイ トシキ	300
	学内講師	石崎 康子	イシザキ ヤスコ	301
	助教	竹田 公信	タケダ キミノブ	302
	助教	刀川 信幸	タチカワ ノブユキ	303
	助教	若松 伸彦	ワカマツ ノブヒコ	304
	助教	藤田 純	フジタ ジュン	305
	助教	長谷井 麻希	ハセイ マキ	306
医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)				
	教授	鈴木 孝治	スズキ コウジ	307
	准教授	田中 達朗	タナカ タツロウ	308
	准教授	宮澤 克人	ミヤザワ カツヒト	309
	講師	川村 研二	カワムラ ケンジ	310
	講師	森山 学	モリヤマ マナブ	311
	助教	菅 幸大	スガ コウダイ	312
	助教	近沢 逸平	チカザワ イツペイ	313
	助教	徳永 亨介	トクナガ コウスケ	314
	助教	橘 宏典	タチバナ ヒロミチ	315
	助教	石井 健夫	イシイ タケオ	316
	助教	森田 展代	モリタ ノブヨ	317
医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)				
	教授	牧野田 知	マキノダ サトル	318
	講師	藤井 亮太	フジイ リョウタ	319
	講師	渡邊 之夫	ワタナベ ユキオ	320
	学内講師	富澤 英樹	トミザワ ヒデキ	321
	助教	藤田 智子	フジタ サトコ	322
	助教	早稲田 智夫	ワセダ トモオ	323
	助教	井上 弘一	イノウエ ヒロカズ	324

所属	職名	氏名	フリガナ	ページ
	助教	篠倉 千早	ササクラ チハヤ	325
	助教	高木 弘明	タカギ ヒロアキ	326
医学部／侵襲制御学(麻醉学)				
	教授	土田 英昭	ツチダ ヒデアキ	327
	准教授	関 純彦	セキ スミヒコ	328
	学内講師	白石 美治	シライシ ミハル	329
	助教	霜 知浩	シモ トモヒロ	330
	助教	福岡 直	フクオカ タダシ	331
	助教	堀内 桂	ホリウチ カツラ	332
	助教	唐澤 紀幸	カラサワ ノリユキ	333
	助教	山岡 祐子	ヤマオカ ユウコ	334
医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)				
	教授	瀬上 夏樹	セガミ ナツキ	335
	准教授	吉村 弘	ヨシムラ ヒロシ	336
	講師	金山 景錫	カネヤマ ケイセキ	337
	講師	出村 昇	デムラ ノボル	338
	助教	高橋 基浩	タカハシ モトヒロ	339
	助教	長尾 壽和	ナガオ トシカズ	340
	助教	西浦 里英	ニシウラ リエ	341
	助教	本庄 美穂	ホンジョウ ミホ	342
医学部／救急医学				
	教授	和藤 幸弘	ワトウ ユキヒロ	343
	学内講師	真柴 智	マシバ サトル	344
	助教	林 信行	ハヤシ ノブユキ	345
	助教	盛田 英樹	モリタ ヒデキ	346
	助教	後藤 哲郎	ゴトウ テツロウ	347
	助教	水沼 真理子	ミズヌマ マリコ	348
	助教	中田 麻里	ナカタ マリ	349
医学部／腫瘍治療学				
	教授	元雄 良治	モトオ ヨシハル	350
	講師	中島 日出夫	ナカジマ ヒデオ	351
	助教	島崎 猛夫	シマサキ タケオ	352
医学部／総合内科学(総合診療科)				
	教授	神田 享勉	カンダ ツギヤス	353
	准教授	高橋 孝	タカハシ タカシ	354
	助教	山川 淳一	ヤマカワ ジュンイチ	355
	助教	守屋 純二	モリヤ ジュンジ	356

所属	職名	氏名	フリガナ	ページ
医学部／運動機能病態学(リハビリ科)	教授	山口 昌夫	ヤマグチ マサオ	357
医学部／呼吸機能治療学(呼吸器外科)	教授	佐久間 勉	サクマ ツトム	358
	教授	佐川 元保	サガワ モトヤス	359
	准教授	薄田 勝男	ウスダ カツオ	360
	助教	相川 広一	アイカワ ヒロカズ	361
看護学部／基礎看護学	教授	俵 友恵	タワラ トモエ	362
	准教授	坂井 恵子	サカイ ケイコ	363
看護学部／精神看護学				
	教授	北岡 和代	キタオカ カズヨ	364
看護学部／成人看護学				
	教授	田村 幸子	タムラ サチコ	365
	准教授	平山 恵美子	ヒラヤマ エミコ	366
	助教	内田 真紀	ウチダ マキ	367
看護学部／高齢看護学				
	教授	天津 榮子	アマツ エイコ	368
看護学部／母性看護学				
	教授	塚田 トキエ	ツカダ トキエ	369
	准教授	笹野 京子	ササノ キョウコ	370
看護学部／地域看護学				
	教授	福間 和美	フクマ カズミ	371
	助教	浜崎 優子	ハマザキ ユウコ	372
看護学部／在宅看護学				
	講師	前田 修子	マエダ シュウコ	373
看護学部／人間科学領域				
	教授	石橋 隆治	イシバシ タカハル	374
	教授	岡田 正人	オカダ マサト	375
	教授	柿沼 宏明	カキヌマ ヒロアキ	376
	教授	甲野 裕之	コウノ ヒロユキ	377
	教授	森河 裕子	モリカワ ユウコ	378

所属	職名	氏名	フリガナ	ページ
	准教授	本多 隆文	ホンダ リュウモン	379
	准教授	小島 正美	コジマ マサミ	380
大学病院／内視鏡センター				
	助教	白枝 久和	シロエダ ヒサカズ	381
大学病院／内視鏡科				
	准教授	伊藤 透	イトウ トオル	382
	助教	川浦 健	カワウラ ケン	383
大学病院／健康管理センター				
	教授	松田 芳郎	マツダ ヨシロウ	384
	講師	中西 由美子	ナカニシ ユミコ	385
	講師	早瀬 満	ハヤセ ミツル	386
	学内講師	釘抜 康明	クギヌキ ヤスアキ	387
	助教	日下 一也	クサカ カズヤ	388
	助教	藪野 喜剰	ヤブノ ヨシノリ	389
	助教	櫻井 勝	サクライ マサル	390
大学病院／生活習慣病センター				
	助教	赤澤 純代	アカザワ スミヨ	391
	助教	北田 宗弘	キタダ ムネヒロ	392
	助教	鴨田 佐知子	カモダ サチコ	393
総合医学研究所／人類遺伝学研究部門(生化)				
	教授	久原 とみ子	クハラ トミコ	394
	准教授	新家 敏弘	シンカ トシヒロ	395
	講師	井上 義人	イノウエ ヨシト	396
総合医学研究所／人類遺伝学研究部門(臨床)				
	准教授	高林 晴夫	タカバヤシ ハルオ	397
総合医学研究所／共同利用部門(RI センター)				
	講師	石垣 靖人	イシガキ ヤスヒト	398
総合医学研究所／共同利用部門(動物飼育センター)				
	講師	宗 志平	ソウ シヘイ	399
総合医学研究所／共同利用部門(形態機器センター)				
	講師	栗原 孝行	クリハラ タカユキ	400
総合医学研究所／細胞医学研究部門				

所属	職名	氏名	フリガナ	ページ
	教授	藤川 孝三郎	フジカワ コウザブロウ	401
	助教	宮越 稔	ミヤゴシ ミノル	402
総合医学研究所／先進医療研究部門				
	教授	松井 忍	マツイ シノブ	403
	教授	友杉 直久	トモスギ ナオヒサ	404
	准教授	長尾 嘉信	ナガオ ヨシノブ	405
	助教	上田 忠司	ウエダ タダシ	406
総合医学研究所／分子腫瘍学研究部門				
	教授	竹上 勉	タケガミ ツトム	407
	准教授	太田 隆英	オオタ タカヒデ	408
	助教	村上 学	ムラカミ マナブ	409
総合医学研究所／皮膚真菌学研究部門				
	客員教授	石崎 宏	イシザキ ヒロシ	410
総合医学研究所／環境原性視覚病態研究部門				
	客員教授	佐々木 一之	ササキ カズユキ	411

金沢医科大学

山田 裕一 学長

氏名(カナ・英文名)	ヤマダ ユウイチ YAMADA Yuichi	生年月	1949.10
所 属	金沢医科大学	職 名	学長
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	ulyamada@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	環境中毒学, 健康管理学		

■所属学会

日本産業衛生学会, 日本衛生学会, 日本社会医学会, 日本産業精神保健学会, 北陸公衆衛生学会

■研究課題

エタノール代謝酵素の遺伝子多形と飲酒行動、飲酒による健康影響の関係 (Relationship between genetic polymorphisms in ethanol metabolizing enzymes and drinking behavior and the health effects)

飲酒による高血圧の発症機序の解明とその予防 (Mechanisms in alcohol-related hypertension and the prevention)

■研究の概要

労働環境(粉じん、化学物質暴露)や生活習慣要因(飲酒、喫煙、運動など)のそれぞれまたは相互に関連した健康影響の解明と労働者の健康増進対策についての研究

■学術論文

ALDH2 and CYP2E1 genotypes, urinary acetaldehyde excretion and the health consequences in moderate alcohol consumers, J. Hum. Genet., 51:104-111, 2006

Psychosocial work characteristics and sickness absence in Japanese employees, Int. Arch. Occup. Environ. Health., 79:640-646, 2006

Low fasting serum insulin in Japanese alcohol consumers does not imply improved coronary risk factors, Environ. Health Prevent. Med., 9:243-249, 2004

Association between cigarette consumption and proteinuria in healthy Japanese men and women from an occupational population, J. Occup. Health, 46:365-373, 2004

Alcohol consumption, homeostasis model assessment indices and blood pressure in middle-aged healthy men, J Hum Hypertens, 18:343-350, 2004

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 日本人健常男性における飲酒と喫煙の血圧、腎機能に与える影響

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 日本人健常男性における飲酒と喫煙の血圧、腎機能に与える影響

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 日本人飲酒者における体内アルデヒド蓄積へのアルコール代謝系酵素の遺伝的多形影響

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 日本人飲酒者における体内アルデヒド蓄積へのアルコール代謝系酵素の遺伝的多形影響

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 職域集団でのマルチプルリスクファクター症候群についての疫学的研究

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

1995, 環境省委託事業費, カドミウムによる骨障害発生机序解明のための臨床疫学的アプローチ

1993, 環境省委託事業費, イタイタイ病がカドミウム中毒に関する研究

1992, 環境省委託事業費, イタイタイ病がカドミウム中毒に関する研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

1995, (財)中富健康科学振興財団研究助成金, 中心性肥満に対する運動の効果についての研究

1992, 千代田生命健康開発事業団研究助成金, 肥満者および飲酒者の高血圧発症マーカーとしての血清 r-GTP 上昇の意義

医学部／人間科学科目(人文科学)

平口 哲夫 教授

氏名(カナ・英文名)	ヒラグチ テツオ HIRAGUCHI Tetsuo	生年月	1945.04
所 属	医学部／人間科学科目(人文科学)	職 名	教授
最終学歴	東北大学大学院文学研究科	学 位	文学修士
電子メール	—		
専門分野	環境考古学, 民族考古学, 動物考古学, 古環境, 動物遺体		

■所属学会

日本考古学協会, 日本人類学会, 日本文化人類学会, 日本文化財科学会, 日本平和学会

■研究課題

捕鯨文化についての環境・民族考古学的研究 (Environmental and ethno-archaeological Studies on whaling cultures)

平和学から見た世界連邦運動 (World Federalist Movement from view of peace studies)

■研究の概要

捕鯨文化についての環境・民族学的研究。
世界連邦運動についての平和学研究。

■著書

日本沿岸の先史捕鯨文化, 考古科学的研究法から見た木の文化・骨の文化 (松井章編), クバプロ, 東京, 2003

クジラを食う民, 食わぬ民, 若狭湾沿岸地域総合講座1 若狭の海とクジラ (敦賀短期大学地域交流センター編), 敦賀短期大学地域交流センター (発売元 同成社), 敦賀, 2003

■学術論文

縄文～古代捕鯨と食の多様性, 第1回日本伝統捕鯨地域サミット開催の記録 (財団法人日本鯨類研究所, 他編), 23-49, 2003

動物考古学におけるイルカ遺体の個体別分析, 日本海セトロジー研究 日本海の鯨たち, 1994

朝鮮・対島海峡沿岸の古代捕鯨, 日本海セトロジー研究 日本海の鯨たち, 1991

福井県三国町西下向遺跡の横剥ぎ技法, 旧石器考古学, 1984

縄文時代の「石槍」から見た旧石器時代の「槍先形尖頭器」, 伊東信雄先生追悼考古学古代史論攷, 1990

■その他の業績

福井県三国町西下向遺跡の考古学的調査

石川県宇ノ気町上山田貝塚の考古学的調査

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1995, 科学研究費補助金 一般研究(C), 遺跡出土イルカ骨の計測値と非計測的形質による個体別分析

1994, 科学研究費補助金 一般研究(C), 遺跡出土イルカ骨の計測値と非計測的形質による個体別分析

1993, 科学研究費補助金 一般研究(C), 遺跡出土イルカ骨の計測値と非計測的形質による個体別分析

1992, 科学研究費補助金 一般研究(C), 個体別分析による縄文時代イルカ捕獲活動の研究

1991, 科学研究費補助金 一般研究(C), 個体別分析による縄文時代イルカ捕獲活動の研究

医学部／人間科学科目(人文科学)

竹田 浩一 准教授

氏名(カナ・英文名)	タケダ コウイチ TAKEDA Koichi	生年月	1951.03
所 属	医学部／人間科学科目(人文科学)	職 名	准教授
最終学歴	京都大学大学院文学研究科	学 位	文学修士
電子メール	k-takeda@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	哲学・倫理学		

■職歴

金沢医科大学 1982-2002 金沢医科大学医学部講師 2003-2006 金沢医科大学医学部助教授 2007-金沢医科大学医学部准教授 (1982.04)

■所属学会

日本哲学会, 関西哲学会, 科学基礎論学会, 日本ホワイトヘッドプロセス学会, 日本医学哲学・倫理学会

■研究課題

アリストテレスの論理学と形而上学の関係 (the relation between logic and metaphysics in Aristotle)

西田哲学の体系 (the System of Nishida's Philosophy)

■研究の概要

アリストテレスの論理学は、学問の道具であり、形而上学とは無関係と考えられてきた。しかし、彼の論理学は、内容を捨象する現代の形式論理学とは異なり、命題の内容に依存する推論システムである。そして、論理学の内容となる事物の秩序を考究するのが形而上学なのである。この見地から、アリストテレスにおける論理学と形而上学との関係を研究している。

■著書

記紀は神話か？―本居宣長の場合―, 国文学年次別論文集平成 14 年上代 I, 朋文出版, 東京, 2004

宣長における自己の追求, 国文学年次別論文集 近世 2 平成 11 年 (学術論文刊行会編), 朋文出版, 東京, 2001

■学術論文

ライブニッツの論理計算について, 科学基礎論研究, 1988

ホワイトヘッドとゲーテ ―両者の自然認識をめぐって―, プロセス思想, 1987

アリストテレスにおけるアナログア, 金医大教養論集, 34:1-15, 2006

アリストテレスの形而上学における本質と実体, 金沢医大教養論文集, 33:1-9, 2005

アリストテレスの実体論, 金沢医大教養論文集, 32:1-11, 2004

■その他の業績

『医学における哲学の効用』の共同翻訳(出版北樹出版 発売学文社)

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1993, 科学研究費補助金 一般研究(C), 形式体系と具体的モデルという観点からの西田幾多郎の哲学の新解釈

医学部／人間科学科目(数学)

松田 博男 教授

氏名(カナ・英文名)	マツダ ヒロオ MATSUDA Hiroo	生年月	1947.05
所 属	医学部／人間科学科目(数学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学大学院理学研究科	学 位	理学博士
電子メール	matsuda@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	微分幾何学		

■所属学会

日本数学会, 日本数学教育学会

■研究課題

多くの等長変換を許容するローレンツ多様体の分類 (Classification of Lorentzian manifold admitting abundant isometries)

■研究の概要

多くの等長変換を許容するローレンツ多様体の分類

■著書

ベクトル解析, ベクトル解析, 牧野書店, 東京, 1994

■学術論文

Notes on Bertrand curves, Yokohama Math. J., 40: 41-58, 2003

On n -dimensional Lorentz manifolds admitting an isometry group of dimension $n(n-1)/2+1$, Proceedings of the American Mathematical Society, 100:329-334, 1987

On Lorentz manifolds with abundant isometries, Tsukuba Journal of Mathematics, 13:113-129, 1989

Homogeneous Lorentz manifolds with isotropy subgroup $U(2)$ or $SO(2)$, Tsukuba Journal of Mathematics, 16:257-267, 1992

The Gauss map in models, Proceedings of the Japan Academy, 59:397-400, 1983

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1994, 科学研究費補助金 一般研究(C), 多くの等長変換を許容するローレンツ多様体と軌道空間の構造

1992, 科学研究費補助金 一般研究(C), 多くの等長変換を許容するローレンツ多様体と軌道空間の構造

医学部／人間科学科目(数学)

吉野 健一 准教授

氏名(カナ・英文名)	ヨシノ ケンイチ YOSHINO Kenichi	生年月	—
所 属	医学部／人間科学科目(数学)	職 名	准教授
最終学歴	東北大学大学院理学研究科	学 位	博士(理学), 理学修士
電子メール	yoshino@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	数論, 応用数学		

■職歴

1982- 金沢医科大学医学部 助教授(1982.04), 1982- Associate Professor, Kanazawa Medical University(1982.04)

■所属学会

日本数学会, American Mathematical Society

■研究課題

実アーベル体の類数の偶奇について (On the Parity of the Class Numbers of Real Abelian Fields)

虚アーベル体の相対類群の 2-ランクについて (On the 2-rank of the relative ideal class groups of imaginary abelian fields)

■著書

第 6 章 Riemann ゼータ関数のいろいろな拡張, リーマン予想(鹿野健編), 日本評論社, 東京, 2005

■学術論文

A Condition for Divisibility of the Class Number of Real p th Cyclotomic Field by an Odd Prime Distinct from p
, Abh. Math. Sem. Univ. Hamburg, 1999

Class number parity for cyclotomic fields
, Proc. Amer. Math. Soc., 1998

A Criterion for the parity of the class number of an abelian field with prime power conductor
, Nagoya Math. J., 1997

On Hasse's Algorithm to Calculate Fundamental Units of Real Cyclic Biquadratic Fields
, Proceedings of Japan Academy, 1994

On the Relative Class Number of the Imaginary Abelian Number Field, Memoirs of the College of Liberal Arts, Kanazawa Medical University, 1994

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1993, 科学研究費補助金 一般研究(C), 低次数の虚ガロア体の単数指数の決定及び低次数の実巡回体の単数群の決定の研究

医学部／生命科学科目(自然科学)【旧 物理学】

杉谷 道男 准教授

氏名(カナ・英文名)	スギタニ ミチオ SUGITANI Michio	生年月	1946.10
所 属	医学部／生命科学科目(自然科学)【旧 物理学】	職 名	准教授
最終学歴	京都大学理学部	学 位	医学博士
電子メール	sugitani@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	神経・筋肉生理学		

■職歴

メルボルン大学・解剖学細胞生物学教室 上級研究員(1990.12), メルボルン大学・医学部・生理学教室 上級研究員(1980.02)

■所属学会

日本生理学会, 日本神経科学会

■研究課題

梨状皮質内信号伝播の光学的計測 (Optical Imaging of Signal Propagation in the Piriform Cortex)

■著書

The tangible features of textured surface: their representation on the monkey's somatosensory cortex, Dynamic aspects of neocortical function, John Wiley & Sons, Inc., New York, 1983

Mode of retinal projections to the three visual centers of the rat (dorsal and ventral lateral geniculate nuclei and superior colliculus), Brain mechanism of sensation, John Wiley & Sons, Inc., New York, 1981

■学術論文

Touching textured surfaces : cells in somato-sensory cortex respond both to finger movement and to surface features, Science, 218:906-909, 1982

Electrophysiological and sensory properties of thalamic reticular neurones related to somatic sensation in rats, J. Physiol., 290:79-95, 1979

Somatotopic organization and columnar structure of vibrissae representation in the rat ventrobasal complex, Exp. Brain Res., 81:346-352, 1990

Optical imaging of the in vitro guinea pig piriform cortex activity using a voltage-sensitive dye, Neurosci. Lett., 165:215-218, 1994

Signal propagation from piriform cortex to the endopiriform nucleus in vitro revealed by optical imaging, Neurosci. Lett., 171:175-178, 1994

医学部／生命科学科目(自然科学)【旧 物理学】

中村 清 講師

氏名(カナ・英文名)	ナカムラ キヨシ NAKAMURA Kiyoshi	生年月	—
所 属	医学部／生命科学科目(自然科学)【旧 物理学】	職 名	講師
最終学歴	金沢工業大学工学部	学 位	—
電子メール	k-nkmr@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	物理教育		

■所属学会

日本音響学会, 応用物理学会, 電子情報通信学会

■研究課題

医科大学の物理教育に関する研究 (Study on Physics Education for Medical College)

室内音響に関する研究 (Study on Room Acoustics)

■研究の概要

生命科学を専攻する学生が、講義の理解を深めるため及び自学自習を可能とするために、演示実験やイントラネットを用いた学習支援の開発を行っている。

■学術論文

イントラネットを用いた物理学の学習支援システム (共著), 金沢医科大学教養論文集, 1997

回転反射版によるドップラー効果の実験, 金沢医科大学教養論文集, 1995

流体の流れに関する演示実験装置[JG0002], 金沢医科大学教養論文集

小容積直方体室の吸音材配置の違いにおける伝送特性について, 金沢医科大学教養部論文集, 1987

試料片の形や大きさがキャビテーションエロージョンに与える影響, 金沢医科大学教養部論文集, 1978

医学部／生命科学科目(自然科学)【旧 化学】

前田 雅代 講師

氏名(カナ・英文名)	マエダ マサヨ MAEDA Masayo	生年月	—
所 属	医学部／生命科学科目(自然科学)【旧 化学】	職 名	講師
最終学歴	金沢大学薬学部	学 位	—
電子メール	nellie@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	分子腫瘍学		

■職歴

金沢医科大学 助手(1989.07)

■所属学会

日本がん転移学会, 日本癌学会

■研究課題

がん細胞の転移 (Metastasis of Cancer Cells)

■研究の概要

RhoGDI β (LyGDI/D4GDI/RhoGDI2) は、Rho ファミリーの蛋白質の制御分子のひとつである。我々は、RhoGDI β ががん転移過程に関与することを見いだした。現在、がんの悪性化進展や転移過程における RhoGDI β の機能の解析をさらに進めており、がん治療の最も困難な障壁であるがん転移抑制法への応用を探っている。

■学術論文

Overexpression of Aurora-A potentiates HRAS-mediated oncogenic transformation and is implicated in oral carcinogenesis, *Oncogene*, 24:1122-1127, 2005

LyGDI functions in cancer metastasis by anchoring Rho proteins to the cell membrane, *Mol. Carcinog.*, 39:206-220, 2004

Increased mitotic phosphorylation of histone H3 attributable to AIM-1/Aurora-B overexpression contributes to chromosome number instability, *Cancer Res.*, 62: 5168-5177, 2002

Cationic liposomes with plasmid DNA influence cancer metastatic capability, *Anticancer Res.*, 22 : 4049-4052, 2002

Increased mitotic phosphorylation of histone H3 attributable to AIM-1/Aurora-B overexpression contributes to chromosome number instability., *Cancer Res.*, 62:5168-5177, 2002

■学術賞

学術奨励賞, 2001.06

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), Caspase-1 により切断された LyGDI による転移抑制機構の解析

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ヒト大腸癌細胞における D4GDI の細胞膜局在化と悪性進展

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ヒト大腸癌細胞における D4GDI の細胞膜局在化と悪性進展

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ヒト大腸癌細胞株から分離した転移誘導遺伝子 D4GDI の転移誘導機構の解析

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ヒト大腸癌細胞株から分離した転移誘導遺伝子 D4GDI の転移誘導機構の解析

医学部／生命科学科目(自然科学)【旧 生物学】

堀 功 教授

氏名(カナ・英文名)	ホリ イサオ HORI Isao	生年月	—
所 属	医学部／生命科学科目(自然科学)【旧 生物学】	職 名	教授
最終学歴	金沢大学大学院理学研究科	学 位	理学修士，医学博士
電子メール	hori-bio@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	発生生物学		

■職歴

1968-1974 金沢大学 助手 1974-1976 金沢医科大学講師 1977-2005 金沢医科大学助教授 2005-金沢医科大学教授(特任)(1974.04)

■所属学会

日本動物学会，日本発生生物学会

■研究課題

プラナリアの再生 (Regeneration of the planarians)

■研究の概要

強い再生力をもつプラナリアを材料として細胞分化のしくみやその誘導機序などをおもに電顕レベルで研究している。特に未分化な幹細胞ネオブラストの動態、微細構造を再生体で詳細に観察し成果を挙げている。

■著書

プラナリアの形態分化-基礎から遺伝子まで-，手代木渉、渡辺憲二，共立出版，東京，1998

■学術論文

プラナリアの形態分化-基礎から遺伝子まで- (共著)，共立出版，1998

カゴアミカイメンの胞状幼生とその変態，うみうし通信，2000

Differentiation of epidermal cells in the regenerating planarian *Dugesia japonica* in "Turbellarian Biology", Kluwer Academic Publishers, 1991

Role of fixed parenchyma cells in blastema formation of the planarian *Dugesia japonica*, International Journal of Developmental Biology, 1991

Further cytological observation on "activation" by superimposed antigen of inflammation-mediated macrophages, Journal of Submicroscopic Cytology and Pathology, 1991

医学部／生命科学科目(自然科学)【旧 生物学】

朝井 悦夫 准教授

氏名(カナ・英文名)	アサイ エツオ ASAI Etsuo	生年月	1945.04
所 属	医学部／生命科学科目(自然科学)【旧 生物学】	職 名	准教授
最終学歴	金沢大学大学院理学研究科	学 位	理学博士
電子メール	asai-e@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	発生生物学		

■職歴

金沢医科大学 助教授(1972.08)

■研究課題

プラナリアの再生における咽頭形成 (Pharyngeal formation in planarian regeneration)

■研究の概要

動物の再生の過程には、付加形成と形態調節の2つの機構がある(T.H.Morgan,1900)。淡水産プラナリアにおける咽頭再生の機構解明を目的として、(1)咽頭前部域で横断された頭部片における咽頭再生、(2)咽頭先端部の切除による咽頭再生、(3)頭部片を咽頭後部域へ移植した場合に起こる誘導咽頭の形成、(4)誘導咽頭の形成に及ぼす宿主及び移植片の神経索の役割等に関して、電顕観察、X線照射、R.I.標識等の技法を用いて研究してきた。

■著書

咽頭の誘導, プラナリアの形態分化—基礎から遺伝子まで—(手代木 渉・渡辺憲二), 共立出版株式会社, 東京, 1998

■学術論文

プラナリアの咽頭誘導における移植片細胞の関与, 動物学雑誌, 1981

プラナリアの咽頭誘導に及ぼすX線の影響, 動物学雑誌, 1980

淡水産プラナリアの咽頭細胞における核包含体について, 細胞, 1977

The Behavior of Pharyngeal Outer Epithelial Cells during Regeneration of the Planarian *Dugesia japonica japonica*., Journal of Morphology, 1990

Regeneration of the Pharynx in a Freshwater Planarian : An Electron-Microscopic Study with Special Reference to the Formation of the Pharyngeal Cavity and Pharyngeal Lumen., Zoological Science, 1991

医学部／人間科学科目(外国語)【旧 英語】

澁谷 良穂 教授

氏名(カナ・英文名)	シブヤ ヨシホ SHIBUYA Yoshiho	生年月	—
所 属	医学部／人間科学科目(外国語)【旧 英語】	職 名	教授
最終学歴	Georgetown University	学 位	言語学博士
電子メール	—		
専門分野	英語学		

■研究課題

英語学

■研究の概要

日本人の英語固有の特徴を音響音声学・調音音声学等の見地から研究し、それらがコミュニケーションに与える影響や学習の際の問題点を明らかにすることを目的とした研究を行っている。特に日本語母語話者が英語の音をいかに調音・認知するか、またそれが英語母語話者による理解にどう影響を与えるかを研究している。

医学部／人間科学科目(外国語)【旧 英語】

柿崎 謙一 講師

氏名(カナ・英文名)	カキザキ ケンイチ KAKIZAKI Kenichi	生年月	1951.02
所 属	医学部／人間科学科目(外国語)【旧 英語】	職 名	講師
最終学歴	金沢大学大学院文学研究科	学 位	文学修士
電子メール	kakizaki@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	ヨーロッパ語系文学		

■所属学会

日本英文学会, 日本アメリカ文学会, 金沢大学英文学会, 日本大学英文学会

■研究課題

ソーレ ベロウ (Saul Bellow)

■研究の概要

アメリカ現代ユダヤ系作家、特にノーベル賞受賞作家ソーレ・ベローの作品に表現される彼の人間観の研究。「人間とは何か」、そして「人はどう生きるべきか」という人生の究極的問題に対する彼の人間観の研究。及び彼の小説技法と彼の芸術観の研究。

■学術論文

The search for love and independence in the adventures of augie march, Kanazawa English Studies, 25:1-14, 2005

Remedy for anxiety over death in Henderson the Rain King, J. Engl Lang. and Litera, 53:199-216, 2005

Irony of biological sexuality in More Die of Heartbreak, Jour. of English Language and Literature, 52:136-151, 2004

Dual individuation in the Dean's December, Kanazawa English Studies, 24: 75-89, 2003

Remedy for the anxiety over death in Humboldt's Gift, Mem. Lib. Kanazawa Med. Univ., 28:47-56, 2000

医学部／人間科学科目(外国語)【旧 英語】

Carla Jane Curry 講師

氏名(カナ・英文名)	カリー カーラ CURRY Carla	生年月	—
所 属	医学部／人間科学科目(外国語)【旧 英語】	職 名	講師
最終学歴	University of Washington	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	英語学		

■研究課題

音楽的視点からの英語教育

■研究の概要

英語の発音、リズム、抑揚などの教育に、授業で音楽を利用することを主に研究してきた。英語音声構造の主要要素は、様々な歌を通して把握させるのが効率的であると思われる。また、音声表記文字体系をもたない言語の学習者に対して、英語の綴り字と発音の関係を効果的に教えるための様々な方法を研究している。音楽的視点からの英語教育

医学部／人間科学科目(外国語)【旧 ドイツ語】

原 亮 准教授

氏名(カナ・英文名)	ハラ アキラ HARA Akira	生年月	1954.10
所 属	医学部／人間科学科目(外国語)【旧 ドイツ語】	職 名	准教授
最終学歴	名古屋大学大学院文学研究科	学 位	文学修士
電子メール	hara-a@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	ヨーロッパ語系文学		

■職歴

金沢医科大学 医学部 助手(1981.04), 金沢医科大学 医学部 講師(1983.04), 金沢医科大学 医学部 助教授(2003.04), 金沢医科大学 医学部 准教授(2007.04)

■所属学会

オーストリア文学研究会, 日本記号学会, 国際独語独文学会

■研究課題

ホフマンスタールの散文 (Die Prosa Hugo von Hofmannsthal's)

世紀転換期のドイツ知識人 (Deutsche intellektuelle Schichten in der Jahrhundertwende)

■研究の概要

19世紀末から20世紀初頭にかけてのドイツ語文化圏においては、様々な分野で傑出した知識人が輩出した。文学におけるホフマンスタールもその一人である。ほぼ全生涯をウィーンで過ごしたが、影響力は地域と分野を超えて、近代ヨーロッパの精神世界の全域に及んでいる。当時の知識人たちとの交流や反目などを分析し、ドイツ語圏さらには全ヨーロッパの近代文化の基盤となるものを抽出する。

■著書

ドイツ語を読もう, ドイツ語を読もう, 郁文堂, 東京, 2002

新訂・教室のドイツ文法, 新訂・教室のドイツ文法, 同学社, 東京, 1992

■学術論文

ホフマンスタールの小説断片『アンドレアス』中の人物たち, 岐阜経済大学論集, 1981

ホフマンスタールの短編小説, ドイツ文学研究(日本独文学会東海支部), 1982

『チャンドス卿の手紙』再考, 金沢医科大学教養部論文集, 1984

ホフマンスタールとリルケの往復書簡, (佐藤自郎教授還暦記念独壇文学論文集)名古屋大学, 1986

ホフマンスタールの『帰国者の手紙』, 金沢医科大学教養論文集, 1991

医学部／人間科学科目(外国語)【旧 ドイツ語】

公地 宗弘 講師

氏名(カナ・英文名)	コウチ ムネヒロ KOCHI Munehiro	生年月	1958.06
所 属	医学部／人間科学科目(外国語)【旧 ドイツ語】	職 名	講師
最終学歴	名古屋大学大学院文学研究科	学 位	文学修士
電子メール	mu-kochi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	ゲーテの作品解釈, 教養の概念, Interpretationen von Goethes Werken, Begriff von Bildung		

■職歴

金沢医科大学 講師(1989.04)

■所属学会

日本独文学会, 日本ゲーテ協会, 日本独文学会東海支部, 日本独文学会北陸支部

■研究課題

ゲーテの『タッソー』における近代意識 (Das moderne Bewusstsein in Goethes "Tasso")

ドイツ教養思想の展開について ((J1068)ber die Entwicklung des Gekanken der Bildung in Deutschland)

■研究の概要

18 世紀後半のヨーロッパは、歴史家ラインハルト・コゼレックが「谷間期 (Sattelzeit)」の用語で表現したように、中世来の伝統的な考え方がなお影響力を保ちつつ、人々の思考が新しいものへ移行する分水嶺の時期である。この転換期に人々がどう向き合い、対処したのかを、ドイツの詩人ゲーテに探り、これを彼の作品、とりわけ小説と戯曲の解釈において捉える。

■学術論文

現実変革の力としての文学——ゲーテ『タッソー』におけるシュトルム・ウント・ドラング——, ゲーテ年鑑 日本版, 48:61-81, 2006

若いヴェルター喜びと二つの苦しみ-自然と感傷主義-, エルンテ<北>のゲルマニスティク(小笠原茂介先生退官記念論集), 250-266, 1999

ゲーテ『イフィゲーニエ』における「家庭」の意義, 金沢医科大学教養論文集, 20:63-89, 1992

ヴェルターにおける愛-ゲーテ『ヴェルター』試論-, 中京大学教養論叢, 28:1096-1140, 1988

詩人にみる「教養」の問題-ゲーテ『タッソー』の場合-, 金沢経済大学人間科学研究所 telos, 14:25-36, 1995

医学部／生命科学科目(体育学)

田村 暢熙 教授

氏名(カナ・英文名)	タムラ ノブキ TAMURA Nobuki	生年月	1945.02
所 属	医学部／生命科学科目(体育学)	職 名	教授
最終学歴	東京教育大学大学院体育学研究科	学 位	体育学修士
電子メール	tamura@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	体力医学, 問題解決学習		

■所属学会

日本体力医学会, 日本体育学会, 日本肥満学会, 日本ストレス学会, 生理人類学会

■研究課題

鉄欠乏性貧血が生体に及ぼす影響 (Effects in Iron deficiency)

慢性心疾患患者と運動 (Effects of Exercise in Patients with Chronic heart failure)

■研究の概要

健康・体力の向上を図らなければならない人々(運動不足を訴える健康人、メタボリック症候群の人たち、心臓手術後のリハビリを目的とした人々など)を対象に、運動負荷テストを実施し、その結果に基づいて個人に最適の運動処方を作成する。その運動処方に基づいた運動を一定期間追跡調査し、運動効果を判定する。効果のみられない人には再度運動処方を作成する。

■著書

スポーツ相談, 石川県大百科事典, 北国新聞社, 石川県金沢市, 1993

ドーピング, 石川県大百科事典, 北国新聞社, 石川県金沢市, 1193

■学術論文

初期医学教育へのチュートリアル導入の効果, 医学教育, 1998

金沢医科大学第1学年におけるチュートリアル教育による解析能力の向上, 医学教育, 1999

近赤外分光法による運動筋酸素動態の評価, セラピューティック・リサーチ, 1995

運動に伴う血中アデノシン動態-健常若年男性における検討-, 体力科学, 1993

長距離走における生理・生化学的研究(第1報), 金沢医科大学教養部論文集, 1978

■学術賞

財団法人渋谷学術スポーツ振興賞, 1992

■研究費採択状況(その他の助成金)

1992, 渋谷学術文化スポーツ振興財団研究助成金, スポーツ活動

医学部／生命科学科目(体育学)

山科 忠彦 准教授

氏名(カナ・英文名)	ヤマシナ タダヒコ YAMASHINA Tadahiko	生年月	1945.07
所 属	医学部／生命科学科目(体育学)	職 名	准教授
最終学歴	中央大学文学部	学 位	—
電子メール	yamasina@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	筋力, 筋力トレーニング、体育学、下腿筋の筋厚, Muscle Strength, Muscle Strength Training, Thickness of Muscles in the Lower leg		

■所属学会

日本体育学会

■研究課題

高齢者の下腿筋力 (The Lower Leg Muscle Strength of The Aged)

下腿筋力の年齢変化 (The Change of Lower Leg Muscle Strength of The Age)

■研究の概要

ヒトは多様な姿勢をとり各種の運動を行うが、その根幹をなすのは直立二足歩行に伴う立位姿勢である。この立位姿勢は動物の四足位に比べ基底面が狭く不安定である。立位姿勢保持は重力に抗する筋である下肢、体幹の抗重力筋の主要姿勢筋により行われている。中高年者の転倒研究は、一様でなく多種の要因が絡み合って生じる。下肢でも下腿の筋厚、筋力と平衡機能との相互関係を考慮した研究を実施している。

■著書

身体機能の老化と運動訓練, 身体機能の老化と運動訓練, 日本出版サービス, 東京, 1996

■学術論文

持久性テストとしてのステップテストの検討及び 12 分間走との相関, 金沢医科大学教養部論集, 1976

女子学生の持久力評価を目的とした踏み台昇降運動の検討, 金沢医科大学教養部論集, 1977

北信越高校駅伝大会の優勝校・準優勝校の $\dot{V}O_{2\text{Max}}$ について, 北陸体育学会紀要, 1981

脚について(その 1)脚力測定方法に関する調査研究, 金沢医科大学教養部論文集, 1979

手力測定における握力と耐筋力(Breaking)との関係について(第 2 報), 金沢医科大学教養部論集, 1983

■その他の業績

(学会発表)高校生から大学生までの下腿筋力の学校差

(学会発表)底屈力と背屈力の発達:4 歳から 18 歳までを対象に

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1993, 科学研究費補助金 一般研究(C), ヒトの下肢筋力の年齢変化

医学部／生命科学科目(体育学)

上田 文夫 講師

氏名(カナ・英文名)	ウエダ フミオ UEDA Fumio	生年月	—
所 属	医学部／生命科学科目(体育学)	職 名	講師
最終学歴	中京大学体育学部	学 位	—
電子メール	ueda@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	健康関連体力		

■職歴

金沢医科大学医学部 講師(1981.04), 金沢医科大学教養部 助手(1974.04), 金沢医科大学教養部 教務員(1973.04), 金沢医科大学病院 DHC 科併任(1974.04), 金沢医科大学付属看護(専門)学校 非常勤講師(1977.04)

■所属学会

日本体育学会, 日本スポーツ教育学会, 北陸体育学会

■研究課題

本学学生の体力及び運動能力に関する調査報告 (Report of Physical Fitness and Motor Ability in Students of Kanazawa Medical University)

■研究の概要

学生の体力や健康状態を総合的に評価するにあたり、体力・運動能力テスト及び形態測定を行い、その実態を把握し、それをもとに教育指導の基本とし、学生の体力や健康の維持増進を図ろうとする。

■学術論文

本学学生の体力及び運動能力に関する調査報告(第 13 報)-筋持久性からみた体力の検討-(共著), 金沢医科大学教養部論文集, 1987

本学学生の体力及び運動能力に関する調査報告(第 17 報)-一学期間における学習効果について-(共著), 金沢医科大学教養論文集, 1991

本学学生の体力及び運動能力に関する調査報告(第 9 報)-一年生能力別学習効果の研究(第 2 報)-(共著), 金沢医科大学教養論文集, 1983

本学学生の体力及び運動能力に関する調査研究(第 5 報)(共著), 金沢医科大学教養論文集, 1979

本学学生の体力及び運動能力に関する調査研究(第 2 報)(共著), 金沢医科大学教養論文集, 1975

医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅰ】

八田 稔久 教授

氏名(カナ・英文名)	ハッタ トシヒサ HATTA Toshihisa	生年月	—
所 属	医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅰ】	職 名	教授
最終学歴	島根大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	—		
専門分野	中枢神経の発生、先天異常学		

■職歴

島根大学医学部 助教授(2002.02)

■所属学会

日本解剖学会, 人類形態科学研究会, 米国神経科学会, 日本組織細胞化学会, 日本重水素科学研究会

■研究課題

中枢神経の発生、先天異常学

■研究の概要

中枢神経発生における各種サイトカイン、成長因子の役割について、神経－免疫－内分泌ネットワークの視点から研究を行っている。マウス胎児子宮外発生法および新生児完全人工哺育システムを駆使した発生工学的的方法論が実験の基盤である。

■学術論文

Quantitative analyses of leukemia inhibitory factor in the cerebrospinal fluid in mouse embryos., Neuroreport., 17:1863-1866, 2006

■学術賞

日本先天異常学会奨励賞, 2003

医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅰ】

東 伸明 講師

氏名(カナ・英文名)	ヒガシ ノブアキ HIGASHI Nobuaki	生年月	—
所 属	医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅰ】	職 名	講師
最終学歴	日本大学大学院獣医学研究科	学 位	獣医学修士，医学博士
電子メール	—		
専門分野	解剖学		

■職歴

金沢医科大学 助手(1977.04)，金沢医科大学 講師(1992.04)

■所属学会

日本解剖学会，日本獣医学会，日本実験動物学会，金沢医科大学医学会

■研究課題

肉眼解剖学 (Macroscopic anatomy)

■研究の概要

研究分野はヒトの脈管系、筋系、末梢神経系の肉眼解剖学的研究である。その研究テーマは、次の通りである。

1. 腹部動脈系の形成過程に関する肉眼解剖学的研究。
2. 肝動脈の形成過程に関する肉眼解剖学的研究。
3. 大動脈の加齢的变化の肉眼解剖学的研究。
4. 肋間、肋下、腰動脈の肉眼解剖学的研究。
5. 大動脈の壁側枝、腹側枝の形成過程の肉眼解剖学的研究。
6. 上肢の破格筋に関する肉眼解剖学的研究。

■学術論文

ヒト肋間、肋下、腰動脈の解剖学的研究-とくに共同幹形成とその発生学的意義について，解剖学雑誌，63:221-232，1988

ヒト上腕二頭筋の過剰頭について，解剖学雑誌，63: 78-88，1988

椎骨・脳底動脈の窓形成について，解剖学雑誌，67: 308-316，1992

ヒト下行大動脈の計測学的検索，人類学輯報，47: 19-26，1989

腹腔動脈の分枝異常 2 例，解剖学雑誌，61: 709-715，1986

医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅰ】

島田 ひろき 講師

氏名(カナ・英文名)	シマダ ヒロキ SHIMADA Hiroki	生年月	1963.07
所 属	医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅰ】	職 名	講師
最終学歴	東京農工大学大学院農学系研究科	学 位	博士(医学), 修士(農学)
電子メール	—		
専門分野	解剖学一般(含組織学・発生学)		

■職歴

日本ハム株式会社中央研究所 研究員(1988.04), 金沢医科大学 助手(1995.04), 金沢医科大学 講師(1999.04)

■所属学会

日本解剖学会, 日本電子顕微鏡学会, 日本癌学会, 日本ミトコンドリア学会

■研究課題

フリーラジカルによる障害機構と防御 (Mechanisms of Free Radical Injuries and Protection)

キノン誘導体による細胞死 (Cell death Induced by Quinone Derivatives)

■研究の概要

活性酸素による細胞傷害を形態学的視点を軸に細胞化学, 生化学, 分子生物学の手法を用いて研究している。特にミトコンドリア傷害を引き起こす化学物質(パラコート, キノン類等)の毒性機構について解析している。

■著書

パラコート毒性とミトコンドリア障害, 新ミトコンドリア (内海耕健, 井上正康, 監修), 共立出版, 東京, 2001

■学術論文

Furanonaphthoquinones cause apoptosis of cancer cells by inducing the production of reactive oxygen species by the mitochondrial voltage-dependent anion channel, Cancer Biol. Ther., 5:1523-1529, 2006

Mitochondrial damage prior to apoptosis in furanonaphthoquinone treated lung cancer cells, Cancer Detect. Prev., 27: 5-13, 2003

Paraquat detoxicative system in the mouse liver postmitochondrial fraction, Arch. Biochem. Biophys., 402: 149-157, 2002

Alpha-tocopherol protects cultured human cells from the acute lethal cytotoxicity of dioxin, Int J Vitam Nutr Res, 72: 147-153, 2002

Apoptosis and epithelial phagocytosis in mitomycin C-treated human pulmonary adenocarcinoma A549 cells, Tissue Cell, 33: 161-168, 2001

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), パラコート急性毒性機構に関わる NADH-キノンオキシド'リクターゼ'm の研究

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), パラコート急性毒性機構に関わる NADH-キノンオキシド'リクターゼ'm の研究

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), パラコートの急性毒性機構に関与する新規ミトコンドリア酵素の研究

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), パラコートの急性毒性機構に関与する新規ミトコンドリア酵素の研究

2002, 科学研究費補助金 若手研究(B), 農薬パラコートの生体内解毒機構の研究

医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅰ】

島村 英理子 学内講師

氏名(カナ・英文名)	シマムラ エリコ SIMAMURA Eriko	生年月	—
所 属	医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅰ】	職 名	学内講師
最終学歴	お茶の水女子大学大学院家政学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	—		
専門分野	解剖学一般(含組織学・発生学)		

■職歴

金沢医科大学 分子細胞形態科学(旧解剖学第1講座) 学内講師(1994.04)

■所属学会

日本解剖学会, 日本がん学会, 日本顕微鏡学会, 癌分子標的学会, ミトコンドリア研究会

■研究課題

母乳成分による脳の発生への影響 (Neurogenesis by component of mother's milk)

キノン誘導体による抗腫瘍効果に関する研究
(Mechanisms of Free Radical Injuries and Protection)

■研究の概要

抗腫瘍活性をもつフラノナフトキノン(FNQ)は、癌細胞のミトコンドリアを特異的に傷害しアポトーシスを誘導する。FNQ は NADH 依存的にミトコンドリア外膜で活性酸素を生成し細胞死をもたらすが、この反応には外膜の膜透過性蛋白質 voltage-dependent anion channel (VDAC) が関与している。また、培養細胞では正常細胞より癌細胞で VDAC が高発現している。

■著書

南米・アマゾン原産のハーブ・スパイス, 今日のサプリメント(丁宗鑑, 佐竹元吉), 南山堂, 東京都, 2006

■学術論文

Furanonaphthoquinones cause apoptosis of cancer cells by inducing the production of reactive oxygen species by the mitochondrial voltage-dependent anion channel, Cancer Biol. Ther., 5:1523-1529, 2006

The synthetic furanonaphthoquinone induces growth arrest, apoptosis and differentiation in a variety of leukaemias and multiple myeloma cells, Br. J. Haematol., 131:520-529, 2005

Mitochondrial damage prior to apoptosis in furanonaphthoquinone treated lung cancer cells, Cancer Detect. Prev., 27: 5-13, 2003

Apoptosis and epithelial phagocytosis in mitomycin C-treated human pulmonary adenocarcinoma A549 cells, Tissue Cell, 33: 161-168, 2001

Paraquat detoxicative system in the mouse liver postmitochondrial fraction, Arch. Biochem. Biophys., 402: 149-157, 2002

医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅱ】

篠原 治道 教授

氏名(カナ・英文名)	シノハラ ハルミチ SHINOHARA Harumichi	生年月	1947.08
所 属	医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅱ】	職 名	教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	haru@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	肉眼解剖学および発生学		

■所属学会

日本解剖学会, アメリカ解剖学会, 米国臨床解剖学会

■研究課題

筋神経特異性 (muscle-nerve specificity)

脳の線維束の配置

■研究の概要

大脳白質の fiber dissection (以下 FD) を中心とする臨床解剖研究を行っている。ホルマリン固定した脳の白質を、ヘラで丁寧に削り取っていき、神経線維の剖出を行う手法を FD とよぶ。近年、脳の画像診断における肉眼解剖学的根拠として、FD の所見が注目されている。画像診断に FD の所見が有用であることはいうまでもなく、さらには脳神経外科領域の手術開発へ応用可能である。

■著書

心臓血管系: 血管と循環, カラー人体解剖学 構造と機能: ミクロからマクロまで (井上貴史監訳), 西村書店, 新潟, 2003

中枢神経系 解剖実習の要点, 中枢神経系 解剖実習の要点 (篠原治道, 古林秀則), 最新医学社, 大阪, 2003

■学術論文

Expression profiling of endogenous secretory receptor for advanced glycation end products in human organs, Mod. Pathol., 18:1385-1396, 2005

Receptor for advanced glycation end products is a promising target of diabetic nephropathy, Ann. N. Y. Acad. Sci., 1043:562-566, 2005

解剖学者がみたミケランジェロの彫刻 (13) バッカス2. 複視で彼は何を見ていたか?, (14) ユリウス2世廟 1. ルーブル美術館にある2体の奴隷像, (15) 十字架をもつキリスト 1. 風変わりな造形, (16) 十字架をもつキリスト 2. キリストの裸体は何を主張するか?, (17) ユリウス2世廟 2. 歴史の歯車, (18) ユリウス2世廟 3. 勝利とモーゼ, (19) メディチ家廟 1. 墓廟のプラン, (20) メディチ家廟 2. 真に価値のあるもの, (21) プルータス: 全体と部分, 完成と未完成, (22) ミケランジェロの生い立ち 4. 家族の絆, (23) バンディーニのピエタとサン・ピエトロ大聖堂, (最終回) ロンダニーニのピエタそして終章, 最新医, 60:100-103, 272-276, 444-447, 872-875, 1044-1050, 1210-1215, 1612-1616, 1760-1763, 1908-1913, 2326-2331, 2480-2486, 2626-2631, 2005

Fiber dissection technique for demonstrating the lateral lemniscus of the human brain, Okajimas Folia Anat Jpn, 80:115-118, 2004

A new method of perfusion fixation for the rabbit femur, Okajimas Folia Anat Jpn, 81:57-62, 2004

■学術賞

とやま賞, 1992

医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅱ】

下川 隆 准教授

氏名(カナ・英文名)	シモカワ タカシ SHIMOKAWA Takashi	生年月	—
所 属	医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅱ】	職 名	准教授
最終学歴	東京医科歯科大学大学院歯学研究科	学 位	博士(歯学)
電子メール	simoort1@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	解剖学一般(含組織学・発生学)		

■職歴

東京医科歯科大学医学部第2解剖学 助手(1998.07), 金沢大学医学部第2解剖 助手(2001.04), 金沢大学大学院医学系研究科 講師(2003.04)

■所属学会

日本解剖学会, 歯科基礎医学会, 日本矯正歯科学会

■研究課題

筋組織再生過程

抹消神経分布路形成過程

■学術論文

Nerve supply to the soft palate muscles with special reference to the distribution of the lesser palatine nerve., Cleft Palate Craniofac. J., 42(5): 495-500., 2005

Surgical anatomy of the innervation of the major duodenal papilla in human and Suncus murinus, from the perspective of preserving innervation in organ-saving procedures., Pancreas, 30(3):211-217., 2005

Contributions of the hypoglossal nerve to the innervations of the recti capiti lateralis and anterior, Clin Anat, 17(8):613-617, 2004

An anatomical study of the levator veli palatini and superior constrictor with special reference to their nerve supply, Surg. Radiol. Anat., 26(2):100-105, 2004

An extremely rare inversion of the preduodenal portal vein and common bile duct associated with multiple malformations. Report of an adult cadaver case with a brief review of the literature, Anat. Embryol., 208(2):87-96, 2004

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 若手研究(B), 培養骨格筋細胞を用いた筋再生に関する研究

医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅱ】

安高 悟 学内講師

氏名(カナ・英文名)	ヤスタカ サトル YASUTAKA Satoru	生年月	1955.01
所 属	医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅱ】	職 名	学内講師
最終学歴	九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科	学 位	芸術工学修士
電子メール	ankoh@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	肉眼解剖		

■所属学会

日本解剖学会

■研究課題

ヒトの神経・血管に関する研究 (Study on Nerves and Vessels of Human)

■学術論文

ウマの迷走神経背側運動核の下方延長部に関する解剖学的観察, 金沢医科大学雑誌, 1988

Relative Positions of the Arteries and Veins on the Dorsolateral Surface of the Human Cerebrum., Clinical Anatomy, 2002

An anatomical observation on the lower extension of the dorsal motor nucleus of the vagus nerve in the horse., J. Kanazawa Med. Univ., 1988

The anatomy of the lacrimal Portion of the orbicularis oculi muscle(tensor tarsi or horner's muscle).(共著), Okajimas Folia Anat. Jpn., 2001

Proliferation and differentiation of thyrotrophs in the pars distalis of the rat pituitary gland during the fetal and postnatal period(共著), Anat. Embryol., 2001

医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅱ】

木南 利栄子 学内講師

氏名(カナ・英文名)	コミナミ リエコ KOMINAMI Rieko	生年月	—
所 属	医学部／分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅱ】	職 名	学内講師
最終学歴	昭和大学薬学部	学 位	—
電子メール	riekom@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	解剖学一般(含組織学・発生学)		

■所属学会

日本解剖学会, 日本電子顕微鏡学会, 日本組織細胞化学会

■研究課題

下垂体前葉細胞の増殖と分化 (Proliferation and differentiation of anterior pituitary cells)

下垂体前葉における濾胞星状細胞の形態と機能 (Morphology and function of folliculo-stellate cells in anterior pituitary gland)

■学術論文

Proliferating cells in the rat anterior pituitary during the postnatl period: immunoelectron microscopic observations using monoclonal anti-bromodeoxyuridine antibody., Histochem Cell Biol, 2003

Ultrastructural study of proliferating cells with an improved immunocytochemical detection of DNA-incorporated bromodeoxyuridine, The Journal of Histochemistry and Cytochemistry, 1995

Proliferation of pituitary corticotrophs following adrenalectomy as revealed by immunohistochemistry combined with bromodeoxyuridine-labeling (jointly authored), Histochemistry, 1995

A reliable method of embedding a small amount of dispersed cells for electron microscopy (jointly authored), Journal of Electron Microscopy, 1994

Anatomy and histology of the lacrimal fluid drainage system., Okajimas Folia Anat. Jpn., 2000

医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅰ】

加藤 伸郎 教授

氏名(カナ・英文名)	カトウ ノブオ KATO Nobuo	生年月	1956.10
所 属	医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅰ】	職 名	教授
最終学歴	京都大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	kato@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	神経科学一般		

■職歴

金沢医科大学 教授(2006.04), 京都大学大学院医学研究科 助教授(1995.04), 京都大学医学部 助教授(1994.07), 京都大学医学部 助手(1990.04), 京都大学医学部附属神経研究施設 助手(1982.04)

■所属学会

日本神経科学学会, 日本生理学会

■研究課題

シナプス可塑性 (synaptic plasticity)

■研究の概要

Ca イオンは普遍的細胞内シグナルである。しかし、個々の細胞内コンテキストにおいては、決まった特有のチャンネル群を機能的に結んで特異的な機能シグナルとして働いている。この Ca イオンによるコンテキスト特異的な機能発現について、大脳皮質における「シナプス可塑性調節」と「神経細胞興奮性の調節」を具体例として調べている。この発展課題として「治療的電撃けいれん(ECT)」のメカニズムを生理的に調べている。

■学術論文

ラット副嗅球の尿刺激に対する応答と機能的区分化, 日味と匂会誌, 13:569-570, 2006

Component-dependent urine responses in the rat accessory olfactory bulb, Neuroreport., 17:1663-1667, 2006

Blocking L-type calcium channels enhances long-term depression induced by low-frequency stimulation at hippocampal CA1 synapses, Brain Res., 1124:28-36, 2006

Emergence of endoplasmic reticulum stress and activated microglia in purkinje cell degeneration mice., Neurosci. Lett., 396:91-96, 2006

Mechanism of impairment of long-term potentiation by amyloid beta is independent of NMDA receptors or voltage-dependent calcium channels in hippocampal CA1 pyramidal neurons, Neurosci. Lett., 391:1-6, 2005

■研究費採択状況(その他の助成金)

2006, (財)磁気健康科学研究振興財団研究助成, 磁気刺激による次世代 ECT(電撃けいれん)療法のための基礎研究

医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅰ】

須貝 外喜夫 准教授

氏名(カナ・英文名)	スガイ トキオ SUGAI Tokio	生年月	—
所 属	医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅰ】	職 名	准教授
最終学歴	金沢大学薬学部	学 位	医学博士
電子メール	tokio@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	生理学一般		

■所属学会

日本味と匂学会, 日本神経科学学会, 日本生理学会

■研究課題

嗅覚系におけるニオイ情報処理機構の解明 (Odor information processing in olfactory system)

■研究の概要

神経活動の機能的イメージングに、従来の電気生理学的手法や組織化学的手法を結びつけ、嗅覚系(嗅球、嗅覚中枢)におけるニオイ情報や鋤鼻系(副嗅球)におけるフェロモン情報の符号化機序の解明を目指している。

■著書

副嗅球の機能, 匂いと香りの科学, 朝倉書店, 東京, 2007

嗅球と副嗅球の光学的計測, においと脳・行動 (外池光雄, 他編), フレグランスジャーナル社, 東京, 2003

■学術論文

Component-dependent urine responses in the rat accessory olfactory bulb, Neuroreport., 17:1663-1667, 2006

Odor-concentration coding in the guinea-pig piriform cortex, Neuroscience, 130:769-781, 2005

Effects of N-methyl-D-aspartate glutamate receptor antagonists on oscillatory signal propagation in the guinea-pig accessory olfactory bulb slice: characterization by optical, field potential and patch clamp recordings, Neuroscience, 135:583-594, 2005

Convergence of olfactory and gustatory connections onto the endopiriform nucleus in the rat., Neuroscience, 126:1033-1041, 2004

Novel subdivisions of the rat accessory olfactory bulb revealed by the combined method with lectin histochemistry, electrophysiological and optical recordings, Neuroscience, 95:23-32, 2000

■学術賞

味と匂学会キリン研究奨励賞, 1997.10

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 副嗅球で誘起されるオンレーションの発生機序の解明

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 副嗅球で誘起されるオンレーションの発生機序の解明

1983, 科学研究費補助金 奨励研究(A), ヒキガエル両生類乳頭における遠心性神経の役割

医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅰ】

山本 亮 助教

氏名(カナ・英文名)	ヤマモト リョウ YAMAMOTO Ryo	生年月	1977.09
所 属	医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅰ】	職 名	助教
最終学歴	京都大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	神経科学一般		

■研究の概要

情動の神経基盤

■学術論文

Homer 1a suppresses neocortex long-term depression in a cortical layer-specific manner, J. Neurophysiol., 2007 Dec 12 [Epub ahead of print], 2007

Dopamine induced a slow afterdepolarization in lateral amygdala neurons, J. Neurophysiol., 98:984-992, 2007

医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅱ】

芝本 利重 教授

氏名(カナ・英文名)	シバモト トシシゲ SHIBAMOTO Toshishige	生年月	1952.12
所 属	医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅱ】	職 名	教授
最終学歴	信州大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	shibamo@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	循環生理, 循環ショック		

■職歴

1985-1986 信州大学医学部第一解剖学講座 助手, 1987-1989 南アラバマ大学生理学教室 研究助手, 1988-1990 信州大学医学部第二生理学講座 助手, 1990-1992 信州大学医学部第二生理学講座 講師, 1992-2001 信州大学医学部第二生理学講座 助教授

■所属学会

日本生理学会, 日本自律神経学会, 日本内科学会, 日本 Shock 学会, 日本臨床生理学会

■研究課題

肺循環・肺水腫に関する研究 (Pulmonary Circulation and Pulmonary Edema)

肝循環に関する研究 (Hepatic Circulation)

■学術論文

急性肺傷害における 6-keto PGF₁ の濃度の変動に関する実験的研究, 日本臨床生理学会雑誌, 1986

低血圧時の神経性循環制御における迷走神経の役割, 循環制御, 1993

交感神経-圧受容器反射に及ぼす静脈内高張食塩水の影響, 自律神経, 1993

第 31 章 特殊臓器の循環, バーン・レヴィ 生理学 第 3 版, 西村書店, 1996

第 32 章 循環制御における中枢性因子と末梢性因子の相互作用, バーン・レヴィ 生理学 第 3 版, 西村書店

■学術賞

信州大学医学部松医会賞, 1994

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 循環ショックにおける肝臓の微小血管圧の測定法の確立

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 肝アナフィラキシー反応の統合的研究

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 肝アナフィラキシー反応の統合的研究

医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅱ】

倉田 康孝 准教授

氏名(カナ・英文名)	クラタ ヤスタカ KURATA Yasutaka	生年月	1959.05
所 属	医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅱ】	職 名	准教授
最終学歴	鳥取大学大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	yasu@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	心筋電気生理学		

■職歴

1989-1992 鳥取大学医学部(第一内科) 医員, 1992-1994 ノースウェスタン大学(米国) 研究助手, 1994-1995 金沢医科大学 助手(1994), 1995- 金沢医科大学 講師(1995), 金沢医科大学 助教授(2005.05)

■所属学会

日本生理学会, 日本心電学会, 日本循環器学会, Biophysical Society (USA)

■研究課題

心筋ナトリウムチャネルのキネティクスに関する研究 (Study on Kinetic properties of cardiac sodium-channel.)

心筋における自動能発生機序の研究 (Study on mechanisms underlying development of cardiac automaticity)

■研究の概要

心臓における生理的自動能および異常自動能(脱分極誘発自動能・早期後脱分極など)の発生機序を、電気生理学の実験(パッチクランプ法)ならびに非線形力学(分岐理論)に基づく理論的解析手法により研究している。また、イオンチャネル動態の実験的・理論的解析(パッチクランプ法によるイオン電流動態の解析、定常マルコフ状態モデルの構築と反応速度論的定式化、コンピュータ・シミュレーション)も行っている。

■著書

Mechanisms of cation permeation in cardiac sodium channel: description by dynamic pore model, Control and Diseases of Sodium Dependent Transport Proteins and Ion Channels(Y.Suketa,E.Carafoli,M.Lazdunski,et al.), Elsevier Science B. V., Amsterdam, 2000

■学術論文

Effects of pacemaker currents on creation and modulation of human ventricular pacemaker: theoretical study with application to biological pacemaker engineering, Am J Physiol Heart Circ Physiol, 292:H701-H718, 2007

Dynamical mechanisms of pacemaker generation in I_{K1} -downregulated human ventricular myocytes: insights from bifurcation analyses of a mathematical model, Biophys. J., 89:2865-2887, 2005

Roles of L-type Ca^{2+} and delayed-rectifier K^{+} currents in sinoatrial node pacemaking: insights from stability and bifurcation analyses of a mathematical model, Am. J. Physiol. Heart Circ. Physiol., 285: H2804-H2819, 2003

Dynamical description of sinoatrial node pacemaking: improved mathematical model for primary pacemaker cell, Am. J. Physiol. Heart Circ. Physiol., 283: H2074-H2101, 2002

Mechanisms of cation permeation in cardiac sodium channel : description by dynamic pore model. (共著), Biophysical Journal, 1999

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 分岐理論に基づく心室筋自動能発生機序の解析とパリオースメーカーシステム設計

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 分岐理論に基づく心室筋自動能発生機序の解析とパリオースメーカーシステム設計

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 洞結節細胞システムの熱力学的モデル構築とその分岐ダイナミクスの非線形力学的解析

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 洞結節細胞システムの熱力学的モデル構築とその分岐ダイナミクスの非線形力学的解析

1998, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 血小板活性化因子による心筋早期後脱分極の誘発とその発生機序

医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅱ】

宮前 俊一 講師

氏名(カナ・英文名)	ミヤマエ シュンイチ MIYAMAE Shunichi	生年月	—
所 属	医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅱ】	職 名	講師
最終学歴	金沢大学理学部	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	心臓生理		

■研究課題

心筋電気生理学

■学術論文

Stoichiometry of the sodium-calcium exchanger in cardiac muscle, J. Kanazawa. Med. Univ., 30:306-312, 2005

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1979, 科学研究費補助金 奨励研究(A), S-A nodeのPacemakerに対するPHの効果

医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅱ】

高野 博充

助教

氏名(カナ・英文名)	タカノ ヒロミチ TAKANO Hiromichi	生年月	1972.09
所 属	医学部／生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅱ】	職 名	助教
最終学歴	名古屋市立大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	takano-h@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	生理学一般		

■所属学会

日本生理学会

■研究課題

循環生理学

■研究の概要

(1)小動脈の平滑筋細胞および内皮細胞の収縮弛緩メカニズムの解明:全身血圧の決定に重要な小動脈の平滑筋細胞と内皮細胞の膜電位を介した収縮弛緩機構に注目し、微小電極法を用いて研究を進めている。(2)内臓静脈系の血圧への関与:特にアナフィラキシーショック時の肝臓の血液貯蔵庫としての働きに注目し、門脈圧測定、肝臓体積変化の測定法を用いて研究を進めている。

■学術論文

小動脈の拡張反応におけるスプレッド現象(spreading dilatation), 金医大誌, 31:127-131, 2006

N^{G} -nitro-L-arginine methyl ester potentiates anaphylactic venoconstriction in rat perfused livers, Clin. Exp. Pharmacol. Physiol., 33:1073-1077, 2006

Oxygen consumption, assessed with the oxygen absorption spectrophotometer, decreases independently of venoconstriction during hepatic anaphylaxis in perfused rat liver, Shock, 26:62-68, 2006

Effects of Hct on L-NAME-induced potentiation of anaphylactic presinusoidal constriction in perfused rat livers, J. Cardiovasc. Pharmacol., 48:827-833, 2006

Effects of platelet-activating factor, thromboxane A_2 and leukotriene D_4 on isolated perfused rat liver, Prostaglandins Other Lipid Mediat., 80:35-45, 2006

■学術賞

栗山熙賞, Spreading dilatation in rat mesenteric arteries associated with calcium-independent endothelial cell hyperpolarization.2005.07

医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学 I】

伊達 孝保 教授

氏名(カナ・英文名)	ダテ タカヤス DATE Takayasu	生年月	1943.09
所 属	医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学 I】	職 名	教授
最終学歴	東京大学大学院理学系研究科	学 位	理学博士
電子メール	date@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	分子生物学, 医科学一般		

■所属学会

日本分子生物学会, 日本癌学会, 日本 RNA 学会, 日本生化学会

■研究課題

HCV(C 型肝炎ウイルス)と肝疾患 (Pathobiology of hepatitis C virus)

プロテインキナーゼ, PKU- β (TLK1)の機能解析 (Function of protein Kinase, PKU- β /TLK1)

■研究の概要

1) 哺乳動物細胞における染色体 DNA の保全機構、とくに細胞周期 M 期における染色体分配機構について、当教室でクローニングされた PKU- β /TLK1 キナーゼを中心に研究。

■著書

c. Far Western 法 (West Western 法), 分子細胞生物学基礎実験法 改訂第2版, 南江堂, 東京, 2004

酵母 two-hybrid system, 分子細胞生物学 基礎実験法 改訂第 2 版, 南山堂, 東京, 2004

■学術論文

Potential role for 53BP1 in DNA end-joining repair through direct interaction with DNA, J. Biol. Chem., 278: 36487-36495, 2003

Hepatitis C virus core protein interacts with p53-binding protein, 53BP2/Bbp/ASPP2, and inhibits p53-mediated apoptosis, Biochem. Biophys. Res. Commun., 315: 788-795, 2004

Crystal structure of human 53BP1 BRCT domains bound to p53 tumor suppressor., ENBO. J., 21: 3863-3872, 2002

Expression of unphosphorylated form of human double-stranded RNA-activated protein kinase in Escherichia coli, Biochem. Biophys. Res. Commun., 284: 798-807, 2001

Determination of DNA binding domains in hepatitis C virus core protein, Zhonghua Gan Zang Bing Za Zhi., 6: 160-162, 2001

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2005, 科学研究費補助金 基盤研究 (C), C 型肝炎ウイルス(HCV)コアタンパク質の RNA 干渉への影響

2004, 科学研究費補助金 基盤研究 (C), C 型肝炎ウイルス(HCV)コアタンパク質の RNA 干渉への影響

2003, 科学研究費補助金 基盤研究 (C), DNA 二重鎖切断発生後、傷害部位に集積するプロテインキナーゼ' PKU の機能解析

2002, 科学研究費補助金 基盤研究 (C), DNA 二重鎖切断発生後、傷害部位に集積するプロテインキナーゼ' PKU の機能解析

2001, 科学研究費補助金 基盤研究 (C), C 型肝炎ウイルスのコアタンパク質の選択的 RNA 結合と生理学的意義

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

1992, 非 A 非 B 型肝炎研究事業, 非 A 非 B 型肝炎研究分担事業 分子疫学

■研究費採択状況(その他の助成金)

1993, がん研究振興財団がん研究振興, がん遺伝子の開発等に関する研究

1992, がん研究振興財団がん研究振興, がん遺伝子の開発等に関する研究

医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学 I】

岩淵 邦芳 准教授

氏名(カナ・英文名)	イワブチ クニヨシ IWABUCHI Kuniyoshi	生年月	1958.08
所 属	医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学 I】	職 名	准教授
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	kuni-kmu@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	医化学一般, 放射線・化学物質影響科学, 分子生物学		

■所属学会

日本分子生物学会, 日本放射線影響学会, 日本癌学会, 日本生化学会

■研究課題

p53 結合蛋白質, 53BP1 53BP2 の機能に関する研究 (Research for the function of p53-binding proteins, 53BP1 and 53BP2.)

■研究の概要

DNA 二重鎖切断に対する細胞周期チェックポイント、および DNA 二重鎖切断修復における p53 結合蛋白質 1 (53BP1) の機能解析と、53BP1 機能抑制剤を用いた新しい癌治療法の開発

■著書

酵母 two-hybrid system, 分子細胞生物学 基礎実験法 改訂第 2 版, 南山堂, 東京, 2004

医学のための基礎分子細胞生物学 改訂3版 (伊達孝保 他編), 医学のための基礎分子細胞生物学 改訂3版 (伊達孝保 他編), 南山堂, 東京, 2003

■学術論文

ATM and DNA-PK function redundantly to phosphorylate H2AX after exposure to ionizing radiation, Cancer Res., 64:2390-2396, 2004

Hepatitis C virus core protein interacts with p53-binding protein, 53BP2/Bbp/ASPP2, and inhibits p53-mediated apoptosis, Biochem. Biophys. Res. Commun., 315:788-795, 2004

Potential role for 53BP1 in DNA end-joining repair through direct interaction with DNA, J. Biol. Chem., 278: 36487-36495, 2003

Crystal structure of the BRCT domains of human 53BP1 bound to the p53 tumor suppressor, EMBO J., 21: 3863-3872, 2002

Tumor suppressor p53 binding protein 1 (53BP1) is involved in DNA damage-signaling pathway, J. Cell Biol., 153: 613-620, 2001

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 放射線誘発 DNA 損傷に対する、G1 期特異的な新規修復経路の全容解明

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), DNA 損傷依存的姉妹染色分体早期分離の、p53 結合蛋白質 1 による抑制機構の解析

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), DNA 損傷依存的姉妹染色分体早期分離の、p53 結合蛋白質 1 による抑制機構の解析

1997, 科学研究費補助金 基盤研究(C), p53 結合蛋白、53BP1 53BP2 の癌細胞における変異とその機能に関する研究

1996, 科学研究費補助金 基盤研究(C), p53 結合蛋白、53BP1 53BP2 の癌細胞における変異とその機能に関する研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

2004, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, p53 結合蛋白質 1(53BP1)の DNA 二重鎖切断修復における機能解析

医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学 I】

松井 理 助教

氏名(カナ・英文名)	マツイ タダシ MATSUI Tadashi	生年月	1968.05
所 属	医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学 I】	職 名	助教
最終学歴	東京工業大学大学院生命理工学研究科	学 位	博士(理学)
電子メール	tmatsui@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	分子生物学, 機能生物化学		

■所属学会

日本生化学会, 日本分子生物学会

■研究課題

プロテインキナーゼの機能解析 (Functional analysis of protein kinases)

■研究の概要

細胞内の様々なタンパク質はプロテインキナーゼによるリン酸化によって機能を制御されている。私はこれらのプロテインキナーゼのうち、抗ウイルス作用に関わる二本鎖 RNA 依存性プロテインキナーゼ(PKR)、および本研究室で遺伝子がクローニングされ、正常な細胞増殖に必須と考えられる Tousled 様キナーゼ(TLKs)の作用機構、および制御機構について研究を行っている。

■著書

c. Far Western 法(West Western 法), 分子細胞生物学基礎実験法 改訂第2版, 南江堂, 東京, 2004

■学術論文

53BP1 contributes to survival of cells irradiated with X-ray during G1 without Ku70 or Artemis., Genes Cells, 11: 935-948, 2006

短鎖二本鎖RNAによる二本鎖RNA依存性プロテインキナーゼ(PKR)の阻害, 金医大誌, 30:551-559, 2005

Hepatitis C virus core protein interacts with p53-binding protein, 53BP2/Bbp/ASPP2, and inhibits p53-mediated apoptosis, Biochem. Biophys. Res. Commun., 315:788-795, 2004

Origin of apparent negative cooperativity of F1-ATPase, Biochim. Biophys. Acta, 1607: 35-44, 2003

Expression of unphosphorylated form of human double-stranded RNA-activated protein kinase in Escherichia coli, Biochem. Biophys. Res. Commun., 284: 798-807, 2001

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2002, 科学研究費補助金 若手研究(B), C 型肝炎ウイルスによる二本鎖 RNA 依存性プロテインキナーゼの阻害

2001, 科学研究費補助金 奨励研究(A), C 型肝炎ウイルスによる二本鎖 RNA 依存性プロテインキナーゼの阻害

2000, 科学研究費補助金 奨励研究(A), C 型肝炎ウイルス NS5A 蛋白質のインターフェロン抵抗性、発癌性との関連

1999, 科学研究費補助金 奨励研究(A), C 型肝炎ウイルス NS5A 蛋白質のインターフェロン抵抗性、発癌性との関連

1998, 科学研究費補助金 奨励研究(A), Three-hybrid 法による C 型肝炎ウイルス RNA3' 末端結合蛋白質の検索

医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅰ】

橋本 光正 助教

氏名(カナ・英文名)	ハシモト ミツマサ HASHIMOTO Mitsumasa	生年月	—
所 属	医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅰ】	職 名	助教
最終学歴	金沢大学大学院自然科学研究科	学 位	博士(薬学)
電子メール	mithashi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	細胞生物学, 放射線・化学物質影響科学		

■職歴

Emory University Pos. Doc. (1999.04), New York University Pos. Doc. (2001.07)

■所属学会

日本分子生物学学会, 日本生化学会, 日本放射線影響学会

■研究課題

細胞周期制御蛋白

■研究の概要

細胞周期関連タンパク質である PKU-beta/TLK1 に関連する研究。特に本タンパク質が、細胞周期の M 期進行にどのように振舞うかを、細胞生物学、生化学、分子生物学的観点から検討している。また本タンパク質と DNA 修復の関与についても研究している。

■著書

G1 期に機能する新規 DNA 二本鎖切断損傷の修復経路, モデルが拓く放射線防護研究の新たな展開、根井充 編、, 独立行政法人放射線医学総合研究所, 千葉、日本, 2007

■学術論文

HU protein of Escherichia coli has a role in the repair of closely opposed lesions in DNA, J. Biol. chem., 2003

DNA-PK: the major target for Wortmannin mediated radiosensitization by the inhibitor of DSB repair via NHEJ pathway, J. Radiat. Res (Tokyo), 2003

Cross-linking of 2-deoxyribonolactone and its beta-elimination product by base excision repair enzymes., Biochemistry, 42(8):2449-2455., 2003

Erythropoietin regulates tumour growth of human malignancies., Carcinogenesis, 24(6):1021-1029, 2003

A Possible role for Ku in mediating sequential repair of closely opposed lesions, J. Biol. chem, 2001

■学術賞

寺島論文賞, 2004

医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅱ】

米倉 秀人 教授

氏名(カナ・英文名)	ヨネクラ ヒデト YONEKURA Hideto	生年月	1957.12
所 属	医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅱ】	職 名	教授
最終学歴	名古屋大学大学院理学研究科	学 位	理学博士
電子メール	yonekura@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	医化学一般, 病態医化学, 機能生物化学		

■職歴

金沢医科大学 教授(2006.04), 金沢大学 助教授(1996.04), 東北大学 助教授(1994.12), 東北大学 講師(1990.11), キッセイ薬品工業株式会社 研究員(1985.04)

■所属学会

日本生化学会, 日本分子生物学会, 日本 RNA 学会, 日本癌学会, 日本糖尿病学会

■研究課題

血管の分子細胞生物学的研究 (Molecular and cell biology of vascular cells)

動物ゲノムの機能解析 (Functional genomics)

■研究の概要

1. 選択的 mRNA プロセシングの制御機構の解明とその制御法の開発
2. 血管新生の制御機構の解明とその制御法の開発
3. 血管と神経の相互作用と機能維持に重要な遺伝子・マイクロ RNA の探索
4. 糖尿病血管合併症発症の分子機構の解明と予防・治療への応用

■著書

アンチセンス DNA を用いた機能的遺伝子同定法 -アンチセンスディスプレイ法の原理と適用-, RNAi 法とアンチセンス法 - RNA の科学と応用 (関根光雄, 多比良和誠編), 講談社サイエンティフィク社, 東京, 2005

細小血管症の分子機構, 病態の分子生物学-糖尿病 (門脇 孝編), 南山堂, 東京, 2004

■学術論文

RAGE control of diabetic nephropathy in a mouse model: effects of RAGE gene disruption and administration of low-molecular weight heparin, Diabetes, 55:2510-2522, 2006

Identification of mouse ortholog of endogenous secretory receptor for advanced glycation endproducts: structure, function and expression., Biochem. J., 396(1):109-115, 2006

Receptor for advanced glycation endproducts is involved in impaired angiogenic response in diabetes., Diabetes, 55(8):2245-2255, 2006

Novel splice variants of the receptor for advanced glycation end-products expressed in human vascular endothelial cells and pericytes, and their putative roles in diabetes-induced vascular injury., Biochem. J., 370(3):1097-1109, 2003

Development and prevention of advanced diabetic nephropathy in RAGE-overexpressing mice., J. Clin. Invest., 108(2):261-268, 2001

■学術賞

平成 11 年度日本生化学会北陸支部奨励賞 (米山賞), 2000.05

■共同研究希望(研究シーズ)

選択的 RNA プロセシングのコントロールによる血管新生制御

血管細胞機能の分子細胞生物学的解析

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 血管新生・糖尿病血管症罹患感受性を制御する選択的 mRNA スプライシングの新機構

医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅱ】

吉竹 佳の 准教授

氏名(カナ・英文名)	ヨシタケ ヨシノ YOSHITAKE Yoshino	生年月	—
所 属	医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅱ】	職 名	准教授
最終学歴	金沢大学大学院理学研究科	学 位	理学修士，医学博士
電子メール	yositake@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	病態医化学，細胞生物学，医化学一般		

■職歴

金沢医科大学 助教授(2001.10)，金沢医科大学 講師(1989.04)，金沢医科大学 助手(1974.04)

■所属学会

日本生化学会，日本癌学会，日本分子生物学会，日本細胞生物学会

■研究課題

血管新生とマイクロ RNA (miRNA in angiogenesis)

FGF-2 の細胞内機能の検討 (Intracellular function of FGF-2)

■研究の概要

1)ヒト毛細血管内皮細胞がマトリゲル上で管腔様構造を形成する際に発現しているマイクロ RNA をクローニングして、その標的遺伝子候補を推定することで、未解決な管腔形成機構解析の糸口とする。
2)選択的翻訳機構により発現して細胞内に留まり核移行する FGF2 アイソフォームの役割について、FGF-2 結合タンパク質 Cep57 の機能解析をおとして検討する。

■著書

Derivation of monoclonal antibody to basic fibroblast growth factor and its application, Methods in Enzymology, Academic Press, New York, 1991

Derivation of monoclonal antibody to human epidermal growth factor., Methods in Enzymology, Academic Press, New York, 1987

■学術論文

Electrophoretic separation of the synovial fluid proteins in patients with temporomandibular joint disorders, Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod, 101:463-468, 2006

Correlations of the expression of fibroblast growth factor-2, vascular endothelial growth factor, and their receptors with angiogenesis in synovial tissues from patients with internal derangement of the temporomandibular joint, J. Dent. Res., 82: 272-277, 2003

Misexpression of polycomb-group proteins in Xenopus alters anterior neural development and represses neural target genes, Developmental Biology, 215:375-387, 1999

A novel growth-promoting factor derived from fetal bovine cartilage, Chondromodulin-II : Purification and its amino acid sequence, J. Biol. Chem., 271:22657-22662, 1996

Monoclonal antibodies against heparin-binding growth factor II /basic fibroblast growth factor that block its biological activity : Invalidity of the antibodies for tumor angiogenesis, Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 86:9911-9915, 1989

■学術賞

北国がん基金研究助成, 1994

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), FGF-2 結合分子 FAP の機能と応用(緑内障術後の再発予防への新しいアプローチ)

1996, 科学研究費分担研究, <重点領域研究(2);広島大学歯学部 岡本哲治 講師>ヒ唾液腺腫瘍の悪性転換過程における FGF 受容体遺伝子群のディフェンシャル発現

1982, 科学研究費補助金 奨励研究(A), がん細胞の核に存在するGrowth factorの精製とその細胞内での作用機構

■研究費採択状況(その他の助成金)

1994, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, 細胞核に局在する高分子量型塩基性線維芽細胞増殖因子(bFGF)蛋白質の機能

医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅱ】

鶴岡 直樹

助教

氏名(カナ・英文名)	ツルオカ ナオキ TSURUOKA Naoki	生年月	1975.02
所 属	医学部／ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅱ】	職 名	助教
最終学歴	東北大学大学院工学研究科	学 位	工学博士
電子メール	tsuruoka@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	分子生物学		

■所属学会

生化学会, 分子生物学会, 農芸化学会

■研究課題

選択的スプライシング機構の解明

コラーゲントリペプチドの生理活性とその作用機構

■学術論文

Alicyclobacillus sendaiensis sp. nov., acidophilic slightly thermophilic species isolated from soil of Sendai, Japan, Int. J. Syst. Evol. Micro., 2003

Collagenolytic Serine-Carboxyl Proteinase from Alicyclobacillus sendaiensis Strain NTAP-1: Purification, Characterization, Gene Cloning, and Heterologous Expression, Appl. Environ. Microb., 2003

Thermostable Collagenolytic Activity of a Novel Thermophilic Isolate, Bacillus sp. Strain NTAP-1, J. Biosci. Bioeng., 2000

A Pathway Where Polyprenyl Diphosphate Elongate in Prenyltransferase, J. Biol. Chem., 1998

1) Wlodawer A, Li M, Gustchina A, Tsuruoka N, Ashida M, Minakata H, Oyama H, Oda K, Nishino T, Nakayama T., Crystallographic and biochemical investigations of kumamolisin-As, a serine-carboxyl peptidase with collagenase activity, J. Biol. Chem., 2004

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2005, 科学研究費補助金 若手研究(B), 骨粗鬆症治療への応用を目的としたコラーゲントリペプチドの生理活性作用の解析

2004, 科学研究費補助金 若手研究(B), 骨粗鬆症治療への応用を目的としたコラーゲントリペプチドの生理活性作用の解析

医学部／生体情報薬理学(薬理学)

西尾 眞友 教授

氏名(カナ・英文名)	ニシオ マトモ NISHIO Matomo	生年月	—
所 属	医学部／生体情報薬理学(薬理学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	mnishio@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	生理学一般		

■職歴

1982-1992 福井医科大学 助手, 1986-1988, 1992-1994 秋田大学医学部 助教授, 1982-1992 Fukui Medical University, Research Associate, 1986-1988 Northwestern University Medical School, Research Associate

■所属学会

日本薬理学会, 日本生理学会, 米国生物物理学会(Biophysical Society), 日本循環薬理学会, 日本心電学会

■研究課題

心血行動態とNO(一酸化窒素)関連物質の動態 (Hemodynamics and kinetics of nitric oxide-related substances)

カリウムチャネルオープナーの薬理学電気生理学 (Pharmacological and electrophysiological study on potassium channel openers)

■研究の概要

興奮性および非興奮性細胞の増殖、分化、アポトーシスなどに関与するイオンチャネルの機能および細胞内Ca²⁺動態の解明。特に、これらの細胞機能に関わるカルシウムイオンの細胞内濃度調節機構が病態や薬物によって修飾されることに着目し、治療における新しい分子標的を探索するための研究を進めている。

■学術論文

Supersensitivity to tetrodotoxin and lignocaine of sea anemone toxin II-treated sodium channel in guinea-pig ventricular muscle, British Journal of Pharmacology, 1991

Electrophysiological and mechanical effects of calcitonin gene-related peptide on guinea-pig atria, British Journal of Pharmacology, 1990

Somatostatin decreases the calcium inward current in guinea-pig atria, British Journal of Pharmacology, 1990

Ethanol enhancement of GABA-activated chloride current in rat dorsal root ganglion neurons, Brain Res., 1990

Single ionic channels induced by palytoxin in guinea-pig ventricular myocytes, British Journal of Pharmacology, 1988

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 動脈硬化予防・治療創薬へ向けての平滑筋細胞内 Ca イオンと一酸化窒素の機能解析

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), アデノシン受容体を介する心機能修飾の詳細な解析

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), アデノシン受容体を介する心機能修飾の詳細な解析

1995, 科学研究費補助金 一般研究(C), 海洋毒によって修飾した Na チャネルを用いた抗不整脈薬作用機序の解析

医学部／生体情報薬理学(薬理学)

吉田 純子 講師

氏名(カナ・英文名)	ヨシダ ジュンコ YOSHIDA Junko	生年月	—
所 属	医学部／生体情報薬理学(薬理学)	職 名	講師
最終学歴	金沢大学薬学部	学 位	博士(薬学)
電子メール	yayuyo@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	Pharmacology in cardiovascular system, Cancer Chemotherapy		

■職歴

金沢医科大学薬理学 助手(1973.04), 金沢医科大学薬理学 講師(1991.04)

■所属学会

日本癌学会, 日本薬理学会

■研究課題

腫瘍細胞の増殖抑制とアポトーシス誘導に関わる情報伝達機構の解析 (Antitumor action of a streptococcal acidic glycoprotein (SAGP) purified from streptococci.)

カルシウム拮抗薬の細胞増殖抑制作用機序の解析 (Antiproliferative action of Ca²⁺ channel blocker on human epidermoid carcinoma A431 cells.)

■研究の概要

細胞増殖において Ca²⁺は必須のものである。我々は高血圧治療薬 Ca²⁺拮抗薬の中に、本来の標的であるL型 Ca²⁺チャネルを発現していないがん細胞の増殖を抑制するものがあることを見だし、この作用にストア枯渇性カルシウムチャネルを介する容量性 Ca²⁺流入の抑制が関与していることを示唆してきた。引き続き Ca²⁺拮抗薬の示す増殖抑制作用を指標にして、Ca²⁺シグナリングと細胞増殖、血管新生との関連について研究を進めている。

■学術論文

G1 cell cycle arrest by amlodipine, a dihydropyridine Ca²⁺ channel blocker, in human epidermoid carcinoma A431 cells., Biochemical Pharmacology, 73:943-953, 2007

Capacitative Ca²⁺ entries and mRNA expression for TRPC1 and TRPC5 channels in human epidermoid carcinoma A431 cells, Eur. J. Pharmacol., 510:217-222, 2005

Antitumor effects of amlodipine, a Ca²⁺ channel blocker, on human epidermoid carcinoma A431 cells in vitro and in vivo, Eur. J. Pharmacol., 492:103-112, 2004

Antiproliferative effect of Ca²⁺ channel blockers on human epidermoid carcinoma A431 cells, Eur. J. Pharmacol., 472: 23-31, 2003

Growth-inhibitory effect of a streptococcal antitumor glycoprotein on human epidermoid carcinoma A431 cells: Involvement of dephosphorylation of epidermal growth factor receptor, Cancer Res., 61: 6151-6157, 2001

医学部／腫瘍病理学(病理学Ⅰ)

田中 卓二 教授

氏名(カナ・英文名)	タナカ タクジ TANAKA Takuji	生年月	1949.07
所 属	医学部／腫瘍病理学(病理学Ⅰ)	職 名	教授
最終学歴	岐阜大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	takutt@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	実験腫瘍病理学, 細胞診断学		

■所属学会

日本病理学会, 日本癌学会, 日本臨床細胞学会, 米国癌学会, 日本毒性病理学会

■研究課題

消化器癌の化学予防に関する研究 (Study on Cancer Chemoprevention in Digestive Organs)

癌化学予防に用いるバイオマーカーの研究 (Study on Biomarkers Using Cancer Chemoprevention)

■研究の概要

- 1) 発癌機構の解析と発癌阻止に関する研究:特に消化管、口腔における発癌機構と化学予防を中心に動物モデルを使用して実施。
- 2) 発癌予防、新規抗癌剤開発、環境中の発癌物質・プロモーター検出に利用できる新規動物モデルの開発。
- 3) -omics 手法を利用した炎症関連発癌とその予防の解析。
- 4) Imaging 手法を利用した多臓器発癌の解析。

■著書

Identification of cancer chemopreventive agents by preclinical assays, Carcinogenesis and Modification of Carcinogenesis (Takuji Tanaka, Hiroyuki Tsuda), Research Signpost, Kerala (India), 2005

The modifying effects of hesperidin glycoside on chemically-induced tongue and colon carcinogenesis in F344 rats, Carcinogenesis and Modification of Carcinogenesis (Takuji Tanaka, Hiroyuki Tsuda), Research Signpost, Kerala (India), 2005

■学術論文

Modification by curcumin of mutagenic activation of carcinogenic N-nitrosamines by extrahepatic cytochromes P-450 2B1 and 2E1 in rats, Cancer Sci., 97:896-904, 2006

Chemoprevention of colon carcinogenesis by dietary non-nutritive compounds, Curr. Topics Nutraceut. Res., 4:127-152, 2006

Sphingosine kinase 1 is up-regulated in colon carcinogenesis, FASEB J., 386-388, 2006

Diet supplemented with citrus unshiu segment membrane suppresses chemically induced colonic preneoplastic lesions and fatty liver in male *db/db* mice, Int. J. Cancer., 120:252-258, 2006

Catalpa seed oil rich in 9 μ ,11 μ ,13 μ -conjugated linolenic acid suppresses the development of colonic aberrant crypt foci induced by azoxymethane in rats, Oncol. Rep., 16:989-996, 2006

■学術賞

東海学術奨励会特別研究賞, 1983

岐阜医学研究協議会学術奨励賞, 1989

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 舌解毒酵素陽性病変のメチル化異常と舌前がん病変としての意義に関する研究

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 舌発がんにおける炎症関連酵素,PPARs の関与とその制御による発がん防御

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 舌発がんにおける炎症関連酵素,PPARs の関与とその制御による発がん防御

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 舌発がんに係るヘロキシゾーム増殖活性受容体の発現とリガンドによる発がん防御

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 舌発がんに係るヘロキシゾーム増殖活性受容体の発現とリガンドによる発がん防御

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, がん研究助成金, 個体レベルでの発がん予知と予防に関する基盤的研究

2006, 厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業, がん化学予防剤の開発に関する基礎及び臨床研究

2005, がん研究助成金, 個体レベルでの発がん予知と予防に関する基盤的研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

1999, (財)植物科学研究協会, リモノイド、ピレチンによる大腸がん制御に関する実験的研究

1999, 愛媛柑橘資源開発研究所研究助成金, 実験的肺発がんモデルを用いたカロテノイド高含有みかんジュースの抗癌性に関する研究

医学部／腫瘍病理学(病理学Ⅰ)

杉江 茂幸 教授

氏名(カナ・英文名)	スギエ シゲユキ SUGIE Shigeyuki	生年月	—
所 属	医学部／腫瘍病理学(病理学Ⅰ)	職 名	教授
最終学歴	岐阜大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	sugie@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	実験病理学		

■所属学会

米国癌学会, 日本毒性病理学会, 日本臨床検査医学会, 国際細胞学会, 日本臨床細胞学会

■研究課題

実験病理学, 消化器発がんの病理

■著書

Suppressing effects of yeast, magnesium (Mg), zinc (Zn), Mg-enriched yeast and Zn-enriched yeast on azoxymethane-induced aberrant crypt foci in rats, Carcinogenesis and Modification of Carcinogenesis (Takuji Tanaka, Hiroyuki Tsuda), Research Signpost, Kerala (India), 2005

The modifying effects of hesperidin glycoside on chemically-induced tongue and colon carcinogenesis in F344 rats, Carcinogenesis and Modification of Carcinogenesis (Takuji Tanaka, Hiroyuki Tsuda), Research Signpost, Kerala (India), 2005

■学術論文

Modification by curcumin of mutagenic activation of carcinogenic N-nitrosamines by extrahepatic cytochromes P-450 2B1 and 2E1 in rats, Cancer Sci., 97:896-904, 2006

がん原性試験における過形成性病変の意義, 金医大誌, 31:124-126, 2006

Diet supplemented with citrus unshiu segment membrane suppresses chemically induced colonic preneoplastic lesions and fatty liver in male *db/db* mice, Int. J. Cancer., 120:252-258, 2006

Preventive effects of chrysin on the development of azoxymethane-induced colonic aberrant crypt foci in rats, Oncol. Rep., 15:1169-1173, 2006

Strain differences in susceptibility to azoxymethane and dextran sodium sulfate-induced colon carcinogenesis in mice, Carcinogenesis, 27:162-169, 2006

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, 厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業, 疾患モデルを用いた発がんの分子機構及び感受性要因の解明とその臨床応用

2005, 厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業, 疾患モデルを用いた発がんの分子機構及び感受性要因の解明とその臨床応用

2004, 厚生労働科学研究費補助金 第3次対がん総合戦略研究事業, 疾患モデルを用いた発がんの分子機構及び感受性要因の解明とその臨床応用

医学部／腫瘍病理学(病理学Ⅰ)

安井 由美子 助教

氏名(カナ・英文名)	ヤスイ ユミコ YASUI Yumiko	生年月	—
所 属	医学部／腫瘍病理学(病理学Ⅰ)	職 名	助教
最終学歴	北海道大学大学院水産科学研究科	学 位	水産学博士
電子メール	—		
専門分野	生物生産化学・生物有機化学		

■研究の概要

- 1) 天然物による発がん予防に関する研究。
- 2) 発癌機構の解析と発癌阻止に関する研究:特に消化管、口腔における発癌機構と化学予防を中心に動物モデルを使用して実施。
- 3) 動物モデルによる炎症関連発癌の解析。

■学術論文

Chemoprevention of colon carcinogenesis by dietary non-nutritive compounds, Curr. Topics Nutraceut. Res., 4:127-152, 2006

Troglitazone and 9cis,11trans,13trans-conjugated linolenic acid: Comparison of their antiproliferative and apoptosis-inducing effects on different colon cancer cell lines, Chemotherapy, 52:220-225, 2006

Diet supplemented with citrus unshiu segment membrane suppresses chemically induced colonic preneoplastic lesions and fatty liver in male *db/db* mice, Int. J. Cancer., 120:252-258, 2006

Catalpa seed oil rich in 9*t*,11*t*,13*c*-conjugated linolenic acid suppresses the development of colonic aberrant crypt foci induced by azoxymethane in rats, Oncol. Rep., 16:989-996, 2006

Growth inhibition and apoptosis induction by all-*trans*-conjugated linolenic acids on human colon cancer cells, Anticancer Res., 26:1855-1860, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 若手研究(スタートアップ), 炎症性大腸発がんモデルマウスを用いた共役リノレン酸の発がん阻止効果に関する研究

医学部／病理病態学(病理学Ⅱ)

勝田 省吾 教授

氏名(カナ・英文名)	カツダ ショウゴ KATSUDA Shogo	生年月	1945.04
所 属	医学部／病理病態学(病理学Ⅱ)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	katuda@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	人体病理学		

■職歴

1976-1977 金沢大学 助手, 1977-1979 金沢大学 講師, 1979-1994 金沢大学 助教授, 1994- 金沢医科大学 教授, 1977-1979 Kanazawa University, Lecturer

■所属学会

日本脈管学会, 日本電子顕微鏡学会, 日本臨床細胞学会

■研究課題

動脈硬化に関する研究 (Study on Atherosclerosis)

■研究の概要

動脈硬化の病理学的研究、特に動脈硬化の発生・進展に果す細胞外マトリックス(ECM)の役割。主な研究は、1)弾性線維の形成・分解と超微構造、2)動脈硬化巣における型別コラーゲンの沈着、3)培養動脈平滑筋細胞のコラーゲン合成に及ぼす増殖因子・サイトカインの影響、4)平滑筋細胞の遊走機構、5)動脈壁細胞と増殖因子・サイトカインの相互作用、6)各種病態におけるECMの分解とマトリックスメタロプロテアーゼ。

■著書

The Pathogenesis of Atherosclerosis, Wound Healing in Cardiovascular Disease, Futura Publishing Company, Inc., New York, 1995

エラスチン, 血管一内皮と平滑筋, 東京化学同人, 東京, 1993

■学術論文

Localization of PDGF-B protein in macrophages in all phases of atherogenesis, Science, 248, 1990

Human atherosclerosis III. Immunocytochemical analysis of the cell composition of lesion of young adults, Am. J. Pathol., 140(4):907-914, 1992

Human atherosclerosis IV. Immunocytochemical analysis of cell activation and proliferation in lesions of young adults, Am. J. Pathol., 142(6):1787-1793, 1993

Matrix metalloproteinase-9 (92-kd gelatinase/type IV collagenase equals gelatinase B) can degrade arterial elastin, Am. J. Pathol., 145(5):1208-1218, 1994

Atherosclerosis and extracellular matrix, J. Atheroscler. Thromb., 10: 267-274, 2003

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 動脈硬化におけるプラーク破裂の分子機構に関する研究

1998, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 動脈硬化におけるプラーク破裂の分子機構に関する研究

1995, 科学研究費補助金 一般研究(C), 動脈硬化における細胞膜貫通型マトリックスメタロプロテアーゼの役割

1994, 科学研究費補助金 一般研究(C), TIMP 遺伝子導入による平滑筋細胞遊走抑制に関する研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

1997, 難波照男記念健康づくり研究所研究助成金, 動脈硬化粥腫(プラーク)破裂の分子機構の解析

医学部／病理病態学(病理学Ⅱ)

上田 善道 教授

氏名(カナ・英文名)	ウエダ ヨシミチ UEDA Yoshimichi	生年月	1957.01
所 属	医学部／病理病態学(病理学Ⅱ)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	z-ueda@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	Human Pathology		

■職歴

天理よろづ相談所病院・シニアレジデント(1988.04), ドイツ連邦共和国ミュンスター大学病理学研究所・研究員(1990.04), 天理よろづ相談所病院医学研究所・研究員(1992.04), 金沢医科大学病理学・助教授(1994.11), 金沢医科大学病理病態学・教授(2001.04)

■所属学会

日本病理学会, 日本癌学会, 日本肺癌学会, 日本臨床細胞学会, International Skeletal Society

■研究課題

肺癌の進展機構の解析 (Study on the mechanism of invasion and metastasis in bone and soft tissue tumors.)

骨軟部腫瘍の浸潤・転移機序に関する研究
(Study on the Tumor progression mechanism of lung cancer)

■研究の概要

肺癌の進展、特に癌細胞の epithelial mesenchymal transition に関わる機能的遺伝子ネットワークの解明と臨床応用を目指す。遺伝子発現プロファイリング解析データを基に、遺伝子ネットワーク・パスウェイ解析データベース (ITP)の応用により最新のバイオインフォーマティクス法を駆使し解析している。得られた情報は、微小環境での遺伝子発現解析システムを用い、肺癌臨床例の予後推定や治療法選択に応用することを目指している。

■学術論文

Microvessel density : correlation with ¹⁸F-FDG uptake and prognostic impact in lung adenocarcinomas, J. Nucl. Med., 47:419-425, 2006

肺扁平上皮癌の浸潤・転移の分子機構－Matrix metalloproteinase (MMP)の関与とその発現誘導機構－, 金医大誌, 30:357-364, 2005

Oxidative stress by glutathione depletion induces osteonecrosis in rats, Rheumatology (Oxford), 45:287-290, 2006

Expression of ADAMTS-4 (aggrecanase-1) and possible involvement in regression of lumbar disc herniation, Spine, 31:1426-1432, 2006

High mobility group I-C protein in astrocytoma and glioblastoma, Pathol. Res. Pract., 200:619-624, 2004

■共同研究希望(研究シーズ)

肺癌の悪性度の推定に関する研究

Research of evaluation of biological feature of lung cancer.

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 肺癌進展に関わる癌細胞・宿主相互応答遺伝子発現解析パネルの開発と応用

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 肺癌進展に関わる癌細胞・宿主相互応答遺伝子発現解析パネルの開発と応用

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 骨肉腫細胞の転移におけるがん細胞・宿主相互応答に関わる遺伝子群の解析

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 骨肉腫細胞の転移におけるがん細胞・宿主相互応答に関わる遺伝子群の解析

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 肺癌浸潤部における癌細胞・宿主間質細胞相互応答に関わる遺伝子群の解析

■研究費採択状況(その他の助成金)

1997, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, 間葉系腫瘍の発生に関わる HMGI-C 遺伝子の活性化機構の分子遺伝学的解析

1996, (財)佐川がん研究助成振興財団助成, 肺癌の浸潤・転移の分子機構の解析

医学部／病理病態学(病理学Ⅱ)

佐藤 勝明 講師

氏名(カナ・英文名)	サトウ カツアキ SATO Katsuaki	生年月	1968.09
所 属	医学部／病理病態学(病理学Ⅱ)	職 名	講師
最終学歴	金沢大学大学院医学系研究科	学 位	医学博士
電子メール	sato-k@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	人体病理学		

■職歴

金沢医科大学 講師(2005.10), 金沢医科大学 学内講師(2004.04), 金沢大学大学院医学系研究科 学内講師(2001.04), 金沢大学医学部 学内講師(2000.04)

■所属学会

日本病理学会, 日本臨床細胞学会, 日本神経病理学会, 日本神経学会, 日本内科学会

■研究課題

神経細胞におけるアミロイド β 蛋白標的因子の固定と細胞傷害機序の解明

■研究の概要

アルツハイマー病の病因タンパクとされるアミロイド β タンパクの神経細胞傷害機序を解明するため, プロテオーム解析を用いてアミロイド β タンパクと結合性をもつ神経細胞内タンパクを同定し, その機能障害の有無を検索している。

■学術論文

Intrahepatic sarcomatoid cholangiocarcinoma of round cell variant: a case report and immunohistochemical studies, Virchows Arch., 449:585-590, 2006

Prostatic ductal adenocarcinoma mimicking villous adenoma of the urethra, Virchows Arch., 449:597-599, 2006

Bronchioloalveolar carcinoma of mixed mucinous and nonmucinous type: Immunohistochemical studies and mutation analysis of the p53 gene, Pathol. Res. Pract., 202:751-756, 2006

Reactive lymphoid hyperplasia of the liver in a patient with multiple carcinomas: a case report and brief review, J. Clin. Pathol., 59:990-992, 2006

Adenoid cystic carcinoma of the maxillary sinus with gradual histologic transformation to high-grade adenocarcinoma: a comparative report with dedifferentiated carcinoma, Virchows Arch., 448:204-208, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 若手研究(B), 神経細胞におけるアミロイド β 蛋白標的因子の固定と細胞障害機序の解明

2005, 科学研究費補助金 若手研究(B), 神経細胞におけるアミロイド β 蛋白標的因子の固定と細胞障害機序の解明

2004, 科学研究費補助金 若手研究(B), 神経細胞におけるアミロイド β 蛋白標的因子の固定と細胞障害機序の解明

医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 微生物学】

大原 義朗 教授

氏名(カナ・英文名)	オハラ ヨシロウ OHARA Yoshio	生年月	1949.08
所 属	医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 微生物学】	職 名	教授
最終学歴	福島県立医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	ohara@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	神経ウイルス学		

■所属学会

アメリカ神経学会(America Academy of Neurology), アメリカ微生物学会(American Society for Microbiology), 英国王立内科学会神経部門(The Royal Society of Medicine, Neurology), 日本神経学会, 日本ウイルス学会

■研究課題

タイラーウイルスによる持続感染と脱髄 (Persistent infection and demyelination induced by Theiler's virus)

■著書

The NC mouse as a model for atopic dermatitis—a role of the mite antigen in its pathogenesis, Trends in Entomology (ed. Pandalai S. G.), Transworld Research Network, Trivandrum, 2003

多発性硬化症と微生物感染, 21 世紀の神経免疫学—展望 (田中正美, 湯浅龍彦編), 医歯薬出版, 東京, 2001

■学術論文

A lentiviral expression system demonstrates that L* protein of Theiler's murine encephalomyelitis virus (TMEV) is essential for virus growth in a murine macrophage-like cell line, Virus Res., 108:23–28, 2005

A lentiviral expression system demonstrates that L* protein of Theiler's murine encephalomyelitis virus (TMEV) has an anti-apoptotic effect in a macrophage cell line, Microb. Pathog., 38:201–207, 2005

The expression of L* protein during the chronic phase of Theiler's murine encephalomyelitis virus (TMEV) infection and the role of zinc-binding motif of L protein in virus persistence and demyelination, J. Kanazawa. Med. Univ., 30:259–265, 2005

Importance of amino acid 14(valine) within capsid protein VP2 of Theiler's murine encephalomyelitis virus (TMEV) for its neurovirulence, J. Kanazawa. Med. Univ., 29: 97–102, 2004

Influenza B virus BM2 protein is transported through the trans- golgi network as an integral membrane protein, J. Virol., 77: 10630–10637, 2003

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 発現系を用いたタイラーウイルス L*蛋白の機能解析

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 発現系を用いたタイラーウイルス L*蛋白の機能解析

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 発現系を用いたタイラーウイルス L*蛋白の機能解析

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), タイラーウイルスによる脱髄における L*蛋白の役割

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), タイラーウイルスによる脱髄における L*蛋白の役割

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業, 免疫性神経疾患に関する調査研究

2005, 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業, 免疫性神経疾患に関する調査研究

2004, 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業, 免疫性神経疾患に関する調査研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

1998, (財)ヒューマンサイエンス振興財団研究助成金, HIV 感染症の合併及び HIV 感染に伴う諸障害に関する疫学及び臨床研究

1997, (財)ヒューマンサイエンス振興財団研究助成金, HIV 感染症の合併及び HIV 感染に伴う諸障害に関する疫学及び臨床研究

医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 微生物学】

齊藤 峰輝 准教授

氏名(カナ・英文名)	サイトウ ミネキ SAITO Mineki	生年月	—
所 属	医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 微生物学】	職 名	准教授
最終学歴	鹿児島大学大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	—		
専門分野	免疫学		

■所属学会

日本神経免疫学会, 日本細菌学会中部支部, 日本ウイルス学会, 日本免疫学会, 日本神経学会

■研究課題

神経免疫学、神経ウイルス学、HTLV-Ⅰ関連脊髄症(HAM)

■研究の概要

HTLV-Ⅰ関連脊髄症(HAM/TSP)の発症機序解明と治療法の開発

■学術論文

Inclusion body myositis with human T-lymphotropic virus-type Ⅰ infection: eleven patients from endemic area in Japan., J. Neuropathol. Exp. Neurol., 67: 41-9, 2008

Ex vivo analysis of human T cell lymphotropic virus type-Ⅰ (HTLV-Ⅰ) specific CD4+ cells using MHC class II tetramer composed of neurological disease susceptible allele and its immunodominant peptide., J. Infect. Dis., 196:1761-72, 2007

Abnormalities of spinal magnetic resonance images implicate clinical variability in human T-cell lymphotropic virus type Ⅰ-associated myelopathy., J. Neurovirol., 13:260-267., 2007

Flow cytometry evaluation of the T-cell receptor Vbeta repertoire among human T-cell lymphotropic virus type-Ⅰ (HTLV-Ⅰ) infected individuals: effect of interferon alpha therapy in HTLV-Ⅰ-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis (HAM/TSP), J. Neurol. Sci., 246:37-43, 2006

Clinical symptoms and the odds of human T cell lymphotropic virus type-Ⅰ associated myelopathy/tropical spastic paraparesis (HAM/TSP) in healthy virus carriers: application of best-fit logistic regression equation based on host genotype, age, and provirus load., J. Neurovirol., 12(3): 171-177., 2006

■学術賞

日本神経免疫学会賞, HAM/TSP 発症を規定する宿主因子・ウイルス因子とその病態への作用機構 2005.03

長寿科学振興財団奨励賞, 成人T細胞白血病ウイルス関連ミエロパチーの病態の解明及び治療法の開発に関する研究 2004.10

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), HAM 発症関連遺伝子作用機構の解析と無症候性感染者における発症リスク評価の試み

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, 厚生労働科学研究費補助金 こころの健康科学研究事業, HTLV-Ⅰプロテアーゼ阻害剤による HAM 治療法の開発ならびに HAM 発症予防に関する研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

2006, (財)日本脳神経財団研究助成, ヒト T 細胞白血病ウイルス関連脊髄症 (HTLV-Ⅰ associated myelopathy:HAM) 感受性遺伝子の網羅的解析

医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 微生物学】

谷浦 直子 助教

氏名(カナ・英文名)	タニウラ ナオコ TANIURA Naoko	生年月	—
所 属	医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 微生物学】	職 名	助教
最終学歴	徳島大学薬学部	学 位	博士(医学)
電子メール	taniura@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	ウイルス学		

■研究の概要

タイラーウイルスの持続感染及び脱髄発症のメカニズムの解明

■学術論文

Inhibition of colon cancer growth and metastasis by NK4 gene repetitive delivery in mice, Biochem. Biophys. Res. Commun., 358:117-123, 2007

Hepatic gene expression of NK4, an HGF-antagonist/angiogenesis inhibitor, suppresses liver metastasis and invasive growth of colon cancer in mice., Cancer Gene Ther, 11(6) :419-430, 2004

Hydrocortisone potentiates hepatocyte growth factor expression in vascular endothelial cells, Biomed. Res., 25(1):17-25, 2004

医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 微生物学】

齋藤 孔良 助教

氏名(カナ・英文名)	サイトウ コウスケ SAITOU Kousuke	生年月	—
所 属	医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 微生物学】	職 名	助教
最終学歴	東京医科歯科大学大学院・医学科ウイルス制御学分野	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	ウイルス学		

■学術論文

HEPATITIS C VIRUS INHIBITS CELL SURFACE EXPRESSION OF HLA-DR ,PREVENTS DENDRITIC CELL MATURATION AND INDUCES IL-10 PRODUCTION, J. Virol., in press, 2008

HEPATITIS C VIRUS CORE PROTEIN UPREGULATES SERINE PHOSPHORYLATION OF IRS-1 AND IMPAIRS DOWNSTREAM AKT/PKB SIGNALING PATHWAY FOR INSULIN RESISTANCE, J. Virol., 26 [Epub ahead of print], 2007

Sulfated homologues of heparin inhibit hepatitis C virus entry into mammalian cells., J. Virol., 81(8):3933-41., 2007

Microarray analyses and molecular profiling of Stat3 signaling pathway induced by hepatitis C virus core protein in human hepatocytes., Virology, 349(2):347-58., 2006

Hepatitis C virus core protein inhibits tumor necrosis factor alpha-mediated apoptosis by a protective effect involving cellular FLICE inhibitory protein., J. Virol., 80(9):4372-9., 2006

医学部／代替基礎医学(血清学)

山口 宣夫 教授

氏名(カナ・英文名)	ヤマグチ ノブオ YAMAGUCHI Nobuo	生年月	1944.04
所 属	医学部／代替基礎医学(血清学)	職 名	教授
最終学歴	群馬大学大学院医学研究科	学 位	理学修士, 医学博士
電子メール	serumaya@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	免疫学		

■所属学会

国際免疫学会(International Society of Immunology), 日本細菌学会, 日本がん学会, 日本免疫学会, 日本東洋医学会

■研究課題

妊娠時免疫の仔動物能動免疫への影響 (Effect of maternal antigenic stimulation on the young)

後天的免疫不全と免疫調節 (Acquired immuno-deficiency and immune-modulation)

■著書

Preventive effects of Juzen-taiho-to on infectious diseases, Juzen-taiho-to (Shi-Quan-Da-Bu-Tang) (Haruki Yamada, Ikuo Saiki), CRC Press Taylor & Francis Group, U.S.A., 2005

Hydrotherapy can modulate peripheral leukocytes: An approach to alternative medicine, Complementary and Alternative Approaches to Biomedicine (E. L. Cooper, N. Yamaguchi), Kluwer Academic/ Plenum Publishers, New York, 2004

■学術論文

標準免疫学, 医学書院, 1997

免疫した母親の T 細胞が仔の免疫能力を抑制する, 1992

母親への免疫による仔の免疫能抑制に関する MHC の役割, 1993

「冬虫夏草」抽出物による各種免疫能の増強, 1990

担癌宿主の抗腫瘍作用と非特異的免疫能に及ぼす漢方製剤の影響, 1991

■学術賞

北国がん基金顕彰, 1987

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2003, 科学研究費補助金 基盤研究 (C), 母子間免疫系細胞相互移動の遺伝子による証明と自己免疫成立の新解釈

2002, 科学研究費補助金 基盤研究 (C), 母子間免疫系細胞相互移動の遺伝子による証明と自己免疫成立の新解釈

2001, 科学研究費補助金 基盤研究 (C), 母子間免疫系細胞移動の遺伝子による証明と生物学的意義

2000, 科学研究費補助金 基盤研究 (C), 母子間免疫系細胞移動の遺伝子による証明と生物学的意義

1992, 科学研究費補助金 がん特別研究, 転移抑制と宿主免疫能賦活の相加作用を有する新抗腫瘍性生薬成分の探索

医学部／代替基礎医学(血清学)

清水 昌寿 准教授

氏名(カナ・英文名)	シミズ ショウジ SHIMIZU Shoji	生年月	—
所 属	医学部／代替基礎医学(血清学)	職 名	准教授
最終学歴	群馬大学大学院医学研究科	学 位	薬学修士, 医学博士
電子メール	shi-shi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	免疫学		

■職歴

金沢医科大学医学部 助手(1981), 金沢医科大学医学部 講師(1983), 金沢医科大学医学部 助教授(1997), 金沢大学大学院医学系研究科 客員教授(2002)

■所属学会

日本免疫学会, 日本癌学会, 日本細菌学会, 日本細菌学会中部支部, 日本補完代替医療学会

■研究課題

細菌感染に対する防御免疫 (protective immunity against bacterial infection)

■研究の概要

抗腫瘍免疫や感染防御免疫の立場から補完代替医療の科学的根拠を検証している。

■著書

Hydrotherapy can modulate peripheral leukocytes:An approach to alternative medicine, Complementary and Alternative Approaches to Biomedicine(E. L.Cooper, N. Yamaguchi), Kluwer Academic/ Plenum Publishers, New York, 2004

■学術論文

ハプテン分子に対する免疫反応-抗体分泌細胞で判定したハプテン間の交差性について, 金医大誌, 1987

臨床材料から分離した *Acinetobacter calcoaceticus* subsp.*anitratus* の薬剤感受性, 化学療法雑誌, 1982

細胞質因子とその利用 プラスミド研究からの展開, 共立出版株式会社, 1981

Enzymatic adenylation of spectinomycin by *Acinetobacter calcoaceticus* subsp. *anitratus*., J. Antibiotics, 1981

The effect of maternal antigenic stimulation upon the active immune responsiveness of their offspring : Suppression induced by soluble protein antigen, Ovalbumin, in mice., American Journal of Reproductive Immunology and microbiology, 1986

医学部／代替基礎医学(血清学)

松野 栄雄 講師

氏名(カナ・英文名)	マツノ ヒデオ MATSUNO Hideo	生年月	—
所 属	医学部／代替基礎医学(血清学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	アレルギー学, 耳鼻咽喉科学.		

■研究課題

アレルギー学, 耳鼻咽喉科学, 統合医療学

■研究の概要

母子免疫による I 型アレルギーの予防と治療の確立

■学術論文

In vitro anti-cytomegalovirus activity of kampo (Japanese herbal) medicine, eCAM, 1:285-289, 2004

Maternal allergen stimulation suppressed respiratory allergy in off-spring-special reference to the allergy related cells in tonsil., Acta Otolaryngol., 523, 1995

鼻アレルギー誘発時の末梢血CD陽性細胞レベルでみた小青竜湯の作用機作, 漢方と最新治療, 7(4):345-351, 1999

3. 末梢性顔面神経麻痺に対する漢方薬併用治療 —ステロイド剤の抗炎症作用に対する柴胡剤の影響—, 漢方と免疫・アレルギー, 18:87-94, 2005

Endonasal approach to sphenoid sinus pathology, Am j Rhinol, 7, 1994

医学部／代替基礎医学(血清学)

松葉 慎太郎 助教

氏名(カナ・英文名)	マツバ シンタロウ MATSUBA Shintaro	生年月	—
所 属	医学部／代替基礎医学(血清学)	職 名	助教
最終学歴	城西大学薬学部	学 位	薬学修士
電子メール	matsuba@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	代替医療		

■研究課題

補完代替医学, 免疫学

■学術論文

Phellinus linteus extract augments the immune response in Mitomycin C induced immunodeficient mice, Evid Based Complement Alternat Med, inpress, 2007

3. 末梢性顔面神経麻痺に対する漢方薬併用治療 —ステロイド剤の抗炎症作用に対する柴胡剤の影響—, 漢方と免疫・アレルギー, 18:87-94, 2005

Complementary and alternative approaches to biomedicine, eCAM, 1:345-348, 2004

母親が妊娠後に示す免疫反応と児に及ぼす影響—鬼子母神効果, 臨検, 47: 1563-1569, 2003

補剤の免疫学的・感染防御的アプローチ, 別冊 医学のあゆみ, 22-28, 2003

医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 医動物学】

池田 照明 准教授

氏名(カナ・英文名)	イケダ テルアキ IKEDA Teruaki	生年月	—
所 属	医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 医動物学】	職 名	准教授
最終学歴	京都大学大学院理学研究科	学 位	理学博士
電子メール	ikedat@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	寄生虫学		

■所属学会

日本熱帯医学会, 日本臨床寄生虫学会, 日本寄生虫学会

■研究課題

寄生虫症の免疫診断 (Immunodiagnosis of parasitic diseases)

肺吸虫システインプロテアーゼの生化学的、免疫学的特性 (Biochemical and immunological properties of cysteine proteinases of lung flukes)

■研究の概要

寄生吸虫の宿主への感染機構の解明、宿主免疫応答と寄生虫の免疫回避機構の解明、寄生虫症の免疫診断の確立、などをテーマとして研究している。吸虫の宿主感染機構の解明では、肺吸虫感染型被嚢幼虫が宿主腸管内で脱嚢する機構とその脱嚢幼虫が腸管壁を通過して腹腔内に至る移行機構について、脱嚢、体内移行を誘発する宿主側の因子、Ca²⁺シグナル、走化性、システインプロテアーゼなどの寄生虫側の因子を詳細に検討している。

■著書

Immunodiagnosis of Helminthic Diseases, Perspectives of helminthology (N. Chowdhury, I. Tada), Science Publishers, USA, 2001

The NC mouse as a model for atopic dermatitis—role of the mite antigen in its pathogenesis, Trends in Entomology (ed. Pandalai S. G.), Transworld Research Network, Trivandrum, 2003

■学術論文

Effects of blockers of Ca²⁺ channels and other ion channels on in vitro excystment of *Paragonimus ohirai* metacercariae induced by sodium cholate, Parasitol. Res., 94:329-331, 2004

Cystatin capture enzyme-linked immunosorbent assay for immunodiagnosis of human paragonimiasis and fascioliasis, Am. J. Trop. Med. Hyg., 59:286-290, 1998

Paragonimus ohirai: Immunobiochemical characterization on the tegumental glycocalyx of excysted juvenile recognized by a monoclonal antibody., Exp. Parasitol., 72:252-261, 1991

IgE in *Paragonimus ohirai*-infected rats: relationship between titer, migration route, and parasite age, J. Parasitol., 66:197-204, 1980

A sero-epidemiological study of onchocerciasis with the indirect hemagglutination test, J. Parasitol., 65:855-861, 1979

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 抗寄生虫プロテアーゼ抗体を検出する免疫診断法の開発

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 抗寄生虫プロテアーゼ抗体を検出する免疫診断法の開発

1995, 科学研究費補助金 一般研究(C), 肺吸虫システインプロテアーゼの生物学、生化学、遺伝子学的解析と免疫診断への応用

1994, 科学研究費補助金 一般研究(C), 肺吸虫システインプロテアーゼの生物学、生化学、遺伝子学的解析と免疫診断への応用

1979, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 肺吸虫感染におけるIgE抗体産生の機序

医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 医動物学】

及川 陽三郎 学内講師

氏名(カナ・英文名)	オイカワ ヨウサブロー OIKAWA Yosaburo	生年月	—
所 属	医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 医動物学】	職 名	学内講師
最終学歴	日本大学大学院獣医学研究科	学 位	獣医学修士
電子メール	oikawa@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	寄生虫学(含衛生動物学)		

■職歴

東京大学医科学研究所 非常勤職員(1977.05), 金沢医科大学 助手(1980.04)

■所属学会

日本寄生虫学会, 日本熱帯医学会, 日本衛生動物学会, 日本感染症学会, 日本獣医師会

■研究課題

ダニ抗原による皮膚炎の重症化のメカニズム (The mechanism of the deterioration of the dermatitis by the mite antigen.)

患者分離アカントアメーバの性状 (Property of Acanthamoeba isolated from patients.)

■研究の概要

寄生虫学(含・衛生動物学)に関する研究として、主に以下のテーマについて検討してきた。1.ダニ抗原による皮膚炎の重症化のメカニズムについて。2.石川県能登半島におけるダニ媒介性疾患の疫学的研究。3.アカントアメーバ角膜炎の生物学的研究。4.寄生虫感染症の免疫学的研究。5.寄生虫症の診断法に関する研究。また、臨床各科よりの寄生虫症に関する相談に応じた。

■著書

The NC mouse as a model for atopic dermatitis—role of the mite antigen in its pathogenesis, Trends in Entomology (ed. Pandalai S. G.), Transworld Research Network, Trivandrum, 2003

マダニ刺症および病原媒介の可能性について, 虫の知らせ (高橋優三, 他編), 三恵社, 名古屋, 2002

■学術論文

Drug susceptibility of Acanthamoeba isolated from 13 Japanese patients with Acanthamoeba keratitis, J. Kanazawa. Med. Univ., 30:67-70, 2005

Mite-specific IgE antibody response and dermatitis in NC mice infected with Myobia musculi, Med. Entomol. Zool., 53: 207-212, 2002

Brugia pahangi: Production of a monoclonal antibody reactive with the surface of infective larvae., Exp. Parasitol., 75:146-154, 1992

IgE antibody response in rats infected with *Litomosoides carinii*, Tropical Medicine, 23:149-157, 1981

Identity of pathogenic strains of spotted fever rickettsiae isolated in Shikoku District based on reactivities to monolonal antibodies., Jap. J. Med. Sci. Biol., 46:45-49, 1993

■共同研究希望(研究シーズ)

能登地方におけるマダニ刺症およびマダニ媒介性疾患の疫学的研究

アカントアメーバの性状に関する研究

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1995, 科学研究費補助金 一般研究(C), プルギア属糸状虫感染幼虫体表抗原の発現と消退のメカニズムの解明

医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 医動物学】

市川 秀隆 学内講師

氏名(カナ・英文名)	イチカワ ヒデタカ ICHIKAWA Hidetaka	生年月	1949.01
所 属	医学部／生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 医動物学】	職 名	学内講師
最終学歴	名古屋保健衛生大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	ichikawa@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	寄生虫学, 免疫学		

■職歴

1972-1978 名古屋保健衛生大学衛生学部 助手, 1982-1983 福井医科大学微生物学 助手, 1983-1987 金沢医科大学老年病学 助手, 1987-1999 金沢医科大学医動物学 助手, 1972-1978 Fujita Health University, school of Health Science, Research Assistant.

■所属学会

日本免疫学会, 日本細菌学会, 日本臨床病理学会, 日本寄生虫学会, 日本熱帯医学会

■研究課題

肺吸虫の体表抗原 (Surface antigens of lung flukes)

腸管寄生虫の排除機構 (Expulsion mechanism of the intestinal parasites)

■著書

Fascioliasis and other trematodes infections, Parasitic Zoonoses in Asian-Pacific Regions 2006, Sankei-she Co., Ltd., Aichi, Japan, 2006

Ultrastructure studies on Echinostomes, Echinostomes as experimental models for biological research(Edited by B.Fried and T.K.Graczyk), Kluwer Academic Publishers, Netherland, 2000

■学術論文

Excretory/secretory antigens of adult *Paragonimus ohirai* recognized by monoclonal antibody, International Journal for Parasitology, 25:725-730, 1995

Rapid Expulsion of the Intestinal Trematodes *Echinostoma trivolvis* and *E. caproni* from C3H Mice by Trapping with Increased Goblet cell Mucins, International Journal for Parasitology, 26:319-324, 1996

The expulsion of *Echinostoma trivolvis*: suppressive effects of dexamethason on goblet cell hyperplasia and worm rejection in C3H/HeN mice, Parasite, 3:283-289, 1996

Rapid expulsion of the intestinal trematodes *Echinostoma trivolvis* and *E. caproni* from C3H/HeN mice after infection with *Nippostrongylus brasiliensis*, Parasitol Res, 82: 577-578, 1996

The expulsion of *Echinostoma trivolvis*: worm kinetics and intestinal reactions in C3H/HeN mice treated with dexamethasone, Journal of Helminthology, 71:257-259, 1997

■その他の業績

グアテマラ共和国の熱帯病コントロールの為の研究 (1993 年 8 月 11 日～94 年 7 月 31 日)

中国東北地方に於ける有鉤囊虫症の調査及び研究 (8 月 16 日～9 月 8 日)

■研究費採択状況(その他の助成金)

2001, 日中医学協会助成事業(日本財団助成金による日中医学学術交流促進事業), 有鉤囊虫症診断のための抗原の分離精製並びに、それを用いての中国東北地方の同症感染状況の調査

医学部／病態診断医学(臨床病理学)

野島 孝之 教授

氏名(カナ・英文名)	ノジマ タカユキ NOJIMA Takayuki	生年月	1951.07
所 属	医学部／病態診断医学(臨床病理学)	職 名	教授
最終学歴	北海道大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	nojima@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	人体病理学		

■職歴

北海道大学医学部病理学第2講座 講師(1991.04)

■所属学会

日本病理学会, 日本臨床検査医学会, 国際骨格学会(International Skeletal Society), 国際病理学会(International Academy of Pathology), 日本臨床細胞学会

■研究課題

骨軟部腫瘍の分子病理学的解析 (molecular pathology of bone and soft tissue tumors)

■研究の概要

人体病理学、特に骨軟部腫瘍の病理診断学とその基礎的研究。分子生物学的手法を用いて、病理組織診断への応用の研究。

■著書

骨・関節, 標準病理学. 第2版(町並陸生, 監修), 医学書院, 東京, 2002

骨・関節, 病理組織の見方と鑑別診断(赤木忠厚, 他編), 医歯薬出版, 東京, 2002

■学術論文

Periosteal chondroma and periosteal chondrosarcoma, American Journal of Surgical Pathology, 1985

Secretion of higher levels of active proteoglycanases from human osteoarthritic chondrocytes, Arthritis and Rheumatism, 1986

Morphological and cytogenetic studies of a human synovial sarcoma xenotransplanted into nude mice, Acta Pathologica Japonica, 1990

A case of alveolar rhabdomyosarcoma with a chromosomal translocation, t(2;3)(q37;q14), Virchow Archiv A [Pathol Anat], 1990

Osteosarcoma resembling osteoblastoma and its heterotransplantation into nude mice, Acta Pathologica Japonica, 1992

■学術賞

北國がん基金, 1996

Corrine Farrel Award (International Skeletal Society), 1997

■その他の業績

骨ユーイング肉腫の細胞病理学的研究と単クローン抗体作成による組織診断への応用

悪性軟部腫瘍の生物学的特性に関する基礎的研究

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 骨外性粘液型軟骨肉腫の変異遺伝子解析と病理診断への応用

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 骨外性粘液型軟骨肉腫の変異遺伝子解析と病理診断への応用

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 横紋筋肉腫の変異遺伝子解析と病理鑑別診断

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 横紋筋肉腫の変異遺伝子解析と病理鑑別診断

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 小円形細胞肉腫の発生、分化に関与する遺伝子の解析と病理鑑別診断への応用

■研究費採択状況(その他の助成金)

1999, 車両財団研究助成, 人体の骨軟部組織腫瘍に関する病理学的研究

1998, 車両財団研究助成, 人体の骨軟部組織腫瘍に関する病理学的研究

医学部／病態診断医学(臨床病理学)

湊 宏 教授

氏名(カナ・英文名)	ミナト ヒロシ MINATO Hiroshi	生年月	—
所 属	医学部／病態診断医学(臨床病理学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	hminato@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	人体病理学		

■職歴

石川県立中央病院病理科 医員(1994.04), 石川県立中央病院病理科 医長(1996.04), 金沢大学医学部附属病院病理部 助手(1997.04), 金沢大学医学部附属病院病理部 助教授(2003.08), 金沢大学医学部附属病院病理部 部長(2003.10)

■所属学会

日本病理学会, 日本臨床細胞学会, 日本臨床検査医学会, アメリカ・カナダ病理学会, 国際細胞学会

■研究課題

胸膜孤在性線維性腫瘍、悪性中皮腫の病理学的研究 (Pathological study of localized fibrous tumor of pleura and malignant mesothelima)

■研究の概要

肺・縦隔疾患の病理学的研究。とくに胸膜孤在性線維性腫瘍の臨床病理学的研究。各臨床病理学的因子と予後との関連の解析。悪性中皮腫の病理診断精度の向上。診断に有用な血中マーカーや特定の遺伝子異常を探索する。アスベストによる発癌機序の解明。

■著書

非上皮性腫瘍, 唾液腺腫瘍アトラス, 金原出版, 東京, 2005

上皮筋上皮癌, 唾液腺腫瘍アトラス, 金原出版, 東京, 2005

■学術論文

Blood cyst of the pulmonary valve in an adult: report of a case and review of the literature., Hum. Pathol., 28:252-5, 1997

Expression of blood group-related antigens in cholangiocarcinoma in relation to non-neoplastic bile ducts., Histopathology, 28:411-9, 1996

Cell kinetic and morphological studies of human cholangiocellular carcinoma., Acta Pathol Jpn, 43:111-20, 1993

Nodular regenerative hyperplasia of the liver associated with metastases of pancreatic endocrine tumour: report of two autopsy cases, Virchows Arch., 421:171-4, 1992

An autopsy case of metastatic foci of hepatocellular carcinoma in adenomatous hyperplasias of the liver., Acta Pathol Jpn, 41:911-5, 1991

医学部／病態診断医学(臨床病理学)

福永 壽晴 講師

氏名(カナ・英文名)	フクナガ トシハル FUKUNAGA Toshiharu	生年月	1949.04
所 属	医学部／病態診断医学(臨床病理学)	職 名	講師
最終学歴	近畿大学理工学部	学 位	—
電子メール	fukunaga@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	呼吸生理学, 臨床検査システム, 外部精度保証		

■職歴

1976-1988 金沢医科大学助手

■所属学会

日本臨床検査自動化学会, 日本臨床化学会, 日本臨床検査医学会, 日本呼吸器学会, 日本臨床生理学会

■研究課題

安静呼吸における呼気フロー・リミテーション検出法に関する研究 (Study of detection method for expiratory flow limitation during spontaneous breathing)

マン・マシン・インターフェースを重視した臨床検査システムの開発 (Development of a laboratory management system with well organized man-machine-interface.)

■著書

運動試験・他, 医学大辞典 (伊藤正男, 他編), 医学書院, 東京, 2003

■学術論文

圧型体プレチスモグラフによる panting 法での気道抵抗測定時における温・湿度補正法, 呼吸, 1983

圧型体プレチスモグラフによる安静呼吸時における気道抵抗の連続測定, 呼吸, 1983

マン・マシン・インターフェースを重視した自主開発検査システム第1報, 医学検査, 1992

マン・マシーン・インターフェースを重視した自主開発検査システム第2報, 医学検査, 1992

血液ガス測定装置の正確さの評価, 日本臨床検査自動化学会会誌, 1999

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 血液ガス分析値の標準化に関する研究

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 血液ガス分析値の標準化に関する研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

1984, 臨床病理学会臨床病理学研究助成, 体プレチスモグラフ法による箱外ガス安静呼吸の気道抵抗連続測定法の研究

医学部／病態診断医学(臨床病理学)

黒瀬 望 助教

氏名(カナ・英文名)	クロセ ノゾム KUROSE Nozomu	生年月	1973.03
所 属	医学部／病態診断医学(臨床病理学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医科学修士
電子メール	k-nozomu@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	人体病理学		

■職歴

金沢医科大学 助教(1999.04)

■所属学会

日本病理学会, 日本臨床細胞学会, 日本臨床検査医学会, 日本血液学会, 日本リウマチ学会

■研究課題

人体病理学, 細胞病理学

■学術論文

肺多形癌の2例, 日臨細胞会誌, 46(4):227-231, 2007

乳児筋線維腫の電顕的観察, 医電顕技術誌, 21(1):136-137, 2007

肉腫型悪性中皮腫の電顕的観察, 医電顕技術誌, 21(1):133-135, 2007

病理診断における電子顕微鏡学的検索の有用性, 金医大誌, 30:383-389, 2005

空腸漿膜から発生した限局性上皮型中皮腫の1例, 日臨細胞会誌, 44:230-234, 2005

医学部／病態診断医学(臨床病理学)

木下 英理子 助教

氏名(カナ・英文名)	キノシタ エリコ KINOSHITA Eriko	生年月	1975.02
所 属	医学部／病態診断医学(臨床病理学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	ekino@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	人体病理学		

■所属学会

日本病理学会

■研究課題

人体病理学 (Human Pathology)

■学術論文

低悪性度 astrocytoma より発生した gliosarcoma の 1 例, 病院病理, 2000

末梢神経と横紋筋の形態学的変化について, 診断病理

Microscopic findings of peripheral nerve and skeletal muscle in electrical injury, Japanese Journal of Diagnostic Pathology

病理診断における電子顕微鏡学的検索の有用性, 金医大誌, 30:383-389, 2005

空腸漿膜から発生した限局性上皮型中皮腫の1例, 日臨細胞会誌, 44:230-234, 2005

医学部／社会環境保健医学(衛生学)

石崎 昌夫 准教授

氏名(カナ・英文名)	イシザキ マサオ ISHIZAKI Masao	生年月	1956.11
所 属	医学部／社会環境保健医学(衛生学)	職 名	准教授
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	issai@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	産業衛生		

■所属学会

日本衛生学会, 日本公衆衛生学会, 日本産業衛生学会, 日本循環管理研究協議会, 日本外科学会

■研究課題

産業ストレス (job stress)

鉛暴露による健康影響 (The effects of lead exposure on cardiovascular system)

■研究の概要

疫学的アプローチを用いて、労働環境と労働者の健康影響(特に心理社会的要因の職業性ストレスと循環器疾患、職場健康への関連性)について検討し、その健康障害に対する予防を目的とする。

■学術論文

Psychosocial work characteristics and sickness absence in Japanese employees, Int. Arch. Occup. Environ. Health., 79:640-646, 2006

The influence of work characteristics on body mass index and waist to hip ratio in Japanese employees, Ind Health, 42:41-49, 2004

Socioeconomic status, workplace characteristics and plasma fibrinogen level of Japanese male employees, Scand. J. Work Environ. Health, 27: 287-291, 2001

The relationship between employment grade and plasma fibrinogen level among Japanese male employees, Atherosclerosis, 151:415-421, 2000

Decreases in Postural Change of Finger Blood Flow in Ceramic Painters Chronically Exposed to Low Level Lead, Am J Ind Med, 29:547-553, 1996

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 職業性ストレスと医療費・労働損失からみた経済的影響

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 職業性ストレスと医療費・労働損失からみた経済的影響

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 職業性ストレスがおよぼす循環器疾患危険因子と勤務状況についての検討

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 職業性ストレスがおよぼす循環器疾患危険因子と勤務状況についての検討

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 職業性ストレスがおよぼす循環器疾患危険因子と勤務状況についての検討

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

1995, 作業関連疾患総合対策研究, 労働の場におけるストレス及びその健康影響に関する研究

1991, 作業関連疾患総合対策研究, 労働態様別における心電図変化と心疾患発生率

1990, 作業関連疾患総合対策研究, 労働態様別における心電図変化と心疾患発生率

■研究費採択状況(その他の助成金)

1994, 難波照男記念健康づくり研究所研究助成金, 内蔵型肥満における循環器疾患危険因子多発の機序とその予防についての研究

1994, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, 啓発活動助成:金沢医科大学衛生学教室産業医グループ

医学部／社会環境保健医学(衛生学)

中田 実 講師

氏名(カナ・英文名)	ナカタ ミノリ NAKATA Minori	生年月	—
所 属	医学部／社会環境保健医学(衛生学)	職 名	講師
最終学歴	滋賀医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	m-nakata@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	産業衛生		

■職歴

佐久総合病院 研修医(1979.04), 滋賀医科大学予防医学講座 助手(1985.04), スウェーデン国立労働衛生研究所 客員研究員(1988.04), スウェーデン国立労働衛生研究所 正規研究員(1990.03), 淀川勤労者厚生協会社会医学研究所 所長(1993.04)

■所属学会

国際労働衛生学会, 日本産業衛生学会, 日本衛生学会, 日本公衆衛生学会, 日本農村医学会

■研究課題

職業性筋骨格系疾患、産業保健学, 労働医学

■研究の概要

筋骨格系障害の疫学的研究および臨床的研究

■学術論文

スウェーデンと日本における労働衛生の現況の比較—とりわけ労働災害統計システムと労働関連性筋骨格系障害をめぐって—, 社医研, 23:53-62, 2005

Solving tangled cases of work-related musculoskeletal disorders by international scientific cooperation, New solutions : a journal of environmental and occupational health policy : NS., 15:343-356, 2005

医学部／社会環境保健医学(衛生学)

登坂 由香 学内講師

氏名(カナ・英文名)	ノボリサカ ユカ NOBORISAKA Yuka	生年月	1967.07
所 属	医学部／社会環境保健医学(衛生学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	y-nobo@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	産業衛生		

■所属学会

日本産業衛生学会，日本衛生学会，日本公衆衛生学会，日本肥満学会，日本産業ストレス学会

■研究課題

ストレス関連健康障害の予防 (Prevention of stress-related health problems)

■学術論文

脂肪肝とインスリン抵抗性,高インスリン血症および心疾患危険因子との関係, 第 15 回肥満学会記録, 1994

The relationship between job status, gender and work related stress amongst middle-aged employees in a computer manufacturing company
, Journal of Occupational Health
, 1995

Serum γ -glutamyl transferase level and coronary risk factors in middle-aged male and female nondrinkers
, Obesity research
, 1995

ストレス関連健康障害予防のための SSCQ(Stress&Stress-Coping Questionnaire)の有用性についての研究, 金沢医科大学雑誌, 1996

Serum γ -glutamyl transferase levels and blood pressure falls after alcohol moderation
, Clin. Exp. Hypertens.
, 1997

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ゴム手袋使用作業者におけるアテックス特異 IgE 抗体保有率と身体所見との関連

1998, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 中年期就労女性のストレス・ストレス対処行動と更年期の不定愁訴との関連

1997, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 中年期就労女性のストレス・ストレス対処行動と更年期の不定愁訴との関連

医学部／健康増進予防医学(公衆衛生学)

中川 秀昭 教授

氏名(カナ・英文名)	ナカガワ ヒデアキ NAKAGAWA Hideaki	生年月	1948.10
所 属	医学部／健康増進予防医学(公衆衛生学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	hnakagaw@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	公衆衛生学・健康科学		

■所属学会

日本公衆衛生学会, 日本疫学会, 日本循環器疾患管理研究協議会(日本循環器予防学会), 日本産業衛生学会, 日本衛生学会

■研究課題

疫学, 循環器疾患管理, 脳卒中登録システム, 出稼ぎ者の健康障害に関する社会医学的研究, 健康管理学, 産業保健, 地域保健

■研究の概要

循環器疾患の危険因子の検討を地域住民、職域集団を対象に実施、特に高血圧と塩分、インスリン抵抗性、肥満、さらに職種や単身赴任などの社会的関連の検討、及びその対策を第3次予防を含めて検討する。

■著書

環境保全と公害、医事・薬事関係法規, 公衆衛生マニュアル2006(柳川 洋、中村好一編著), 南山堂, 東京, 2006

社会と健康、生活習慣の現状と対策、主要疾患の疫学と概念, 公衆衛生学(中川秀昭、城戸照彦編), 光生館, 東京, 2006

■学術論文

夜勤・交代勤務の耐糖能に及ぼす影響－血糖日内変動とインスリン感受性の検討－課題研究番号 16590520 研究代表者森河裕子, 平成 16 年～平成 17 年度科学研究補助金基盤研究(C)研究成果報告書, 1-20, 2006

G-protein β 3 subunit variant C825T is a risk factor for hypertension in Japanese females –a prospective cohort study over 5 years, Ann. Hum. Genet., 70:767-777, 2006

Walking 10,000 steps per day is effective to improve coronary risk factors among japaneses Middle-Aged Men, Jpn.J.Phys.Fitness Sports Med., 55(Suppl):S37-S42, 2006

Tissue cadmium (Cd) concentrations of people living in a Cd polluted area, Japan, Biometals, 19:521-525, 2006

小児肥満と成人肥満の関係は, 小児科, 38:1535-1538, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(B), タイ王国汚染地域におけるカドミウム暴露と動脈硬化に関する研究

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ダイオキシン暴露と出生児の成長に関する疫学的研究

2005, 科学研究費分担研究, ベトナムにおけるダイオキシン類の異性体比率に基づく環境汚染の探索に関する研究

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ダイオキシン暴露と出生児の成長に関する疫学的研究

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 血圧上昇に影響する栄養・食事要因に関する疫学共同研究

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, (独)環境再生保全機構研究事業(環境省委託事業費), 重金属等による健康影響に関する総合研究(カドミウム汚染地域住民の追跡調査報告(梯川流域))

2006, 厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業, 勤労者の健康づくりのための給食を活用した集団及びハイリスク者への対策に関する研究

2006, 厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業, 疾病予防サービスに係わるエビデンス構築のための大規模コホート共同研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

2006, (公)日本動脈硬化予防研究基金, 職業・生活習慣要因と長期循環器疾患発症に関する大規模職域コホート研究

2005, (公)日本動脈硬化予防研究基金, 職業・生活習慣要因と長期循環器疾患発症に関する大規模職域コホート研究

医学部／健康増進予防医学(公衆衛生学)

三浦 克之 准教授

氏名(カナ・英文名)	ミウラ カツユキ MIURA Katsuyuki	生年月	1963.08
所 属	医学部／健康増進予防医学(公衆衛生学)	職 名	准教授
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	miura@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	公衆衛生学・健康科学		

■所属学会

日本疫学会, 日本公衆衛生学会, 日本高血圧学会, 国際疫学会, 日本衛生学会

■研究課題

循環器疾患予防のための疫学的研究

栄養と血圧に関する4カ国国際共同研究 INTERMAP

■研究の概要

循環器疾患予防に関する疫学的研究を主要な研究テーマにしている。具体的には、1. 高血圧予防のための食生活・栄養要因に関する研究、2. 血圧低下のための健康教育手法に関する研究、3. 脳卒中・心筋梗塞の発症要因および予防に関する研究、4. 出生時および乳幼児期の各種要因と成人後の生活習慣病発症

■著書

高血圧の個別健康教育(個別健康教育・ヘルスアセスメントワーキンググループ編), 高血圧の個別健康教育(個別健康教育・ヘルスアセスメントワーキンググループ編), 保健同人社, 東京, 2000

前向き及び後ろ向きのコホート研究, しっかり学ぶ基礎からの疫学(William Oleckno 著、柳川洋、萱場一則監訳), 南山堂, 東京, 2004

■学術論文

Can dietary changes reduce blood pressure in the long term?, Curr. Opin. Nephrol. Hypertens., 14:253-257, 2005

Comparison of four blood pressure indexes for the prediction of 10-year stroke risk in middle-aged and older Asians, Hypertension, 44:715-720, 2004

Relation of vegetable, fruit, and meat intake to 7-year blood pressure change in middle-aged men. The Chicago Western Electric study, Am. J. Epidemiol., 159:572-580, 2004

Relationship of blood pressure to 25-year mortality due to coronary heart disease cardiovascular diseases, and all causes in young adult men, Arch. Intern. Med., 161: 1501-1508, 2001

Birth weight, childhood growth, and cardiovascular disease risk factors in Japanese aged 20 years, Am. J. Epidemiol., 153: 783-789, 2001

■学術賞

長寿科学振興財団若手研究者奨励賞, 2003

日本疫学会奨励賞, 2004

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(B), 各種循環器疾患危険因子の長期変化に関わる栄養学的要因

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 乳幼児期の社会的要因・生活環境と成人時循環器危険因子との関連に関する長期追跡研究

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 乳幼児期の社会的要因・生活環境と成人時循環器危険因子との関連に関する長期追跡研究

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), セレンの摂取量、血中濃度、尿中排泄量と血圧との関連に関する多地域疫学研究

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), セレンの摂取量、血中濃度、尿中排泄量と血圧との関連に関する多地域疫学研究

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, 厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研究推進事業, 若い女性の食生活はこれまで良いのか? 次世代の健康を考慮に入れた栄養学・予防医学的検討

2005, 厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研究推進事業, 若い女性の食生活はこれまで良いのか? 次世代の健康を考慮に入れた栄養学・予防医学的検討

2004, 厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研究推進事業, 若い女性の食生活はこれまで良いのか? 次世代の健康を考慮に入れた栄養学・予防医学的検討

■研究費採択状況(その他の助成金)

1996, (財)上原記念生命科学財団研究奨励金, 血漿インスリン値とその後の高脂血症、高尿酸血症発症との関連に関するコホート研究

1993, 明治生命厚生事業団研究助成金, 成人の健康管理における、各種慢性疾患発症予知の指標としての血漿インスリン値の利用可能性に関する研究

医学部／健康増進予防医学(公衆衛生学)

西条 旨子 准教授

氏名(カナ・英文名)	ニシジヨウ ムネコ NISHIJO Munekeo	生年月	—
所 属	医学部／健康増進予防医学(公衆衛生学)	職 名	准教授
最終学歴	富山医科薬科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	ni-koei@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	公衆衛生学・健康科学		

■所属学会

日本衛生学会

■研究課題

慢性カドミウム中毒の疫学, 循環器疾患の疫学, 健康保健学

■研究の概要

カドミウム(Cd)の健康影響について、イタイタイ病を出発点として、腎尿細管障害の臨床経過や死亡率に与える影響を、さらに近年は胎内発育や母乳への影響なども研究。また、これまでの経験を基にタイ王国のCd汚染地域住民の健康管理についても国際共同研究を行っている。ダイオキシン暴露と出生児の発育との関連については、疫学的な研究だけでなくラットを用いた実験的研究も行い、その毒性メカニズムについても研究している。

■著書

イタイタイ病, 公衆衛生学(眞野喜洋編), 文光堂, 東京, 2002

Environmental cadmium exposure and hypertension and cardiovascular risk, Metal Ions in Biology and Medicine(Jose A.Centeno,et al.), John Libbey Eurotext, Paris, 2000

■学術論文

Causes of death and renal tubular dysfunction in residents exposed to cadmium in the environment, Occup Environ Med, 63:545-550, 2006

Urinary cadmium and mortality among inhabitants of a cadmium-polluted area in Japan, Environ Res, 100:323-329, 2006

Effects of cadmium exposure during pregnancy on trace elements in fetal rat liver and kidney, Toxicol. Lett., 156:369-376, 2005

Relationship between newborn size and mother's blood cadmium levels Toyama Tapan, Arch. Environ. Health, 59:22-25, 2004

夜勤・交代勤務の耐糖能に及ぼす影響—血糖日内変動とインスリン感受性の検討—課題研究番号 16590520 研究代表者森河裕子, 平成16年～平成17年度 科学研究補助金基盤研究(C)研究成果報告書, 1-20, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ダイオキシン胎内暴露の脳神経発達に及ぼす影響—大脳辺縁系を中心に—

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ダイオキシンが胎児中枢神経系発達に及ぼす影響に関する実験的研究

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ダイオキシンが胎児中枢神経系発達に及ぼす影響に関する実験的研究

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 日本人における塩と血圧との関連に対する微量アルブミン尿の影響

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 日本人における塩と血圧との関連に対する微量アルブミン尿の影響

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

1995, 環境省委託事業費, イタイタイ病およびカドミウム中毒に関する総合的研究

医学部／法医学

北村 修 教授

氏名(カナ・英文名)	キタムラ オサム KITAMURA Osamu	生年月	1963.07
所 属	医学部／法医学	職 名	教授
最終学歴	長崎大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	northv@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	法医学		

■職歴

徳島大学医学部 講師(2000.07), 徳島大学医学部 助手(1999.04), 東京慈恵会医科大学 助手(1994.08)

■所属学会

日本法医学会

■研究課題

法医病理学、薬物依存

■研究の概要

法医病理学、薬物依存

■学術論文

Immunohistochemical investigation of dopaminergic terminal markers and caspase-3 activation in the striatum of human methamphetamine users., International Journal of Legal medicine, 121,163-168, 2007

Escalation of methamphetamine self-administration in rats: a dose-effect function., Psychopharmacology, 186, 43-53, 2006

Conditioned withdrawal drives heroin consumption and decreases reward sensitivity., Journal of Neuroscience, 26, 5894-5900, 2006

医学部／医学教育学【旧 医学教育・情報学】

安田 幸雄 教授

氏名(カナ・英文名)	ヤスダ ユキオ YASUDA Yukio	生年月	1947.09
所 属	医学部／医学教育学【旧 医学教育・情報学】	職 名	教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	yyasud@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	医学教育学, Medical Education		

■職歴

1975-1984 金沢医科大学 助手, 1984-1989 金沢医科大学 講師, 1989-1998 金沢医科大学 助教授, 1998-2006 金沢医科大学 教授 (1998.04), 1975-1984 Kanazawa Medical University, Research Assistant

■所属学会

日本医学教育学会, 日本救急医学会, 国際熱傷学会(International Society for Burn Injuries), 日本臨床救急医学会, 日本形成外科学会

■研究課題

医学教育カリキュラムの開発 (Curriculum planning in medical education)

■研究の概要

医学部における臨床推論や臨床決断の能力を向上させるカリキュラムの開発

■著書

電撃傷, 救急医療カラーアトラス (龍村俊樹編), 医薬ジャーナル社, 大阪, 2001

■学術論文

医学教育評価における客観試験の特徴, 金医大誌, 30:408-412, 2005

Definitions and goals of "self-directed learning" in contemporary medical education literature, Ann. Acad. Med. Singap., 34:515-519, 2005

救急外来における患者データベース作成の試み, 北陸救急医療, 2: 14-15, 2002

シミュレータを用いた医学部 5 学年生の蘇生実習, 北陸救急医療, 1: 31-32, 2001

アナフィラキシーショックの経過中に無症候性冠攣縮を認めた一例, 北陸救急医療, 1: 23-25, 2001

医学部／医学教育学【旧 医学教育・情報学】

相野田 紀子 准教授

氏名(カナ・英文名)	アイノダ ノリコ AINODA Noriko	生年月	—
所 属	医学部／医学教育学【旧 医学教育・情報学】	職 名	准教授
最終学歴	津田塾大学学芸学部	学 位	医学博士
電子メール	nainoda@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	医学教育		

■職歴

金沢医科大学医学部医学教育学室 助教授(2000.04), 国際医療福祉大学大学院 教授(1999.04), 国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センター センター長補佐(1999.04), 国際医療福祉大学保健学部 教授(1996.04), 金沢医科大学医学部耳鼻咽喉科学教室 助手・講師(1974.05)

■所属学会

日本口蓋裂学会, 日本医学教育学会

■研究課題

医療行動科学 (medical behavioral sciences)

問題基盤型学習 (problem-based learning)

■研究の概要

医学・医療の分野で重視されている生涯学習では, 自分で自分の学習過程を振り返ることが必須であり, これはメタ認知と呼ばれている認知機能と深く関連する。このメタ認知機能が卒前医学教育の場でどのように修得されるのかを研究テーマとして, まずは問題基盤型学習における学生の振り返りコメントをカテゴリー分析した。その結果, PBL では自分の理解に関するメタ認知機能が育成される可能性があることが判った。

■著書

口蓋裂の言語臨床における今後の課題, 口蓋裂の言語臨床(岡崎恵子, 加藤正子), 医学書院, 東京, 2005

構音障害, 今日の耳鼻咽喉科頭頸部外科治療指針 第2版(森山 寛, 他編), 医学書院, 東京, 2003

■学術論文

A review of japanese articles on perceptual assessment of speech sounds in individuals with cleft palate, 音声言語医, 47:252-257, 2006

医学教育評価における客観試験の特徴, 金医大誌, 30:408-412, 2005

Definitions and goals of "self-directed learning" in contemporary medical education literature, Ann. Acad. Med. Singap., 34:515-519, 2005

口蓋裂言語の評価に関する一考察:国際的流れの中で, 日口蓋裂会誌, 28: 277-279, 2003

従来型カリキュラムのPBL チュートリアル導入が臨床実習にもたらした効果, 医教育, 34: 403-412, 2003

■その他の業績

日本医学教育学会国際関係委員会インターナショナルセッション担当主任

訳書「PBL: 世界の大学での小グループ問題基盤型カリキュラム導入の経験に学ぶ」(監訳協力)

■研究費採択状況(その他の助成金)

2003, (財)聖ルカ・ライフサイエンス研究所研究助成金, 難病患者との医療コミュニケーション教育カリキュラム開発

医学部／医学教育学【旧 医学教育・情報学】

堀 有行 准教授

氏名(カナ・英文名)	ホリ アリユキ HORI Ariyuki	生年月	1958.03
所 属	医学部／医学教育学【旧 医学教育・情報学】	職 名	准教授
最終学歴	富山医科薬科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	hori-a@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	神経生理学, 双生児研究, 睡眠研究, Neuro physiology, Sleep study		

■所属学会

日本神経学会, 日本脳波筋電図学会, 日本睡眠学会, 日本てんかん学会, 日本精神神経学会

■研究課題

経頭蓋磁気刺激 (Transcranial evoked potentials)

双生児を用いた睡眠研究 (Sleep study in twins)

■研究の概要

- 1) 医学教育に関する研究
- 2) 睡眠医療に関する研究
- 3) 臨床神経生理に関する研究

■著書

PSG 所見の評価と報告書作成, 臨床睡眠検査マニュアル, ライフ・サイエンス, 東京, 2006

脳血管障害、睡眠の定義と睡眠段階の判定、薬物治療、一般臨床と神経内科領域、睡眠の指標(睡眠変数)、睡眠呼吸障害診療のポイント, メジカルビュー社, 東京, 2006

■学術論文

An inherited disorder characterized by repeated episodes of bilateral ballism: a case report, Mov. Disord., 22:2110-2131, 2007

卒前教育における自律神経と睡眠－専門領域の教育－, 自律神経, 43:212-217, 2006

医学教育評価における客観試験の特徴, 金医大誌, 30:408-412, 2005

神経疾患の睡眠の問題と対応策, 臨看, 31:1789-1794, 2005

診療参加型臨床実習における医学生の電子カルテ閲覧等の運用ガイドライン(案), 医教育, 36:329-334, 2005

■その他の業績

慢性神経疾患の在宅治療

医学部の臨床実習における電子カルテの運用ガイドラインの作成

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(B), 医学教育における情報ネットワークを利用した学外臨床教育支援システムの開発

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ラット扁桃核キントリングてんかんモデルにおける小脳と淡蒼球の痙攣抑制機構の研究

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ラット扁桃核キントリングてんかんモデルにおける小脳と淡蒼球の痙攣抑制機構の研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

1998, (財)てんかん治療研究振興財団研究助成, キントリングてんかんモデルにおける小脳電気刺激のてんかん閾値およびてんかん症状に及ぼす影響

医学部／医学教育学【旧 医学教育・情報学】

黒田 尚宏 助教

氏名(カナ・英文名)	クロダ ナオヒロ KURODA Naohiro	生年月	—
所 属	医学部／医学教育学【旧 医学教育・情報学】	職 名	助教
最終学歴	横浜市立大学商学部	学 位	—
電子メール	kuroda@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	医療社会学		

■職歴

(株)富士通北陸システムズ(1991.04)

■所属学会

教育システム情報学会, 日本医学教育学会, 日本医療情報学会

■研究課題

医療情報学(電子カルテ・診療情報システム全般), 医学教育(情報関連)

■研究の概要

- 1) 医学教育に関する研究
- 2) 教育における情報システムに関する研究
- 3) 電子カルテシステムに関する研究

■学術論文

医学教育評価における客観試験の特徴, 金医大誌, 30:408-412, 2005

診療参加型臨床実習における医学生の電子カルテ閲覧等の運用ガイドライン(案), 医教育, 36:329-334, 2005

電子カルテ情報ネットワークシステムを用いた病診連携, 医療情報学, 24:11-14, 2004

臨床実習における教育用電子カルテシステムの有用性, 医教育, 34: 399-402, 2003

Computer-aided learning in PBL (CAPBL) : a role of electronic medical recording system, Medinfo 2001, 1083, 2001

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 若手研究(B), 携帯電話システムの医学教育への応用

医学部／循環制御学(循環器内科学)

梶波 康二 教授

氏名(カナ・英文名)	カジナミ コウジ KAJINAMI Kouji	生年月	—
所 属	医学部／循環制御学(循環器内科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	kajinami@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	循環器内科学, 代謝学(動脈硬化学), 人類遺伝学		

■職歴

1994-1999 金沢大学 助手, 1999 金沢大学 講師, 1999-2001 金沢医科大学 講師, 2001- 金沢医科大学 助教授, 1994-1999 Assistant Professor, Kanazawa University

■所属学会

日本内科学会, 日本循環器学会, 日本動脈硬化学会, 日本生化学会, American Heart Association

■研究課題

高脂血症と冠動脈硬化症との関係に関する研究 (Study on the relationship between hyperlipidemia and coronary atherosclerosis)

■著書

個別化医療とファーマコゲノミクス, 心臓, (株)協和企画, 東京, 2006

4. 動脈硬化, 薬剤師・薬学生のための臨床医学 なぜこう処方するのか病態をふまえた薬物治療の strategy を理解する(矢崎義雄、乾賢一), 文光堂, 東京, 2005

■学術論文

Schnyder's corneal dystrophy を伴った家族性高コレステロール血症の 1 例, 日内会誌, 1988

日本人の家族性高コレステロール血症における LDL レセプター遺伝子異常, 動脈硬化, 1989

LDL レセプターとそのリガンド, 動脈硬化, 2000

New variant of low density lipoprotein receptor gene. FH-Tonami, Arteriosclerosis, 1988

Novel gene mutations at the low density lipoprotein receptor locus. FH-Kanazawa and FH-Okayama, J. Intern. Med., 1990

■学術賞

日本内科学会奨励賞, 1991

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 冠危険因子としての女性ホルモン・ホルモン受容体系異常

■研究費採択状況(その他の助成金)

2003, (公)日本動脈硬化予防研究基金, 高ホモシステイン血症への非薬物学的介入による冠動脈硬化症の二次予防

2002, (公)日本動脈硬化予防研究基金, 高ホモシステイン血症への非薬物学的介入による冠動脈硬化症の二次予防

医学部／循環制御学(循環器内科学)

津川 博一 准教授

氏名(カナ・英文名)	ツガワ ヒロイチ TSUGAWA Hiroichi	生年月	1953.08
所 属	医学部／循環制御学(循環器内科学)	職 名	准教授
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	hiroichi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	循環器内科学		

■所属学会

日本内科学会, 日本心電学会, 日本老年病学会, 日本不整脈学会, 日本臨床生理学会

■研究課題

加算平均心電図 (Signal averaged electrocardiogram)

心房細動 (atrial fibrillation)

■著書

NYHA 心機能分類, キリップ[心不全]分類, 高心拍出量状態, ベルンハイム症候群, 医学大辞典 (伊藤正男, 他編), 医学書院, 東京, 2003

3. 治療学 3-3 救急治療 1) 心停止, 内科学 第8版 (杉本恒明, 他編), 朝倉書店, 東京, 2003

■学術論文

心電図における対側性 ST 低下に関する臨床的研究(第1報), 金沢医科大学雑誌, 1987

心電図における対側性 ST 低下に関する臨床的研究(第2報), 金沢医科大学雑誌, 1987

心電図 -正しい理解のために-, 薬局, 1991

心筋梗塞における年齢および性別から見た冠危険因子の検討, 動脈硬化, 1981

負荷心電図の読み方, 総合臨牀, 1992

医学部／循環制御学(循環器内科学)

浅地 孝能 准教授

氏名(カナ・英文名)	アサジ タカヨシ ASAJI Takayoshi	生年月	—
所 属	医学部／循環制御学(循環器内科学)	職 名	准教授
最終学歴	防衛医科大学校医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	t-asaji@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	循環器内科学		

■所属学会

日本循環器病学会, 日本心臓病学会, アメリカ心臓病学会, 日本臨床生理学会, 日本心血管内分泌代謝学会

■研究課題

ヒト心臓・血小板におけるCキナーゼの基質蛋白質の役割 (Roles of the substrates for protein kinase C in human heart and platelet)

心不全における脳性ナトリウム利尿ペプチド合成の刺激因子の検討 (The study of stimulant factors brain natriuretic peptide synthesis in heart failure)

■著書

一酸化窒素合成酵素, ウアバイン様ナトリウム利尿因子, 後負荷不適合, 難治[性]心不全, 腕舌時間, 腕肺時間, 医学大辞典 (伊藤正男, 他編), 医学書院, 東京, 2003

■学術論文

ミオシン軽鎖の経時測定による心筋梗塞治癒過程の評価: 早期再灌流の影響, 日本心臓病学会誌, 1991

Cキナーゼの基質蛋白質の役割, 1988

ヒト心筋のCキナーゼとその内因性基質蛋白質, 1987

血小板機能における心房性利尿ペプチドの影響, 1987

BNPと狭心症, 心筋梗塞, 心筋梗塞: 慢性期, BNP(脳性ナトリウム利尿ペプチド)と日常臨床 南江堂, 1999

■その他の業績

Cキナーゼの基質蛋白質の役割

Role of the substrates for protein kinase C

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1990, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 細胞膜GTP結合蛋白質に対する細胞内Cキナーゼリン酸化蛋白質の役割

1988, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 心房性ナトリウム利尿ホルモンの分泌機序における心筋リン酸化蛋白質の研究

1986, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 心疾患の診断・治療に於ける抗 α -アクチニンモノクローナル抗体の研究

医学部／循環制御学(循環器内科学)

北山 道彦 准教授

氏名(カナ・英文名)	キタヤマ ミチヒコ KITAYAMA Michihiko	生年月	—
所 属	医学部／循環制御学(循環器内科学)	職 名	准教授
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	m-kitaya@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	循環器内科学		

■所属学会

日本心血管インターベンション学会，日本内科学会，日本循環器学会，日本冠疾患学会，日本老年学会

■研究課題

冠動脈直達療法 (Coronary Inter vention)

■著書

Guard Wire Plus の Pitfall 実例，PCIのコツと落とし穴(一色高明)，中山書店，東京，2005

■学術論文

2.臨床検査 8.心臓カテーテル検査，循環器診療マニュアル，1994

高齢者(75 歳以上)不安定型狭心症に対する PTCA の有効性について，老化と疾患，1992

屈曲を伴った再狭窄病変に対して DCA が有用であった一例，北陸 PTCA 研究会論文集 1989-1994，1995

左主幹部を含む前下行枝と回旋入口部に対して Kissing Stents を施行した不安定型狭心症の 1 例，日本心血管インターベンション学会誌

虚血性心疾患と α . β 遮断薬及び β 遮断薬 1.狭心症，Pharma Medica，1987

医学部／循環制御学(循環器内科学)

河合 康幸 講師

氏名(カナ・英文名)	カワイ ヤスユキ KAWAI Yasuyuki	生年月	—
所 属	医学部／循環制御学(循環器内科学)	職 名	講師
最終学歴	福井医科大学大学院医学系研究科	学 位	医学博士
電子メール	kawai@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	循環器内科学		

■職歴

福井医科大学 第三内科 助手(2000.04), 金沢医科大学 循環制御学 講師(2007.04)

■所属学会

日本循環器学会, 日本内科学会, 日本心血管インターベンション学会, American Heart Association

■研究課題

デオキシリボ核酸分解酵素 1 の臨床応用 (Clinical use of deoxyribonuclease I)

アルドステロンと塩の動脈硬化促進作用に関する研究 (Study on pro-atherosclerotic effects of aldosterone and salt)

■研究の概要

1. デオキシリボ核酸分解酵素 1 の臨床応用
2. アルドステロンと塩の動脈硬化促進作用に関する研究

■学術論文

Serum deoxyribonuclease I activity can be used as a novel marker of transient myocardial ischaemia: results in vasospastic angina pectoris induced by provocation test, Eur Heart J, 28:2992-2997, 2007

Hypoxia induces up-regulation of the deoxyribonucleases I gene in the human pancreatic cancer cell line QGP-1, Biochemica et Biophysica Acta, 1770:1567-1575, 2007

Evaluation of respiratory chain failure in mitochondrial cardiomyopathy by assessment of (99m)Tc-MIBI washout and (123)I-BMIPP/(99m)Tc-MIBI mismatch, Mitochondrion, 7:164-170, 2007

Association of Gln222Arg polymorphism in the deoxyribonuclease I (DNaseI) gene with myocardial infarction in the Japanese patients, Eur Heart J., 27:2081-2087, 2006

Tissue gene expression of rennin-angiotensin system in human type 2 diabetic nephropathy, Diabetes Care., 29:848-852, 2006

医学部／循環制御学(循環器内科学)

上西 博章 学内講師

氏名(カナ・英文名)	ウエニシ ヒロアキ UENISHI Hiroaki	生年月	1966.10
所 属	医学部／循環制御学(循環器内科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	h-uenisi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	循環器内科学		

■研究課題

虚血性心疾患, 再灌流性不整脈

■学術論文

循環器疾患におけるファーマコゲノミクス, 金医大誌, 30:370-373, 2005

一過性に広範な左室壁運動異常を呈した急性左心不全の一例, 内科医会誌, 17:408-412, 2005

透析患者の高度石灰化病変に対して Rotablator が有効であった 1 例 一冠動脈病変と末梢血管病変一, 金沢冠血管談話会記録集, 22:73-76, 2005

左前下行枝に対するステント挿入後の後拡張にて対角枝に冠解離を生じた 1 例, 北陸 PTCA 研究会論文集, 41-44, 2005

当院での冠動脈形成術施行における亜急性冠閉塞(SAT)発生の現状, 金沢冠血管談話会記録集, 22:27-31, 2005

医学部／循環制御学(循環器内科学)

赤尾 浩慶 助教

氏名(カナ・英文名)	アカオ ヒロノブ AKAO Hironobu	生年月	1969.07
所 属	医学部／循環制御学(循環器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院	学 位	医学博士
電子メール	h-akao@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	循環器内科学		

■研究課題

虚血性心疾患, 動脈硬化症

■学術論文

循環器疾患における pharmacogenomics, 循環器科, 60:265-269, 2006

循環器疾患におけるファーマコゲノミクス, 金医大誌, 30:370-373, 2005

Pharmacogenomics of statin responsiveness, Am. J. Cardiol., 96(Suppl.):65K-70K, 2005

一過性に広範な左室壁運動異常を呈した急性左心不全の一例, 内科医会誌, 17:408-412, 2005

透析患者の高度石灰化病変に対して Rotablator が有効であった 1 例 一冠動脈病変と末梢血管病変一, 金沢冠血管談話会記録集, 22:73-76, 2005

医学部／循環制御学(循環器内科学)

竹田 健史 助教

氏名(カナ・英文名)	タケダ ケンジ TAKEDA Kenji	生年月	—
所 属	医学部／循環制御学(循環器内科学)	職 名	助教
最終学歴	北海道大学大学院理学系研究科	学 位	博士(理学)
電子メール	ktakeda@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	分子生物学		

■所属学会

日本分子生物学会, 日本循環器学会

■研究課題

心血管系疾患に関する研究 (Study on cardiovascular disease)

■研究の概要

Gene 33 (別名 RALT)は、酸化ストレスや血管作動性ペプチドなど様々な刺激によって、細胞内で誘導される負のフィードバック制御因子と考えられている。心血管系障害におけるこの遺伝子の役割を解明するために、主としてラット初代培養心筋細胞や H9c2 細胞を用いて、(1)Gene 33 下流のターゲット分子の同定 (2)Gene33 の発現調節機構の解明を行っており、心疾患の新しい治療法の確立を目指している。

■学術論文

循環器疾患におけるファーマコゲノミクス, 金医大誌, 30:370-373, 2005

Statin response and pharmacokinetics variants, Expert Opin. Pharmacother., 6:1291-1297, 2005

冠危険因子としての女性ホルモン・ホルモン受容体系異常(課題番号 13670754), 平成 13 年～平成 15 年度科学研究費補助金 (基盤研究(C)2), 2004

Leptin deficiency enhances myocardial necrosis and lethality in a murine model of viral myocarditis, Life Sci., 75:1435-1447, 2004

Ischemic preconditioning and morphine attenuate myocardial apoptosis and infarction after ischemia-reperfusion in rabbits: role of δ -opioid receptor, Am. J. Physiol. Heart Circ. Physiol., 287: H1786-H1791, 2004

■学術賞

金沢医科大学医学会「論文表彰」, Transient glucose deprivation causes upregulation of heme oxygenase-1 and cyclooxygenase-2 expression in cardiac fibroblasts. J. Mol. Cell. Cardion., 36:821-830, 2004.2005.07

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 冠危険因子としての女性ホルモン・ホルモン受容体系異常

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 冠危険因子としての女性ホルモン・ホルモン受容体系異常

■研究費採択状況(その他の助成金)

2003, 学術研究振興資金, レプチン・シグナル制御による心臓血管治療

2002, 学術研究振興資金, レプチン・シグナル制御による心臓血管治療

医学部／循環制御学(循環器内科学)

藤岡 央 助教

氏名(カナ・英文名)	フジオカ ナカバ FUJIOKA Nakaba	生年月	—
所 属	医学部／循環制御学(循環器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢大学大学院	学 位	医学博士
電子メール	naba-1@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■所属学会

日本循環器学会, 日本不整脈学会, 日本心電学会, 日本消化器内視鏡学会, 日本消化器病学会

■研究の概要

不整脈のアブレーション治療
炎症とサイトカイン
消化器癌と内視鏡

■著書

Chapter 21, Novel Insights into Molecular Mechanism of Endotoxin Shock, Cytokines, Cholera and the Gut (Gerald T. Keusch and Masanobu Kawakami), IOS Press, THE UNITED STATES OF AMERICA, 1997

■学術論文

Chronotropic Effect of the Anti-thrombotic Agent Cilostazol in a Patient with Sick Sinus Syndrome with Syncope, The Journal of International Medical Research, 32:549-551, 2004

Differential activation of protein kinase C between ischemic and pharmacological preconditioning in the rabbit heart, Jpn. J. Physiol., 53(3):173-80, 2003

Ischemic preconditioning のメカニズムにおける tryosine phosphorylation の役割, 心電図, 20:89-95, 2000

【消化管悪性リンパ腫 1998】 胃 MALT リンパ腫と診断され経過中に急性増悪した悪性リンパ腫, 胃と腸, 33 巻 3 号 Page508-509, 1998

Novel insight into molecular mechanism of endotoxin shock: biochemical analysis of LPS receptor signaling in a cell-free system targeting NF-kappaB and regulation of cytokine production/action through beta2 integrin in vivo, Journal of Leukocyte Biology, 59, Issue 2 145-151, 1996

医学部／循環制御学(循環器内科学)

佐竹 主道 助教

氏名(カナ・英文名)	サタケ オサミチ SATAKE Osamichi	生年月	1968.10
所 属	医学部／循環制御学(循環器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院	学 位	医学博士
電子メール	o-satake@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■所属学会

日本心臓病学会, 日本心臓核医学学会, 日本循環器学会, 日本内科学会

■研究課題

虚血性心疾患, 画像診断

■学術論文

Myocardial glucose metabolism assessed by positron emission tomography and the histopathologic findings of microvessels in syndrome X, Circ. J., 68 :220-226, 2004

Unstable angina with flow-fatty acid metabolism mismatch and reverse flow-glucose metabolism mismatch patterns, Ann Nucl Med, 17: 699-702, 2003

Microvascular Angina に対する Nicorandil の効果について: Nicorandil 投与前後での Endothelial Nitric Oxide Synthase(eNOS)発現を中心として, Therapeutic Research, 21:67-76, 2000

Microvascular angina に対する nicorandil の効果について — nicorandil 投与前後での endothelial nitric oxide synthase(eNOS)発現を中心として —, Ther. Res., 21:842, 2000

■研究費採択状況(その他の助成金)

1998, (財)福田記念医療技術振興財団研究助成金, Syndrome X における病理組織像及び 201Tl-SPECT, 18FDG-PET からみた特徴

医学部／循環制御学(循環器内科学)

佐藤 良子 助教

氏名(カナ・英文名)	サトウ リョウコ SATO Ryoko	生年月	—
所 属	医学部／循環制御学(循環器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院	学 位	医学博士
電子メール	ryoryo@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

医学部／循環制御学(循環器内科学)

粕野 健一 助教

氏名(カナ・英文名)	カセノ ケンイチ KASENO Kenichi	生年月	—
所 属	医学部／循環制御学(循環器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院	学 位	医学博士
電子メール	m94-0237@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	循環器内科学		

■研究課題

不整脈

■研究の概要

主としてカテーテルアブレーション、ペースメーカー、ICD、心臓再同期療法を行うが、いずれも、今後更に発展する可能性が十分にあり、非常に関心が高い分野である。日々の臨床からのデータを生かし、不整脈の機序、病態の解明と、より良い治療法を追求している。

■学術論文

Efficacy and safety of the additional bepridil treatment in patients with atrial fibrillation refractory to class I antiarrhythmic drugs., Circ. J., 71:1250-1257, 2007

Role of a novel conduction pattern around the coronary sinus in cavotricuspid isthmus dependent right atrial flutter., J Cardiol, 50:1-10, 2007

Non-Contact Three-Dimensional Mapping and Ablation of Swallowing-Induced Atrial Tachyarrhythmias: Two Case Reports., J Cardiovasc Electrophysiol, Epub ahead of print, 2007

Idiopathic ventricular arrhythmias originating from the tricuspid annulus: Prevalence, electrocardiographic characteristics, and results of radiofrequency catheter ablation., Heart Rhythm, 4:7-16, 2007

Ablation of idiopathic ventricular tachycardia in two separate regions of the outflow tract: Prevalence and electrocardiographic characteristics, Pacing Clin Electrophysiol, 30:S1-S6, 2007

医学部／循環制御学(循環器内科学)

野村 祐介 助教

氏名(カナ・英文名)	ノムラ ユウスケ NOMURA Yusuke	生年月	—
所 属	医学部／循環制御学(循環器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■学術論文

Quantitation of cardiac sympathetic innervation in rabbits using 11C-hydroxyephedrine PET:relation to 123I-MIBG uptke, Eur. J. Nucl. Med. Mol. Imaging, 33:871-878, 2006

■研究費採択状況(その他の助成金)

2006, (財)福田記念医療技術振興財団研究助成金, 循環器疾患におけるリアルタイム三次元心臓超音波及び組織ドップラー心臓超音波による病態の解析:PET(Positron Emission Tomography)

医学部／循環制御学(循環器内科学)

本山 敦士 助教

氏名(カナ・英文名)	モトヤマ アツシ MOTOYAMA Atsushi	生年月	—
所 属	医学部／循環制御学(循環器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■学術論文

心筋梗塞を発症した家族性複合型高脂血症の 48 歳男性例, 治療学, 41:979-981, 2007

脂質異常症, 動脈硬化予防, 6:95-97, 2007

冠動脈疾患における血漿ホモステイン及び B 群ビタミン, 葉酸に関する臨床的検討, 金医大誌, 31:23-29, 2006

循環器疾患における pharmacogenomics, 循環器科, 60:265-269, 2006

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)

梶 博久 教授

氏名(カナ・英文名)	トガ ヒロヒサ TOGA Hirohisa	生年月	1952.07
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	toga-h@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	呼吸器内科学		

■職歴

1979-1989 金沢医科大学助手 , 1989-1994 金沢医科大学講師 , 1994-2004 金沢医科大学助教授 , 2004-現在 金沢医科大学教授

■所属学会

日本呼吸器学会, アメリカ胸部学会, 日本内科学会, 日本呼吸器内視鏡学会, 日本結核病学会

■研究課題

急性肺傷害に関する研究 (Study on Acute Lung Injury)

■研究の概要

急性肺傷害の病態と治療

■著書

呼吸機能検査ガイドライン II, 呼吸機能検査ガイドライン II (日本呼吸器学会肺生理専門委員会), メディカルビュー, 東京, 2006

酸素療法ガイドライン, 酸素療法ガイドライン (日本呼吸器学会肺生理専門委員会), メディカルビュー, 東京, 2006

■学術論文

A new nasal acoustic reflection technique to estimate pharyngeal cross-sectional area during sleep., J Appl Physiol, 2000

Lung deflation impairs alveolar epithelial fluid transport in ischemic rabbit and rat lungs., Transplantation, 2000

Inducible nitric oxide synthase expression and nuclear factor kappa B activation in alveolar type II cells in lung injury., Exp Lung Res, 2001

Denopamine, a beta 1-adrenergic agonist, increases alveolar fluid clearance in ex vivo rat and guinea pig lungs., J Appl Physiol, 2001

Beta 1-adrenergic agonist is a potential stimulator of alveolar fluid clearance in hyperoxic rat lungs., Jpn J Pharmacol, 2001

■学術賞

Research Grant of American Lung Association, 1991

■共同研究希望(研究シーズ)

急性肺傷害の治療、睡眠時無呼吸症候群の治療

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 細胞伸展に伴う肺胞上皮損傷と活性窒素酸化物の役割

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 細胞伸展に伴う肺胞上皮損傷と活性窒素酸化物の役割

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 力学的ストレス下における肺胞上皮細胞損傷と CXC ケモカインの役割

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 力学的ストレス下における肺胞上皮細胞損傷と CXC ケモカインの役割

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), Tリンパ球のアポトーシス誘導を介する肺胞上皮細胞の肺防御機構

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)

長内 和弘 准教授

氏名(カナ・英文名)	オサナイ カズヒロ OSANAI Kazuhiro	生年月	—
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	職 名	准教授
最終学歴	山形大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	k-osanai@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	呼吸器内科学, 分子生物学		

■職歴

山形大学医学部第1内科 医員(1982.05), 山形大学医学部第1内科 助手(1989.11), コロラド大学医学部・National Jewish Center 研究所 研究員(1991.05), 金沢医科大学呼吸器内科 講師(1995.07), 金沢医科大学呼吸器内科 助教授(2005.04)

■所属学会

American Thoracic Society, 日本呼吸器学会, 日本肺癌学会, 日本内科学会, 日本感染症学会

■研究課題

間質性肺炎の診断・治療 (Diagnosis and Therapy in Interstitial Pneumonia)

肺胞上皮細胞の増殖・分化に関わる細胞シグナル伝達の解明 (Signal transduction in proliferation and differentiation of alveolar epithelial cells)

■研究の概要

間質性肺疾患および肺気腫の病態発生における肺胞Ⅱ型上皮細胞の役割、特に同細胞における肺サーファクタント分泌機能について

■著書

Case 78, case 90, 呼吸器疾患ケーススタディ (泉 孝英 編), 南江堂, 東京, 2003

8章一般処置・対処法, 新・図解日常診療手技ガイド一縮刷版一 (和田 攻, 大久保昭行, 矢崎義雄, 大内尉義 編), 文光堂, 東京, 2003

■学術論文

[JG0002]型肺胞上皮細胞に発現されている新低分子量 G 蛋白質のクローニング, 国際科学振興財団 RMCB 研究会抄録集, 1996

気管支喘息治療薬の使い分け-テオフィリン製剤, 臨床と薬物療法, 1996

呼吸器疾患-states of arts-各種細胞の機能と代謝 マクロファージ, 医学のあゆみ(別冊), 1991

喫煙と肺機能, 呼吸と循環, 1990

特集-気管支喘息治療薬の使い分け-テオフィリン製剤, 臨床と薬物療法, 1996

■共同研究希望(研究シーズ)

低分子量 G タンパク質(Rab)

肺胞上皮細胞

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 末梢気道上皮に特異的発現を示す Rab38G タンパク質の間質性肺疾患への関与の解明

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 末梢気道上皮に特異的発現を示す Rab38G タンパク質の間質性肺疾患への関与の解明

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 末梢気道上皮に特異的発現を示す Rab38G タンパク質の間質性肺疾患への関与の解明

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 末梢気道上皮に特異的発現を示す Rab38G タンパク質の間質性肺疾患への関与の解明

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 肺胞Ⅱ型上皮細胞での肺サーファクタントの合成・輸送・分泌に関わるシグナル伝達機構

■研究費採択状況(その他の助成金)

2003, RMCB 研究会助成金, 肺における Rab38 低分子量 G タンパク質の発現と局在

2003, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, Rab 低分子量 G タンパク質による細胞内小胞輸送機構を標的にした癌細胞への新たな分子標的治療戦略の構築

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)

黄 正寿 講師

氏名(カナ・英文名)	ファン ジョンス HUANG Jyongsu	生年月	—
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	職 名	講師
最終学歴	名古屋大学大学院工学研究科	学 位	工学修士, 医学博士
電子メール	huang@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	呼吸器内科学		

■所属学会

日本呼吸器学会, 日本肺癌学会, 日本臨床生理学会, 日本外科学会

■研究課題

上気道機能の簡易な非侵襲的検査法の開発とその睡眠時無呼吸症候群の発症予防への応用 (Development of a non-invasive method to evaluate the upper airway function and its application to sleep apnea patients)

患者の努力を必要としない安静呼吸時の呼吸機能検査法の開発 (Development of a spontaneous breathing method of pulmonary function testing without requiring subjects' effort)

■研究の概要

睡眠時無呼吸症候群の原因となる咽頭のどこにどのような異常があるのか、患者様に負担をかけないで検査する方法を開発し、最適な治療法を決定するために役立てます。独自の方法として、音波の反射を利用した咽頭の広さとつぶれやすさの検査、心臓の収縮によって発生した微小な呼吸の変化をみて咽頭の異常を検査する方法、最大の原因である鼻咽頭のうち、軟口蓋と咽頭側壁の異常を区別して検査する方法、などを行っています。

■著書

【II 睡眠呼吸障害の原因・病態と臨床症状】閉塞型睡眠時無呼吸症候群の原因と症状、中枢型睡眠時無呼吸症候群の原因と症状、チェーン・ストークス呼吸症候群の原因と症状、睡眠呼吸障害 診療のポイント(梅 博久監修、高橋昌克編), メジカルビュー, 東京, 2006

Acoustic reflection 法, 日本臨床(木村 弘編), 日本臨床社, 大阪, 2000

■学術論文

Mouth pressure curve on abrupt interruption of airflow during forced expiration, J. Appl. Physiol., 66:509-517, 1989

Airway pressure-volume curve estimated by flow interruption during forced expiration, J. Appl. Physiol., 67:2631-2638, 1989

Pharyngeal cross-sectional area and pharyngeal compliance in normal males and females, Respiration, 65:458-468, 1998

A new nasal acoustic reflection technique to estimate pharyngeal cross-sectional area during sleep, J. Appl. Physiol., 88:1457-1466, 2000

Detection of inspiratory flow limitation with cardiogenic flow oscillation in patients with obstructive sleep apnea, Jpn. J. Appl. Physiol., 34:161-167, 2004

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)

高橋 昌克 学内講師

氏名(カナ・英文名)	タカハシ マサカツ TAKAHASHI Masakatsu	生年月	—
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	masa-t@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	呼吸器内科学		

■所属学会

日本結核病学会

■研究課題

臨床呼吸器病学, 肺結核

■著書

V 診断の流れと実際の診断法 睡眠呼吸障害の診断の流れ, 睡眠呼吸障害 診療のポイント(梅 博久監修、高橋昌克編), メジカルビュー, 東京, 2006

II 睡眠呼吸障害の原因・病態と臨床症状 慢性閉塞性肺疾患(COPD)と睡眠時無呼吸症候群の関係, 睡眠呼吸障害 診療のポイント(梅 博久監修、高橋昌克編), メジカルビュー, 東京, 2006

■学術論文

肺サーファクタントの細胞内処理過程における障害によって引き起こされる肺疾患, 日界面医学会誌, 37:4-6, 2006

Rab38 低分子量 G タンパク質の遺伝子突然変異マウスにおける肺サーファクタント輸送異常と気腫性肺病変, 分子呼吸器病, 10:191-194, 2006

治療に難渋した喘息に原因不明の関節痛と発熱を併発した 1 例, Prog. Med., 26:211-218, 2006

Pulmonary surfactant transport in alveolar type II cells, Respirology, 11:S70-S73, 2006

Marked pneumoperitoneum 3 weeks after percutaneous endoscopic gastrostomy, J. Gastroenterol. Hepatol., 21:919-921, 2006

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)

井口 晶晴 学内講師

氏名(カナ・英文名)	イグチ マサハル IGUCHI Masaharu	生年月	1970.01
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	—		
専門分野	呼吸器内科学		

■職歴

金沢医科大学医学部 呼吸器内科学 研究医(1999.04)

■所属学会

日本内科学会, 日本呼吸器学会, 日本アレルギー学会, 日本肺癌学会, 日本呼吸器内視鏡学会

■研究課題

肺癌の遺伝子研究 (Study on expression of a novel small G protein on rat lung)

■研究の概要

臨床呼吸器病学全般。主に肺癌の臨床研究。

■学術論文

肺サーファクタントの細胞内処理過程における障害によって引き起こされる肺疾患, 日界面医学会誌, 37:4-6, 2006

Rab38 低分子量 G タンパク質の遺伝子突然変異マウスにおける肺サーファクタント輸送異常と気腫性肺病変, 分子呼吸器病, 10:191-194, 2006

治療に難渋した喘息に原因不明の関節痛と発熱を併発した 1 例, Prog. Med., 26:211-218, 2006

Pulmonary surfactant transport in alveolar type II cells, Respirology, 11:S70-S73, 2006

マウスにおける Rab38 点突然変異は眼皮膚型白皮症と気腫性肺病変を引き起こす: Rab38 がヘルマンズキー・パドラック症候群の原因遺伝子である可能性, J. Jpn. Med. Soc. Biol. Interface, 36:15-17, 2005

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)

戸部 勇保 助教

氏名(カナ・英文名)	トベ タケヤス TOBE Takeyasu	生年月	—
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	tobe@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	呼吸器内科学		

■研究課題

臨床呼吸器病学

■研究の概要

肺胞上皮細胞における VEGF の発現について

■著書

肺損傷とアポトーシス関連遺伝子, ICU と CCU(丸山一男編), 医学図書出版, 東京, 2000

■学術論文

マウスにおける Rab38 点突然変異は眼皮膚型白皮症と気腫性肺病変を引き起こす: Rab38 がヘルマンズキー・バドリック症候群の原因遺伝子である可能性, J. Jpn. Med. Soc. Biol. Interface, 36:15-17, 2005

肺胞 II 型上皮細胞における肺サーファクタントの輸送経路, 分子呼吸器病, 8:237-241, 2004

Rab38 の臓器特異的発現と細胞内局在, 日界面医学会誌, 35:54-56, 2004

皮膚転移にて診断が確定した肺非定型カルチノイド腫瘍の 1 例, 日呼吸会誌, 42:357-361, 2004

ARDS と一酸化窒素, 医学のあゆみ 別冊, 53-55, 2004

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)

土原 一真 助教

氏名(カナ・英文名)	ツチハラ カツマ TSUCHIHARA Katsuma	生年月	—
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	katsuma@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

臨床呼吸器病学

■学術論文

肺サーファクタントの細胞内処理過程における障害によって引き起こされる肺疾患, 日界面医学会誌, 37:4-6, 2006

治療に難渋した喘息に原因不明の関節痛と発熱を併発した 1 例, Prog. Med., 26:211-218, 2006

Pulmonary surfactant transport in alveolar type II cells, Respirology, 11:S70-S73, 2006

マウスにおける Rab38 点突然変異は眼皮膚型白皮症と気腫性肺病変を引き起こす: Rab38 がヘルマンズキー・バドラック症候群の原因遺伝子である可能性, J. Jpn. Med. Soc. Biol. Interface, 36:15-17, 2005

肺胞 II 型上皮細胞における肺サーファクタントの輸送経路, 分子呼吸器病, 8:237-241, 2004

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)

及川 卓 助教

氏名(カナ・英文名)	オイカワ タク OIKAWA Taku	生年月	—
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	呼吸器内科学		

■研究課題

臨床呼吸器病学, 肺癌

■研究の概要

肺癌について

■学術論文

肺サーファクタントの細胞内処理過程における障害によって引き起こされる肺疾患, 日界面医会誌, 37:4-6, 2006

治療に難渋した喘息に原因不明の関節痛と発熱を併発した 1 例, Prog. Med., 26:211-218, 2006

Pulmonary surfactant transport in alveolar type II cells, Respirology, 11:S70-S73, 2006

皮膚転移にて診断が確定した肺非定型的カルチノイド腫瘍の 1 例, 日呼吸会誌, 42:357-361, 2004

The in vitro epithelial repair capacity in acid-injured alveolar cell model, J. Jpn. Med. Soc. Biol. Interface, 34: 69-70, 2003

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)

中川 研 助教

氏名(カナ・英文名)	ナカガワ ケン NAKAGAWA Ken	生年月	—
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■研究課題

臨床呼吸器病学, 肺癌

■学術論文

治療に難渋した喘息に原因不明の関節痛と発熱を併発した 1 例, Prog. Med., 26:211-218, 2006

皮膚転移にて診断が確定した肺非定型的カルチノイド腫瘍の 1 例, 日呼吸会誌, 42:357-361, 2004

The in vitro epithelial repair capacity in acid-injured alveolar cell model, J. Jpn. Med. Soc. Biol. Interface, 34: 69-70, 2003

気管支インターベンションを実施した肺癌気管分岐部浸潤により片側無気肺を呈した 2 症例, 気管支学, 25: 290-294, 2003

薬物治療の疑問, 難問 5) ステロイド薬治療の対象となる患者は?, 呼吸器科, 3: 412-416, 2003

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)

館 由貴 助教

氏名(カナ・英文名)	タチ ユキ TACHI Yuki	生年月	—
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	呼吸器内科学		

■研究課題

臨床呼吸器病学

■研究の概要

睡眠時無呼吸症候群

■著書

II 睡眠呼吸障害の原因・病態と臨床症状 上気道抵抗症候群(UARS)とはどんなものか？, 睡眠呼吸障害 診療のポイント(梅 博久監修、高橋昌克編), メジカルレビュー, 東京, 2006

■学術論文

治療に難渋した喘息に原因不明の関節痛と発熱を併発した 1 例, Prog. Med., 26:211-218, 2006

生体肺移植術前の副鼻腔気管支症候群の一症例, 日耳鼻感染症研会誌, 23:51-55, 2005

皮膚転移にて診断が確定した肺非定型的カルチノイド腫瘍の 1 例, 日呼吸会誌, 42:357-361, 2004

心収縮に由来する鼻フローの微小変化(cardiogenic flow oscillation)を用いた睡眠時無呼吸症候群の覚醒時における上気道の病態の評価, 金医大誌, 29:173-184, 2004

Maximal inspiratory flow with nasal continuous positive airway pressure in patients with sleep-disordered breathing:relevance to the upper airway reflex, Jpn. J. Appl. Physiol., 34:169-176, 2004

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)

及川 理恵子 助教

氏名(カナ・英文名)	オイカワ リエコ OIKAWA Rieko	生年月	—
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学	学 位	博士(医学)
電子メール	—		
専門分野	呼吸器内科学		

■職歴

金沢医科大学 研究医 (2005.06)

■研究課題

臨床呼吸器病学

■研究の概要

呼吸器疾患の診断、治療について

■学術論文

肺サーファクタントの細胞内処理過程における障害によって引き起こされる肺疾患, 日界面医学会誌, 37:4-6, 2006

Rab38 低分子量 G タンパク質の遺伝子突然変異マウスにおける肺サーファクタント輸送異常と気腫性肺病変, 分子呼吸器病, 10:191-194, 2006

治療に難渋した喘息に原因不明の関節痛と発熱を併発した 1 例, Prog. Med., 26:211-218, 2006

Pulmonary surfactant transport in alveolar type II cells, Respirology, 11:S70-S73, 2006

マウスにおける Rab38 点突然変異は眼皮膚型白皮症と気腫性肺病変を引き起こす: Rab38 がヘルマンズキー・バドラック症候群の原因遺伝子である可能性, J. Jpn. Med. Soc. Biol. Interface, 36:15-17, 2005

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)

小島 好司 助教

氏名(カナ・英文名)	コジマ コウジ KOJIMA Koji	生年月	—
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■所属学会

日本呼吸器内視鏡学会，日本結核病学会，日本感染症学会，日本内科学会，日本呼吸器学会

■研究課題

閉塞型睡眠時無呼吸症候群における軟口蓋部鼻気道の病態評価 (The condition of a patient evaluation of the soft palate part nose respiratory tract in obstructive sleep apnea syndrome)

■研究の概要

上気道フローリミテーションは閉塞型睡眠時無呼吸患者に観察される。またフローリミテーションは重症睡眠時無呼吸患者においては覚醒時にもみられるとの報告がある。しかしその発生箇所についてはあまりよく知られていない。私たちはフローリミテーションの発生部位は軟口蓋部にあると予測し研究を行った。

医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)

高瀬 修二郎 教授

氏名(カナ・英文名)	タカセ シュウジロウ TAKASE Shujiro	生年月	1942.07
所 属	医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	s-takase@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	消化器内科学		

■職歴

金沢医科大学 助手(1972.10), 金沢医科大学 講師(1975.04), 金沢医科大学 助教授(1988.04), 金沢医科大学 教授(1993.04)

■所属学会

日本内科学会, 日本消化器病学会, 日本肝臓学会, 日本消化器内視鏡学会, 日本アルコール・薬物医学会

■研究課題

アルコール性肝障害におけるミトコンドリア遺伝子異常 (Mitochondrial gene abnormality in alcoholic liver injury.)

非アルコール性脂肪肝炎の発生病序 (Pathogenesis of non-alcoholic liver injury.)

■研究の概要

アルコール性肝障害の病態、診断、治療に関する臨床病理学的研究

アルコール性肝障害の発生病序に関する実験的研究

非アルコール性脂肪肝炎の発生病序に関する実験的研究

■著書

18.アルコール性肝障害, 肝臓病学(井廻道夫他編), 朝倉書店, 東京, 2006

アルコール性肝硬変, 南山堂医学大辞典第19版, 南山堂, 東京, 2006

■学術論文

Expression of hyaluronic acid in N-nitrosodimethylamine induced hepatic fibrosis in rats, Int.J.Biochem.Cell Biol., 36:307-319, 2004

Different types of chronic hepatitis in alcoholic patients : Does chronic hepatitis induced by alcohol exist ? (共著), Hepatology, 1991

Clinical backgrounds of the patients having different types of hepatitis C virus genomes.(共著), Hepatology, 1992

肝細胞癌を発生した非アルコール性脂肪肝炎(NASH)モデルマウス肝における酸化ストレスと抗酸化酵素の発現, 金医大誌, 31:223-232, 2006

特集:肝疾患に対する抗酸化ストレス療法 アルコール性肝障害に対する抗酸化療法, 肝胆膵, 52:951-957, 2006

■学術賞

「ウイルス肝炎研究財団」肝炎に関する研究奨励金, 1991

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1995, 科学研究費補助金 一般研究(C), 実験的アルコール性肝障害におけるアポトーシスの発現について

1994, 科学研究費補助金 一般研究(C), 実験的アルコール性肝障害におけるアポトーシスの発現について

1983, 科学研究費補助金 一般研究(C), アルコールに起因する慢性肝炎の診断とその成立機序についての研究

1973, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 肝疾患におけるリンパ球の役割—とくにT-cellとB-cellのpopulationについて

■研究費採択状況(その他の助成金)

1991, (財)ウイルス肝炎研究財団研究助成金, C型肝炎ウイルスとアルコール性肝障害の相互関係

医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)

川原 弘 准教授

氏名(カナ・英文名)	カワハラ ヒロム KAWAHARA Hiromu	生年月	—
所 属	医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)	職 名	准教授
最終学歴	札幌医科大学	学 位	医学博士
電子メール	hiromu@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	消化器内科学		

■職歴

金沢医科大学医学部 助教授(1999.04), 金沢医科大学医学部 講師(1993.06)

■所属学会

日本内科学会, 日本肝臓学会, 日本消化器内視鏡学会, 日本感染症学会, 日本消化器病学会

■研究課題

NASH 動物モデルにおける酸化ストレスとミトコンドリアの遺伝子変異に関する検討 (Oxidative stress and mutations of mitochondrial DNA in the mouse experimental model of NASH)

■研究の概要

NASH の発生にはインスリン抵抗性に起因する酸化ストレスが深く関連しているといわれている。従来、脂肪肝は比較的障害の程度が軽く、その経過も良好で病態の進展はないと考えられてきた。しかし NASH では肝硬変から肝癌に進展する症例が報告され、肝炎ウイルスが関与しない肝癌の多くが NASH に起因しているのではないかと推定されている。NASH の病態および発癌と酸化ストレスについての研究を行っている。

■著書

VI. 肝臓 10.アルコール性肝障害, Annual Review 消化器 2006(戸田剛太郎他編), 中外医学社, 東京, 2006

2.アルコール症と微量元素代謝異常, 肝疾患と生体元素(荒川泰行, 他編), 学会センター関西, 大阪, 2003

■学術論文

肝細胞癌を発生した非アルコール性脂肪肝炎(NASH)モデルマウス肝における酸化ストレスと抗酸化酵素の発現, 金医大誌, 31:223-232, 2006

C 型肝炎ウイルス(HCV)コアタンパク質の RNA 干渉への影響, 平成 16 年～平成 17 年度科学研究補助金基盤研究(C)研究成果報告書, 1-20, 2006

特集:肝疾患に対する抗酸化ストレス療法 アルコール性肝障害に対する抗酸化療法, 肝胆膵, 52:951-957, 2006

NASH を自然発症する FLS マウスにおける酸化ストレスとミトコンドリア遺伝子の異変に関する検討, 酸化ストレスと肝疾患, 2:119-126, 2006

Marked pneumoperitoneum 3 weeks after percutaneous endoscopic gastrostomy, J. Gastroenterol. Hepatol., 21:919-921, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1996, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 肝細胞癌における VEGF とそのリセプターの発現についての研究

1995, 科学研究費補助金 一般研究(C), 肝細胞癌における VEGF とそのリセプターの発現についての研究

1993, 科学研究費補助金 一般研究(C), 伊東細胞の運動と収縮機能についての研究

1992, 科学研究費補助金 一般研究(C), 伊東細胞の運動と収縮機能についての研究

医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)

土島 睦 学内講師

氏名(カナ・英文名)	ツチシマ ムツミ TSUCHISHIMA Mutsumi	生年月	—
所 属	医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	消化器内科		

■職歴

金沢医科大学 消化器内科 助手(1992.04), 金沢医科大学 消化器内科 研究医(1988.04)

■所属学会

日本内科学会, 日本消化器内視鏡学会, 日本消化器病学会, 日本肝臓病学会, 日本アルコール薬物医学会

■研究課題

アルコール性肝障害 (alcoholic liver disease)

■研究の概要

ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法
アルコール性肝障害の発生病機

■学術論文

最新臨床検査のABC 第2章検査項目 各論 III.生化学検査(2)血清蛋白など プレアルブミン, 日医師会誌, 135 特別号:S170, 2006

最新臨床検査のABC 第2章 検査項目 各論 III.生化学検査(1)酵素 グルタミン酸脱水素酵素(GLDH), 日医師会誌, 135 特別号:S115, 2006

最新臨床検査のABC 第2章 検査項目 各論 III.生化学検査(1)酵素 γ -グルタミルトランスフェラーゼ(γ -GT), 日医師会誌, 135 特別号:S113-S114, 2006

特集 非B非C型肝炎 3. 非B非C型肝炎におけるアルコール性肝障害の位置づけ, 臨消内科, 21:1609-1614, 2006

B型肝炎硬変に対するラミブジン投与の有用性の検討, 金医大誌, 30:577-583, 2005

■学術賞

WORLD CONGRESSES OF GASTROENTEROLOGY BIOTECHNOLOGY, MOLECULAR MEDICINE, PRESIDENTIAL POSTER SILVER MEDL, 1998

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), アルコール性肝障害における肝ミトコンドリア DNA 変異とアポトーシス

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), アルコール性肝障害における肝ミトコンドリア DNA 変異とアポトーシス

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), アルコール性肝障害における肝ミトコンドリア DNA 変異とアポトーシス

1993, 科学研究費補助金 奨励研究(A), γ -GTPの遺伝的多形性とアルコール性肝・膵障害

1991, 科学研究費補助金 奨励研究(A), アルコール性肝・膵障害の発現に関する γ -GTPの遺伝的背景について

医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)

岡村 英之 助教

氏名(カナ・英文名)	オカムラ ヒデユキ OKAMURA Hideyuki	生年月	—
所 属	医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	okamura@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

Hepato-pulmonary Syndrome の病態と治療

■学術論文

B 型肝炎硬変に対するラミブジン投与の有用性の検討, 金医大誌, 30:577-583, 2005

医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)

尾崎 一晶

助教

氏名(カナ・英文名)	オザキ カズアキ OZAKI Kazuaki	生年月	—
所 属	医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	knockout@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

アルコール性肝障害における門脈圧亢進機序

■学術論文

Myelodysplastic syndrome complicated with inflammatory intestinal ulcers: significance of trisomy 8, Intern. Med., 45:1309-1314, 2006

慢性アルコール飼育ラット肝に及ぼす IL-6 誘導物質 (ME3738) の効果の検討, アルコールと医生物, 25:51-54, 2005

Immunohistochemical study of hyaluronate receptor(CD44)in alcoholic liver disease, Alcohol. Clin. Exp. Res., 24(Suppl.4):34S-38S, 2000

医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)

島中 公志 助教

氏名(カナ・英文名)	シマナカ コウシ SHIMANAKA Koshi	生年月	—
所 属	医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	koshi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

ウイルス性肝炎の病態と治療

■研究の概要

概要入力してください

■著書

アルコール性肝障害, 消化器病診療 良きインフォームドコンセントに向けて(財 日本消化器病学会監), 医学書院, 東京, 2004

ウイルス性肝炎とアルコールの関連性, 別冊医学のあゆみ ウイルス性肝炎の現況と展望 (熊田博光, 編), 医歯薬出版, 東京, 2003

■学術論文

Myelodysplastic syndrome complicated with inflammatory intestinal ulcers: significance of trisomy 8, Intern. Med., 45:1309-1314, 2006

慢性アルコール飼育ラット肝に及ぼす IL-6 誘導物質 (ME3738) の効果の検討, アルコールと医生物, 25:51-54, 2005

特集 プライマリ・ケアと肝胆膵—プライマリ・ケア診療に必要な肝胆膵の知識—重症型アルコール性肝炎, 肝・胆・膵, 50:287-294, 2005

肝細胞と胆管細胞の2方向への形質分化を示した肝原発未分化癌の1例, 肝臓, 45:678-683, 2004

特集アルコールと生活習慣病 アルコールと肝疾患, 成人病と生活習慣病, 34:1438-1440, 2004

医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)

白枝 昌子 助教

氏名(カナ・英文名)	シロエダ ショウコ SHIROEDA Shoko	生年月	—
所 属	医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	博士
電子メール	shoko-h@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	消化器内科学		

■所属学会

日本消化器病学会, 日本内科学会, 日本消化器内視鏡学会, 日本肝臓学会

■研究課題

重症型膵炎の病態と治療

■学術論文

B 型肝炎変に対するラミブジン投与の有用性の検討, 金医大誌, 30:577-583, 2005

当科におけるアルコール性急性膵炎患者の動向について, アルコールと医生物, 25:108-111, 2005

肝細胞と胆管細胞の 2 方向への形質分化を示した肝原発未分化癌の 1 例, 肝臓, 45:678-683, 2004

肝発癌に及ぼすエタノールの影響—長期エタノール投与マウスによる検討—, 金医大誌, 26: 181-185, 2001

医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)

福村 敦 助教

氏名(カナ・英文名)	フクムラ アツシ FUKUMURA Atsushi	生年月	1974.09
所 属	医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	fuku-a@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	消化器内科学		

■職歴

金沢医科大学医学部 助手(2003.04)

■所属学会

日本内科学会, 日本消化器病学会, 日本肝臓学会, 日本消化器内視鏡学会, 日本アルコール・薬物医学会

■研究課題

アルコール性肝障害 (Alcoholic liver disease)

■研究の概要

慢性アルコール飼育ラット肝に及ぼすインターロイキン-6 誘導物質の効果の検討

■学術論文

慢性アルコール飼育ラット肝に及ぼす IL-6 誘導物質 (ME3738) の効果の検討, アルコールと医生物, 25:51-54, 2005

Use of serum carbohydrate-deficient transferrin values to exclude alcoholic hepatitis from non-alcoholic steatohepatitis: a pilot study, Alcohol. Clin. Exp. Res., 29:236S-239S, 2005

非アルコール性脂肪肝炎の診断上の問題点ー特にアルコール性肝炎との鑑別についてー, アルコールと医生物, 24:85-88, 2004

Correlation between adenosine triphosphate content and apoptosis in liver of rats treated with alcohol, Alcohol. Clin. Exp. Res., 27: 12s-15s, 2003

慢性アルコール投与ラットにおける acetaldehyde-derived advanced glycation end-product の血中濃度と肝内分布について, アルコールと医生物, 23: 87-91, 2003

医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)

福羅 匡普 助教

氏名(カナ・英文名)	フクラ マサユキ FUKURA Masayuki	生年月	—
所 属	医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	bokera@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

進行肝癌の化学療法

■著書

アルコール性肝障害の診断基準，消化器疾患の診断基準・病型分類・重症度の用い方(棟方昭博他編)，日本メディカルセンター，東京，2006

■学術論文

B 型肝炎硬変に対するラミブジン投与の有用性の検討，金医大誌，30:577-583，2005

アルコール性肝炎および非アルコール性脂肪肝炎におけるミトコンドリアDNAの遺伝子変異に関する検討，アルコールと医生物，25:82-87，2005

慢性アルコール飼育ラット肝に及ぼす IL-6 誘導物質 (ME3738) の効果の検討，アルコールと医生物，25:51-54，2005

Dimethylhydrazine による大腸化学発癌に及ぼすアルコールの影響，アルコールと医生物，25:23-26，2005

当科におけるアルコール性急性膵炎患者の動向について，アルコールと医生物，25:108-111，2005

医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)

矢野 博一 助教

氏名(カナ・英文名)	ヤノ ヒロカズ YANO Hirokazu	生年月	—
所 属	医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	locate@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

アルコール性肝障害における CYP2E1 の役割

■学術論文

B 型肝炎硬変に対するラミブジン投与の有用性の検討, 金医大誌, 30:577-583, 2005

Dimethylhydrazine による大腸化学発癌に及ぼすアルコールの影響, アルコールと医生物, 25:23-26, 2005

当科におけるアルコール性急性性肝炎患者の動向について, アルコールと医生物, 25:108-111, 2005

Study of cytochrome P4502E1 mRNA level of mononuclear cells in patients with alcoholic liver disease, Alcohol. Clin. Exp. Res., 25 (Suppl): 2S-6S, 2001

アルコール性肝障害患者における末梢血単核球 CYP2E1mRNA 量の検討, アルコールと医生物, 20:76-81, 2000

医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)

大塚 俊美 助教

氏名(カナ・英文名)	オオツカ トシミ OOTSUKA Toshimi	生年月	—
所 属	医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)

林 伸彦 助教

氏名(カナ・英文名)	ハヤシ ノブヒコ HAYASHI Nobuhiko	生年月	—
所 属	医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	—		

■職歴

金沢医科大学(2007.04)

■研究の概要

アルコールと発癌

医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)

山田 真善 助教

氏名(カナ・英文名)	ヤマダ マサヨシ YAMADA Masayoshi	生年月	—
所 属	医学部／消化器機能治療学(消化器内科学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	—		

医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)

横山 仁 教授

氏名(カナ・英文名)	ヨコヤマ ヒトシ YOKOYAMA Hitoshi	生年月	—
所 属	医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	h-yoko@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	腎臓内科学		

■職歴

金沢大学医学部附属病院血液浄化療法部 助教授(1994.04), 金沢大学医学部附属病院血液浄化療法部 助手(院内講師)(1993.09), ハーバード大学医学部内科 講師(1992.08)

■所属学会

日本腎臓学会, 米国腎臓学会, 日本透析医学会, 日本アフェレシス学会, 日本移植学会

■研究課題

腎炎・ネフローゼ症候群の臨床病理

難治性疾患に対する血液浄化療法の応用

■研究の概要

腎臓内科領域における腎炎・ネフローゼ症候群, 腎不全ならびに腎移植に関して, 微小変化型ネフローゼ症候群, 巣状分節性糸球体硬化症, 膜性腎症, 半月体形成性腎炎, 慢性腎臓病と腎移植関連腎障害を中心に臨床病理学的ならびに疫学的研究を行っている。さらに腎疾患に加えて各種の自己免疫疾患ならびに全身性炎症性疾患に対する血漿交換・免疫吸着・血漿吸着などの血液浄化療法の応用とその作用機序の解明を行っている。

■著書

Chemokines in renal fibrosis, Renal fibrosis (Razzaque MS, Taguchi T 編集), Karger, Basel, 2003

ネフローゼ症候群, 朝倉内科学第8版(杉本恒明, 小俣政男, 水野美邦総編集), 朝倉書店, 東京, 2003

■学術論文

Rituximab therapy for epstein-barr virus-related chronic hepatitis following living donor kidney transplantation, Am. J. Kidney Dis., 48:986-989, 2006

メタボリックシンドローム腎症はあるか?, Vascular Medicine, 2:335-340, 2006

Secondary lymphoid tissue chemokine (SLC/CCL21)/CCR7 signaling regulates fibrocytes in renal fibrosis, Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A., 103:14098-14103, 2006

特集 腎生検所見の鑑別と臨床へのフィードバック 膜性腎症の電顕所見と治療選択, 腎と透析, 61:332-335, 2006

Remission of IgA nephropathy after allogeneic peripheral blood stem cell transplantation followed by immunosuppression for acute lymphocytic leukemia, Intern. Med., 45:1291-1295, 2006

■学術賞

医科学応用財団第19回調査研究助成賞, 1999.12

■共同研究希望(研究シーズ)

腎炎・ネフローゼ症候群の病態研究

移植腎保護に関する研究

医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)

浅香 充宏 准教授

氏名(カナ・英文名)	アサカ ミツヒロ ASAKA Mitsuhiro	生年月	—
所 属	医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)	職 名	准教授
最終学歴	富山医科薬科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	腎臓内科学		

■所属学会

日本臨床腎移植学会, 日本移植学会, 日本透析医学会, 日本内科学会, 日本腎臓学会

■研究課題

慢性腎不全患者の細胞性免疫能, 腎移植の臨床・病理学的研究

■研究の概要

慢性腎不全患者の細胞性免疫能。腎移植の臨床・病理学的検討 - primary nonfunction と chronic allograft nephropathy に関する検討。

■著書

心血管・呼吸器疾患, 腎移植候補者術前評価マニュアル, 北陸腎移植評議会, 金沢, 1999

肝障害, 腎移植候補者術前評価マニュアル, 北陸腎移植連絡協議会, 金沢, 1999

■学術論文

Proteomic analysis of serum, outflow dialysate and adsorbed protein onto dialysis membranes (polysulfone and PMMA) during hemodialysis treatment using SELDI-TOF-MS, Am. J. Nephrol., 26:372-380, 2006

Proteomic analysis of rat plasma by SELDI-TOF-MS under the condition of prevention of progressive adriamycin nephropathy using oral adsorbent AST-120, Nephron. Physiol., 103:125-130, 2006

30 年間における腎移植 260 例の経験, 金医大誌, 30:522-530, 2005

画像診断の方法、検査、診断。ネフローゼ症候群のすべて, 腎と透析 臨時増刊号, 59: 194-197, 2005

透析患者の不快症状 アセスメントと治療・ケア 骨関節痛, 透析ケア, 11: 1030-1032, 2005

医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)

山谷 秀喜 学内講師

氏名(カナ・英文名)	ヤマヤ ヒデキ YAMAYA Hideki	生年月	—
所 属	医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	500yama@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	腎臓内科学		

■研究課題

臨床腎臓病学

■学術論文

Detection of serum hepcidin in renal failure and inflammation by using ProteinChip System, Blood, 108:1381-1387, 2006

Proteomic analysis of serum, outflow dialysate and adsorbed protein onto dialysis membranes (polysulfone and PMMA) during hemodialysis treatment using SELDI-TOF-MS, Am. J. Nephrol., 26:372-380, 2006

30 年間における腎移植 260 例の経験, 金医大誌, 30:522-530, 2005

研究施設紹介 LABORATORY 2005 金沢医科大学腎機能治療学(腎臓内科), Nephrol. Fronti., 297-300, 2005

腹膜透析中止後 7 年目に発症した被嚢性腹膜硬化症の 1 例, 腎と透析, 59:1055-1059, 2005

医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)

今村 秀嗣 助教

氏名(カナ・英文名)	イマムラ ヒデツグ IMAMURA Hidetsugu	生年月	—
所 属	医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	imamu-29@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

臨床腎臓病学

■学術論文

Proteomic analysis of serum, outflow dialysate and adsorbed protein onto dialysis membranes (polysulfone and PMMA) during hemodialysis treatment using SELDI-TOF-MS, Am. J. Nephrol., 26:372-380, 2006

30 年間における腎移植 260 例の経験, 金医大誌, 30:522-530, 2005

研究施設紹介 LABORATORY 2005 金沢医科大学腎機能治療学(腎臓内科), Nephrol. Fronti., 297-300, 2005

腹膜透析中止後 7 年目に発症した被嚢性腹膜硬化症の 1 例, 腎と透析, 59:1055-1059, 2005

腎部分切除術によって術後透析治療を回避できた慢性腎不全患者における腎細胞癌の 1 例, 日透析医学会誌, 38:1351-1354, 2005

医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)

足立 浩樹 助教

氏名(カナ・英文名)	アダチ ヒロキ ADACHI Hiroki	生年月	—
所 属	医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■研究課題

臨床腎臓病学

■学術論文

生息実態調査を施行した恙虫病の1例, 皮膚臨床, 48:1075-1079, 2006

急性腎不全で発症した腎限局性サルコイドーシスの1例, 腎と透析, 58:237-240, 2005

移植腎に発症した BK ウイルス腎症の1例, 移植, 39:92-97, 2004

医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)

奥山 宏 助教

氏名(カナ・英文名)	オクヤマ ヒロシ OKUYAMA Hiroshi	生年月	—
所 属	医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	hiroshi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

臨床腎臓病学

■学術論文

30 年間における腎移植 260 例の経験, 金医大誌, 30:522-530, 2005

研究施設紹介 LABORATORY 2005 金沢医科大学腎機能治療学(腎臓内科), Nephrol. Fronti., 297-300, 2005

腹膜透析中止後 7 年目に発症した被嚢性腹膜硬化症の 1 例, 腎と透析, 59:1055-1059, 2005

腎移植 11 年後に発症し Azathioprine の中止により改善した肝中心静脈閉塞症と思われる 1 例, 移植, 38: 361-365, 2003

高 Ca 血症と高度の腎機能障害を呈した腎サルコイドーシスの 1 例, Clin. Calcium, 12: 396-400, 2002

医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)

近澤 芳寛 助教

氏名(カナ・英文名)	チカザワ ヨシヒロ CHIKAZAWA Yoshihiro	生年月	—
所 属	医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	thika@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

臨床腎臓病学

■学術論文

Proteomic analysis of serum, outflow dialysate and adsorbed protein onto dialysis membranes (polysulfone and PMMA) during hemodialysis treatment using SELDI-TOF-MS, Am. J. Nephrol., 26:372-380, 2006

30 年間における腎移植 260 例の経験, 金医大誌, 30:522-530, 2005

研究施設紹介 LABORATORY 2005 金沢医科大学腎機能治療学(腎臓内科), Nephrol. Fronti., 297-300, 2005

腹膜透析中止後 7 年目に発症した被嚢性腹膜硬化症の 1 例, 腎と透析, 59:1055-1059, 2005

Cystic renal cell carcinoma, suspected because of lack of regression of renal cysts after renal transplantation in a dialysis patient with acquired renal cystic disease, Clin Exp Nephrol, 7: 81-84, 2003

医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)

中川 卓 助教

氏名(カナ・英文名)	ナカガワ マサル NAKAGAWA Masaru	生年月	1971.03
所 属	医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	masaru99@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	血液透析		

■研究課題

臨床腎臓病学

■研究の概要

臨床腎臓病学

■学術論文

Proteomic analysis of serum, outflow dialysate and adsorbed protein onto dialysis membranes (polysulfone and PMMA) during hemodialysis treatment using SELDI-TOF-MS, Am. J. Nephrol., 26:372-380, 2006

急性腎不全で発症した腎限局性サルコイドーシスの1例, 腎と透析, 58:237-240, 2005

Acute renal failure with severe loin pain and patchy renal ischaemia after anaerobic exercise (ALPE)(exercise-induced acute renal failure)in a father and child with URAT1 mutations beyond the W258X mutation, Nephrol. Dial. Transplant., 20:1015, 2005

移植腎に発症したBKウイルス腎症の1例, 移植, 39:92-97, 2004

Dynamic CT スキャンで梗塞部皮質の造影がみられた左腎梗塞の1例, 金医大誌, 27: 137-142, 2002

医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)

羽山 智之 助教

氏名(カナ・英文名)	ハヤマ サトシ HAYAMA Satoshi	生年月	—
所 属	医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	s-hayama@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

臨床腎臓病学

■学術論文

Proteomic analysis of serum, outflow dialysate and adsorbed protein onto dialysis membranes (polysulfone and PMMA) during hemodialysis treatment using SELDI-TOF-MS, Am. J. Nephrol., 26:372-380, 2006

Proteomic analysis of rat plasma by SELDI-TOF-MS under the condition of prevention of progressive adriamycin nephropathy using oral adsorbent AST-120, Nephron. Physiol., 103:125-130, 2006

術後大量出血をきたした ABO 血液型不適合腎移植の 1 例, 腎移植・血管外, 18:51-55, 2006

30 年間における腎移植 260 例の経験, 金医大誌, 30:522-530, 2005

研究施設紹介 LABORATORY 2005 金沢医科大学腎機能治療学(腎臓内科), Nephrol. Fronti., 297-300, 2005

医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)

森田 恭子 助教

氏名(カナ・英文名)	モリタ キョウコ MORITA Kyoko	生年月	—
所 属	医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	k-pott2@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

臨床腎臓病学

■学術論文

急性腎不全で発症した腎限局性サルコイドーシスの1例, 腎と透析, 58:237-240, 2005

腎部分切除術によって術後透析治療を回避できた慢性腎不全患者における腎細胞癌の1例, 日透析医学会誌, 38:1351-1354, 2005

早期に発症し経皮的動脈形成術(PTA)を施行した Distal transplant renal artery stenosis(TRAS)の一例, 移植, 39:437-441, 2004

移植腎に発症した BK ウイルス腎症の1例, 移植, 39:92-97, 2004

医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)

渥美 浩克

助教

氏名(カナ・英文名)	アツミ ヒロカツ ATSUMI Hirokatsu	生年月	1975.11
所 属	医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	腎臓一般、腎移植		

■研究の概要

臨床腎臓病学

医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)

井村 淳子 助教

氏名(カナ・英文名)	イムラ ジュンコ IMURA Junko	生年月	1979.06
所 属	医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	imuiun@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	腎臓一般		

■研究の概要

臨床腎臓病学

医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)

藤本 圭司 助教

氏名(カナ・英文名)	フジモト ケイジ FUJIMOTO Keiji	生年月	—
所 属	医学部／腎機能治療学(腎臓内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)

古家 大祐 教授

氏名(カナ・英文名)	コヤ ダイスケ KOYA Daisuke	生年月	—
所 属	医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	職 名	教授
最終学歴	滋賀医科大学	学 位	博士(医学)
電子メール	koya0516@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	内分泌学, 代謝学		

■職歴

金沢医科大学医学部内分泌代謝制御学 部門教授(2005.06), 滋賀医科大学医学部附属病院 講師(2004.03), ジョスリン糖尿病センター研究医(1994.12), 滋賀医科大学医学部附属病院 助手(1992.04), 千里保健医療センター新千里病院 内科医員(1986.08)

■所属学会

腎臓病学会, 糖尿病学会

■研究課題

糖尿病, 糖尿病血管合併症, 高血圧, 肥満, 老化

■著書

PPAR- γ Ligands and Diabetic Nephropathy, The Diabetic Kindney, Contentporary Diabetes, USA, 2006

腎症はなぜ発症、進展するのか, これだけは知っておきたい 糖尿病で腎不全にならないために (吉川隆一、西沢良記), 医薬ジャーナル社, 大阪, 2006

■学術論文

Genetic variations in the gene encoding ELMO1 are associated with susceptibility to diabetic nephropathy, Diabetes, 54:1171-1178, 2005

Factors associated with frequent remission of microalbuminuria in patients with type 2 diabetes, Diabetes, 54:2983-2987, 2005

プロテインキナーゼ C と糖尿病血管合併症, 金医大誌, 30:347-351, 2005

プロテインキナーゼ C と血管内皮障害, 糖尿病, 48:825-827, 2005

ブドウ糖代謝を介した PKC-MAPK 経路の亢進とその制御, 糖尿病, 48:665-668, 2005

■学術賞

日本医師会医学研究助成費, 2003

日本糖尿病合併症学会 Young Investigator Award, 2000

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 抗老化遺伝子 SIRT1 の機能解明とその成果の糖尿病性腎症に対する応用

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 抗老化遺伝子 SIRT1 の機能解明とその成果の糖尿病性腎症に対する応用

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, 厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業, 糖尿病性腎症の寛解を目指したチーム医療による集約的治療

2005, 厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患等総合研究事業, 糖尿病性腎症の寛解を目指したチーム医療による集約的治療

医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)

木越 俊和 教授

氏名(カナ・英文名)	キゴシ トシカズ KIGOSHI Toshikazu	生年月	—
所 属	医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	内分泌学, 代謝学		

■研究課題

ホルモンの細胞内情報伝達機構, アルドステロン分泌調節

■著書

IV 睡眠障害の合併症 肥満、VI 睡眠呼吸障害の治療と予後 肥満治療, 睡眠呼吸障害診療のポイント(梅 博久監修、高橋昌克編), メジカルビュー, 東京, 2006

■学術論文

アルドステロンははたして悪玉か, 治療学, 40:856, 2006

Relationship between impaired aldosterone response to adrenocorticotrophic hormone and prevalence of hemodialysis in type 2 diabetic patients without azotemia, Hypertens. Res., 28:21-26, 2005

アルドステロン分泌調節機構, 日本臨牀(増刊), 63:220-225, 2005

スピノラクトンの大規模臨床研究(RALES), 日本臨牀(増刊), 63:330-335, 2005

A prognostic role of mean 24-h pulse pressure level for cardiovascular events in type 2 diabetic subjects under 60 years of age, Diabetes Care., 28:95-100, 2005

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1989, 科学研究費補助金 一般研究(C), 副腎球状層におけるカルモジュリン依存性キナーゼの気質の同定と機能について

1988, 科学研究費補助金 一般研究(C), 副腎球状層におけるカルモジュリン依存性キナーゼの基質の同定と機能について

医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)

中川 淳 准教授

氏名(カナ・英文名)	ナカガワ アツシ NAKAGAWA Atsushi	生年月	1959.09
所 属	医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	職 名	准教授
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	内分泌学, 代謝学, 生理学一般		

■職歴

1990-1993 ルイビル大学 研究員, 1994-1999 金沢大学 助手, 1999-2001 金沢医科大学 講師, 1990-1993 University of Louisville, Research Fellow, 1994-1999 Kanazawa University, Assistant

■所属学会

日本内科学会, 日本内分泌学会, 日本糖尿病学会, 日本甲状腺学会, 日本心血管内分泌代謝学会

■研究課題

門脈領域における消化管膵ホルモンの迷走神経化学受容 (Vagal chemoreception of gut- and pancreatic hormones in the portal area)

■研究の概要

膵・消化管ホルモンは, 全身循環を介して標的器官に作用するのみならず, 肝通過以前に門脈領域に存在するホルモン受容性迷走神経求心繊維により感受され, 神経反射性にその作用(の一部)を発現する, との概念に基づき, 迷走神経求心線維一次ニューロンの存在する節神経節におけるホルモン受容体遺伝子の発現を検討している。近年は, インクレチンホルモンである GLP-1 受容体が迷走神経求心路に存在することを明らかにした。

■著書

インクレチンとインスリン分泌, 糖尿病学の進歩(日本糖尿病学会), 診断と治療社, 東京, 2006

GLP-1, GLP-2, グリセンチン, ホルモンの辞典(清野 裕、千原和夫、名和田 新、平田結喜緒), 朝倉書店, 2004

■学術論文

Suppressive role of the islet-acinar axis in the perfused rat pancreas.(共著), Gastroenterology, 1993

In situ binding of islet hormones in the isolated perfused rat pancreas : evidence for local high concentrations of islet hormones via the islet-acinar axis.(共著), Diabetologia, 1995

Exocrine interstitial insulin and somatostatin in the perfused dog pancreas.(共著), Am J Physiol, 1993

Vagal hepatopancreatic reflex effect evoked by intraportal appearance of tGLP-1.(共著), Am J Physiol, 1996

The hepatic vagal nerve is receptive to incretin hormone glucagon-like peptide-1, but not to glucose-dependent insulinotropic polypeptide, in the portal vein.(共著), J Auton Nerv Syst, 1996

■学術賞

金沢医科大学医学会「論文表彰」, Receptor gene expression of glucagon-like peptide-1, but not glucose-dependent insulinotropic polypeptide, in rat nodose ganglion cells. Auton Neurosci, 110:36-43, 2004. 2005.07

医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)

西澤 誠 講師

氏名(カナ・英文名)	ニシザワ マコト NISHIZAWA Makoto	生年月	—
所 属	医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	職 名	講師
最終学歴	自治医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	makoto@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	糖尿病学		

■所属学会

日本内科学会, 日本内分泌学会, 日本糖尿病学会

■研究課題

entero-insular axis における神経系の役割 (the role of the neural factor in the entero-insular axis)

■学術論文

Effect of intraportal glucagon-like peptide-1 on glucose metabolism in conscious dogs, American Journal of Physiology, 2003

The hepatic vagal nerve is receptive to incretin hormone glucagon-like peptide-1, but not to glucose-dependent insulinotropic polypeptide, in the portal vein, Journal of the Autonomic Nervous system, 1996

Vagal hepatopancreatic reflex effect evoked by intraportal appearance of t GLP-1(共著), American Journal of Physiology, 1996

The hepatic vagal reception of intraportal GLP-1 is via receptor different from the pancreatic GLP-1 receptor, Journal of the Autonomic Nervous System, 2000

Effect of intraportal glucagon-like peptide-1 on glucose metabolism in conscious dogs
, American Journal of Physiology, 2003

医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)

伊藤 智彦 学内講師

氏名(カナ・英文名)	イトウ トモヒコ ITO Tomohiko	生年月	1961.09
所 属	医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	ito-t@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	内分泌学		

■所属学会

日本内科学会, 日本内分泌学会, 日本糖尿病学会

■研究課題

ミトコンドリア遺伝子異常(3316 塩基点突然変異)を三世代において示した糖尿病の 1 家系について
 糖尿病患者における α -グリコシダーゼ阻害薬使用時の消化器系副作用に対する大建中湯の効果

■学術論文

ミトコンドリア遺伝子異常(3316 塩基点突然変異)を三世代において示した糖尿病の 1 家系について, ホルモンと臨床(97 夏季増刊号)内分泌興味ある症例, 1997
 糖尿病患者における α -グリコシダーゼ阻害薬使用時の消化器系副作用に対する大建中湯の効果, 漢方医学 8, 1997
 Homoplasmic mutation of mitochondrial DNA of position 3316 in a Japanese family with heterogenous phenotypes of diabetes., Endocrinology case presentation, 1997
 Relationship between impaired aldosterone response to adrenocorticotrophic hormone and prevalence of hemodialysis in type 2 diabetic patients without azotemia, Hypertens. Res., 28:21-26, 2005
 Ambulatory blood pressure levels rather than dipper/nondipper status predicts vascular events in type 2 diabetic subjects., Hypertens. Res., 27:647-656, 2004

医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)

今泉 範子 助教

氏名(カナ・英文名)	イマイズミ ノリコ IMAIZUMI Noriko	生年月	—
所 属	医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢大学薬学部	学 位	薬学修士
電子メール	imaizumi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■所属学会

日本内分泌学会

■研究課題

アルドステロン合成の細胞内メカニズム, 糖尿病

■学術論文

Capacitative Ca^{2+} entries and mRNA expression for TRPC1 and TRPC5 channels in human epidermoid carcinoma A431 cells, Eur. J. Pharmacol., 510:217-222, 2005

アンジオテンシンⅡ刺激による副腎球状層細胞内タンパクリン酸化, ホルモンと臨, 49 (冬増): 106-111, 2001

11 β -hydroxylase の活性低下を伴った 21-hydroxylase 欠損症(単純男性化型)の 1 例, ホルモンと臨, 48(冬増):204-208, 2000

No contamination in laboratory ware and effect of countermeasures, NITRIC OXIDE:Biol.and.chem, 4:516-525, 2000

Involvement of tyrosine kinase in citrate-stimulated aldosterone production in bovine glomerulosa cells, Am. J. Physiol., 279:E140-E145, 2000

医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)

津田 真一 助教

氏名(カナ・英文名)	ツダ シンイチ TSUDA Shinichi	生年月	—
所 属	医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	shin-t@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

糖尿病, 高血圧, 動脈硬化

■学術論文

Ambulatory blood pressure levels rather than dipper/nondipper status predicts vascular events in type 2 diabetic subjects., Hypertens. Res., 27:647-656, 2004

Insulin resistance is associated with reduced nocturnal falls of blood pressure in normotensive, nonobese type 2 diabetic subjects, Clin. Exp. Hypertens., 24: 65-73, 2002

糖尿病大血管症の成因に関する研究, 金医大誌, 26: 291-302, 2001

Increased basal levels of plasma nitric oxide in type 2 diabetic subjects: relationship to microvascular complications, J. Diabetes Complicat., 15: 135-143, 2001

医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)

古屋 圭介 助教

氏名(カナ・英文名)	フルヤ ケイスケ FURUYA Keisuke	生年月	—
所 属	医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	m95-0787@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

糖尿病, 甲状腺疾患

■学術論文

Relationship between impaired aldosterone response to adrenocorticotrophic hormone and prevalence of hemodialysis in type 2 diabetic patients without azotemia, Hypertens. Res., 28:21-26, 2005

A prognostic role of mean 24-h pulse pressure level for cardiovascular events in type 2 diabetic subjects under 60 years of age, Diabetes Care., 28:95-100, 2005

ラット迷走神経節神経節におけるソマトスタチン受容体遺伝子の発現, 金医大誌, 29:272-280, 2004

Implication of steady state concentrations of nitrite and nitrate metabolites of nitric oxide in plasma and whole blood in healthy human subjects., Clin. Exp. Pharmacol. Physiol., 31:591-596, 2004

Ambulatory blood pressure levels rather than dipper/nondipper status predicts vascular events in type 2 diabetic subjects., Hypertens. Res., 27:647-656, 2004

医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)

前島 勝之 助教

氏名(カナ・英文名)	マエジマ カツユキ MAEJIMA Katsuyuki	生年月	—
所 属	医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	maeg@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

糖尿病, 甲状腺疾患

■学術論文

Paradoxical decrease in plasma NOx by L-arginine load in diabetic and nondiabetic subjects, Clin. Exp. Hypertens., 24: 155-167, 2002

アルドステロン産生副腎線腫を合併した腎血管性高血圧の1例, 日内会誌, 90: 138-139, 2001

Increased basal levels of plasma nitric oxide in type 2 diabetic subjects: relationship to microvascular complications, J. Diabetes Complicat., 15: 135-143, 2001

11 β -hydroxylase の活性低下を伴った 21-hydroxylase 欠損症(単純男性化型)の1例, ホルモンと臨, 48(冬増):204-208, 2000

糖尿病患者における血漿 NOx 濃度からみた血管内皮機能に関する研究, 金医大誌, 25:18-27, 2000

医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)

小西 一典 助教

氏名(カナ・英文名)	コニシ カズノリ KONISHI Kazunori	生年月	—
所 属	医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	職 名	助教
最終学歴	愛知医科大学医学部	学 位	—
電子メール	konishi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■学術論文

2型糖尿病患者における頸動脈動脈硬化進展の要因に関する研究:内臓脂肪蓄積に伴う代謝異常との関連, 金医大誌, 31:53-61, 2006

医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)

上原 啓吾 助教

氏名(カナ・英文名)	ウエハラ ケイゴ UEHARA Keigo	生年月	—
所 属	医学部／内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	—
電子メール	k-uehara@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究費採択状況(その他の助成金)

2006, 金沢医科大学北辰同窓会研究助成, Glucagon-like peptide-1(GLP-1)の示すインスリン分泌促進作用における迷走神経の役割に関する研究

医学部／血液免疫制御学(血液免疫内科学)

梅原 久範 教授

氏名(カナ・英文名)	ウメハラ ヒサノリ UMEHARA Hisanori	生年月	—
所 属	医学部／血液免疫制御学(血液免疫内科学)	職 名	教授
最終学歴	慶應義塾大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	umehara@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	血液内科学, 免疫学		

■職歴

金沢医科大学 血液免疫制御学講座 教授(2005.10), 京都大学 医学研究科内科学講座 臨床免疫学 助教授(2002.07), 大阪歯科大学 内科学講座 大学院助教授(1998.05), 大阪歯科大学内科学講座 講師(1997.01), 大阪歯科大学内科学講座 助手(1992.04)

■所属学会

日本炎症・再生医学会, 日本内科学会北陸地方会, 中部リウマチ学会, 日本リウマチ学会, 日本臨床免疫学会

■研究課題

血液免疫学

■著書

全身性硬化症(強皮症), 今日の治療指針 2006 年度版(山口 徹、北原光夫、福井次矢、相沢好治編), 医学書院, 東京, 2006

ペニシラミンの臨床効果の特徴、副作用の特徴、基本情報と使い方, 抗リウマチ薬 Q&A(川合眞一、山本一彦、田中良哉編), 日本医学出版, 東京, 2006

■学術論文

Matrix metalloproteinase-1 produced by human CXCL12-stimulated natural killer cells, Am. J. Pathol., 169:445-458, 2006

Fractalkine in rheumatoid arthritis and allied conditions, Mod Rheumatol, 16:124-130, 2006

Detection of serum hepcidin in renal failure and inflammation by using ProteinChip System, Blood, 108:1381-1387, 2006

Role of membrane sphingomyelin and ceramide in platform formation for Fas-mediated apoptosis, J. Exp. Med., 202:249-259, 2005

皮膚筋炎の経過中に血栓性血小板減少性紫斑病を合併した 1 例, 中部リウマチ, 37:104-105, 2006

■学術賞

日本リウマチ学会 学会賞, 2002.04

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 萌芽研究, 新規抗癌剤開発のためのピットドラフト解析

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(B), 全身性強皮症の病態形成におけるフラクタルカインの関与とその治療法の開発

2005, 科学研究費補助金 特別研究員奨励費, 自己免疫疾患における Lipid raft を介した細胞活性化の解析とその制御法の開発

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(B), 全身性強皮症の病態形成におけるフラクタルカインの関与とその治療法の開発

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, アメリカ国立衛生研究所(NIH)研究助成, シェーグレン症候群の国際診断基準の作成

2004, 厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業, 免疫難病のシグナル異常と病態解明・治療応用に関する研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

2006, (財)上原記念生命科学財団来日研究生助成金, EBV 関連悪性腫瘍に対する生物学的療法の開発に向けて(対象者; 董 凌莉 大学院生)

2005, (財)上原記念生命科学財団研究助成金, 細胞膜ピットドラフト制御による新規免疫抑制剤の開発

医学部／血液免疫制御学(血液免疫内科学)

廣瀬 優子 教授

氏名(カナ・英文名)	ヒロセ ユウコ HIROSE Yuko	生年月	—
所 属	医学部／血液免疫制御学(血液免疫内科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	y-hirose@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	血液学、輸血学		

■所属学会

日本臨床腫瘍学会, 日本輸血学会北陸支部会, 日本輸血学会, 日本血液学会, 日本内科学会

■研究課題

血液免疫学, 輸血学

■著書

Castleman disease, 血液疾患ハンドブック—日常診療の手引きと臨床データ集—下巻(吉田弥太郎編), 医薬ジャーナル社, 東京, 2006

両下肢の冷感を自覚する患者に認められた血小板減少と溶血性貧血, 症例に学ぶ EBM 指向輸血検査・治療, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2005

■学術論文

A phase II study of VEPA/FEPP chemotherapy for aggressive lymphoma in elderly patients: Japan Clinical Oncology Group Study JCOG9203, Int. J. Hematol., 83:55-62, 2006

Myelodysplastic syndrome complicated with inflammatory intestinal ulcers: significance of trisomy 8, Intern. Med., 45:1309-1314, 2006

Association of Epstein-Barr virus with human immunodeficiency virus-negative peripheral T-cell lymphomas in Japan, Eur. J. Haematol., 76:109-118, 2006

Fractalkine in rheumatoid arthritis and allied conditions, Mod Rheumatol, 16:124-130, 2006

Urinary pseudouridine in patients with lymphoma: Comparison with other clinical parameters, Clin. Chim. Acta, 371:148-151, 2006

医学部／血液免疫制御学(血液免疫内科学)

福島 俊洋 准教授

氏名(カナ・英文名)	フクシマ トシヒロ FUKUSHIMA Toshihiro	生年月	—
所 属	医学部／血液免疫制御学(血液免疫内科学)	職 名	准教授
最終学歴	福井医科大学大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	tfukus@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	血液内科学		

■職歴

福井医科大学医学部 助手(1992.10), 金沢医科大学血液免疫制御学 助教授(2005.11), 金沢医科大学血液免疫制御学 講師(2002.06), 国立金沢病院 内科医師(2000.04)

■所属学会

日本血液学会, 日本臨床腫瘍学会, 日本臨床血液学会, 日本臨床薬理学会, 日本内科学会

■研究課題

急性白血病の化学療法に関する研究 (Study on chemotherapy for acute leukemia)

■研究の概要

急性白血病の化学療法について、基礎的・臨床的研究を行っている。基礎的研究においては代表的な化学療法剤であるアンソラサイクリン系抗腫瘍剤の作用機序と耐性獲得機序を明らかにした。臨床的研究においては基礎的研究の成果を踏まえた薬剤の投与方法を検討している。また、Japan Adult Leukemia Study Group の参加施設として臨床研究を行っている。

■著書

アンソラサイクリン系薬剤、アントラキノン系薬剤, 造血器腫瘍における薬剤の使い方. 合理的投与方法と展望., 医薬ジャーナル社, 東京, 1998

■学術論文

A pharmacokinetic study of idarubicin in Japanese patients with malignant lymphoma: Relationship with leukocytopenia and neutropenia, Int J Hematol, 74: 297-302, 2001

Effect of PSC 833 on the cytotoxicity of idarubicin and idarubicinol in multidrug-resistant K562 cells, Leukemia Res, 23: 37-42, 1999

MLL gene rearrangement in acute myelogenous leukemia after exposure to tegafur/uracil, Int J Hematol, 75: 178-181, 2002

Induction therapy by frequent administration of doxorubicin with four other drugs, followed by intensive consolidation and maintenance therapy for adult acute lymphoblastic leukemia: the JALSG-ALL93 study, Leukemia, 16, 1259-1266, 2002

Dual mutations in the AML1 and FLT3 genes are associated with leukemogenesis in acute myeloblastic leukemia of the M0 subtype, Leukemia, 17, 2492-2499, 2003

医学部／血液免疫制御学(血液免疫内科学)

正木 康史 准教授

氏名(カナ・英文名)	マサキ ヤスフミ MASAKI Yasufumi	生年月	1965.03
所 属	医学部／血液免疫制御学(血液免疫内科学)	職 名	准教授
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	yasum@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	血液内科学, 免疫学		

■職歴

1991-1999 金沢医科大学血液免疫内科 助手, 1999-2002 金沢医科大学血液免疫内科 講師, 1991-1999 Research Associate, Hematology and Immunology, Kanazawa Medical University, 1999-2002 Instructor, Hematology and Immunology

■所属学会

日本内科学会, 日本血液学会, 日本臨床血液学会, 日本臨床免疫学会, 日本リウマチ学会

■研究課題

コンビナトリアル抗体ライブラリーを用いたヒト型モノクローナル抗体の発現・クローニング (Expression cloning of human monoclonal antibodies using combinatorial antibody library.)

難治性リンパ腫に対する臨床研究 (Clinical research for high risk malignant lymphoma)

■研究の概要

- 1、IgG4 関連疾患 (IgG4+AMOLPS) の臨床研究
- 2、IVL (血管内リンパ腫) の早期診断治療研究
- 3、ファージディスプレイシステムを用いた新たな高悪性度 B 細胞性リンパ腫表面抗原の発現クローニング

■著書

両下肢の冷感を自覚する患者に認められた血小板減少と溶血性貧血, 症例に学ぶ EBM 指向輸血検査・治療, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2005

Sjögren 症候群, 内科学 (第8版) (杉本恒明, 小俣政男, 水野美邦 編), 朝倉書店, 東京, 2003

■学術論文

Cloning and expression of a novel human antibody-antigen pair associated with Felty's syndrome, PNAS, 2000

Myelodysplastic syndrome complicated with inflammatory intestinal ulcers: significance of trisomy 8, Intern. Med., 45:1309-1314, 2006

Association of Epstein-Barr virus with human immunodeficiency virus-negative peripheral T-cell lymphomas in Japan, Eur. J. Haematol., 76:109-118, 2006

シェーグレン症候群とミクリッ病, ENTONI, 69:24-31, 2006

Fractalkine in rheumatoid arthritis and allied conditions, Mod Rheumatol, 16:124-130, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 自己免疫性リンパ球増殖性多臓器疾患－新しい疾患単位の可能性

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 自己免疫性リンパ球増殖性多臓器疾患－新しい疾患単位の可能性

1994, 科学研究費補助金 奨励研究(A), シェーグレン症候群におけるリウマチ因子イディオタイプの遺伝子的解析

1993, 科学研究費補助金 奨励研究(A), シェーグレン症候群におけるリウマチ因子イディオタイプの遺伝子的解析

■研究費採択状況(その他の助成金)

2002, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, ヒト型モノクローナル抗体による抗リンパ腫ワクチンおよび標的療法の開発

医学部／血液免疫制御学(血液免疫内科学)

田中 真生 講師

氏名(カナ・英文名)	タナカ マサオ TANAKA Masao	生年月	—
所 属	医学部／血液免疫制御学(血液免疫内科学)	職 名	講師
最終学歴	京都大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	膠原病・アレルギー・感染症内科学		

■職歴

京都大学大学院医学研究科臨床免疫学 助手(2000.11)

■所属学会

日本リウマチ学会, アメリカリウマチ学会, 日本内科学会, 日本免疫学会

■研究課題

新規リウマチ関節炎抑制因子であるホリスタチン関連蛋白(FRP)/TSC-36/FSTL1 のリガンドのクローニングと解析 (Cloning and analysis of the receptor molecule for a novel arthritis-modifying factor, follistatin-related protein (FRP)/TSC-36/FSTL1)

■研究の概要

関節リウマチにおける自己抗原蛋白の機能と病態形成の解析

■著書

433・免疫抑制の薬理学(日本語訳), ハーバート大学テキスト 病態生理に基づく臨床薬理学, メディカル・サイエンス・インターナショナル社, 東京, 2006

広範囲血液尿科学検査-RA 関連抗体, 日本臨床, 日本臨床社, 大阪, 2005

■学術論文

Successful treatment of primary Sjogren's syndrome with chronic natural killer lymphocytosis by high-dose prednisolone and indomethacin farnesil., Intern. Med., 251-254, 2007

Successful treatment of a patient with refractory adult Still's disease by tacrolimus., Mod Rheumatol, in press, 2007

Anti-aminoacyl-tRNA synthetase antibodies in clinical course prediction of interstitial lung disease complicated with idiopathic inflammatory myopathies, Autoimmunity, 39:233-241, 2006

ケモカインと細胞接着分子, Medicina, 43:900-902, 2006

Fractalkine in rheumatoid arthritis and allied conditions, Mod Rheumatol, 16:124-130, 2006

■学術賞

第13回内科学会奨励賞受賞, 2000.04

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 新規リウマチ関節炎抑制因子 FRP のシグナル伝達と免疫システムに対する作用の解析

医学部／血液免疫制御学(血液免疫内科学)

河南 崇典 助教

氏名(カナ・英文名)	カワナミ タカフミ KAWANAMI Takafumi	生年月	1973.08
所 属	医学部／血液免疫制御学(血液免疫内科学)	職 名	助教
最終学歴	富山県立大学大学院工学研究科	学 位	博士(工学)
電子メール	kawahagi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	唾液腺の再生医療		

■職歴

2002- 金沢医科大学医学部助手, 2002- Research Associate of Medicine, Kanazawa , Medical University

■所属学会

日本炎症・再生医学会, 日本再生医療学会, 日本免疫学会, 日本臨床免疫学会, 日本リュウマチ学会

■研究課題

ヒト口唇小唾液腺由来の幹細胞の同定 (Isolation and functional properties of human salivary epithelial stem cell)

■研究の概要

一度萎縮し、廃絶された唾液腺機能の回復は現在のところほとんど期待できず、唾液腺組織の再生、機能回復を目的とした根治的療法が強く望まれている。失われた組織の機能回復を目的として、組織幹細胞の利用が考えられる。唾液腺の再生医療を目的として、特異的な細胞表面抗原と機能分子検索、また、幹細胞に共通した性質を利用した SP 法を組み合わせ、ヒト唾液腺組織幹細胞分取と、その諸性質解明を行っている。

■学術論文

Characterization of pNI10 plasmid in Pseudomonas, and the construction of an improved Escherichia and Pseudomonas shuttle vector, pNK73, Appl, Microbiol, Biotechnol, 61(3):240-246, 2003

Reaction mechanism of the Co²⁺-activated multifunctional bromoperoxidase-esterase from Pseudomonas putida IF-3, Arch, Biochem, Biophys, 398(1):94-100, 2002

Cloning and biochemical characterization of Co²⁺-activated bromoperoxidase-esterase(perhydrolase) from Pseudomonas putida IF-3 strain, Biochim, Biophys, Acta, 1545(1-2):53-66, 2001

口唇小唾液腺由来の幹細胞の同定, 臨免疫, 45:544-549, 2006

Myelodysplastic syndrome complicated with inflammatory intestinal ulcers: significance of trisomy 8, Intern. Med., 45:1309-1314, 2006

■共同研究希望(研究シーズ)

唾液腺の再生

Re-engineering the functions of a terminally differentiated epithelial cell

医学部／血液免疫制御学(血液免疫内科学)

金 哲雄 助教

氏名(カナ・英文名)	キン テツオ JIN Zhexiong	生年月	—
所 属	医学部／血液免疫制御学(血液免疫内科学)	職 名	助教
最終学歴	富山医科薬科大学大学院医学系研究科医学系研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	—		
専門分野	免疫学		

■職歴

金沢医科大学 助手(2006.04), 日本学術振興会 特別研究員(2004.04), 富山医科薬科大学 医学部 助手(2002.04)

■研究課題

細胞(膜)Sphingomyelin の役割の解析 (Analysis of a function of cell (a membrane) Sphingomyelin)

■研究の概要

細胞膜 Sphingomyelin(SM)と T 細胞の活性化及びシグナル伝達に関連解析

■学術論文

リビッドラフトとアポトーシス, アレルギー科, 21:417-424, 2006

Fas 誘導アポトーシスにおけるリビッドラフトとスフィンゴミエリンの役割, 臨免疫, 45:429-434, 2006

Fractalkine in rheumatoid arthritis and allied conditions, Mod Rheumatol, 16:124-130, 2006

Role of membrane sphingomyelin and ceramide in platform formation for Fas-mediated apoptosis., J. Exp. Med., 202(2):249-259, 2005

Activation of mouse RAG-2 promoter by Myc-associated zinc finger protein., Biochem. Biophys. Res. Commun., 317:1096-1102, 2004

医学部／脳脊髄神経治療学(神経内科学)

松井 真 教授

氏名(カナ・英文名)	マツイ マコト MATSUI Makoto	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(神経内科学)	職 名	教授
最終学歴	京都大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	veritasm@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	神経内科学		

■所属学会

日本神経治療学会, 日本末梢神経学会, 日本神経免疫学会, 日本神経学会

■研究課題

臨床神経学・神経免疫学

■研究の概要

臨床神経学に根ざした日常診療から、免疫機序の関与が推定される疾患(神経免疫疾患)における問題点を明確にし、その病態機序の解明と治療法の開発を行う。さらに、基礎免疫学に裏打ちされた最新の理論と手法を用いて、免疫性疾患モデル動物を作成し、病態形成因子の抽出と実験的治療を行い臨床応用へ結びつける。

■学術論文

多発性硬化症の治療 一 再発抑制薬の現状と新薬治験の展望一, 医のあゆみ, 219:151-154, 2006

多発性硬化症の臨床病理, 神研の進歩, 50:571-581, 2006

Varicose veins associated with CADASIL result from a novel mutation in the *Notch3* gene, Neurology, 67:337-339, 2006

急性多発性神経根炎を合併した多発性筋炎の一例, 末梢神経, 17:215-218, 2006

多発性硬化症の検査所見①:MRI 画像, Curr. Insight. Neurol. Sci., 14:12, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 萌芽研究, ガレクチン 9 抗体を利用した多発性硬化症モデル動物におけるアレルギー反応機序の解析

2005, 科学研究費補助金 萌芽研究, ガレクチン 9 抗体を利用した多発性硬化症モデル動物におけるアレルギー反応機序の解析

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, 国立精神・神経センター精神・神経疾患研究委託費, 神経疾患の診断・治療・予防に関する包括的臨床研究

2006, 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業, 免疫性神経疾患に関する調査研究

2005, 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業, 免疫性神経疾患に関する調査研究

医学部／脳脊髄神経治療学(神経内科学)

長山 成美 講師

氏名(カナ・英文名)	ナガヤマ シゲミ NAGAYAMA Shigeni	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(神経内科学)	職 名	講師
最終学歴	佐賀医科大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	—		
専門分野	神経内科学		

■所属学会

日本神経学会

■研究課題

臨床神経学、神経免疫学

■研究の概要

臨床神経学、神経免疫学

医学部／脳脊髄神経治療学(神経内科学)

永石 彰子 助教

氏名(カナ・英文名)	ナガイシ アキコ NAGAISHI Akiko	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(神経内科学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

医学部／脳脊髄神経治療学(神経内科学)

中西 恵美 助教

氏名(カナ・英文名)	ナカニシ メグミ NAKANISHI Megumi	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(神経内科学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	医学博士
電子メール	nakanisi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	神経免疫学		

■研究課題

臨床神経学, 神経免疫学

■学術論文

T cell gene expression profiling identifies distinct subgroups of Japanese multiple sclerosis patients, J. Neuroimmunol., 174:108-118, 2006

Microarray analysis identifies an aberrant expression of apoptosis and DNA damage-regulatory genes in multiple sclerosis, Neurobiol. Dis., 18:537-550, 2006

Induction of humoral responses specific for paraneoplastic cerebellar degeneration-associated antigen by whole recombinant yeast immunization., J. Autoimmun., 24:203-208, 2005

Apolipoprotein E(ApoE)欠損マウスにおける実験的自己免疫性脳脊髄炎(EAE)の重症化, 金医大誌, 29:18-28, 2004

Avellis' syndrome: The neurological topographical correlation, Eur. Neurol., 45: 292-293, 2001

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 若手研究(B), 自己免疫性脳脊髄炎における新規治療薬の開発

2005, 科学研究費補助金 若手研究(B), 自己免疫性脳脊髄炎における新規治療薬の開発

医学部／脳脊髄神経治療学(神経内科学)

垣内 無一 助教

氏名(カナ・英文名)	カイト ムイチ KAITO Muichi	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(神経内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	m95-0220@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

臨床神経学

■学術論文

急性多発性神経根炎を合併した多発性筋炎の一例, 末梢神経, 17:215-218, 2006

Cardiac 123I-MIBG scintigraphy can assess the disease severity and phenotype of PD, J. Neurol. Sci., 220:105-111, 2004

他領域にまたがる注意すべき脳神経精神症状とその治療 —悪性腫瘍患者に伴う神経症状と治療—, Mebio, 21: 71-76, 2003

医学部／脳脊髄神経治療学(神経内科学)

権藤 雄一郎 助教

氏名(カナ・英文名)	ゴンドウ ユウイチロウ GONDOU Yuichiro	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(神経内科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	gon-1225@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

臨床神経学

■学術論文

急性多発性神経根炎を合併した多発性筋炎の一例, 末梢神経, 17:215-218, 2006

Ictal alteration of ^{99m}TcECD SPECT imaging in a patient with secondary paroxysmal kinesigenic dyskinesia caused by hyperglycemia, 臨神経, 45:312-316, 2005

医学部／脳脊髄神経治療学(神経内科学)

川村 和之 助教

氏名(カナ・英文名)	カワムラ カズユキ KAWAMURA Kazuyuki	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(神経内科学)	職 名	助教
最終学歴	京都大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

医学部／高齢医学(老年病学)

森本 茂人 教授

氏名(カナ・英文名)	モリモト シゲト MORIMOTO Shigeto	生年月	—
所 属	医学部／高齢医学(老年病学)	職 名	教授
最終学歴	大阪大学大学院医学系研究科	学 位	医学博士
電子メール	shigeto@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	老年病学, 高血圧, 高齢者肺炎		

■職歴

1981.6 大阪大学医学部附属病院老人科医員, 1981.11 大阪大学医学部老年病医学教室助手, 1982.7 米国 Washington 大学内科学教室研究員, 1985.5 大阪大学医学部老年病医学教室助手, 1989.11 老人科医局長(至平成6年9月)

■所属学会

日本高血圧学会, 日本老年医学会, 日本内分泌学会, 日本骨代謝学会, 日本未病システム学会

■研究課題

老年症候群に関与する脳皮質下虚血病変の危険因子解明に関する縦断研究 (Longitudinal study of risk factors for ischemic changes of the brain associated with elderly syndromes.)

高齢者疾患の易発症性に関する遺伝的背景の解明 (Genetic backgrounds for occurrence of geriatric diseases)

■研究の概要

高齢者高血圧、高齢者肺炎の病態解明。認知症、転倒・骨折、嚥下障害などの老年症候群に対する虚血性脳病変の関与の解明、およびこれら老年期疾患の予防、治療法開発。

■著書

鑑別診断, 骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2006年版, ライフサイエンス出版, 東京, 2006

8. 骨・関節 2. 骨粗鬆症, 予防とつきあい方シリーズ 老年病・認知症～長寿の秘訣～(荻原俊男), メディカルレビュー社, 東京, 2006

■学術論文

Angiotensin I-converting enzyme inhibitor improves reactive hyperemia in elderly hypertensives with arteriosclerosis obliterans, Hypertens. Res., 29:655-663, 2006

Outbreak of human metapneumovirus infection in elderly inpatients in Japan, J. Am. Geriatr. Soc., 54:177-180, 2006

Spontaneous fractures of long bones associated with joint contractures in bedridden elderly inpatients: clinical features and outcome, J. Am. Geriatr. Soc., 53:1439-1441, 2005

Reduction of pneumonia risk by an angiotensin I-converting enzyme inhibitor in elderly Japanese inpatients according to insertion/deletion polymorphism of the angiotensin I-converting enzyme gene, Am. J. Hypertens., 18:1353-1359, 2005

Deletion allele of the angiotensin-converting enzyme gene as a risk factor for pneumonia in elderly patients, The American Journal of Medicine(AM.J.Med.), 112:89-94, 2002

■学術賞

第26回国際内科学会特別賞, 2002

第2回国際新血管薬理シンポジウム特別賞, 1987

■共同研究希望(研究シーズ)

老年病の病態解明および新規治療法の開発

Pathophysiology and new treatment of geriatric diseases

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, 厚生労働科学研究費補助金 萌芽的先端医療技術推進研究事業, 遺伝子多型検索による高血圧個別化診療の確立に関する研究

2005, 厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業, 老年症候群に関与する脳皮質下虚血病変の危険因子解明に関する縦断研究

2005, 厚生労働科学研究費補助金 萌芽的先端医療技術推進研究事業, 遺伝子多型検索による高血圧個別化診療の確立に関する研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

2003, (公)日本動脈硬化予防研究基金, 高齢者高血圧コホート研究

2002, (公)日本動脈硬化予防研究基金, 老年者肺炎の臨床的、遺伝的危険因子の解明と予防・治療に関する研究

医学部／高齢医学(老年病学)

岩井 邦充 准教授

氏名(カナ・英文名)	イワイ クニミツ IWAI Kunimitsu	生年月	1955.11
所 属	医学部／高齢医学(老年病学)	職 名	准教授
最終学歴	大阪大学大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	kiwai@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	心肥大, 核骨格, 転写制御, 冠動脈硬化, 虚血性心疾患, 精神的ストレス		

■職歴

金沢医科大学高齢医学科 准教授(2000.04), 金沢医科大学老年病科 講師(1997.09), 大阪労災病院循環器内科 副部長(1994.07), 大阪大学細胞生体工学センター 助手(1992.04), 大阪大学医学部附属病院医療情報部 医員(1989.07)

■所属学会

日本循環器学会, 日本心臓病学会, 日本内科学会, 日本老年医学会, 基礎老化学会

■研究課題

心肥大情報伝達における核骨格の役割の研究 (Study on the role of nuclear matrix in the signal transduction of myocardial hypertrophy)

中枢神経細胞老化に関わる核骨格の動態 (Study on the role of nuclear matrix in the process of aging of the neuronal cells)

■研究の概要

1. 遺伝子発現のエピジェネティックな制御の中で、核骨格は蛋白-DNA 複合体の立体的構築維持という重要な役割を担う。心筋細胞では伸展刺激に対する適応としての肥大および破綻としての不全、中枢神経細胞では生理的老化を目的にして、組織特異的遺伝子の転写微小環境構築に関与する核骨格を研究する。
2. 精神的ストレスの冠動脈硬化進展および急性冠症候群発症に及ぼす影響をマクロファージの働きに注目して研究する。

■著書

2. 心臓・血管 5. 心臓弁膜症, 予防とつきあい方シリーズ 老年病・認知症～長寿の秘訣～(荻原俊男), メディカルレビュー社, 東京, 2006

III循環器疾患 うつ血性心不全, 日常診療に活かす老年病が仆ブック 高齢者に多い疾患の診療の実際(大内尉義), メジカルビュー社, 東京, 2006

■学術論文

精神的ストレスが大動脈内膜増殖に及ぼす影響、内因性 β -エンドルフィンを介して, 金医大誌, 29:147-154, 2004

Endogenous opioids prevent intimal hyperplasia after endothelial injury in rat aorta, J. Kanazawa. Med. Univ., 26: 162-169, 2001

Disruption of Microtubules as an early Sign of Irreversible Ischemic Injury. Immunohistochemical Study of in Situ Canine Hearts., Circ Res, 67:694-706, 1990

Increased expression of DNA cointroduced with nuclear protein in adult rat liver., Science, 243:375-378, 1989

虚血-再灌流による心筋細胞骨格の傷害, 医学のあゆみ, 165:383-384, 1993

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 萌芽研究, 精神的ストレスの単球・マクロファージを介する急性冠症候群発症への関与

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 脳 MRI 検査における血管周囲腔の拡大と血管周囲組織障害の関連に関する研究

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 脳 MRI 検査における血管周囲腔の拡大と血管周囲組織障害の関連に関する研究

医学部／高齢医学(老年病学)

土屋 博 講師

氏名(カナ・英文名)	ツチヤ ヒロシ TSUCHIYA Hiroshi	生年月	1948.09
所 属	医学部／高齢医学(老年病学)	職 名	講師
最終学歴	杏林大学医学部	学 位	—
電子メール	tsu@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	内科学一般		

■所属学会

日本内科学会, 日本老年医学会, 日本循環器学会, 日本超音波医学会, 日本動脈硬化学会

■研究課題

老年病学, 骨細胞培養, 循環器病

■研究の概要

老化に際し心収縮能はほぼ正常に維持されるが心拡張能は低下することが分かっている。健常老人では左室拡張能は低下するものの通常の生活では心不全を来たすこともなく活動でき、その理由として左室拡張能の低下を代償する心臓レベルでのホメオスタシスが働いていると考えられる。老人に対し侵襲を与えない心エコー図法を用いて左室恒常性維持機序の解明の研究である。

■学術論文

拡張早期左室壁動態と僧帽弁運動の関係に加齢の及ぼす影響-心エコー図法による検討-, 1992

心エコー図法による加齢の左室拡張能と収縮能差及ぼす影響の検討, 1991

「歩行障害と転倒」滝沢哲 槻尾義昭 土屋博 松本正幸, 老化と疾患(医薬ジャーナル社), 1996

妊娠と糖尿病, メディチナ, 1996

歩行障害と転倒, 老化と疾患, 1996

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2004, 科学研究費補助金 萌芽研究, 圧負荷心筋肥大における核骨格による情報伝達、及び遺伝子発現制御の研究

2003, 科学研究費補助金 萌芽研究, 圧負荷心筋肥大における核骨格による情報伝達、及び遺伝子発現制御の研究

医学部／高齢医学(老年病学)

中橋 毅 講師

氏名(カナ・英文名)	ナカハシ タケシ NAKAHASHI Takeshi	生年月	1958.10
所 属	医学部／高齢医学(老年病学)	職 名	講師
最終学歴	大阪大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	tkn@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	血管病態学, 加齢医学		

■職歴

国立大阪南病院 循環器科 レジデント(1991.07), 大阪大学医学部 加齢医学講座 医員(1995.04), Maryland Research Laboratories (米国) 研究員(1998.07), スタンフォード大学 血管外科 リサーチフェロー(2000.07), 金沢医科大学 高齢医学科 講師(2002.04)

■所属学会

日本循環器学会, 日本老年医学会, 米国心臓病学会, 日本内科学会, 日本末病システム学会

■研究課題

動脈硬化の分子生物学的機序の解明 (Molecular Mechanism of atherosclerosis)

■著書

老化の機序, 老年医学 (荻原俊男編), 朝倉書店, 東京, 2003

LIFE収縮期高血圧サブ解析, AII受容体拮抗薬のすべて 第3版, 先端医学社, 東京, 2004

■学術論文

Flow loading induces macrophage aneioxidative gene expression Experimental Aneurysms, Arterioscler. Thromb. Vasc. Biol., 22:2017-22, 2002

Platelets in nonresponders to epinephrine stimulation showed reducal response to ADP, Thrombosis Research, 104:127-35, 2001

Vascular endothelial cells synthesize and secrete brain-derived neurotrophic factor, FEBS Letters, 470:113-7, 2000

Flow loading induces macrophage aneioxidative gene expression Experimental Aneurysms, Arterioscler. Thromb. Vasc. Biol., 22:2017-22, 2002

Platelets in nonresponders to epinephrine stimulation showed reducal response to ADP, Thrombosis Research, 104:127-35, 2001

■共同研究希望(研究シーズ)

動脈硬化の遺伝的 배경の多施設調査

Multi-center surveyrnce of Genetic factors for atherosclerosis

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 口腔粘膜上皮を用いたアルツハイマー病診断に関する研究

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2003, 厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業, 高齢者疾患の易発症性に対する遺伝的負荷の解明

2002, 厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業, 高齢者疾患の易発症性に対する遺伝的不可の解明

医学部／高齢医学(老年病学)

宮内 英二 講師

氏名(カナ・英文名)	ミヤウチ エイジ MIYAUCHI Eiji	生年月	1950.06
所 属	医学部／高齢医学(老年病学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	miyauchi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	老年病学		

■所属学会

日本内科学会, 日本内分泌学会, 日本糖尿病学会, 日本肥満学会, 日本高血圧学会

■研究課題

高齢者の糖尿病日本に関する研究 (Diabetes Mellitus in the Elderly)

■研究の概要

ACE excretion during the development of diabetic nephropathy, together with those in urinary albumin, β 2microglobulin and NAG excretions, were measured at 5-year interval in non-azotemic type 2 diabetic patients with nil, incipient and overt nephropathy.

■著書

主な生活習慣病 (糖尿病), スタンド・公衆衛生学 (眞野喜洋編), 文光堂, 東京, 2002

■学術論文

II 型糖尿病患者における尿中アンジオテンシン変換酵素(ACE)排泄量と腎症の進展について, 金沢医科大学雑誌, 1994

妊娠と糖尿病

行政解剖からみた痴呆性老人の死亡状況, 老年精神医学, 1997

Effects of nitrendipine on left ventricular structure and function and aortic distensibility in elderly patients with isolated systolic hypertension, Current Therapeutic Res., 1997

Noninvasive detection of endothelial dysfunction in elderly with NIDDM by ultrasonography, Echocardiography, 2001

医学部／高齢医学(老年病学)

村井 裕 学内講師

氏名(カナ・英文名)	ムライ ヒロシ MURAI Hiroshi	生年月	1970.09
所 属	医学部／高齢医学(老年病学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	muramura@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	老年病学		

■研究課題

頭部 MRI の画像診断と動脈硬化の関連

■著書

老年者高血圧の生活習慣の改善, 老年者高血圧の治療指針三訂版 (萩原俊男編), 先端医学社, 東京, 2002

■学術論文

Tilting-induced decrease in systolic blood pressure in bedridden hypertensive elderly inpatients: effects of azelnidipine, Hypertens. Res., 29:943-949, 2006

Intrahepatic sarcomatoid cholangiocarcinoma of round cell variant: a case report and immunohistochemical studies, Virchows Arch., 449:585-590, 2006

Angiotensin I-converting enzyme inhibitor improves reactive hyperemia in elderly hypertensives with arteriosclerosis obliterans, Hypertens. Res., 29:655-663, 2006

巨大嚢胞を呈し自然破裂をきたした低分化型脾臓粘液性嚢胞腺癌の超高齢者例, 日老医誌, 43:246-251, 2006

Reduction of pneumonia risk by an angiotensin I-converting enzyme inhibitor in elderly japanese inpatients according to insertion/deletion polymorphism of the angiotensin I-converting enzyme gene, Am. J. Hypertens., 18:1353-1359, 2005

医学部／高齢医学(老年病学)

大黒 正志 助教

氏名(カナ・英文名)	オオクロ マサシ OKURO Masashi	生年月	—
所 属	医学部／高齢医学(老年病学)	職 名	助教
最終学歴	兵庫医科大学医学部	学 位	—
電子メール	okuro@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

老年病学, 内科学, 循環器病, 高血圧, 動脈硬化

■学術論文

Tilting-induced decrease in systolic blood pressure in bedridden hypertensive elderly inpatients: effects of azelnidipine, *Hypertens. Res.*, 29:943-949, 2006

Angiotensin I-converting enzyme inhibitor improves reactive hyperemia in elderly hypertensives with arteriosclerosis obliterans, *Hypertens. Res.*, 29:655-663, 2006

巨大嚢胞を呈し自然破裂をきたした低分化型膵粘液性嚢胞腺癌の超高齢者例, *日老医誌*, 43:246-251, 2006

Extract from inflamed skin of rabbits increases enkephalin concentrations in cerebrospinal fluid in rats, *J. Kanazawa. Med. Univ.*, 30:141-146, 2005

Reduction of pneumonia risk by an angiotensin I-converting enzyme inhibitor in elderly japanese inpatients according to insertion/deletion polymorphism of the angiotensin I-converting enzyme gene, *Am. J. Hypertens.*, 18:1353-1359, 2005

医学部／高齢医学(老年病学)

石神 慶一郎 助教

氏名(カナ・英文名)	イシガミ ケイイチロウ ISHIGAMI Keiichiro	生年月	—
所 属	医学部／高齢医学(老年病学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

医学部／発生発達医学(小児科学)

高橋 弘昭 教授

氏名(カナ・英文名)	タカハシ ヒロアキ TAKAHASHI Hiroaki	生年月	1943.02
所 属	医学部／発生発達医学(小児科学)	職 名	教授
最終学歴	千葉大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	p-taka@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	臨床小児内分泌学, 臨床人類遺伝学		

■所属学会

日本小児科学会, Lawson Wilkins Pediatric Endocrine Society, 日本小児内分泌学会, 日本先天代謝異常学会, 日本先天異常学会

■研究課題

周産期におけるプロラクチンの動態 (Prolactin(PRL) secretion of premature and full-term neonates in normal and various pathological conditions)

ブルーム症候群 (Bloom's syndrome)

■研究の概要

小児内分泌学、人類遺伝学の臨床的研究

■著書

第10章 内分泌疾患, 標準小児科学(分担執筆), 医学書院, 東京, 2006

23. 小児科疾患 低身長, 今日の治療指針 2004年版(山口徹, 北原光夫総編), 医学書院, 東京, 2004

■学術論文

小児諸疾患における髄液中アミノ酸の動態, 小児科臨床, 1986

小児気管支喘息発作時の抗利尿ホルモンの動態, アレルギー, 1987

小児における心房性ナトリウム利尿ペプチド, 小児科, 1989

小児の末梢血リンパ球の表面免疫グロブリン陽性細胞について, 小児科臨床, 1989

思春期遅発症, 小児医学, 1992

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1997, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 未熟児新生児におけるプロラクチン分泌動態と調節機構の発達に関する研究

1996, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 未熟児新生児におけるプロラクチン分泌動態と調節機構の発達に関する研究

1993, 科学研究費補助金 一般研究(C), 未熟児新生児におけるプロラクチン分泌動態と調節機構の発達に関する研究

医学部／発生発達医学(小児科学)

高 永煥 教授

氏名(カナ・英文名)	コウ エイカン KOH Eikan	生年月	1952.05
所 属	医学部／発生発達医学(小児科学)	職 名	教授
最終学歴	京都府立医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	p-koh@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	小児循環器病学		

■所属学会

小児科学会, 小児循環器学会, 循環器学会, 胸部外科学会, 心臓病学会

■研究課題

周産期循環動態 (perinatal circulation)

アドリアマイシン心筋症の成因 (Mechanism of Adriamycin induced cardiomyopathy)

■学術論文

別冊発達 5、子どもの健康と病気、ここまできた早期発見・早期治療・心臓の異常, ミネルバ書房, 1987

小児悪性腫瘍治療症例の遠胸期における Anthracycline 系薬剤による心筋障害残存の検討, 日本小児科学雑誌, 1992

Mycoplasma Pneumoniae 感染症に合併した無症候性心外膜心筋炎, 南大阪医学会誌, 1989

肥大型心筋症と汎発性黒子症底群-Noonan 症候群との異同, 日本小児科学雑誌, 1991

7 年後に再発をみた拡張型心筋症様態を呈したウイルス性心筋炎の 1 例, 心臓, 1989

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), アドリアマイシン心筋症におけるアポトーシスとそのシグナル伝達機構に関する研究

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), アドリアマイシン心筋症におけるアポトーシスとそのシグナル伝達機構に関する研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

1994, 森永奉仕会研究助成金

1993, (財)ヒューマンサイエンス振興財団研究助成金, 新生児期の左右心室流入血流動態

医学部／発生発達医学(小児科学)

柳瀬 卓也 学内講師

氏名(カナ・英文名)	ヤナセ タクヤ YANASE Takuya	生年月	1956.09
所 属	医学部／発生発達医学(小児科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	p-yanase@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	小児血液		

■所属学会

日本小児科学会，日本小児血液学会，日本血液学会，日本小児がん学会，臨床血液学会

■研究課題

小児白血病の治療に関する研究 (Study on children's Leukemias the raphy)

■学術論文

当院で経験した若年性関節リウマチの臨床的検討，小児科臨床，1996

EB ウイルス関連抗体が陰性であった EBvirus-associated hemophagocytic syndrome(EBV-AHS)の 1 例，小児科臨床，1997

医学部／発生発達医学(小児科学)

中村 常之 学内講師

氏名(カナ・英文名)	ナカムラ ツネユキ NAKAMURA Tsuneyuki	生年月	—
所 属	医学部／発生発達医学(小児科学)	職 名	学内講師
最終学歴	富山医科薬科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	小児循環器・不整脈・川崎病、胎児心臓病、成人先天性疾患		

■研究課題

先天性心疾患の診断・治療・管理、川崎病の原因究明

■研究の概要

新しい川崎病モデル動物作成の研究:BCG 菌と非定型抗酸菌の交差性

■学術論文

Valproate hepatotoxicity in a 5-year-old boy with cerebral palsy due to neonatal asphyxia, *Pediatr. Int.*, 48:631-633, 2006

Troponin-T and brain natriuretic peptide as predictors for adriamycin-induced cardiomyopathy in rats, *Circ J*, 68:163-167, 2004

Apoptosis in young rats with adriamycin-induced cardiomyopathy – comparison with pirarubicin, a new anthracycline derivative, *Pediatr. Res.*, 256-259, 2002

Fas-mediated apoptosis in adriamycin-induced cardiomyopathy in rats in vivo study, *Circulation*, 102:572-578, 2000

Infantile spasms in a patient with partial duplication of chromosome 2p, *Clin Genet*, 56(1):93-4, 1999

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 非定型抗酸菌を用いたモデルマウスによる川崎病の解明に関する研究

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 非定型抗酸菌を用いたモデルマウスによる川崎病の解明に関する研究

医学部／発生発達医学(小児科学)

小林 あずさ 学内講師

氏名(カナ・英文名)	コバヤシ アズサ KOBAYASHI Azusa	生年月	1970.10
所 属	医学部／発生発達医学(小児科学)	職 名	学内講師
最終学歴	—	学 位	医学博士
電子メール	p-azusa@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	未熟児・新生児病		

■所属学会

日本小児科学会，日本未熟児新生児学会

■研究課題

未熟児・新生児病学

■学術論文

激烈な経過を辿った一過性異常骨髄増殖症を合併した Down 症候群の2例，日小児会誌，110:553-556, 2006

Three novel and six common mutation in 11 patients with methylmalonic acidemia, Pediatr. Int., 48:1-4, 2006

先天性横隔膜ヘルニアにおける予後予測因子としてのMRI肺-肝信号比の有用性，金医大誌，30:572-576, 2005

14C-propionate incorporation assay by rapid filtration in multiwell plates., Clin. Chim. Acta, 343:209-212, 2004

進行性水頭症を呈した先天性筋強直性ジストロフィーの女児例，小児診療，66: 1414-1416, 2003

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 若手研究(B), 超音波装置を用いた超低出生体重児に対するカテーテルコイル塞栓術開発の研究

2005, 科学研究費補助金 若手研究(B), 超音波装置を用いた超低出生体重児に対するカテーテルコイル塞栓術開発の研究

医学部／発生発達医学(小児科学)

中村 利美 助教

氏名(カナ・英文名)	ナカムラ トシミ NAKAMURA Toshimi	生年月	—
所 属	医学部／発生発達医学(小児科学)	職 名	助教
最終学歴	富山医科薬科大学医学部	学 位	—
電子メール	p-tosimi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	小児アレルギー性疾患		

■研究課題

小児気管支喘息・食物アレルギー

■研究の概要

小児気管支喘息患児における吸入ステロイド薬による副腎皮質機能への影響を CRH 負荷試験により評価する。

■学術論文

発熱時に無呼吸発作を繰り返した Human Herpesvirus-6 感染の1例, 小児臨, 57:1845-1948, 2004

小児の不顕性誤嚥, 小児科, 45:1431-1436, 2004

I 型ガラクトース血症の1例, 小児臨, 50:1707-1719, 1997

医学部／発生発達医学(小児科学)

伊藤 順庸 助教

氏名(カナ・英文名)	イトウ マサツネ ITO Masatsune	生年月	—
所 属	医学部／発生発達医学(小児科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	p-itou@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■所属学会

日本小児科学会, 日本小児内分泌学会, 日本内分泌学会

■研究課題

小児内分泌代謝病学

■学術論文

A novel mutation in the monocarboxylate transporter 8 gene in a boy with putamen lesions and low free T₄ levels in cerebrospinal fluid, J. Pediatr., 147:552-554, 2005

■研究費採択状況(その他の助成金)

2004, 森永奉仕会研究助成金, 新生児持続性高インスリン血症性低血糖症の病態解明と治療に関する研究

医学部／発生発達医学(小児科学)

山村 淳一 助教

氏名(カナ・英文名)	ヤマムラ ジュンイチ YAMAMURA Junichi	生年月	—
所 属	医学部／発生発達医学(小児科学)	職 名	助教
最終学歴	富山医科薬科大学大学院医学系研究科	学 位	医学博士
電子メール	p-jun1@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	小児心身症, 小児感染症, 臨床ウイルス学, 外来迅速診断, 小児心身症・小児免疫・アレルギー・膠原病学		

■職歴

シカゴ大学医学部 研究員(1999.07), 富山医科薬科大学 文部教官助手(1995.04)

■所属学会

日本小児科学会, 日本感染症学会, 日本小児感染症学会

■研究課題

自己免疫病態仮説(分子相同性仮説)に基づいた BCG 感作・川崎病モデルマウスの開発 (BCG Immunized Animal Model for Kawasaki Disease as Auto Immune Disease (By Molecular Mimicry))

リアルタイム PCR によるマイコプラズマニューモニエ・クラミジアニューモニエ・百日咳感染症の外来迅速診断 (Detection for Mycoplasma, Chlamydia pneumoniae, and Bordetella pertussis by Real-time PCR)

■研究の概要

1. 川崎病モデル動物の開発
2. 小児感染症の診断と治療
リアルタイム PCR によるマイコプラズマ・クラミジアニューモニエ・百日咳菌の検出
3. 臨床ウイルス学および HSV ベクターを用いた神経疾患の遺伝子治療

■学術論文

A live non-neurovirulent herpes simplex virus vector expresses β -galactosidase in the nervous system of the Wistar and Sprague-Dawley strain rat for a prolonged period., Neurosci. Lett., 245:69-72, 1998

Long-term gene expression in the anterior horn motor neurons after intramuscular inoculation of a live herpes simplex virus vector., Gene Therapy, 7(11):934-941, 2000

Effect of immunity on gene delivery into anterior horn motor neurons by live attenuated herpes simplex virus vector., Gene Therapy, 8(15):1180-1187, 2001

Regulated transgene delivery by ganciclovir in the brain without physiological alterations by a live attenuated herpes simplex virus vector., Neuroscience Research, 45(2):233-241, 2003

Topical treatment of cutaneous herpes simplex virus-1 infection in mice with a specially formulated caffeine gel (Cafon)., J. Dermatol. Sci., 12:50-55, 1996

医学部／発生発達医学(小児科学)

藤木 拓磨 助教

氏名(カナ・英文名)	フジキ タクマ FUJIKI Takuma	生年月	—
所 属	医学部／発生発達医学(小児科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	fujitsky@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

小児腎臓病学

■学術論文

Valproate hepatotoxicity in a 5-year-old boy with cerebral palsy due to neonatal asphyxia, *Pediatr. Int.*, 48:631-633, 2006

リドカインクリームが誘因でけいれん重積発作を引き起こした幼児例, *小児臨*, 57:1725-1728, 2004

医学部／発生発達医学(小児科学)

佐藤 仁志 助教

氏名(カナ・英文名)	サトウ ヒトシ SATO Hitoshi	生年月	—
所 属	医学部／発生発達医学(小児科学)	職 名	助教
最終学歴	富山医科薬科大学医学部	学 位	—
電子メール	p-hsato@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

臨床ウイルス学、小児感染症

■学術論文

γ グロブリン大量療法中に無菌性髄膜炎を発症した川崎病の1例, Progress in Medicine, 26:1537-1540, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 若手研究(B), 水痘－带状疱疹ウイルス感染における糖タンパクによる免疫修飾能の検討

2005, 科学研究費補助金 若手研究(B), 水痘－带状疱疹ウイルス感染における糖タンパクによる免疫修飾能の検討

医学部／発生発達医学(小児科学)

岡田 直樹 助教

氏名(カナ・英文名)	オカダ ナオキ OKADA Naoki	生年月	—
所 属	医学部／発生発達医学(小児科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	p-okanao@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	小児科学		

■研究課題

小児血液病学、小児悪性腫瘍

■学術論文

小児の不顕性誤嚥, 小児科, 45:1431-1436, 2004

医学部／発生発達医学(小児科学)

池田 友美 助教

氏名(カナ・英文名)	イケダ トモミ IKEDA Tomomi	生年月	—
所 属	医学部／発生発達医学(小児科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	zuchan-1@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■学術論文

当院における細菌性髄膜炎症例の臨床検討, 小児臨, 58:2263-2271, 2005

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

地引 逸亀 教授

氏名(カナ・英文名)	ジビキ イツキ JIBIKI Itsuki	生年月	—
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	てんかん, 精神分裂病, 晩発性精神病, epilepsy, schizophrenia, late onset psychosis		

■所属学会

日本てんかん学会, 日本臨床神経生理学会, 日本生物学的精神医学会, 日本神経学会, 日本精神・神経学会

■研究課題

てんかんの診断と治療における SPECT による局所脳血流測定の有用性 (Utility of regional cerebral blood flowwith SPECT for diagnosis and therapy of epilepsy)

精神分裂病患者の局所脳血流動態に関する研究-抗精神病薬の影響について- (Study of regional cerebral blood flowin schizophrenics-effect of antipsychotics-)

■著書

中毒性認知症、看護のための最新医学講座第 13 巻(第 2 版), 武田雅俊編集, 中山書店, 東京, 2005

皮質機能低下・皮質下機能亢進仮説 (Weinberger), 精神疾患 100 の仮説・改訂版(石郷岡 純 編), 星和書店, 東京, 2004

■学術論文

急性キンドリング『てんかんの神経機構-キンドリングによる研究-』, 世界保健通信社, 1993

精神分裂病と前頭葉, 神経精神薬理, 1993

特集/てんかん-その最近の進歩-:てんかんの SPECT(PET), 神経内科, 1993

難治てんかんの神経画像診断の意義, 精神医学レビュー, 1993

てんかん患者における SPECT による局所脳血流の絶対値測定に関する研究.I.てんかん薬服用患者における局所脳血流の全般的低下, 厚生省精神・神経疾患研究委託費『難治てんかんの病態と治療に関する研究』平成 4 年度研究報告書, 1993

■学術賞

日本てんかん学会 Juhn A.Wada 賞, 1979

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), fMRI によるてんかん患者の記憶機能の優位半球側方性に関する研究

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), fMRI によるてんかん患者の記憶機能の優位半球側方性に関する研究

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), fMRI によるてんかん患者の記憶機能の優位半球側方性に関する研究

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), SPECT による精神分裂病患者における抗精神病薬のメカニズムに関する研究

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), SPECT による精神分裂病患者における抗精神病薬のメカニズムに関する研究

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2000, 国立精神・神経センター精神・神経疾患研究委託費, 新技術を用いたてんかん等の診断法と治療法の開発:「SPECT を用いた新しいてんかんの診断」

1999, 国立精神・神経センター精神・神経疾患研究委託費, 新技術を用いたてんかん等の診断法と治療法の開発:「SPECT を用いた新しいてんかんの診断」

1998, 国立精神・神経センター精神・神経疾患研究委託費, 新技術を用いた難治てんかんの診断法と治療法「SPECT を用いた新しいてんかんの診断」

■研究費採択状況(その他の助成金)

2000, (財)てんかん治療研究振興財団研究助成, Functional MRI を用いた側頭葉てんかん患者の記憶機能マッピングに関する研究

1999, 精神神経系薬物治療研究基金研究助成金, 海馬貫通路歯状回での興奮性シナプス伝達とくに長期増強現象に対する抗精神病薬リスペリドンの影響に関する研究

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

窪田 孝 准教授

氏名(カナ・英文名)	クボタ タカシ KUBOTA Takashi	生年月	1951.09
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	准教授
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	t-kubota@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	精神神経科学		

■職歴

2002-2003 金沢医科大学医学部 助教授, 2002-2003 Assistant Professor, Kanazawa Medical , University

■所属学会

日本精神神経学会, 日本臨床神経生理学会, 日本生物学的精神医学会, 日本てんかん学会, 日本心身医学会

■研究課題

抗精神病薬の作用機序に関する実験的研究 (Experimental Studies on mechanisms of action antipsychotics)

SPECT を用いたてんかん患者の脳イメージング (SPECT brain imaging in epileptic patients)

■著書

睡眠呼吸障害の合併症 精神的障害、睡眠時無呼吸症候群以外の睡眠障害 神経精神科領域、睡眠呼吸障害診療のポイント(梶 博久監修、高橋昌克編), メジカルビュー社, 東京, 2006

睡眠呼吸障害 診療のポイント, 梶 博久, メジカルビュー社, 東京, 2006

■学術論文

Effects of zotepine on excitatory synaptic responses in the perforant path-dentate gyrus pathway in chronically prepared rabbits, European Journal of Pharmacology, 2002

Effects of zotepine on excitatory synaptic responses in the perforant path-dentate gyrus pathway in chronically prepared rabbits, European Journal of Pharmacology, 2002

Facilitative effect of carbamazepine on previously induced hippocampal long-term potentiation, Pharmacology Biochemistry & Behavior, 1992

Haloperidol-induced blockade of long-term potentiation in the perforant path-dentate gyrus pathway in chronically prepared rabbits. (共著), Pharmacology, Biochemistry & Behavior, 1993

Carbamazepine-induced blockade of induction of long-term potentiation in the perforant path-dentate gyrus in chronically prepared rabbits, Neuroscience Letters, 1994

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), てんかん精神病の発現機序の研究

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), てんかん精神病の発現機序の研究

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), てんかん精神病の発現機序の研究

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

岩崎 真三 講師

氏名(カナ・英文名)	イワサキ シンゾウ IWASAKI Shinzo	生年月	1963.09
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	shinzo@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	精神神経科学, 神経・筋肉生理学(大脳誘発電位・事象関連電位), 脳画像診断学, 神経心理学		

■所属学会

日本精神神経学会, 日本老年精神医学会, 日本神経精神医学会, 日本生物学的精神医学会, 日本神経心理学会

■研究課題

機能的 MRI を用いた記憶課題遂行時における脳内賦活部位に関する脳画像研究 (f-MRI) (Brain mapping of f-MRI in memory tasks)

視覚弁別課題遂行時における事象関連電位の P300 成分に関する研究 (P300 component of Event-Related Potential (ERP))

■研究の概要

統合失調症患者における機能的 MRI を用いた言語性および視覚性記憶課題遂行時の脳内賦活部位に関する脳画像研究

■学術論文

精神分裂病者の視覚弁別課題時に出現する事象関連電位(ERP)の P300 成分に関する研究-健常者との比較および ERP 波形分類の試み-, 金沢医科大学雑誌, 1993

分裂病者における P300 振幅の減衰は常に trait marker と言えるか-緊張型 4 症例での寛解期の回復-, 精神医学, 1995

半球間離断症状を呈した脳梁膨大部 astrocytoma の 1 例-特に視野別視覚刺激およびキメラ刺激を用いたタキストスコープ検査所見を中心に-, 脳と精神の医学, 1995

各科における大建中湯の応用、神経精神科における大建中湯の応用、漢方と最新治療, 12:229-234, 2003

麻痺性発作を繰り返した Lissauer 型進行麻痺の重症例, 精神, 6:624-630, 2005

■学術賞

松原記念奨励賞, 1996

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

1999, 厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業, 脳の老化の症状評価における生理学的指標の応用に関する研究

1998, 厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業, 脳の老化の症状評価における生理学的指標の応用に関する研究

1997, 厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業, 脳の老化の症状評価における生理学的指標の応用に関する研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

1996, (公)松原三郎記念事業松原記念奨励賞, 精神分裂病者の視覚弁別課題時に出現する事象関連電位(ERP)の P300 に関する縦断的研究

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

中川 東夫 講師

氏名(カナ・英文名)	ナカガワ ハルオ NAKAGAWA Haruo	生年月	1956.02
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	f-naka@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	神経精神生理学, 精神神経科学		

■所属学会

日本脳波・筋電図学会, 日本生物学的精神医学会, 北陸精神神経学会, 北陸司法精神医学懇話会, 日本精神病理学会

■研究課題

事象関連電位の P300 成分 (P300 component of ERP)

■学術論文

健常者の視覚弁別作業時に出現する事象関連電位 P300 成分の個人差に関する研究, 金沢医科大学雑誌, 1992

気分変調ならびに一過性の幻覚妄想症状を呈した慢性甲状腺炎の 1 例, 北陸神経精神医学雑誌, 1987

健常者の視覚弁別作業時に出現する事象関連電位 P300-男性と女性との比較検討-, 北陸神経精神医学雑誌, 1996

強迫症状と精神分裂病症状との関係-時間系列に基づく分類の試み-, 臨床精神医学 国際医書出版, 1998

アニラセタム投与により脳梗塞後遺症に伴う抑うつ状態と情緒障害が著明改善した 1 症例, 老化と疾患 (株)医薬ジャーナル社, 1998

■学術賞

松原記念奨励賞, 1993

■研究費採択状況(その他の助成金)

1990, (公)松原三郎記念事業松原記念奨励賞, 正常成人の視覚情報処理に伴う事象関連電位について

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

渡辺 健一郎 講師

氏名(カナ・英文名)	ワタナベ ケンイチロウ WATANABE Kenichiro	生年月	—
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	psychiat@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	精神神経科学		

■職歴

金沢医科大学医学部 講師(2006.04), 金沢医科大学医学部 学内講師(1999.04), 金沢医科大学医学部 助手(1992.04)

■所属学会

日本神経心理学会

■研究課題

神経心理学, 精神薬理

■研究の概要

記憶障害の臨床的特長の研究
作話の発生するメカニズムの研究

■学術論文

脳挫傷により生じた運動無視の1例, 脳と精と医, 16:133-137, 2005

Aniracetam 投与後に出現した皮膚寄生虫妄想の1例, 北陸神経医誌, 19:29-33, 2005

Olanzapine が有効であった統合失調症の女児例, 新薬と臨, 54:871-874, 2005

突然死のマネージメント, 臨精医, 増刊号:22-26, 2005

音楽性幻聴を認めた2女性例, 北陸神経医誌, 14:35-43, 2000

■研究費採択状況(その他の助成金)

1993, (公)松原三郎記念事業松原記念奨励賞, 精神分裂病患者における ACTH,cortisol の血中濃度の日内変動及び dexamethasone 投与によるその変化と臨床症状の関係

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

北本 福美 学内講師

氏名(カナ・英文名)	キタモト フクミ KITAMOTO Fukumi	生年月	—
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	学内講師
最終学歴	追手門学院大学文学部	学 位	—
電子メール	fukumi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	精神神経科学		

■所属学会

日本音楽療学会

■研究課題

臨床心理学, 心理療法

■著書

痴呆性高齢者のケアにおける音楽療法, 芸術療法実践講座 4「音楽療法」(飯森真喜雄 阪上正巳 編), 岩崎学術出版社, 東京, 2004

音楽療法, 研修用テキスト 専門課程 高齢者痴呆介護実践講座Ⅱ (高齢者痴呆介護研究・研修センターテキスト編集委員会編), 第一法規, 東京, 2002

■学術論文

音楽療法のあるところ, 臨心理, 6:273-275, 2006

雰囲気としての心理面接, 精神療法, 32:110-111, 2006

麻痺性発作を繰り返した Lissauer 型進行麻痺の重症例, 精神, 6:624-630, 2005

いじめに関連した抜毛症の1女児の治療における考察, 心療内科, 9:58-64, 2005

「資格取得後の学習—更新規則検討部会長の立場から」, 日音楽療会誌, 5:96-100, 2005

■研究費採択状況(その他の助成金)

1999, (公)松原三郎記念事業松原記念奨励賞, 痴呆性疾患へのサイコ・ソーシャルなアプローチの効果の検討

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

江夏 偉岳 助教

氏名(カナ・英文名)	エナツ イガク ENATSU Igaku	生年月	—
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	ie59958@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

老年期精神病

■学術論文

青年期に至るまで Imaginary Companion が存続した 2 例—その臨床精神医学的特徴について—, 臨精医, 35:1017-1025, 2006

金沢医科大学神経精神医学教室における生物学的精神医学研究の現況, 脳と精と医, 15:167-173, 2004

SPECT を用いた新しいてんかんの診断—特にてんかん患者の SPECT 脳画像診断における statistical parametric mapping (SPM) によるジャックナイフ検定画像の応用—, 厚生省精神・神経疾患研究委託費, 新技術を用いたてんかん等の診断法と治療法の開発, 平成 12 年度研究報告書, 39-44, 2001

強迫性障害の心理査定と治療計画の実際—異なった症状を呈する3例の治療過程を基に—, 北陸神精医誌, 15: 32-42, 2001

SPECT を用いた新しいてんかんの診断—成人の部分てんかん患者における SPECT 局所脳血流所見と神経心理学的所見の相関, 平成 11 年度厚生省精神・神経疾患研究委託費(10 指—1)新技術を用いたてんかん等の診断法と治療法の開発, 厚生省精神・神経疾患研究報告集(平成 11 年度), 14, 2000

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

亀廣 摩弥

助教

氏名(カナ・英文名)	カメヒロ マヤ KAMEHIRO Maya	生年月	—
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	maya-k@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	精神神経科学		

■所属学会

日本医学放射線学会, 日本神経精神医学会

■研究課題

核磁気共鳴医学による診断学 (Diagnosis of MRI)

■学術論文

神経衰弱、慢性疲労症候群(CFS)、うつ病の三者間における概念と診断—3 症例の検討を通して—, 心身医, 46:897-905, 2006

いじめに関連した抜毛症の1 女児の治療における考察, 心療内科, 9:58-64, 2005

初発年齢による wrist cutting の分類, 心療内科, 8:436-442, 2004

Chordoid glioma of the third ventricle:CT and MR findings, J.Comput.Assist.Tomogr., 24:336-338, 2000

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

小泉 葉月 助教

氏名(カナ・英文名)	コイズミ ハヅキ KOIZUMI Hazuki	生年月	—
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	hkoizumi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

臨床心理学, 認知行動療法

■研究の概要

強迫性障害や摂食障害への認知行動療法の実践とその効果に関する研究

■学術論文

金沢医科大学神経精神医学教室における生物学的精神医学研究の現況, 脳と精と医, 15:167-173, 2004

強迫性障害の認知行動療法, 心理臨床研, 22:347-357, 2004

強迫性障害の心理査定と治療計画の実際－異なった症状を呈する3例の治療過程を基に－, 北陸神精医誌, 15: 32-42, 2001

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

小岩 大輔 助教

氏名(カナ・英文名)	コイワ ダイスケ KOIWA Daisuke	生年月	—
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	d-518@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

脳画像診断, 統合失調症

■研究の概要

99mTc-HMPAO SPECT を用いた未投薬および未服薬の統合失調症患者における非定型抗精神病薬risperidoneの局所脳血流に及ぼす影響に関する研究

■学術論文

金沢医科大学神経精神医学教室における生物学的精神医学研究の現況, 脳と精と医, 15:167-173, 2004

99mTc-HMPAO SPECT を用いた未投薬および未服薬の統合失調症患者における非定型抗精神病薬 risperidone の局所脳血流に及ぼす影響に関する研究, 金
医大誌, 28: 251-261, 2003

音楽性幻聴を認めた2女性例, 北陸神精医誌, 14:35-43, 2000

■研究費採択状況(その他の助成金)

2002, (公)松原三郎記念事業松原記念奨励賞, SPECT による局所脳血流測定を用いた抗精神病薬の作用に関する研究—リスぺリドン[®]の経口投与の作用について—

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

南野 壽利 助教

氏名(カナ・英文名)	ナンノ ヒサトシ NANNO Hisatoshi	生年月	—
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	taketora@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	統合失調症		

■研究課題

統合失調症

■学術論文

塩酸ペロスピロンが奏功した妄想型統合失調症の2例, 臨と研, 82:1425-1427, 2005

救急搬送の適応に関する検討, 北陸救急医療, 1: 33-34, 2001

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

廣保 究 助教

氏名(カナ・英文名)	ヒロヤス キワム HIROYASU Kiwamu	生年月	—
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	q-hiro@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

分子精神医学, 統合失調症

■研究の概要

統合失調症患者における非定型抗精神病薬(Risperidone, Quetiapine, Olanzapine, Perospirone)の治療反応性を精神症状評価尺度を用いて調べ、これとDopamineD2受容体多型(DRD2: -141delC, Taq1A, Ser311Cys)との関係を検討する。

■学術論文

電気けいれん療法が著効したステロイド精神病の1例, 臨精医, 35:1243-1247, 2006

幻視に対して塩酸ペロスピロンが有効であったLewy小体型痴呆(DLB)の1例, 金医大誌, 30:584-588, 2005

金沢医科大学神経精神医学教室における生物学的精神医学研究の現況, 脳と精と医, 15:167-173, 2004

電位依存性カリウムイオンチャンネル遺伝子KCNQ3のマウス胸腺における発現, 金医大誌, 29:299-304, 2004

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 若手研究(B), ドーパミンD2遺伝子多型と非定型抗精神病薬による治療予測

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

石川 暁 助教

氏名(カナ・英文名)	イシカワ アキラ ISHIKAWA Akira	生年月	—
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	akira114@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	精神薬理学		

■研究課題

脳内微小透析法を用いた Clozapine induced potentiation における脳内神経伝達物質:グルタメート, DA・SHT 濃度の変化 (Study on Effects of CLOzapine on Neuro transmitter Fundion with Microdialysis in Rabbiy Braih)

■学術論文

クロザピン誘発性興奮性シナプス伝達増強現象における家兔脳内ドーパミン濃度の増加, 金医大誌, 31:30-41, 2006

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

川村 友美 助教

氏名(カナ・英文名)	カワムラ トモミ KAWAMURA Tomomi	生年月	—
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	精神神経科学		

■職歴

金沢医科大学 助教(2007.04)

■研究課題

抗精神病薬の作用機序に関する実験的研究

■研究の概要

非定型抗精神病薬オランザピンとアリピプラゾールの急性投与による家兎海馬における興奮性シナプス伝達およびドーパミン、セロトニン濃度に及ぼす影響について

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

清水 聡 助教

氏名(カナ・英文名)	シミズ サトル SHIMIZU Satoru	生年月	—
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

医学部／精神神経科学(神経精神医学)

増田 信二 助教

氏名(カナ・英文名)	マスダ シンジ MASUDA Shinji	生年月	—
所 属	医学部／精神神経科学(神経精神医学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

医学部／放射線診断治療学(放射線医学)

利波 久雄 教授

氏名(カナ・英文名)	トナミ ヒサオ TONAMI Hisao	生年月	—
所 属	医学部／放射線診断治療学(放射線医学)	職 名	教授
最終学歴	信州大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	tonami@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	Radiology		

■職歴

1980-1985 金沢医科大学医学部助手，1985-1992 金沢医科大学医学部講師，1992-1999 金沢医科大学医学部助教授，1999-2004 金沢医科大学医学部教授(特任)，2004- 金沢医科大学医学部部門教授(2004.09)

■所属学会

日本医学放射線学会，日本磁気共鳴医学会，日本核医学会，日本放射線腫瘍学会，日本放射線科専門医会

■研究課題

磁気共鳴映像法に関する研究 (Study on magnetic resonance imaging)

頭頸部領域の放射線診断 (Radiologic diagnosis of head and neck region)

■研究の概要

MR sialography の開発とシェーグレン症候群の診断および病期判定への臨床応用
マルチスライス CT 画像を用いた血管性病変の数値力学的解析

■著書

Malignant lymphoma in Sjogren syndrome, Radiological imaging in hematological malignancies (Al:Guerhazi) , Springer-Verlag, Berlin, 2004

Evaluation of pharyngolaryngeal region with 3-D computed tomography, Current Topics on Tonsils and Mucosal Barriers of Upper Airways (N.Yamanaka, et al. edt), Elsevier B.V., Amsterdam, 2003

■学術論文

Influence of saline flushing on the optimal temporal window for CT of the liver using a time-density analysis, Radiat. Med., 23:557-562, 2005

In-vitro ¹H-MRS of excised rabbit lung : Evaluation of preservation method of the lung using 10% DMSO solution, Radiat. Med., 23:590-593, 2005

Usefulness of a saline flush for intravenous 3-dimensional computed tomography portography using multidetector—row helical computed tomography, J. Comput. Assist. Tomogr., 29:780-785, 2005

¹⁸F-FDG uptake by primary tumor as a predictor of intratumoral lymphatic vessel invasion and lymph node involvement in non-small cell lung cancer : analysis of a multicenter study, J. Nucl. Med., 46:267-273, 2005

Osteoblastic osteosarcoma of the mandible: Findings on Tc-99m HMDP bone and Ga-67 citrate scintigraphy, Clin. Nucl. Med., 30:608-609, 2005

■学術賞

Excellence in Design, RSNA, 2001.11

Certificate of Merritt, RSNA, 2001.11

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 拡散強調画像とダイナミック MR シアログラフィーによるシェーグレン症候群の病態解析

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 拡散強調画像とダイナミック MR シアログラフィーによるシェーグレン症候群の病態解析

2005, 文部科学省 IT プログラム研究開発委託事業, スーパーコンピュータネットワーク上でのリアル実験環境の実現(医療分野における分野横断的循環器疾患診断診療支援システムの検証)

2004, 文部科学省 IT プログラム研究開発委託事業, スーパーコンピュータネットワーク上でのリアル実験環境の実現(医療分野における分野横断的循環器疾患診断診療支援システムの検証)

2003, 文部科学省 IT プログラム研究開発委託事業, スーパーコンピュータネットワーク上でのリアル実験環境の実現(医療分野における分野横断的循環器疾患診断診療支援システムの検証)

医学部／放射線診断治療学(放射線医学)

東 光太郎 教授

氏名(カナ・英文名)	ヒガシ コウタロウ HIGASHI Kotaro	生年月	1955.02
所 属	医学部／放射線診断治療学(放射線医学)	職 名	教授
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	h550208@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	核医学		

■職歴

金沢医科大学医学部 教授(2001), 金沢医科大学医学部 助教授(1995)

■所属学会

日本核医学会, 日本医学放射線学会, 日本放射線腫瘍学会, 米国核医学会(SNM), 北米放射線学会(RSNA)

■研究課題

腫瘍における PET に関する研究 (Study on oncology PET)

■研究の概要

肺癌への FDG の集積機序および肺癌診断における FDG PET の有用性について研究し, FDG 集積度が肺腺癌の悪性度を反映することを明らかにした。

■著書

FDG PET による肺癌診断医学のあゆみ(別冊)呼吸器疾患—State of arts 2003-2005—, (北村論, 福地義之助, 石川芳樹編), 医歯薬出版, 東京, 2003

18F-FDG の正常パターン, 18F-FDG 定量:SUV の計算法と利用法, 18F-FDG がよく集積する疾患, 偽陰性となりやすい悪性腫瘍, 偽陰性となりやすい良性疾患, 核医学画像診断ハンドブック (中嶋憲一 編), エルゼビアジャパン, 東京, 2003

■学術論文

¹⁸F-FDG uptake by primary tumor as a predictor of intratumoral lymphatic vessel invasion and lymph node involvement in non-small cell lung cancer : analysis of a multicenter study, J. Nucl. Med., 46:267-273, 2005

In vitro proton magnetic resonance spectroscopic lactate and choline measurements, 18F-FDG uptake, and prognosis in patients with lung adenocarcinoma, J. Nucl. Med., 45 :1334-1339, 2004

¹¹C-acetate PET imaging of lung cancer: comparison with 18F-FDG PET and ^{99m}Tc-MIBI SPET, Eur. J. Nucl. Med. Mol. Imaging, 31 :13-21, 2004

18F-FDG uptake as a biologic prognostic factor for recurrence in patients with surgically resected non-small cell lung cancer, J. Nucl. Med., 43: 39-45, 2002

Correlation of glut-1 glucose transporter expression with [¹⁸F] FDG uptake in non-small cell lung cancer, Eur J Nucl Med, 27:1778-1785, 2000

■学術賞

北米放射線学会 Cum laude, 1993

Journal of Nuclear Medicine, most Significant Manuscript of 1993, 1994

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), FDG PET による肺癌分子標的治療の関連遺伝子発現の評価と治療効果予測

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), FDG PET による肺癌分子標的治療の関連遺伝子発現の評価と治療効果予測

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), FDG PET による肺癌分子標的治療の関連遺伝子発現の評価と治療効果予測

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), C-11 酢酸による肺癌の低酸素状態の測定と放射線感受性、多剤耐性発現との関連性

1998, 科学研究費補助金 基盤研究(C), C-11 酢酸による肺癌の低酸素状態の測定と放射線感受性、多剤耐性発現との関連性

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, がん研究助成金, 画像診断に基づく消化器がん、肺がん、乳がんの clinical staging の確立と治療法選択に関する研究

2005, がん研究助成金, 画像診断に基づく消化器がん、肺がん、乳がんの clinical staging の確立と治療法選択に関する研究

2004, がん研究助成金, 画像診断に基づく消化器がん、肺がん、乳がんの clinical staging の確立と治療法選択に関する研究(FDG PET による肺がんの clinical staging の確立と staging 別の治療法の選択に関する研究)

■研究費採択状況(その他の助成金)

1994, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, 18FDG を用いたボシトロン CT による原発性肺癌の糖代謝測定に関する研究: 腫瘍の糖代謝活性と増殖能との関係について

医学部／放射線診断治療学(放射線医学)

的場 宗孝 准教授

氏名(カナ・英文名)	マトバ ムネタカ MATOBA Munetaka	生年月	—
所 属	医学部／放射線診断治療学(放射線医学)	職 名	准教授
最終学歴	金沢医科大学 大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	m-matoba@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	放射線科学		

■所属学会

日本医学放射線学会, 日本放射線腫瘍学会, 日本インターベンショナルラジオロジー学会, 日本磁気共鳴医学会

■研究課題

核磁気共鳴医学による診断学 (Diagnosis of MRI)

■学術論文

急性巣状細菌性腎炎の画像診断, 小児臨, 59:1583-1588, 2006

慢性肝疾患の腹部造影CTにおける高濃度造影剤生食フラッシュの有用性に関する検討 体重 60kg以上で高容量製剤使用群との比較検討, 臨放, 51:1851-1856, 2006

画像診断の新たな潮流, 金医大誌, 30:413-419, 2005

Influence of saline flushing on the optimal temporal window for CT of the liver using a time-density analysis, Radiat. Med., 23:557-562, 2005

In-vitro ¹H-MRS of excised rabbit lung : Evaluation of preservation method of the lung using 10% DMSO solution, Radiat. Med., 23:590-593, 2005

■学術賞

金沢医科大学医学会「論文表彰」, Intermittent hepatic artery antibiotic infusion therapy for pyogenic hepatic abscess. ACTA RADIOLOGICA,10:13-17,2004.2005.07

臨放論文賞, 急性脾炎に対する脾酵素阻害剤持続動注療法の実験と有効性 1995.03

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 担癌動物に対する集学的治療後の治療効果判定における高分解能 MRI の検討

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 担癌動物に対する集学的治療後の治療効果判定における高分解能 MRI の検討

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 一過性動脈塞栓剤が腫瘍組織におよぼす虚血再灌流障害に関する検討

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 一過性動脈塞栓剤が腫瘍組織におよぼす虚血再灌流障害に関する検討

医学部／放射線診断治療学(放射線医学)

横田 啓 准教授

氏名(カナ・英文名)	ヨコタ ハジメ YOKOTA Hajime	生年月	—
所 属	医学部／放射線診断治療学(放射線医学)	職 名	准教授
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	核磁気共鳴分光法		

■所属学会

日本医学放射線学会, 日本磁気共鳴医学会, 日本外科学会, 日本血管造影・IVR 学会中部地方会

■研究課題

カドミウム中毒症の腎画像的变化及び細胞内エネルギー代謝の変化 (Effect of Cadmium in Rat Kidney evaluated with ^{31}P -MRS and ^1H -MRI)

■学術論文

衝撃波照射後の実験的肝障害における ^{31}P -MRS の有用性, 日本医学放射線学会雑誌, 1992

ESWL 後のラット腎の変化- ^{31}P -MRS, MRI 及び組織学的変化-, 金沢医科大学雑誌, 1989

^{31}P -MRS を用いた実験的ハムスター肝放射線障害の検討, 金沢医科大学雑誌, 1990

体外衝撃波結石破碎術における腎組織障害の評価に関する ^1H -MRI 及び ^{31}P -MRS の実験的研究, 金沢医科大学雑誌, 1994

体外式衝撃波結石破碎術における腎組織障害の評価に関する実験的研究, 医学・生物学電子顕微鏡技術研究会会誌, 1994

■その他の業績

カドミウム中毒症の腎画像的变化及び細胞内エネルギー代謝の変化

カドミウム中毒症の腎画像的变化及び細胞内エネルギー代謝の変化

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1993, 科学研究費補助金 一般研究(C), カドミウム中毒症の腎画像学的変化及び細胞内エネルギー代謝の変化

1992, 科学研究費補助金 一般研究(C), カドミウム中毒症の腎画像学的変化及び細胞内エネルギー代謝の変化

■研究費採択状況(その他の助成金)

1999, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, MRI を用いた Diffusion weighted image による原発性肝癌の水分子の拡散に関する研究:腫瘍細胞の拡散係数と増殖能との関係について

医学部／放射線診断治療学(放射線医学)

大 口 学 講 師

氏名(カナ・英文名)	オオグチ マナブ OGUCHI Manabu	生年月	1953.08
所 属	医学部／放射線診断治療学(放射線医学)	職 名	講師
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	m-oguchi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	放射線科学		

■所属学会

日本核医学会, 日本医学放射線学会, 日本磁気共鳴医学会, 日本超音波医学会, 日本放射線腫瘍学会

■研究課題

放射線治療, 核医学

■著書

肺癌で 18F-FDG-PET を効果的に用いるには?, 悪性リンパ腫で 18F-FDG-PET を効果的に用いるには?, 核医学画像診断ハンドブック (中嶋憲一 編), エルゼビアジャパン, 東京, 2003

FDG uptake of bronchioloalveolar lung carcinoma, Positron Emission Tomography in the Millemium (N. Tamaki, E. Tsukamoto, Y. Kuge, C. Katoh and K. Morita), Elsevier Science, Amsterdam, 2001

■学術論文

テクネチウム-99m コロイドの血栓性病変集積に関する実験的研究, 金沢大学十全医学会雑誌, 1983

腎・泌尿器腫瘍の MRI 診断, 日本臨床, 1987

頭頸部腫瘍の MRI, 画像診断, 4(別冊), 1987

骨盤原発と考えられた悪性リンパ腫の 1 例, 臨床放射線, 1995

肺癌の ^{99m}Tc -MIBI SPECT と ^{201}Tl -SPECT との比較, 映像情報 MEDICAL, 1996

■学術賞

日本放射線腫瘍学会第 10 回学術大会 会長賞, 1997

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 血管内照射による動脈硬化モデルの新生内膜増殖抑制の機序解明

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 血管内照射による動脈硬化モデルの新生内膜増殖抑制の機序解明

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 定位的放射線治療および ^{192}Ir 高線量率小線源による肝癌照射の基礎研究

1998, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 定位的放射線治療および ^{192}Ir 高線量率小線源による肝癌照射の基礎研究

医学部／放射線診断治療学(放射線医学)

谷口 充 講師

氏名(カナ・英文名)	タニグチ ミツル TANIGUCHI Mitsuru	生年月	—
所 属	医学部／放射線診断治療学(放射線医学)	職 名	講師
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	tngc@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	放射線医学		

■所属学会

日本放射線学会, 日本核医学会, 日本磁気共鳴学会, 日本循環器学会, Society of Nuclear Medicine(SNM)

■研究課題

心臓核医学 (Cardiac Nuclear medicine)

■学術論文

Ga-67 Acintigraphy of Malignant Lyaphoma of the Uterus, Clinical Nuclear Medicine, 1996

Incrustation and Uptake of Skeltal Inaging Agent in Transitional Cell Carcinoma, J. Nucl. Med, 1997

Gallium-67-citrate scinvgraphy of primary renal lymphoma, Annals of Nuclear Medicine, 1998

胸部異常における CT の適応, 小児科診療 Q&A, 37: 96-101, 2003

Polymyositis detected by Ga-67 scintigraphy, Clin. Nucl. Med., 27: 837-839, 2002

医学部／放射線診断治療学(放射線医学)

西川 高広 学内講師

氏名(カナ・英文名)	ニシカワ タカヒロ NISHIKAWA Takahiro	生年月	—
所 属	医学部／放射線診断治療学(放射線医学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	t-nishi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	放射線科学		

■所属学会

日本医学放射線学会, 日本核医学会

■研究課題

原発性肺癌における¹⁸FDG-PETと²⁰¹Tl-SPECTの比較 (Comparison with the¹⁸FDG-PET and the²⁰¹Tl-SPECT on the primary lung cancer)

■学術論文

原発性肺癌における¹⁸FDG-PETの臨床的意義:²⁰¹Tl-SPECTとの比較, 金沢医科大学雑誌, 1997

転移性肺腫瘍, 総合臨床 (永井書店), 1999

肺動静脈瘻, 総合臨床 (永井書店), 1999

Pulmonary metastases, Clinic all-round, 1999

Pulmonary arteriovenous fistula, Clinic all-round, 1999

医学部／放射線診断治療学(放射線医学)

太田 清隆 助教

氏名(カナ・英文名)	オオタ キヨタカ OOTA Kiyotaka	生年月	1964.08
所 属	医学部／放射線診断治療学(放射線医学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	0815k064@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	放射線医学		

■所属学会

日本放射線学会, 日本放射線腫瘍学会

■研究課題

非小細胞肺癌の放射線治療とBAI の併用療法の検討 (Study of BAI and accelerated hyperfractional thoracic radiotherapy in advanced nonsmall cell lung cancer)

■学術論文

切除不能肺癌に対する放射線治療同時併用、気管支動脈注入化学療法に関する研究, 金沢医科大学雑誌, 1999

化学放射線療法に伴う急性放射線粘膜炎に対するステロイド合剤の有用性の検討, 日放線腫瘍会誌, 17:169-175, 2005

Changes in regional cerebral blood flow in irradiated regions and normal brain after stereotactic radiosurgery, Ann Nucl Med, 16: 273-277, 2002

医学部／放射線診断治療学(放射線医学)

高橋 知子 助教

氏名(カナ・英文名)	タカハシ トモコ TAKAHASHI Tomoko	生年月	—
所 属	医学部／放射線診断治療学(放射線医学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■研究の概要

肺腺癌(3cm 以下)において、原発巣の FDG 集積度、HRCT 所見、および血清 CEA 値を組み合わせることにより、術後再発をより高い精度で予測できることを明らかにした。

医学部／心血管外科学(胸部外科学)

秋田 利明 教授

氏名(カナ・英文名)	アキタ トシアキ AKITA Toshiaki	生年月	—
所 属	医学部／心血管外科学(胸部外科学)	職 名	教授
最終学歴	名古屋大学大学院医学研究科医学系胸部外科学	学 位	博士(医学)
電子メール	takita@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	心臓外科		

■研究の概要

1. 新生児心筋保護法の開発
2. 重症心不全患者に対する心臓矯正ネットの開発

医学部／心血管外科学(胸部外科学)

坂本 滋 教授

氏名(カナ・英文名)	サカモト シゲル SAKAMOTO Shigeru	生年月	1952.06
所 属	医学部／心血管外科学(胸部外科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	s-shige@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	虚血性心疾患, 弁膜症, 補助循環, Ischemic Heart disease (IHD), Valvular Heart disease (VHD), Ventricular Assist system (VAS)		

■所属学会

日本外科学会, 日本胸部外科学会, 日本心臓血管外科学会, 日本循環器学会, 日本人工臓器学会

■研究課題

虚血性心疾患の外科治療 (Study on ischemic heart disease)

心筋 viability の評価 (Study of myocardial viability)

■著書

体外循環, プロテアーゼインヒビター臨床編 (編 吉川敏一), 診断と治療社, 東京, 2005

An attempt to evaluate ischemic limbs using 6-channel transcutaneous oxygen tension monitor, Breakthrough in The Treatment for Critical Limb Ischemia in Japan (T.Iwai et al), LIVRE PLANNING, INC, Tokyo, 2004

■学術論文

ペースメーカー植込み症例における合併症の検討, 日本胸部臨床, 1982

開心術後の低心拍出量症候群に対する Extra Corporeal Ultrafiltration Method(ECUM)の経験, 日胸外会誌, 1983

開心術中の心筋保護液による過剰な血液稀釈の予防法, 日心血外会誌, 1984

女性における A-C バイパス術の検討, 日心血外会誌, 1986

高齢者に対する冠血行再建術の問題点, 日心血外会誌, 1987

医学部／心血管外科学(胸部外科学)

四方 裕夫 教授

氏名(カナ・英文名)	シカタ ヒロオ SHIKATA Hiroo	生年月	—
所 属	医学部／心血管外科学(胸部外科学)	職 名	教授
最終学歴	広島大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	shikatah@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	血管外科学		

■所属学会

日本臨床外科学会, 日本静脈学会

■研究課題

肺外科, 血管外科

■著書

An attempt to evaluate ischemic limbs using 6-channel transcutaneous oxygen tension monitor, Breakthrough in The Treatment for Critical Limb Ischemia in Japan (T.Iwai et al), LIVRE PLANNING, INC, Tokyo, 2004

■学術論文

Bronchioloalveolar carcinoma of mixed mucinous and nonmucinous type: Immunohistochemical studies and mutation analysis of the *p53* gene, Pathol. Res. Pract., 202:751-756, 2006

A case of synchronous renal cell carcinoma producing granulocyte colony stimulating factor(G-CSF) and abdominal aortic aneurysm, 日血管外会誌, 15:521-524, 2006

両側巨大多発性腎嚢胞を伴う腹部大動脈瘤手術の1例, 日心臓血管外会誌, 35:251-254, 2006

人工血管感染に対し自家浅大腿静脈を用いた血行再建の2例, 日心臓血管外会誌, 35:226-230, 2006

胸腔鏡下胸部交感神経節焼灼術における近赤外線分光法の有用性についての検討, 脈管学, 46:45-48, 2006

医学部／心血管外科学(胸部外科学)

飛田 研二 准教授

氏名(カナ・英文名)	ヒダ ケンジ HIDA Kenji	生年月	—
所 属	医学部／心血管外科学(胸部外科学)	職 名	准教授
最終学歴	愛知医科大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	—		
専門分野	血管外科		

■所属学会

日本静脈学会

■研究課題

血管外科

■研究の概要

近赤外分光法を用いた跛行肢の筋酸素代謝動態、近赤外線分光法による頸動脈血栓内膜摘除術中の脳酸素代謝動態の検討、胸腔鏡下胸部交感神経節焼灼術における近赤外線分光法の有用性についての検討、空気容積脈波法を用いた下肢静脈機能評価に関する基礎的、臨床的研究、深部静脈血栓症肢の無侵襲的静脈機能評価。

■著書

下肢静脈瘤の手術，手術患者のケア・マニュアル，医学芸術社，東京，2005

An attempt to evaluate ischemic limbs using 6-channel transcutaneous oxygen tension monitor, Breakthrough in The Treatment for Critical Limb Ischemia in Japan (T.Iwai et al), LIVRE PLANNING, INC, Tokyo, 2004

■学術論文

A case of synchronous renal cell carcinoma producing granulocyte colony stimulating factor(G-CSF) and abdominal aortic aneurysm, 日血管外会誌, 15:521-524, 2006

両側巨大多発性腎嚢胞を伴う腹部大動脈瘤手術の1例, 日心臓血管外会誌, 35:251-254, 2006

人工血管感染に対し自家浅大腿静脈を用いた血行再建の2例, 日心臓血管外会誌, 35:226-230, 2006

呼吸・循環系の技術 血管吻合, 外科治療, 94(Suppl):484-488, 2006

運動負荷試験を安全に進めるための知識 空気容積脈波, メディカル・テクノロジー, 299-305, 2006

医学部／心血管外科学(胸部外科学)

永吉 靖弘 学内講師

氏名(カナ・英文名)	ナガヨシ ヤスヒロ NAGAYOSHI Yasuhiro	生年月	—
所 属	医学部／心血管外科学(胸部外科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	y-naga@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	血管外科		

■研究課題

心臓外科

■著書

上行大動脈置換術症例の検討，胸部・腹部大動脈瘤の治療 2001 年—ステントグラフティングを中心に—（江里健輔，竹中博昭監修），メディカルトリビューン，東京，2001

■学術論文

Annular reconstruction for mitral valve replacement in a destroyed or calcified mitral annulus, Jpn. J. Thorac. Cardiovasc. Surg., 54:500-503, 2006

胸腔鏡下心膜開窓術で診断された small vessel vasculitis の 1 例，日臨外会誌，66:2398-2402, 2005

Clinical evaluation of combination therapy for biventricular pacing after cardiac surgery in patients with intractable heart failure, Ann Thorac Cardiovasc Surg, 11:408-412, 2005

Successful surgical treatment of an infrarenal abdominal pseudoaneurysm caused by tuberculosis : Report of a case, Surg Today, 35:991-995, 2005

外科治療を要した肺血栓塞栓症の検討，Therapeutic Research, 25:32-35, 2004

医学部／心血管外科学(胸部外科学)

西澤 永晃 学内講師

氏名(カナ・英文名)	ニシザワ ヒサテル NISHIZAWA Hisateru	生年月	—
所 属	医学部／心血管外科学(胸部外科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	hisateru@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	血管外科		

■研究課題

心臓外科

■著書

上行大動脈置換術症例の検討，胸部・腹部大動脈瘤の治療 2001 年—ステントグラフティングを中心に—（江里健輔，竹中博昭監修），メディカルトリビューン，東京，2001

■学術論文

Annular reconstruction for mitral valve replacement in a destroyed or calcified mitral annulus, Jpn. J. Thorac. Cardiovasc. Surg., 54:500-503, 2006

Clinical evaluation of combination therapy for biventricular pacing after cardiac surgery in patients with intractable heart failure, Ann Thorac Cardiovasc Surg, 11:408-412, 2005

外科治療を要した肺血栓塞栓症の検討, Therapeutic Research, 25:32-35, 2004

多枝バイパス術症例の検討，冠動脈疾患の臨床と研究, 21:47-50, 2004

Reconstruction of bilateral branch pulmonary artery stenosis caused by Takayasu's aortitis, Circ. J., 38:791-794, 2004

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2002, 科学研究費補助金 若手研究(B), ヒト血管壁プロテアーゼ活性測定法を応用した各種危険因子の解析と術後使用薬剤の決定

2001, 科学研究費補助金 奨励研究(A), ヒト血管壁プロテアーゼ活性測定法を応用した各種危険因子の解析と術後使用薬剤の決定

医学部／心血管外科学(胸部外科学)

神野 正明

助教

氏名(カナ・英文名)	カンノ マサアキ KANNO Masaaki	生年月	—
所 属	医学部／心血管外科学(胸部外科学)	職 名	助教
最終学歴	埼玉医科大学医学部	学 位	—
電子メール	mkanno@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■職歴

1998-2000 ハワイ大学生理学教室, 1998-2000 Department of physiology, University of Hawaii

■研究課題

心臓外科

■著書

An attempt to evaluate ischemic limbs using 6-channel transcutaneous oxygen tension monitor, Breakthrough in The Treatment for Critical Limb Ischemia in Japan (T.Iwai et al), LIVRE PLANNING, INC, Tokyo, 2004

■学術論文

胸腔鏡下心膜開窓術で診断された small vessel vasculitis の1例, 日臨外会誌, 66:2398-2402, 2005

心臓弁置換術症例遠隔成績の検討 生存率及び再手術例の背景因子について統計学的検討, 金医大誌, 30:71-82, 2005

CTガイド下マーキングの胸腔鏡下手術で細気管支 smooth muscle hyperplasia と判明した末梢肺小結節陰影の一例, 日呼外会誌, 19:778-781, 2005

虚血性心筋症で Dor 手術及び両室ペーシングを施行した症例の検討, 金沢冠血管談話会記録集, 11-14, 2005

Successful surgical treatment of an infrarenal abdominal pseudoaneurysm caused by tuberculosis : Report of a case, Surg Today, 35:991-995, 2005

医学部／心血管外科学(胸部外科学)

小畑 貴司 助教

氏名(カナ・英文名)	コバタ タカシ KOBATA Takashi	生年月	—
所 属	医学部／心血管外科学(胸部外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	t-kobata@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

血管外科

■研究の概要

動脈瘤に対するステントグラフト内挿術
閉塞性動脈疾患に対する血管内治療
下肢静脈瘤に対する低侵襲的治療

■学術論文

A case of synchronous renal cell carcinoma producing granulocyte colony stimulating factor(G-CSF) and abdominal aortic aneurysm, 日血管外会誌, 15:521-524, 2006

両側巨大多発性腎嚢胞を伴う腹部大動脈瘤手術の1例, 日心臓血管外会誌, 35:251-254, 2006

人工血管感染に対し自家浅大腿静脈を用いた血行再建の2例, 日心臓血管外会誌, 35:226-230, 2006

胸腔鏡下胸部交感神経節焼灼術における近赤外線分光法の有用性についての検討, 脈管学, 46:45-48, 2006

下肢伏在静脈瘤に対する Radiofrequency obliteration 治療の Air plethysmography による効果判定, 金医大誌, 30:492-497, 2005

医学部／心血管外科学(胸部外科学)

野中 利通 助教

氏名(カナ・英文名)	ノナカ トシミチ NONAKA Toshimichi	生年月	—
所 属	医学部／心血管外科学(胸部外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	taishou@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

心臓外科

■著書

上行大動脈置換術症例の検討，胸部・腹部大動脈瘤の治療 2001 年—ステントグラフティンクを中心に—（江里健輔，竹中博昭監修），メディカルトリビューン，東京，2001

■学術論文

Clinical evaluation of combination therapy for biventricular pacing after cardiac surgery in patients with intractable heart failure, Ann Thorac Cardiovasc Surg, 11:408-412, 2005

外科治療を要した肺血栓塞栓症の検討, Therapeutic Research, 25:32-35, 2004

多枝バイパス術症例の検討，冠動脈疾患の臨床と研究, 21:47-50, 2004

心室圧容積曲線に基づく Ischemic preconditioning の心収縮機能保護効果，金医大誌, 28: 232-240, 2003

教室における弓部大動脈分枝再建術の変遷—手術近接期脳梗塞予防の治療戦略—，日血管外会誌, 12: 115-122, 2003

医学部／心血管外科学(胸部外科学)

野口 康久 助教

氏名(カナ・英文名)	ノグチ ヤスヒサ NOGUCHI Yasuhisa	生年月	—
所 属	医学部／心血管外科学(胸部外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学	学 位	—
電子メール	ynoguchi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

心臓外科

■学術論文

人工血管感染に対し自家浅大腿静脈を用いた血行再建の2例, 日心臓血管外会誌, 35:226-230, 2006

胸腔鏡下胸部交感神経節焼灼術における近赤外線分光法の有用性についての検討, 脈管学, 46:45-48, 2006

下肢伏在静脈瘤に対する radiofrequency obliteration 治療症例の短期成績 —Air plethysmography による効果判定—, 静脈学, 16:251-257, 2005

原発性腋窩一鎖骨下静脈血栓症(Paget-Schroetter 症候群)の臨床的検討, 静脈学, 16:235-241, 2005

炭酸ガス血管造影による血管内治療の経験, 日心臓血管外会誌, 34:237-242, 2005

医学部／心血管外科学(胸部外科学)

清澤 旬 助教

氏名(カナ・英文名)	キヨサワ ジュン KIYOSAWA Jun	生年月	—
所 属	医学部／心血管外科学(胸部外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

医学部／心血管外科学(胸部外科学)

長谷川 広樹 助教

氏名(カナ・英文名)	ハセガワ ヒロキ HASEGAWA Hiroki	生年月	—
所 属	医学部／心血管外科学(胸部外科学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)

高島 茂樹 教授

氏名(カナ・英文名)	タカシマ シゲキ TAKASHIMA Shigeki	生年月	1942.08
所 属	医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	sigeki-t@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	腫瘍外科, 消化器疾患外科, 大腸肛門病外科, Surgery of Digestive Diseases, Coloproctological Surgery		

■職歴

金沢大学医学部 副手、医員(1969.05), 舞鶴共済病院 外科医長(1975.10), 金沢大学医学部 助手(第二外科)(1977.08), 金沢医科大学助教授(1984.09), 金沢医科大学総合医学研究所 教授(1990.04)

■所属学会

日本外科学会, 日本消化器外科学会, 日本臨床外科医学会, International Society of University Colon and Rectal Surgeons, 日本腹部救急医学会

■研究課題

大腸発癌に関する研究 (carcinogenesis on colorectal cancer)

大腸癌肝転移と血管新生に関する研究 (Study on role of neovascularization in cancer tissue for hepatic metastasis of colorectal cancer)

■研究の概要

消化器癌の外科 一特に胃癌と大腸癌一

■著書

虫垂切除術, 卒後 5 年でマスターする消化器標準手術(桑野博行編), メジカルビュー社, 東京, 2006

胃癌, 実力医の履歴書 外科系 I (中村康生編), ライフ企画, 茅ヶ崎, 2006

■学術論文

無酸胃における胃癌発生増殖に関する実験的研究, 金沢大学十全医学会雑誌, 1976

大腸癌に於ける血中 CEA の臨床的意義, 日本大腸肛門病学会雑誌, 1982

大腸癌発生に対する便流および胆汁酸の意義に関する実験的研究, 日本大腸肛門病学会雑誌, 1983

結腸癌のリンパ節転移様式の検討, 日本消化器外科学会雑誌, 1984

大腸全摘後の回腸ループを伴った新しい回腸肛門増設術の考案, 金沢医科大学雑誌, 1987

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1988, 科学研究費補助金 一般研究(C), 大腸癌発生増殖に対する胆汁酸の影響に関する研究

1987, 科学研究費補助金 一般研究(C), 大腸癌発生増殖に対する胆汁酸の影響に関する研究

1986, 科学研究費補助金 一般研究(C), 大腸癌発生増殖に対する胆汁酸の影響に関する研究

医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)

小坂 健夫 教授

氏名(カナ・英文名)	コサカ タケオ KOSAKA Takeo	生年月	—
所 属	医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	tkosaka@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	消化器外科学		

■研究課題

消化器外科, 胃癌, 内視鏡診断

■学術論文

Reactive lymphoid hyperplasia of the liver in a patient with multiple carcinomas: a case report and brief review, J. Clin. Pathol., 59:990-992, 2006

Colorectal cancer identified by FDG-PET during preoperative examination for lung cancer: report of two cases, J. Kanazawa. Med. Univ., 31:144-146, 2006

大腸穿孔に起因した SIRS 症例に対する PMX-DHP の有用性と限界, 日外感染症会誌, 3:93-100, 2006

肝外胆管内に乳頭状増殖を示した肝 S4 原発の結節型胆管細胞癌の 1 例, 日臨外会誌, 67:1380-1385, 2006

Para-aortic lymph node dissection for gastric cancer in 244 consecutive cases, Hepatogastroenterology, 53:629-633, 2006

医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)

齋藤 人志 教授

氏名(カナ・英文名)	サイトウ ヒトシ SAITO Hitoshi	生年月	—
所 属	医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	saito-hi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	消化器外科学		

■研究課題

胆・膵の外科

■著書

虫垂切除術, 卒後 5 年でマスターする消化器標準手術(桑野博行編), メジカルビュー社, 東京, 2006

■学術論文

Colorectal cancer identified by FDG-PET during preoperative examination for lung cancer: report of two cases, J. Kanazawa. Med. Univ., 31:144-146, 2006

大腸穿孔に起因した SIRS 症例に対する PMX-DHP の有用性と限界, 日外感染症会誌, 3:93-100, 2006

S 状結腸捻転, 救急医, 30:703-706, 2006

肝外胆管内に乳頭状増殖を示した肝 S4 原発の結節型胆管細胞癌の 1 例, 日臨外会誌, 67:1380-1385, 2006

膵頭十二指腸切除術における膵胃吻合(空腸 single loop:PD-IV B-2) 再建法とその臨床的評価, 金医大誌, 30:498-505, 2005

医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)

表 和彦 講師

氏名(カナ・英文名)	オモテ カズヒコ OMOTE Kazuhiko	生年月	—
所 属	医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	komote@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	外科学一般, 消化器外科学		

■職歴

金沢大学がん研究所腫瘍外科 講師(2002.04), 金沢大学がん研究所腫瘍外科 助手(1998.11), ミュンヘン工科大学医学部外科(ドイツ) 客員研究員(1996.11), 金沢大学がん研究所外科 助手(1994.11), 医療法人社団映寿会病院外科 医長(1992.06)

■研究課題

内視鏡外科における手術用機器やロボットに関する研究 (Surgical instruments and surgical robot for endoscopic surgery)

消化器疾患に対する内視鏡外科に関する研究 (Endoscopic surgery for gastrointestinal disease)

■研究の概要

消化器癌に対する外科的治療に関する研究
消化器疾患に対する内視鏡外科に関する研究
内視鏡外科における手術用機器やロボットに関する研究

医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)

中野 泰治 学内講師

氏名(カナ・英文名)	ナカノ ヤスハル NAKANO Yasuharu	生年月	—
所 属	医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	y-nakano@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	消化器外科学		

■研究課題

胃癌の外科

■学術論文

Para-aortic lymph node dissection for gastric cancer in 244 consecutive cases, Hepatogastroenterology, 53:629-633, 2006

動脈内化学療法および RF 焼灼術を行った胃癌多発肝転移の 1 例, 癌と化療, 31:1737-1739, 2004

Effects of thymidine phosphorylase levels in cancer, background mucosa, and regional lymph nodes on survival of advanced gastric cancer patients receiving postoperative fluoropyrimidine therapy, Oncol. Rep., 12:1279-1286, 2004

下血で発見された直腸 MP カルチノイドの一例, 北陸外科会誌, 22: 87-89, 2003

Comparison of emptying between gastric and colonic conduits following esophagectomy, J. Exp. Clin. Cancer Res., 21: 315-320, 2002

医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)

吉谷 新一郎 学内講師

氏名(カナ・英文名)	ヨシタニ シンイチロウ YOSHITANI Shinichiro	生年月	—
所 属	医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	shin-yo@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	消化器外科学		

■研究課題

大腸疾患の外科

■著書

発熱の鑑別診断と初期治療のポイント？，これだけは知っておきたい外科 Q&A—研修医からの質問 528—(炭山嘉伸、門田守人、跡見 裕編)，総合医学社，東京，2006

■学術論文

大腸穿孔に起因した SIRS 症例に対する PMX-DHP の有用性と限界，日外感染症会誌，3:93-100，2006

肝外胆管内に乳頭状増殖を示した肝 S4 原発の結節型胆管細胞癌の 1 例，日臨外会誌，67:1380-1385，2006

Para-aortic lymph node dissection for gastric cancer in 244 consecutive cases, Hepatogastroenterology, 53:629-633, 2006

大腸癌肝転移に対するラジオ波およびマイクロウェーブ波(RFA/MCT)を用いた癌局所焼灼療法の治療成績，癌と化療，32:1666-1669，2005

非浸潤性小腸転移をきたした多発 S 状結腸癌の 1 例，日臨外会誌，66:1119-1124，2005

医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)

田中 弓子 学内講師

氏名(カナ・英文名)	タナカ ユミコ TANAKA Yumiko	生年月	—
所 属	医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	tanaka-y@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	消化器外科学		

■所属学会

日本外科学会, 日本臨床外科学会, 日本癌治療学会, 日本消化器外科学会, 日本大腸肛門病学会

■研究課題

大腸癌に関する研究 (Study of colo-rectal cancer)

乳癌のセンチネルリンパ節に関する研究 (Study of sentinel lymph node metastasis in breast cancer)

■研究の概要

大腸癌の血管新生、発癌抑制に関する研究

乳癌におけるリンパ路、センチネルリンパ節転移の臨床的意義

■著書

腹部のドレナージ②(上腹部) 腹膜炎のドレナージ, だれでもわかるドレナージ (堤 晴彦編), メヂカルフレンド社, 東京, 2001

■学術論文

大腸穿孔に起因した SIRS 症例に対する PMX-DHP の有用性と限界, 日外感染症会誌, 3:93-100, 2006

大腸癌肝転移に対するラジオ波およびマイクロウェーブ波 (RFA/MCT) を用いた癌局所焼灼療法の治療成績, 癌と化療, 32:1666-1669, 2005

非浸潤性小腸転移をきたした多発 S 状結腸癌の1例, 日臨外会誌, 66:1119-1124, 2005

特異な形態を示した回盲部原発悪性リンパ腫の1例, 日本大腸肛門病会誌, 58:146-151, 2005

Transanal endoscopic microsurgery (TEM) for excision of rectal tumor, 10th Congress of asian federation of Coloproctology: controversies in colorectal surgery, 93-96, 2005

医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)

菅谷 純一 助教

氏名(カナ・英文名)	スガヤ ジュンイチ SUGAYA Junichi	生年月	—
所 属	医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	j-sugaya@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	外科学一般, 消化器外科学		

■職歴

金沢医科大学 助教(1997.04)

■所属学会

日本外科学会, 日本消化器外科学会, 日本癌治療学会, 日本臨床外科学会, 日本腹部救急医学会

■研究課題

十二指腸液胃内逆流モデルにおける胃癌の発生、増殖に対する膵酵素阻害剤投与の影響に関する研究

■研究の概要

十二指腸液の胃逆流モデルでは高率に癌が発生することが示され、ヒトの残胃癌の発生機序を解明するモデルとしても見なされている。本研究では膵液中のトリプシンなどの膵酵素を選択的に阻害する camostat mesilate が、発癌に如何なる影響を及ぼすかを検討し、本モデルにおける発癌の機序を解明する一端として本研究を行う。

■学術論文

Para-aortic lymph node dissection for gastric cancer in 244 consecutive cases, Hepatogastroenterology, 53:629-633, 2006

Effects of thymidine phosphorylase levels in cancer, background mucosa, and regional lymph nodes on survival of advanced gastric cancer patients receiving postoperative fluoropyrimidine therapy, Oncol. Rep., 12:1279-1286, 2004

多剤併用化学療法が著効を示した再発胃内分泌細胞癌の1例, 日臨外会誌, 61:1469-1473, 2000

医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)

長谷川 泰介 助教

氏名(カナ・英文名)	ハセガワ タイスケ HASEGAWA Taisuke	生年月	—
所 属	医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	taisuke@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	外科学一般, 消化器外科学		

■職歴

金沢医科大学 助教(1999.04)

■所属学会

日本外科学会, 日本胆道学会, 日本消化器外科学会, 日本臨床外科学会, 日本消化器内視鏡学会

■研究課題

膵頭十二指腸切除後の残膵機能の評価 (operative procedure of pancreatogastromy following pancreatoduodenectomy and clinical usefulness)

■研究の概要

膵頭十二指腸切除術(膵胃吻合)後の残存膵臓の内外分泌機能の評価を行う

■学術論文

大腸穿孔に起因した SIRS 症例に対する PMX-DHP の有用性と限界, 日外感染症会誌, 3:93-100, 2006

肝外胆管内に乳頭状増殖を示した肝 S4 原発の結節型胆管細胞癌の 1 例, 日臨外会誌, 67:1380-1385, 2006

Para-aortic lymph node dissection for gastric cancer in 244 consecutive cases, Hepatogastroenterology, 53:629-633, 2006

膵頭十二指腸切除術における膵胃吻合(空腸 single loop:PD-IV B-2)再建法とその臨床的評価, 金医大誌, 30:498-505, 2005

大腸癌肝転移に対するラジオ波およびマイクロウェーブ波(RFA/MCT)を用いた癌局所焼灼療法の治療成績, 癌と化療, 32:1666-1669, 2005

医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)

向井 弘圭 助教

氏名(カナ・英文名)	ムカイ ヒロカド MUKAI Hirokado	生年月	1966.12
所 属	医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	h-mukai@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	外科学一般，消化器外科学		

■職歴

金沢医科大学 助教(1995.04)

■所属学会

日本外科学会，日本臨床外科学会，日本癌治療学会，日本大腸肛門病学会，日本胃癌学会

■研究課題

一般消化器外科

■研究の概要

.

■学術論文

食道拡張術により嚥下障害が改善した劣性栄養障害型表皮水疱症の1例，皮膚臨床，48:525-529, 2006

医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)

横井 美樹

助教

氏名(カナ・英文名)	ヨコイ ミキ YOKOI Miki	生年月	—
所 属	医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	miki-y@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

一般消化器外科

■学術論文

Reactive lymphoid hyperplasia of the liver in a patient with multiple carcinomas: a case report and brief review, J. Clin. Pathol., 59:990-992, 2006

Transanal endoscopic microsurgery (TEM) for excision of rectal tumor, 10th Congress of asian federation of Coloproctology: controversies in colorectal surgery, 93-96, 2005

長期生存の得られた十二指腸癌・大腸癌異時性重複癌の1例, 金医大誌, 29:115-119, 2004

イレウス症状を呈し術前診断が可能であった原発性空腸癌の1例, 北陸外科会誌, 23:57-60, 2004

直腸癌術後局所再発に対し放射線照射および化学療法が奏効し長期生存が得られた1例, 癌と化療, 31:1867-1869, 2004

医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)

黒田 雅利 助教

氏名(カナ・英文名)	クロダ マサトシ KURODA Masatoshi	生年月	—
所 属	医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	m-kuroda@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

一般消化器外科

■学術論文

大腸穿孔に起因した SIRS 症例に対する PMX-DHP の有用性と限界, 日外感染症会誌, 3:93-100, 2006

大腸癌肝転移に対するラジオ波およびマイクロウェーブ波(RFA/MCT)を用いた癌局所焼灼療法の治療成績, 癌と化療, 32:1666-1669, 2005

非浸潤性小腸転移をきたした多発 S 状結腸癌の1例, 日臨外会誌, 66:1119-1124, 2005

Transanal endoscopic microsurgery (TEM) for excision of rectal tumor, 10th Congress of asian federation of Coloproctology: controversies in colorectal surgery, 93-96, 2005

A study on the Lymph node metastases of the right side colon cancer, 20th Biennial congress of the International society of university colon and rectal surgeons, 141-146, 2004

医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)

尾山 勝信

助教

氏名(カナ・英文名)	オヤマ カツノブ OYAMA Katsunobu	生年月	—
所 属	医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢大学大学院外科学第二	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■研究の概要

消化器外科
腫瘍学

医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)

林 圭 助教

氏名(カナ・英文名)	ハヤシ ケイ HAYASHI Kei	生年月	—
所 属	医学部／消化器外科治療学(消化器外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	kei5293@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	外科学一般，消化器外科学		

■職歴

金沢医科大学 助教(2007.04)

■所属学会

日本外科学会，日本消化器外科学会，日本癌治療学会，日本胃癌学会，北陸外科学会

■研究課題

食物成分や合成化合物などを用いた大腸発癌抑制効果の研究 (Study of colon cancer inhibition effect using anfood ingredient or a composition compound)

■研究の概要

ヒト大腸発癌への応用を目指すため実験動物として遺伝子情報が豊富なマウスを用いてアゾキシメタン(AOM)誘発大腸発癌における柑橘類化合物オーラブテンの大腸発癌抑制効果の研究

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

松本 忠美 教授

氏名(カナ・英文名)	マツモト タダミ MATSUMOTO Tadami	生年月	1950.04
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 教授(1999.04), 金沢大学医学部 助教授(1990.04)

■所属学会

日本整形外科学会, 日本股関節外科学会, 日本人工関節学会, 日本リウマチ・関節外科学会, 中部日本整形外科・災害外科学会

■研究課題

人工股関節についての研究 (Study on total hip arthroplasty)

大腿骨頭壊死症の病態解明 (Study on osteonecrosis of femoral head)

■研究の概要

日本人変形性股関節症における大腿骨形状を三次元的に解析し、いくつかの形状の異なるセメントレスステムを作製するとともに、これらのステムが大腿骨に挿入された場合の力学的ストレスの違いを評価し、生体力学的に優れたステムの開発を行っている。またステロイド性大腿骨頭壊死症の発生原因として、血管内塞栓病変の有無、生体内酸化ストレスなどの関与について究明し、予防法の確立を目指している。

■著書

股関節脱臼・骨折, 整形外科診療実践ガイド(守屋秀繁、他編), 文光堂, 東京, 2006

画像診断と各種計測法, 最新整形外科学大系(16)骨盤・股関節(越智隆弘), 中山書店, 東京, 2006

■学術論文

The relationship between stem subsidence and improvement in the radiolucency in polished tapered stems, Int Orthop, 30:387-390, 2006

Oxidative stress by glutathione depletion induces osteonecrosis in rats, Rheumatology (Oxford), 45:287-290, 2006

Glucocorticoid induces micro-fat embolism in the rabbit: A scanning electron microscopic study, J. Orthop. Res., 24:675-683, 2006

Expression of ADAMTS-4 (aggrecanase-1) and possible involvement in regression of lumbar disc herniation, Spine, 31:1426-1432, 2006

DNA oxidation injury in bone early after steroid administration is involved in the pathogenesis of steroid-induced osteonecrosis, Rheumatology (Oxford), 44:456-460, 2005

■学術賞

「整形・災害外科」優秀論文賞, 進行期変形性股関節症における寛骨臼回転骨切り術の成績 1997.01

第24回日本股関節学会学会賞, 外傷性股関節脱臼における血流量と壊死発生との関係 1997.11

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業, 特発性大腿骨頭壊死症の予防と治療の標準化を目的とした総合研究

2005, 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業, 特発性大腿骨頭壊死症の予防と治療の標準化を目的とした総合研究

2004, 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業, 突発性大腿骨頭壊死症の予防と治療の標準化を目的とした総合研究

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

藤田 拓也 講師

氏名(カナ・英文名)	フジタ タクヤ FUJITA Takuya	生年月	1965.01
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	takuyaf@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	脊椎外科		

■職歴

金沢医科大学 講師(1999.04), 金沢大学医学部 助手(1997.07)

■所属学会

日本整形外科学会, 日本脊椎脊髄病学会, 中部日本整形外科災害外科学会, 日本リハビリテーション医学会

■研究課題

腰椎椎間板変性のメカニズムの解明 (Analysis on the mechanism of lumbar disc degeneration)

■研究の概要

椎間板変性に椎間板細胞のアポトーシスが関与していることが明らかとなっているが、その詳細な分子機構は不明のままである。そこでラット椎間板変性モデルにてアポトーシス誘導因子 Bax および抑制因子 Bcl-2 が椎間板変性におよぼす影響を明らかにした。その結果、椎間板ではアポトーシス誘導因子 Bax の発現亢進により椎間板変性が進行することが明らかとなった。

■著書

Spondylectomy, Chordomas and Chondrosarcomas of the Skull Base and Spine (Griff Harsh, Eds.), Thieme, New York, 2003

腰椎後側方アプローチ (Wiltse approach), 新 OS NOW (岩本幸英、編), メジカルビュー社, 東京, 2005

■学術論文

Expression of ADAMTS-4 (aggrecanase-1) and possible involvement in regression of lumbar disc herniation, Spine, 31:1426-1432, 2006

Osteoblast lineage properties in giant cell tumors of bone, J. Orthop. Sci., 10:581-588, 2005

Preoperative estimation of metastatic vertebral tumors, International Orthopaedics(SICOT), 24:71-74, 2000

Local spread of metastatic vertebral tumors. A histologic study, Spine, 22:1905-1912, 1997

Complications of spinal fusion in adult patients more than 60 years of age, Orthop Clin North Am, 29:669-78, 1998

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2002, 科学研究費補助金 若手研究(B), ヒ脊椎椎間板変性に関わる遺伝子群のマクロアレイ法による網羅的探索

2001, 科学研究費補助金 奨励研究(A), ヒ脊椎椎間板変性に関わる遺伝子群のマクロアレイ法による網羅的探索

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

兼氏 歩 講師

氏名(カナ・英文名)	カネウジ アユミ KANEUJI Ayumi	生年月	1965.09
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	kaneuji@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 講師(2003.04), 金沢医科大学 助手(1999.04), 金沢大学医学部 助手(1998.01)

■所属学会

日本整形外科学会, 日本股関節学会, 日本人工関節学会, 日本リウマチ学会, 日本リウマチ・関節外科学会

■研究課題

人工股関節のバイオメカニクス (A biomechanical study for total hip arthroplasty)

■研究の概要

セメント固定式人工股関節システムにおいてシステムの表面加工法による長期成績差が存在することが臨床報告されている。しかし、その理由は不明でありバイオメカモデルを用いてその理由を究明している。また、日本人の近位大腿骨に適合するセメントレスシステム形状の研究も行なっている。これらにより長期耐用性をもつ人工股関節システムの開発が期待できると考える。

■著書

骨融解と人工関節置換術のゆりみ, 改訂版 整形外科専門医をめざすための 経験すべき外傷・疾患 97(菊地臣一、他編), メジカルビュー社, 東京, 2006

側臥位 setting の要点とコツ, 股関節外科の要点と盲点(久保俊一、編), 文光堂, 東京, 2005

■学術論文

The relationship between stem subsidence and improvement in the radiolucency in polished tapered stems, Int Orthop, 30:387-390, 2006

Three-dimensional morphological analysis of the proximal femoral canal, using compute-aided design system, In Japanese patients with osteoarthritis of the hip, J.Orthop.Sci., 5:361-368, 2000

模擬生体内における Collarless Polished Tapered Stem の挙動—vacuum mixed cement に対する作用力とセメントクリーパー, 日臨バイオメカ会誌, 27:281-285, 2006

進行期変形性股関節症に対する寛骨臼回転骨切り術の長期生存率, Hip Joint, 32:16-20, 2006

セメントレスTHA—当科における手術手技—, 関節外科, 23(増刊):28-35, 2004

■共同研究希望(研究シーズ)

人工関節システムの表面加工差が模擬大腿骨内の骨セメントに及ぼす力学的影響の検討

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

横山 光輝 講師

氏名(カナ・英文名)	ヨコヤマ ミツテル YOKOYAMA Mitsuteru	生年月	1964.09
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 講師(2005.04), 金沢医科大学 助手(2003.08), 富山県立中央病院整形外科 医長(2002.04), 富山県立中央病院整形外科 副医長(1998.07), 金沢大学医学部附属病院 助手(1998.04)

■所属学会

日本整形外科学会, 日本手の外科学会, 日本骨折治療学会, 日本肘関節学会, 日本臨床スポーツ医学会

■研究課題

末梢神経障害の圧迫・伸張障害時における障害因子に関して

■研究の概要

神経の欠損を補填するために、神経移植の代替法として神経延長について研究を行ってきた。家兔坐骨神経延長モデルで、1日0.8mmの速度が安全で、伝導性を保ったまま延長することが可能であった。Schwann細胞の分裂増殖は認められず、Schwann細胞自身が細胞体を伸張させて対応しているものと考えた。今後、臨床応用できるように引き続き研究の必要がある。

■学術論文

末梢神経慢性伸張時における易損傷性に関する実験的研究, 十全医会誌, 109:291-299, 2000

遠位橈尺関節 PIP 関節高度拘縮例に対する Compas PIP joint Hinge の使用成績と問題点, 日手会誌, 15:179-183, 1998

上腕骨顆上骨折に合併した血管損傷の診断, 日肘関節研会誌, 5:137-138, 1998

ポリ-L-乳酸ピン(NEOFLX pin)の使用経験, 骨折, 20:304-307, 1998

Step Cut Osteotomy を用いた Ulnocarpal Abutment Syndrome の治療経験, 日手会誌, 14:217-220, 1997

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

奥田 鉄人 講師

氏名(カナ・英文名)	オクダ テツヒト OKUDA Tetsuhito	生年月	1970.06
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	okutetsu@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 講師(2005.04), 金沢医科大学 助手(1999.04)

■研究課題

脊髄・脊椎疾患の外科

■研究の概要

脊髄・脊椎疾患の外科、脊髄損傷・再生、Hip-Spine 症候群

■著書

変形性関節症, 今日の治療と看護(改訂第2版)(黒川 清、他編), 南江堂, 東京, 2004

■学術論文

変形性股関節症の病期による腰椎骨盤矢状面のアライメント変化, 整・災外, 46: 979-983, 2003

腰部脊柱管狭窄症に対する円筒レトラクターを用いた顕微鏡下片側進入両側徐圧術の成績—従来法(両側拡大開窓術)との比較, 整形外科, 57:263-267, 2006

Expression of ADAMTS-4 (aggrecanase-1) and possible involvement in regression of lumbar disc herniation, Spine, 31:1426-1432, 2006

Complex regional pain syndrome in upper and lower limbs that showed an alleviating trend after thoracotomy: a case report, The pain clinic., 17:327-330, 2005

腰椎後縦靱帯骨化症に対するPLIFの術後成績, 中部整災誌, 43:971-972, 2000

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

杉森 端三 講師

氏名(カナ・英文名)	スギモリ タンゾウ SUGIMORI Tanzo	生年月	1967.05
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	tanzo@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 助手(1999.06), 金沢大学医学部(1998.01)

■所属学会

日本整形外科学会, 日本股関節学会, 日本人工関節学会, 日本臨床バイオメカニクス学会, 中部日本整形外科・災害外科学会

■研究課題

人工股関節のバイオメカニクスの研究 (A biomechanical study for total hip arthroplasty)

■研究の概要

日本人変形性股関節症における大腿骨形状を3D-CTを用いて三次元的に解析し、いくつかの形状の異なるステムを作製するとともに、これらのステムが大腿骨に挿入された場合の力学的ストレスの違いを有限要素解析にて評価し、生体力学的に優れたステムの開発を行っている。また人工膝関節の動態解析や人工膝関節再置換術におけるインプラントの固定性などバイオメカニクスに関する研究も行っている。

■著書

セメントレス人工股関節置換術のコツ, 股関節外科の要点と盲点(久保俊一、編), 文光堂, 東京, 2005

A study on development of the total hip prosthesis design fitted for Japanese patients with secondary osteoarthritis, Human Biomechanics and Injury Prevention(J.Kaizer,et al.Eds.), Springer, Tokyo, 2000

■学術論文

日本人変形性股関節症におけるセメントレスステムの3次元的髓腔占拠率の検討, 十全医会誌, 111:267-279, 2002

The unstable total knee arthroplasty causes and cures, J. Arthroplasty., 21(Supl.1):44-49, 2006

The relationship between stem subsidence and improvement in the radiolucency in polished tapered stems, Int Orthop, 30:387-390, 2006

Three-dimensional morphological analysis of the proximal femoral canal,using compute-aided design system,In Japanese patients with osteoarthritis of the hip, J.Orthop.Sci., 5:361-368, 2000

人工股関節再置換術における大腿骨側インプラントの選択, MB Orthop., 15: 33-39, 2002

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

前岡 勇人 学内講師

氏名(カナ・英文名)	マエオカ ハヤト MAEOKA Hayato	生年月	1969.04
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 助手(1999.04)

■所属学会

日本整形外科学会, 日本骨折治療学会, 中部日本整形外科災害外科学会

■研究課題

大腿骨転子部骨折の治療 (The treatment of femoral trochanteric fracture)

■研究の概要

骨粗鬆症を有する高齢者に多い四肢骨折、特に大腿骨の転子部・頸部骨折の外科的治療法の研究。

■学術論文

不安定型大腿骨転子部骨折の治療成績—つば付き CHS と髓内固定型インプラントの比較—, 骨折, 26:571-574, 2004

当科における大腿骨頸部, 頸上骨折の術後成績, 骨折, 26:643-647, 2004

踵骨骨折に対する経皮的骨接合術の術後成績, 骨折, 26:719-723, 2004

下腿骨骨幹部開放性骨折における髓内釘治療の検討, 中部整災誌, 44: 1313-1314, 2001

人工膝関節置換術における metal wedge の使用経験, 中部整災誌, 43:1275-1276, 2000

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

小川原 雅隆 助教

氏名(カナ・英文名)	オガワラ マサタカ OGASAWARA Masataka	生年月	1969.04
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 助手(2001.04), NTT 西日本金沢病院・整形外科(2001.09), 公立宇出津総合病院・整形外科(2004.04)

■所属学会

日本整形外科学会, 日本股関節学会, 日本人工関節学会, 日本リウマチ・関節外科学会, 中部日本整形外科災害外科学会

■研究課題

股関節疾患の外科, 関節疾患の外科 (hip joint surgery)

■研究の概要

日本人変形性股関節症における大腿骨形状を三次元的に解析し、いくつかの形状の異なるセメントレスシステムを作製するとともに、これらのシステムが大腿骨に挿入された場合の力学的ストレスの違いを評価し、生体力学的に優れたシステムの開発を行っている。

■学術論文

アルカリ加熱処理を施したチタンセメントレス人工股関節の治験成績, 新しい医療機器研究, 9:59-67, 2004

HGP II カップと Trilogy カップ (HA/TCP) における bone ingrowth の比較—gap filing の所見に着目して—, Hip Joint, 30:547-550, 2004

CPT システムにおけるステム沈下と骨・セメント間骨透過帯減少の関係, Hip Joint, 30:594-596, 2004

二次性変形性股関節症における髄腔形態分類と近位大腿骨の特徴, Hip Joint, 29: 74-81, 2003

変形性股関節症における仙腸関節骨硬化像の検討, Hip Joint, 28: 51-53, 2002

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

納富 憲二 助教

氏名(カナ・英文名)	ノウトミ ケンジ NOUTOMI Kenji	生年月	—
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 助手(2003.04)

■所属学会

日本整形外科学会, 中部日本整形外科災害外科学会

■研究課題

関節疾患の外科

■研究の概要

Q-スイッチ Nd:YAG レーザー光の有する骨形成作用を利用し, ラット大腿骨骨折部にレーザー光を照射することにより骨癒合が促進されるかどうかを検討した. その結果軟骨細胞の活性化や新生骨梁組織への置換を早期に認め, レーザー光に骨癒合促進効果を有することが示唆された. その機序として, レーザー光の生体に対する圧作用による応力波が機械的に骨を刺激し, 骨形成を促進させたことが一因であると考えられた

■学術論文

Nd:YAG レーザー光照射による骨萎縮の改善効果, 金医大誌, 27: 186-194, 2002

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

細川 栄隆 助教

氏名(カナ・英文名)	ホソカワ ヒデタカ HOSOKAWA Hidetaka	生年月	—
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 助手(2004.04)

■所属学会

日本脊椎髄病学会, 日本整形外科学会

■研究課題

椎間板変性におけるアポトーシス誘導に関する研究 (Involvement of apoptosis in degeneration of intervertebral disc in rats)

■研究の概要

現在までに腰痛と椎間板変性が密接に関連していることが報告されており、その重要な要因の一つとして力学的ストレスが研究されている。本研究ではラット尾椎椎間板に力学的ストレスを加えることで、アポトーシス誘導因子 Bax を介するアポトーシスが髄核および線維輪で生じ、これらの細胞数が減少、さらに細胞外基質も減少することで椎間板変性に至ると考察された。

■学術論文

圧縮負荷によるラット変性椎間板でのアポトーシス誘導に関する研究, 金医大誌, 28: 206-214, 2003

腰部脊柱管狭窄症に対する円筒レトラクターを用いた顕微鏡下片側進入両側徐圧術の成績—従来法(両側拡大開窓術)との比較, 整形外科, 57:263-267, 2006

外側型腰椎椎間板ヘルニアに対する METRx system を用いた microdiscectomy, 臨整外, 39:1557-1562, 2004

腰椎椎間板ヘルニアに対する METRx system を用いた micro discectomy, 別冊整形外科, 44: 156-159, 2003

Complex regional pain syndrome in upper and lower limbs that showed an alleviating trend after thoracotomy: a case report, The pain clinic., 17:327-330, 2005

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

市堰 徹 助教

氏名(カナ・英文名)	イチセキ トオル ICHISEKI Toru	生年月	—
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 助手(2005.04), 東京女子医科大学付属第二病院・麻酔科 助手(1999.08)

■所属学会

日本整形外科学会, 日本股関節学会, 日本人工関節学会, 中部日本整形外科災害外科学会

■研究課題

大腿骨頭壊死の病態解明 (Pathology of osteonecrosis of the femoral head)

■研究の概要

ステロイド性大腿骨頭壊死症の発生原因として、血管内塞栓病変の有無、生体内酸化ストレスなどの関与について究明し、予防法の確立を目指している。

■学術論文

Oxidative stress by glutathione depletion induces osteonecrosis in rats, Rheumatology (Oxford), 45:287-290, 2006

DNA oxidation injury in bone early after steroid administration is involved in the pathogenesis of steroid-induced osteonecrosis, Rheumatology (Oxford), 44:456-460, 2005

Oxidative stress and vascular permeability in steroid-induced osteonecrosis model, J. Orthop. Sci., 9:509-515, 2004

Oxidative stress may underlie the sex differences seen in steroid-induced osteonecrosis models, Med. Hypotheses., 66:1256, 2006

Does oxidative stress play a role in steroid-induced osteonecrosis models?, Med. Hypotheses., 66:1048, 2006

■学術賞

金沢医科大学「学長賞」, Oxidative stress and vascular permeability in steroid-induced osteonecrosis model.2004.03

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

北村 憲司 助教

氏名(カナ・英文名)	キタムラ ケンジ KITAMURA Kenji	生年月	—
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院外科系	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 助手(2006.04)

■所属学会

日本整形外科学会, 日本股関節学会, 中部日本整形外科災害外科学会

■研究課題

大腿骨頭壊死の病態解明 (Pathology of osteonecrosis of the femoral head)

■研究の概要

ステロイド性大腿骨頭壊死症は難治性疾患であり、その発症機序は未だ明確にされていない。我々は生体内酸化ストレスに注目し検討を行い、その結果ステロイド投与家兎モデルに対して、抗酸化剤であるグルタチオン(以下 GSH)を常用量投与することで骨壊死発生率を有意に抑制することが確認された。このことから、臨床における GSH 単剤による骨壊死発生の予防への応用が十分に期待できることが示された。

■学術論文

常用量のグルタチオンによるステロイド性骨壊死の抑制効果の検討, 金医大誌, 30:245-252, 2005

Oxidative stress by glutathione depletion induces osteonecrosis in rats, Rheumatology (Oxford), 45:287-290, 2006

常用量のグルタチオンによるステロイド性骨壊死の抑制効果の検討, 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 特発性大腿骨頭壊死症の予防と治療の標準化を目的とした総合研究 平成 17 年度総括・分担研究報告書, 63-64, 2006

ステロイド性骨壊死モデルにおけるグルタチオン常用量による骨壊死抑制効果の検討, 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 特発性大腿骨頭壊死症の予防と治療の標準化を目的とした総合研究 平成 16 年度総括・分担研究報告書, 53-54, 2005

Does oxidative stress play a role in steroid-induced osteonecrosis models?, Med. Hypotheses., 66:1048, 2006

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

波多野 栄重 助教

氏名(カナ・英文名)	ハタノ エイジユウ HATANO Eiju	生年月	1975.10
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 助手(2006.04)

■研究の概要

椎間板変性に椎間板細胞のアポトーシスが関与していることが明らかとなっているが、その詳細な分子機構は不明のままである。そこでラット椎間板変性モデルにてアポトーシス誘導因子 Bax および抑制因子 Bcl-2 が椎間板変性におよぼす影響を明らかにした。その結果、椎間板ではアポトーシス誘導因子 Bax の発現亢進により椎間板変性が進行することが明らかとなった。

■学術論文

Expression of ADAMTS-4 (aggrecanase-1) and possible involvement in regression of lumbar disc herniation, Spine, 31:1426-1432, 2006

METRx Micro Discectomy system を用いた頸椎後方ヘルニア摘出術, 脊椎脊髄神手術手技, 8:75-78, 2006

腰部脊柱管狭窄症に対する円筒レトラクターを用いた顕微鏡下片側進入両側徐圧術の成績—従来法(両側拡大開窓術)との比較, 整形外科, 57:263-267, 2006

頸椎椎間板ヘルニアに対する METRx micro discectomy system を用いた頸椎後方ヘルニア摘出術, 中部整災誌, 49:437-438, 2006

■学術賞

金沢医科大学「学長賞」, Expression of ADAMTS-4(aggrecanase-1) and possible involvement in regression of lumbar disc herniation2006.03

金沢医科大学「学長賞」, Expression of ADAMTS-4(aggrecanase-1) and possible involvement in regression of lumbar disc herniation2006.03

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

廣村 健太郎 助教

氏名(カナ・英文名)	ヒロムラ ケンタロウ HIROMURA Kentaro	生年月	—
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 助手(2006.04)

■所属学会

日本整形外科学会, 日本骨折治療学会, 日本臨床スポーツ医学会, 中部日本整形外科災害外科学会

■研究課題

骨折治癒過程における骨癒合促進の研究 (A study for bone union promotion on a fracture healing)

■研究の概要

Q-スイッチ Nd:YAG レーザー光の有する骨形成作用を利用し, ラット大腿骨骨折部にレーザー光を照射することにより骨癒合が促進されるかどうかを検討した. その結果軟骨細胞の活性化や新生骨梁組織への置換を早期に認め, レーザー光に骨癒合促進効果を有することが示唆された. その機序として, レーザー光の生体に対する圧作用による応力波が機械的に骨を刺激し, 骨形成を促進させたことが一因であると考えられた.

■学術論文

Q-スイッチ Nd:YAG レーザー光照射による骨癒合促進効果, 金医大誌, 30:98-106, 2005

開胸手術後に軽快傾向を示した上下肢 complex regional pain syndrome の1例, 整形外科, 55:658-661, 2004

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

福井 清数 助教

氏名(カナ・英文名)	フクイ キヨカズ FUKUI Kiyokazu	生年月	—
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 助手(2006.04)

■所属学会

日本整形外科学会, 日本股関節学会, 日本人工関節学会

■研究課題

大腿骨頭壊死の病態解明 (pathology of osteonecrosis of the femoral head)

■研究の概要

走査型電子顕微鏡を用いた大腿骨頭壊死の病態解明

■学術論文

Glucocorticoid induces micro-fat embolism in the rabbit: A scanning electron microscopic study, J. Orthop. Res., 24:675-683, 2006

A new method of perfusion fixation for the rabbit femur, Okajimas Folia Anat Jpn, 81:57-62, 2004

The relationship between stem subsidence and improvement in the radiolucency in polished tapered stems, Int Orthop, 30:387-390, 2006

ステロイド投与家兎大腿骨髄内細動脈における微小脂肪塞栓の存在, Hip Joint, 32:100-102, 2006

Harris precoat THA の長期成績, 関節外科, 23:1078-1082, 2004

■学術賞

金沢医科大学「学長賞」, Glucocorticoid induces micro-fat embolism in the rabbit: A scanning electron microscopic study 2006.03

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

安田 佳史 助教

氏名(カナ・英文名)	ヤスダ ヨシヒト YASUDA Yoshihito	生年月	1974.12
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院外科系	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 助手(2006.04)

■所属学会

日本整形外科学会, 日本脊椎脊髓病学会, 中部日本整形外科災害外科学会

■研究課題

椎間板変性における Bax を介するアポトーシス誘導に関する研究 (Involvement of Bax-mediated apoptosis in degeneration of intervertebral disc in rats)

■研究の概要

現在までに腰痛と椎間板変性が密接に関連していることが報告されており、その重要な要因の一つとして力学的ストレスが研究されている。本研究ではラット尾椎椎間板に力学的ストレスを加えることで、アポトーシス誘導因子 Bax を介するアポトーシスが髄核および線維輪で生じ、これらの細胞数が減少、さらに細胞外基質も減少することで椎間板変性に至ると考察された。

■学術論文

椎間板変性における Bax を介するアポトーシス誘導に関する研究, 金医大誌, 30:206-214, 2005

METRx Micro Discectomy system を用いた頸椎後方ヘルニア摘出術, 脊椎脊髓神手術手技, 8:75-78, 2006

腰部脊柱管狭窄症に対する円筒レトラクターを用いた顕微鏡下片側進入両側徐圧術の成績—従来法(両側拡大開窓術)との比較, 整形外科, 57:263-267, 2006

変形性股関節症の病期による腰椎骨盤矢状面のアライメント変化, 整・災外, 46:979-983, 2003

頸椎椎間板ヘルニアに対する METRx micro discectomy system を用いた頸椎後方ヘルニア摘出術, 中部整災誌, 49:437-438, 2006

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

山田 兼吾 助教

氏名(カナ・英文名)	ヤマダ ケンゴ YAMADA Kengo	生年月	1975.02
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院外科系	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 助手(2006.04)

■所属学会

日本整形外科学会, 日本股関節学会, 日本人工関節学会

■研究課題

人工股関節に関する研究 (Study on Total Hip Arthroplasty)

■研究の概要

股関節疾患に対して人工物で置き換える手術が行われるが、その耐久性が一番の問題である。セメント固定式人工股関節において、同じデザインのものでもその表面加工法の違いにより長期成績に差があることが報告されていたがその理由は不明であった。この理由解明に取り組み、バイオメカニカルな研究を行なった結果、表面加工差によりセメントや骨にかかる力が異なることを発見し、このことが成績差に関連があると考えられた。

■学術論文

人工股関節ステムの表面加工差が模擬大腿骨内の骨セメントに及ぼす力学的影響, 金医大誌, 30:181-190, 2005

人工股関節ステムの表面加工差が骨セメントに及ぼす力学的影響, 日臨バイオメカ会誌, 27:275-280, 2006

The relationship between stem subsidence and improvement in the radiolucency in polished tapered stems, Int Orthop, 30:387-390, 2006

模擬生体内における Collarless Polished Tapered Stem の挙動—vacuum mixed cement に対する作用力とセメントクリープ—, 日臨バイオメカ会誌, 27:281-285, 2006

進行期変形性股関節症に対する寛骨臼回転骨切り術の長期生存率, Hip Joint, 32:16-20, 2006

医学部／運動機能病態学(整形外科学)

三秋 恒平 助教

氏名(カナ・英文名)	ミアキ コウヘイ MIAKI Kohei	生年月	1970.01
所 属	医学部／運動機能病態学(整形外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	—		
専門分野	整形外科学		

■職歴

金沢医科大学 助教(2007.05), 金沢医科大学病院・整形外科 医員(2007.04), 金沢医科大学病院・整形外科 医員(2002.04), 北陸中央病院・整形外科 医員(2001.04), 金沢医科大学病院・整形外科 医員(2000.04)

■所属学会

日本整形外科学会, 中部日本整形外科災害外科学会, 日本骨折治療学会, 日本股関節学会

■研究課題

大腿骨頭壊死の病態解明 (Pathology of osteonecrosis of the femoral head)

■研究の概要

ステロイド性大腿骨頭壊死症の発生原因として、血管内塞栓病変の有無、生体内酸化ストレスなどの関与について究明し、予防法の確立を目指している。

■学術論文

日本白色家兎に対する酸化ストレス誘発剤を用いた骨壊死誘発実験, 金医大誌, 31:179-184, 2006

末期変形性股関節症における腰椎変性側弯と脚長差の関係において, 中部整災誌, 47:365-366, 2004

臼蓋側コンポーネントの破綻により金属症を生じた人工股関節の2例, 整形外科, 54:553-556, 2003

変形性股関節症の病期による腰椎骨盤矢状面のアライメント変化, 整・災外, 46:979-983, 2003

人工靱帯を用いた円錐靱帯再建術による Neer type II 鎖骨遠位端骨折の治療成績, 中部整災誌, 48:673-674, 2005

医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)

飯塚 秀明 教授

氏名(カナ・英文名)	イイヅカ ヒデアキ IIZUKA Hideaki	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	hidei@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	脳神経外科学		

■所属学会

日本脊髄障害医学会, 日本脳神経外科学会総会, 日本脊髄外科学会

■研究課題

脊椎・脊髄疾患, 脳腫瘍, 末梢神経疾患

■著書

頰椎症に対する前方アプローチと後方アプローチの長所と短所は何か? どのように使い分けるのか?, 脳神経外科 専門医にきく最新の臨床(片山容一、川又達朗編), 中外医学社, 日本, 2006

外傷 EBM に基づく脳神経疾患の基本治療指針, 脊椎・脊髄疾患(田村 晃、松谷雅生、清水輝夫編), 中山書店, 日本, 2006

■学術論文

Treatment of craniosynostosis by distraction osteogenesis, Pediatr Neurosurg, in press, 2006

Syndromic craniosynostosis with elbow joint contracture, Pediatr Neurosurg, 42:108-112, 2006

Treatment of craniosynostosis by distraction osteogenesis, Pediatr Neurosurg, 42:288-292, 2006

Syndromic craniosynostosis with elbow joint contracture, Pediatr Neurosurg, 42:108-112, 2006

妊娠を契機に発症したシャント機能不全の 1 例, 脳神経外科, 34:181-187, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 慢性圧迫による脊髄白質病変の実験的検討-遅発性軸索変性と脱髄の関与-

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 慢性圧迫による脊髄白質病変の実験的検討-遅発性軸索変性と脱髄の関与-

1997, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 慢性圧迫骨髄における脱髄病変の実験的検討

1996, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 慢性圧迫脊髄における脱髄病変の実験的検討

■研究費採択状況(その他の助成金)

1994, (財)橘勝会試験研究助成, 悪性神経膠腫に対する選択的動注化学療法の実験的検討

医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)

赤井 卓也 准教授

氏名(カナ・英文名)	アカイ タクヤ AKAI Takuya	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	職 名	准教授
最終学歴	富山医科薬科大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	akai@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	脳神経外科学		

■職歴

富山医科薬科大学 助手(1994.04), ウェイン州立大学 リサーチフェロー(1991.03), 金沢医科大学 助手(1997.03), 金沢医科大学 講師(1998.04), 金沢医科大学 助教授(2006.01)

■所属学会

日本脳神経外科学会, International Society for Pediatric Neurosurgery, 日本小児神経外科学会, 日本脳腫瘍病理学会, 日本脳卒中学会

■研究課題

悪性脳腫瘍の分化・誘導に関する研究 (The Expression of fibrinolytic genes on the proliferation and invasion of malignant brain tumor)

ヒト悪性グリオーマの分化誘導に関する研究 (Induction of differentiation in malignant glioma)

■研究の概要

転写活性調節因子である HMGI-C 蛋白・遺伝子発現が、同じ神経膠腫であっても、その分化度により予後が大きく異なる分化型グリオーマと未分化型グリオーマにおいてどのように作用しているかを解明し、未分化グリオーマを分化誘導する研究。

■著書

臨床血栓止血学—脳神経外科疾患と凝血異常, 臨床血栓止血学, 医歯薬出版株式会社, 東京, 1994

■学術論文

Treatment of craniosynostosis by distraction osteogenesis, *Pediatr Neurosurg*, in press, 2006

頭蓋骨縫合早期癒合症と発達遅滞—FGFR 遺伝子異常の検討—, 小児の脳神, 29:224-228, 2004

頭蓋縫合早期癒合症と発達遅滞, 小児の脳神, 25:437-441, 2000

Modulation of tissue-plasminogen activator expression by platelet activating factor in human glioma cells, *J. Neurooncol.*, 59: 193-198, 2002

Complex central cortex in pediatric patients with malformations of cortical development
, *J Child Neurol*
, 2002

医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)

立花 修 准教授

氏名(カナ・英文名)	タチバナ オサム TACHIBANA Osamu	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	職 名	准教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	taczzz@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	脳神経外科学		

■所属学会

日本脳神経外科学会, 日本脳神経外科コンgres, 日本間脳下垂体腫瘍学会, 日本脳腫瘍病理学会, 日本癌学会

■研究課題

下垂体腫瘍

■研究の概要

間脳下垂体:1.濾胞-星細胞、手術に有用な画像の撮影法、拡大経蝶形骨手術法の工夫。下垂体腺腫に対する放射線治療の合併症。2.頭蓋咽頭腫の発生、嚢胞内容液の分析。3. 頭蓋内胚細胞性腫瘍の発生と悪性化の機序。4. ラトケ嚢胞とくも膜嚢胞の MR 画像の特徴とアプローチの選択。悪性神経膠腫:1. 悪性神経膠腫におけるアポトーシス誘導機構と腫瘍免疫、2.遺伝子学的分類をとりいれた悪性神経膠腫の新たな分類。

■著書

脳・神経, 成人看護学・病態生理・疾病論 [II] 第2版., 廣川書店, 東京, 2003

脳腫瘍各論 craniopharyngioma, 脳神経外科臨床指針, 中外医学社, 東京, 2002

■学術論文

Granulomatous pachymeningitis around the sella turcica (Tolosa-Hunt syndrome) involving the hypophysis., Neurol Med Chir (Tokyo), 47(2):85-8, 2007

Absence of tight junctions between microvascular endothelial cells in human cerebellar hemangioblastomas, Neurosurgery, 59:660-670, 2006

神経膠芽腫の遺伝子解析による分類—神経膠芽腫の遺伝子異常と変化がもたらす生物学のおよび臨床学的意義—, 金医大誌, 30:468-474, 2005

Frequent gene amplification and overexpression of decoy receptor 3 in glioblastoma, Acta Neuropathol (Berl.), 109(3):294-8. Epub, 2004

トルコ鞍拡大を伴わない頭蓋咽頭腫に対する経蝶形骨経視交叉溝アプローチの検討, 日内分泌会誌, 82 suppl:43-46, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ヒト髄膜腫に対するゴナドトロピン放出ホルモン受容体を標的とした治療の基礎的研究

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ヒト髄膜腫に対するゴナドトロピン放出ホルモン受容体を標的とした治療の基礎的研究

医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)

飯田 隆昭 講師

氏名(カナ・英文名)	イイダ タカアキ IIDA Takaaki	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	脳神経外科学		

■所属学会

日本脊髄外科学会, 脳卒中学会, 日本脳神経外科学会

■研究課題

脊椎・脊髄疾患、脳腫瘍

■著書

頸椎症に対する前方アプローチと後方アプローチの長所と短所は何か？どのように使い分けるのか？, 脳神経外科 専門医にきく最新の臨床(片山容一、川又達朗編), 中外医学社, 日本, 2006

■学術論文

アテトーゼ型脳性麻痺に伴う頸椎病変に対する一期的前方後方除圧固定術, 日脊髄障害医学会誌, 18:70-71, 2005

Histopathological study of autopsy cases with compressive myelopathy due to epidural malignancy, cervical ossification of the posterior longitudinal ligament and cervical spondylosis, J. Kanazawa. Med. Univ., 27: 117-121, 2002

頭蓋頸椎移行部疾患の手術に伴う合併症, 脊椎脊髄ジャーナル, 14: 1083-1085, 2001

頸椎前方除圧固定術(顕微鏡使用) 頸椎症の手術療法, 脊椎脊髄ジャーナル, 15: 564-568, 2002

Calcification on the ventricle wall associated with a shunt tube, Neurol. Med. Chir. (Tokyo), 44:674-676, 2004

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1999, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 脳虚血による神経細胞での NF κ B および c-jun の活性化と低体温によるその抑制

1998, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 脳虚血による神経細胞での NF κ B および c-jun の活性化と低体温によるその抑制

医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)

高田 久 講師

氏名(カナ・英文名)	タカタ ヒサシ TAKADA Hisashi	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	taka-h@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	脳神経外科学		

■所属学会

日本脳神経外科学会

■研究課題

脳血管障害, 頭部外傷, 血管内外科

■学術論文

複数回の定位放射線治療を行った転移性脳腫瘍の検討, 定位的放線治療, 9:21-27, 2005

A comparative study of the treatment of chronic subdural hematoma-Burr hole drainage versus burr hole irrigation, Surg Neurol, 57: 405-410, 2002

Histopathological study of autopsy cases with compressive myelopathy due to epidural malignancy, cervical ossification of the posterior longitudinal ligament and cervical spondylosis, J. Kanazawa. Med. Univ., 27: 117-121, 2002

Tumor-like accumulation on TI-201 SPECT in subacute hemorrhagic cerebral infarction, Clin. Nucl. Med., 26: 357-358, 2001

医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)

岡本 一也 学内講師

氏名(カナ・英文名)	オカモト カズヤ OKAMOTO Kazuya	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	ns-oka@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	脳神経外科学		

■研究課題

脳腫瘍、定位放射線治療

■学術論文

Hepatocellular carcinoma and nonalcoholic steatohepatitis developing during long-term administration of valproic acid, Virchows Arch., 447:996-999, 2005

複数回の定位放射線治療を行った転移性脳腫瘍の検討, 定位的放線治療, 9:21-27, 2005

転移性脳腫瘍に対する定位放射線治療後の組織所見, 定位的放線治療, 8:9-16, 2004

Changes in regional cerebral blood flow in irradiated regions and cerebral blood flow in irradiated regions and normal brain after stereotactic radiosurgery, Ann Nucl Med, 16: 273-277, 2002

A comparative study of the treatment of chronic subdural hematoma-Burr hole drainage versus burr hole irrigation, Surg Neurol, 57: 405-410, 2002

医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)

笹川 泰生 助教

氏名(カナ・英文名)	ササガワ ヤスオ SASAGAWA Yasuo	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	y-sasa@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

脳神経外科一般

■学術論文

妊娠を契機に発症したシャント機能不全の 1 例, 脳神外科, 34:181-187, 2006

High mobility Group I-C protein in astrocytoma and glioblastoma, Pathol. Res. Pract., 200:619-624, 2004

HMGI-C 遺伝子導入によるヒト膠芽腫培養細胞の増殖抑制に関する研究, 金医大誌, 28: 186-193, 2003

医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)

白神 俊祐

助教

氏名(カナ・英文名)	シラガ シュンスケ SIRAGA Syunsuke	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	ishishun@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	脳神経外科学		

■所属学会

日本脳腫瘍病理学会, 日本神経内視鏡学会, 日本脳神経外科学会, 日本脳神経血管内治療学会, 日本小児神経外科学会

■研究課題

脳神経外科一般

■研究の概要

脳神経外科に関する、血管障害、腫瘍、外傷、脊椎脊髄、小児脳神経、奇形等を全般的に研究中。

■学術論文

トルコ鞍拡大を伴わない頭蓋咽頭腫に対する経蝶形骨神経視交叉溝アプローチの検討, 日内分泌会誌, 82 suppl:43-46, 2006

Recurrent meningioma with metastasis to the skin incision-case report-, Neurol. Med. Chir. (Tokyo), 44:600-602, 2004

医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)

村坂 憲史

助教

氏名(カナ・英文名)	ムラサカ ケンシ MURASAKA Kenshi	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	kenshi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

脳神経外科一般

医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)

山本 謙二 助教

氏名(カナ・英文名)	ヤマモト ケンジ YAMAMOTO Kenji	生年月	—
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	y-ken@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

脳神経外科一般

■学術論文

Syndromic craniosynostosis with elbow joint contracture, *Pediatr Neurosurg*, 42:108-112, 2006

Syndromic craniosynostosis with elbow joint contracture, *Pediatr Neurosurg*, 42:108-112, 2006

Malignant fibrous histiocytoma in the craniocervical junction presenting with severe occipitalgia, *Brain Tumor Pathol.*, 23:101-105, 2006

頭蓋骨縫合早期癒合症と発達遅滞—FGFR 遺伝子異常の検討—, *小児の脳神*, 29:224-228, 2004

Effects of L* protein of Theiler's murine encephalomyelitis virus (TMEV) on tis biological activities, *J. Kanazawa. Med. Univ.*, 27: 108-111, 2002

医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)

山本 治郎 助教

氏名(カナ・英文名)	ヤマモト ジロウ YAMAMOTO Jiro	生年月	1970.04
所 属	医学部／脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	博士
電子メール	jiro-y@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■所属学会

日本脳神経外科学会, 神経学学, 日本神経免疫学会, 日本神経感染症研究会, ウイルス学会

■研究課題

脳神経外科一般

■学術論文

L* protein of the DA strain of Theiler's murine encephalomyelitis virus is important for virus growth in a murine macrophage-like cell line., Journal of Virology, 1998

Theiler's murine encephalomyelitis virus(TMEV)sub group strain-specific infection in neural and non-neural cell lines., Microbiological Immunology, 1999

L* protein of Theiler's murine encephalomyelitis virus is required for virus growth in a murine macrophage-like cell line, Journal of Virology, 2000

L* protein of Theiler's murine encephalomyelitis virus is required for virus growth in a murine macrophage-like cell line, J. Virol., 74:4898-4901, 2000

持続感染および脱髄におけるタイラーウイルス L* 蛋白の役割, 金医大誌, 25:234-241, 2000

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

川上 重彦 教授

氏名(カナ・英文名)	カワカミ シゲヒコ KAWAKAMI Shigehiko	生年月	1951.11
所 属	医学部／機能再建外科学(形成外科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	sk2611@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	形成外科		

■職歴

1979-1987 Kanazawa Medical University, Assistant (1979.04), 1987-1992 Kanazawa Medical University, Assistant Professor (1987.04), 1992-1997 Kanazawa Medical University, Associate Professor (1992.04), 1997- Kanazawa Medical University, Chief Professor (1997.04)

■所属学会

日本頭蓋底外科学会, 日本美容外科学会, 日本口蓋裂学会, 日本頭蓋顎顔面外科学会, 日本形成外科学会

■研究課題

組織移植時における血行再開機序の解明 (Study on Revascularization after Tissue Transplantation)

頭蓋顎顔面外科における実体モデルを用いたシュミレーション手術の臨床応用 (Clinical Application of Simulation Surgery using 3D Solid Model in Cranio-Maxillo-Facial Surgery)

■研究の概要

創傷治癒に関する基礎的, 臨床的研究

■著書

サッカーに多い外傷・障害の管理－顔面外傷－, 選手と指導者のためのサッカー医学, 金原出版株式会社, 東京, 2005

外科的治療, 創傷治癒, プレーン出版, 東京, 2005

■学術論文

ラット熱傷皮膚の無菌性・進行性壊死に対する PGL₂ 誘導体の効果について, 日本形成外科学会会誌, 1987

直視下顔面神経到達法を利用した下顎関節突起骨折の観血的整復術, 形成外科, 1992

下顎前突症に対する顎骨移動術－その問題点と対策について－, 日本頭蓋顎顔面外科学会誌, 1990

下顎枝矢状分骨切り術における骨片固定法－ミニプレート固定の有用性－, 日本頭蓋顎顔面外科学会誌, 1992

ヒト線維芽細胞成長因子の Random Pattern Flap の生着に及ぼす効果, 日本形成外科学会会誌, 1991

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 新生血管構築からみた人工真皮収縮機序の解明

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 新生血管構築からみた人工真皮収縮機序の解明

1994, 科学研究費補助金 一般研究(C), 組織移植時における血行再開機序の解明と薬物によるその促進効果の検討

1993, 科学研究費補助金 一般研究(C), 組織移植時における血行再開機序の解明と薬物によるその促進効果の検討

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

島田 賢一 講師

氏名(カナ・英文名)	シマダ ケンイチ SHIMADA Kenichi	生年月	1960.12
所 属	医学部／機能再建外科学(形成外科学)	職 名	講師
最終学歴	富山医科薬科大学医学部	学 位	—
電子メール	shimaken@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	形成外科		

■所属学会

日本形成外科学会, 日本熱傷学会, 日本手の外科学会

■研究課題

手の外科, マイクロサージャリー

■学術論文

眼窩内骨膜下血腫の1例, 形成外科, 1994

鼻骨骨折のキルシュナー鋼線固定法とCT像による評価, 日本形成外科学会誌, 1996

外陰部に発症した稀な類上皮肉腫の1例, スキンカンサー, 1998

A Subperiosteal Hematoma of Orihit : A Case Report, The Japanese Journal of Plastic & Reconstructive Surgery, 1994

Evaluation of K-Wire Fixation for Nasal Bone Fractures Using CT Images, 1996

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

吉田 純 学内講師

氏名(カナ・英文名)	ヨシダ ジュン YOSHIDA Jun	生年月	—
所 属	医学部／機能再建外科学(形成外科学)	職 名	学内講師
最終学歴	九州大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	形成外科学		

■所属学会

日本形成外科学会

■研究課題

頭蓋顎顔面外科

■研究の概要

顎顔面外科における手術手技の改良, 開発

■著書

Ⅲ. 下枝の再建 21. 足趾先天異常の治療の進歩, 形成外科 ADVANCE シリーズ I -2 四肢の形成外科: 最近の進歩, 克誠堂出版株式会社, 東京, 2005

■学術論文

Syndromic craniosynostosis with elbow joint contracture, *Pediatr Neurosurg*, 42:108-112, 2006

Syndromic craniosynostosis with elbow joint contracture, *Pediatr Neurosurg*, 42:108-112, 2006

特集/新鮮顔面外傷診療マニュアルー顔面骨骨折, *PEPARS*, 4:33-40, 2005

特集/遊離皮膚移植の実際ー遊離全層植皮の適応と実際ー, *PEPARS*, 2:9-17, 2005

創外固定による下顎骨骨折の治療, *日頭顎顔会誌*, 20:151-157, 2004

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1999, 科学研究費補助金 奨励研究(A), ECM ゲル内ヒト皮膚由来血管内皮細胞、線維芽細胞、角化細胞三種階層立体共培養

1998, 科学研究費補助金 奨励研究(A), ECM ゲル内ヒト皮膚由来血管内皮細胞、線維芽細胞、角化細胞三種階層立体共培養

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

岸邊 美幸

学内講師

氏名(カナ・英文名)	キシベ ミユキ KISHIBE Miyuki	生年月	—
所 属	医学部／機能再建外科学(形成外科学)	職 名	学内講師
最終学歴	富山医科薬科大学大学院	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	形成外科学		

■研究課題

唇裂, 口蓋裂外科, 耳介形成

■研究の概要

形成外科学

■学術論文

Ⅱ度熱傷創に対するカルボキシメチルセルロースナトリウム(アクアセル®)の臨床効果, 熱傷, 32:249-257, 2006

分層採皮創に対するハイドロゲル型創傷被覆材(ビューゲル®)とポリウレタンフィルム材(カテリーブ®)の併用効果, 新薬と臨, 55:967-976, 2006

特集/四肢先天異常診療マニュアルー絞扼輪症候群ー, PEPARS, 5:90-96, 2005

紡錘形細胞型有棘細胞癌ー外眼角に生じた紡錘形細胞型有棘細胞癌の1例ー, Skin Cancer, 20:146-149, 2005

Recurrent meningioma with metastasis to the skin incision, Neurol. Med. Chir. (Tokyo), 44:600-602, 2004

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2005, 科学研究費補助金 萌芽研究, 表皮樹状細胞の創傷治癒過程各期における発現と機能の検討

2004, 科学研究費補助金 萌芽研究, 表皮樹状細胞の創傷治癒過程各期における発現と機能の検討

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

山元 康德

学内講師

氏名(カナ・英文名)	ヤマモト ヤスノリ YAMAMOTO Yasunori	生年月	—
所 属	医学部／機能再建外科学(形成外科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	形成外科学, 麻酔・蘇生学		

■所属学会

日本形成外科学会, 日本麻酔学会

■研究課題

熱傷, 一般形成外科

■学術論文

ユニベント使用時に生じた気管あるいは気管支損傷の2例, 臨床麻酔, 1989

乳幼児熱傷の治療の基本戦略 一創管理と成長に伴う再建治療一, 形成外科, 49:849-857, 2006

分層採皮創に対するハイドロゲル型創傷被覆材(ビューゲル®)とポリウレタンフィルム材(カテリーブ®)の併用効果, 新薬と臨, 55:967-976, 2006

テレビ番組で紹介された脱毛ローション作製中の熱傷例, 熱傷, 31:169-174, 2005

粘着固定テープを用いた植皮片の固定法, 熱傷, 28: 97-102, 2002

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

山下 昌信 助教

氏名(カナ・英文名)	ヤマシタ マサノブ YAMASHITA Masanobu	生年月	—
所 属	医学部／機能再建外科学(形成外科学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■研究課題

一般形成外科

■学術論文

創傷被覆材と創傷治癒促進剤－その進歩と血管新生に及ぼす影響, 医のあゆみ, 219:525-529, 2006

動脈血栓を伴った固有指動脈真性動脈瘤の1例, 日形会誌, 24:503-507, 2004

Darier 病の外科的治療の経験－皮膚切除術と皮膚剥削術の併用－, 形成外科, 46: 1153-1157, 2003

人工真皮貼付創における新生血管構築－光顕的・鋳型走査電顕的研究－, 金医大誌, 25: 202-218, 2001

人工真皮貼付創における新生血管構築－光顕的・鋳型走査電顕的研究－, 金医大誌, 25:202-218, 2000

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

西部 泰弘 助教

氏名(カナ・英文名)	ニシブ ヤスヒロ NISHIBU Yasuhiro	生年月	—
所 属	医学部／機能再建外科学(形成外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■研究課題

皮膚外科

■学術論文

口唇裂形成術を施行した13トリソミー症候群の1例, 日形会誌, 26:663-667, 2006

粘着固定テープを用いた植皮片の固定法, 熱傷, 28: 97-102, 2002

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

黒澤 智子 助教

氏名(カナ・英文名)	クロサワ トモコ KUROSAWA Tomoko	生年月	—
所 属	医学部／機能再建外科学(形成外科学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■研究の概要

熱傷などの外傷後に発症する toxic shock syndrome(TSS)は、乳幼児に好発する致死率の高い疾患であるが、これまで本疾患の原因物質である Toxic shock syndrome toxin-1 (TSST-1)の抗体の有無に関する報告はない。本研究において、患者より採血を行い、TSST-1 抗体の測定を行うことで、TSS の予防や治療の発展に寄与できると考えられる。

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

氷見 祐二 助教

氏名(カナ・英文名)	ヒミ ユウジ HIMI Yuji	生年月	—
所 属	医学部／機能再建外科学(形成外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	—
電子メール	himiyuji@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

一般形成外科

■学術論文

Pathology in rocus Fespiratory epithelial adenomatoid hamartoma of the maxillary sinus, J Laryngol Otol, 116:317-318, 2002

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

篠川 靖夫 助教

氏名(カナ・英文名)	シノカワ ヤスオ SHINOKAWA Yasuo	生年月	—
所 属	医学部／機能再建外科学(形成外科学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■研究課題

手の外科, マイクロサージャリー

■学術論文

四肢の疾患 10.巨指(趾)症, 形成外科, 46: S193-194, 2003

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

榎本 仁 助教

氏名(カナ・英文名)	エノモト ジン ENOMOTO Jin	生年月	—
所 属	医学部／機能再建外科学(形成外科学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■研究課題

一般形成外科

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

原島 要人 助教

氏名(カナ・英文名)	ハラシマ ヨウト HARASHIMA Youto	生年月	—
所 属	医学部／機能再建外科学(形成外科学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■研究課題

一般形成外科

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

森田 礼時 助教

氏名(カナ・英文名)	モリタ レイジ MORITA Reiji	生年月	—
所 属	医学部／機能再建外科学(形成外科学)	職 名	助教
最終学歴	山形大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	rei@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

血管腫・血管奇形・血管肉腫・リンパ管腫の遺伝子異常

■学術論文

Facial protection masks after fracture treatment of the nasal bone to prevent re-injury in contact sports., J Craniofac Surg, Jan;18(1):143-5, 2007

Lymphatic mapping and sentinel lymph node biopsy for staging of aggressive digital papillary adenocarcinoma., Plast Reconstr Surg., Feb;117(2):710-2., 2006

Sentinel lymph node biopsy in patients with extramammary Paget's disease., Dermatol Surg., Oct;30(10):1329-34., 2004

Use of skin staplers to fix film dressings on scalp donor wounds in patients with burns, Burns, 28:267-269, 2002

Comparison of genetic profiles between primary melanomas and their metastases reveals genetic alterations and clonal evolution during progression., J Invest Dermatol., Dec;111(6):919-24., 1998

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 若手研究(B), 血管系腫瘍(莓状血管腫・血管肉腫)の発病進展に関する血管新生因子及び遺伝子変異

2005, 科学研究費補助金 若手研究(B), 血管系腫瘍(莓状血管腫・血管肉腫)の発病進展に関する血管新生因子及び遺伝子変異

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

宮下 松樹 助教

氏名(カナ・英文名)	ミヤシタ マツキ MIYASHITA Matsuki	生年月	—
所 属	医学部／機能再建外科学(形成外科学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■研究課題

一般形成外科

医学部／機能再建外科学(形成外科学)

皐月 玲子 助教

氏名(カナ・英文名)	サツキ レイコ SATSUKI Reiko	生年月	—
所 属	医学部／機能再建外科学(形成外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	—		
専門分野	—		

■研究課題

一般形成外科

■研究の概要

機能再建外科

■学術論文

人工真皮と塩基性線維芽細胞増殖因子を用いた骨・軟骨露出創の治療, 皮の科, 5:46-51, 2006

人工真皮と塩基性線維芽細胞増殖因子を用いた難治性創傷の治療－実験的創傷モデルにおける検討－, 金医大誌, 29:163-172, 2004

頭部エクリン母斑の1例, 形成外科, 46: 725-728, 2003

医学部／臓器機能再建学(小児外科学)

伊川 廣道 教授

氏名(カナ・英文名)	イカワ ヒロミチ IKAWA Hiromichi	生年月	—
所 属	医学部／臓器機能再建学(小児外科学)	職 名	教授
最終学歴	慶應義塾大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	小児外科学		

■研究課題

一般小児外科, 排便機能, 肝移植

■研究の概要

鎖肛手術における骨盤神経直腸温存の意義

■著書

腸重積症, コア・ローテーション小児科(眞弓光文, 他編), 金芳堂, 京都, 2003

■学術論文

Schinzal-Giedion 症候群の女児一責任遺伝子についての考察一, 小児臨, 59:2063-2066, 2006

胆道閉鎖症肝門部郭清と肝門部空腸吻合一胆管走行に基づく胆道閉鎖症の肝門部郭清, 小児外科, 38:870-873, 2006

ヒルシュプルング病に対する経肛門的根治術の術後排便機能一開腹池田 Z 法との比較一, 日小外会誌, 42:181-187, 2006

Sexual problems in male patients older than 20 years with anorectal malformations, J. Pediatr. Surg., 41:306-309, 2006

Application of optical isomer analysis by diastereomer derivatization GC/MS to determine the condition of patients with short bowel syndrome, J. Chromatogr. B Analyt. Technol. Biomed. Life Sci., 838:37-42, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 移植臓器保存において体外循環を用いた長期保存法に関する研究

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 移植臓器保存において体外循環を用いた長期保存法に関する研究

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 移植臓器保存において体外循環を用いた長期保存法に関する研究

医学部／臓器機能再建学(小児外科学)

河野 美幸 准教授

氏名(カナ・英文名)	コウノ ミユキ KOHNO Miyuki	生年月	1954.11
所 属	医学部／臓器機能再建学(小児外科学)	職 名	准教授
最終学歴	広島大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	miyuki@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	小児外科		

■職歴

金沢医科大学小児外科 助教授(1999.11), 金沢医科大学小児外科 講師(1996.10), 金沢医科大学小児外科 助手(1986.01), 富山市民病院小児外科 医員(1984.04), 金沢医科大学小児外科 助手(1983.09)

■所属学会

日本小児外科学会, 日本外科学会, 日本消化器内視鏡学会, 日本臨床外科学会

■研究課題

一般小児外科, 小児内視鏡外科, 小児泌尿器

■研究の概要

排便時の大腸運動, 骨盤神経の働きに関する研究

■著書

胃・十二指腸チューブ, コア・ローテーション小児科(眞弓光文, 他編), 金芳堂, 京都, 2003

■学術論文

停留率丸 191 例の認識年齢と手術年齢について, 小児科, 1987

大学病院で経験する小児の腸重積症, 消化器外科, 1982

小児における内視鏡的胃瘻造設術の経験と問題点, 小児外科, 1990

小児の鼠径部及び陰嚢部の温度測定, 日本小児外科学会雑誌, 1992

新生児, 乳児の肛門位置の数値的客観化, 日本小児外科学会雑誌, 1991

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 排便運動における骨盤神経叢直腸枝の働きに関する実験的研究

医学部／臓器機能再建学(小児外科学)

小沼 邦男 講師

氏名(カナ・英文名)	コヌマ クニオ KONUMA Kunio	生年月	—
所 属	医学部／臓器機能再建学(小児外科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	dada3@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	小児外科学		

■研究課題

一般小児外科, 直腸肛門奇形, 小児気道外科

■学術論文

Schinzel-Giedion 症候群の女児一責任遺伝子についての考察一, 小児臨, 59:2063-2066, 2006

胆道閉鎖症肝門部郭清と肝門部空腸吻合一胆管走行に基づく胆道閉鎖症の肝門部郭清, 小児外科, 38:870-873, 2006

Sexual problems in male patients older than 20 years with anorectal malformations, J. Pediatr. Surg., 41:306-309, 2006

クラリーノ症候群における染色体異常, 日小外会誌, 41:734-738, 2005

周期性嘔吐症-その病態と周期性 ACTH-ADH 放出症候群, 小児外科, 37:413-418, 2005

医学部／臓器機能再建学(小児外科学)

増山 宏明 学内講師

氏名(カナ・英文名)	マスヤマ ヒロアキ MASUYAMA Hiroaki	生年月	—
所 属	医学部／臓器機能再建学(小児外科学)	職 名	学内講師
最終学歴	慶應義塾大学医学部	学 位	—
電子メール	masuyama@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	小児外科学		

■所属学会

日本小児外科学会, 日本小児がん学会, 日本移植学会, 日本小児泌尿器学会, 日本外科学会

■研究課題

一般小児外科, 肝移植

■学術論文

胆道閉鎖症肝門部郭清と肝門部空腸吻合－胆管走行に基づく胆道閉鎖症の肝門部郭清, 小児外科, 38:870-873, 2006

ヒルシュsprung病に対する経肛門的根治術の術後排便機能－開腹池田 Z 法との比較－, 日小外会誌, 42:181-187, 2006

Sexual problems in male patients older than 20 years with anorectal malformations, J. Pediatr. Surg., 41:306-309, 2006

クラリーノ症候群における染色体異常, 日小外会誌, 41:734-738, 2005

周期性嘔吐症-その病態と周期性 ACTH-ADH 放出症候群, 小児外科, 37:413-418, 2005

医学部／臓器機能再建学(小児外科学)

福本 泰規 助教

氏名(カナ・英文名)	フクモト ヒロノリ FUKUMOTO Yasunori	生年月	—
所 属	医学部／臓器機能再建学(小児外科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学	学 位	—
電子メール	h-fuku@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	小児外科		

■所属学会

日本小児外科学会，日本外科学会，日本消化器外科学会，日本小児泌尿器科学会，日本小児救急医学会

■研究課題

一般小児外科

■学術論文

胆道閉鎖症肝門部郭清と肝門部空腸吻合－胆管走行に基づく胆道閉鎖症の肝門部郭清，小児外科，38:870-873，2006

ヒルシュプルング病に対する経肛門的根治術の術後排便機能－開腹池田 Z 法との比較－，日小外会誌，42:181-187，2006

Sexual problems in male patients older than 20 years with anorectal malformations, J. Pediatr. Surg., 41:306-309, 2006

クラリーノ症候群における染色体異常，日小外会誌，41:734-738，2005

難治性てんかんを合併する重症心身障害児(者)の周術期管理－高用量フェノバルビタール療法の応用－，小児臨，58:1509-1512，2005

医学部／臓器機能再建学(小児外科学)

森村 絵里 助教

氏名(カナ・英文名)	モリムラ エリ MORIMURA Eri	生年月	—
所 属	医学部／臓器機能再建学(小児外科学)	職 名	助教
最終学歴	京都府立医科大学	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■所属学会

日本内視鏡外科学会，日本臨床外科学会，日本消化器外科学会，日本外科学会，日本小児外科学会

医学部／感覚機能病態学(眼科学)

佐々木 洋 教授

氏名(カナ・英文名)	ササキ ヒロシ SASAKI Hiroshi	生年月	1962.08
所 属	医学部／感覚機能病態学(眼科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	mogu@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	眼科学		

■職歴

金沢医科大学 教授(2005.05)

■所属学会

日本眼科学会, 日本眼科手術学会, 日本疫学学会, アルコール医学生物研究会, 日本眼炎症学会

■研究課題

水晶体の基礎研究、白内障の疫学研究、眼光学、ぶどう膜炎 (Basic research of crystalline lens, Epidemiology research of cataract, Ophthalmological optics, uveitis)

■著書

水晶体核硬化度と水晶体混濁パターンの分類, 眼科プラクティス 4眼科所見の捉え方と描き方(田野保雄), 文光堂, 東京, 2005

High prevalence of nuclear cataract in the population of tropical and subtropical areas, Dev. Ophthalmol. (O.Hockwin et al.), Karger, Basel, 2002

■学術論文

Cosmic radiation increases the risk of nuclear cataract in airline pilots, Arch. Ophthalmol., 123:1102-1105, 2005

Racial differences of lens transparency properties with aging and prevalence of age-related cataract applying a WHO classification system, Ophthalmic Res., 36:332-340, 2004

Localization of cortical cataract in subjects of diverse races and latitude, Invest. Ophthalmol. Vis. Sci., 44: 4210-4214, 2003

Prevalence of primary cornea guttata and morphology of corneal endothelium in aging Japanese and Singaporean subjects, Ophthalmic Res., 34: 135-138, 2002

Characteristics of cataract in the Chinese Singaporean, J Epidemiol, 11: 16-23, 2001

■共同研究希望(研究シーズ)

マネキンモデルを用いた眼部紫外線被曝量の計測

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 日本人の白内障病型別発症率と発症・進行予測および危険因子探索

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 日本人の白内障病型別発症率と発症・進行予測および危険因子探索

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 日本人の白内障病型別発症率と発症・進行予測および危険因子探索

2000, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 紫外線感受眼内レンズ挿入による水晶体全面の被曝量と対応する水晶体上皮細胞の挙動

1999, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 紫外線感受眼内レンズ挿入による水晶体全面の被曝量と対応する水晶体上皮細胞の挙動

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2001, 厚生労働科学研究費補助金 医療技術評価総合研究事業, 科学的根拠(evidence)に基づく白内障診療ガイドライン策定に関する研究

2000, 厚生労働科学研究費補助金 医療技術評価総合研究事業, 科学的根拠(evidence)に基づく白内障診療ガイドライン策定に関する研究

医学部／感覚機能病態学(眼科学)

中泉 裕子 教授

氏名(カナ・英文名)	ナカイズミ ヒロコ NAKAIZUMI Hiroko	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(眼科学)	職 名	教授
最終学歴	東邦大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	nakayu@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	眼内レンズ, 弱視・斜視, intraocular lens, amblyopia・strabismus, refractive surgery		

■所属学会

日本眼科学会, 日本手術学会, 日本弱視・斜視学会, 日本眼内レンズ屈折手術学会

■研究課題

後囊混濁の分類 (Classification of Posterior Capsule Opacification)

■著書

手術期管理 コメント, すぐに役立つ眼科診療の知識 白内障 (編 谷口重雄), 金原出版, 東京, 2006

■学術論文

白内障手術を受けた高齢者の術後生活視力, 視覚の科学, 1999

インフォームドコンセント時代の眼科外来診療マニュアル-私はこうしている-外来診療のポイント(所見からみた疾患)-私はこうしている眼瞼痙攣, 臨床眼科, 1999

固定内斜視の 1 症例, 眼科臨床医報, 1999

Assesment of Life of Aged Patients after Cataract Surgery, Japanese Journal of Visual Science, 1999

A case of convergent strebismus fixus, Japanese Review of Clinical Ophthalmology, 1999

医学部／感覚機能病態学(眼科学)

北川 和子 教授

氏名(カナ・英文名)	キタガワ カズコ KITAGAWA Kazuko	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(眼科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	kitagawa@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	眼科学		

■職歴

1995-現在 金沢医科大学眼科学教室助教授

■所属学会

日本眼感染症学会, 日本眼科学会, 日本眼科手術学会, 日本コンタクトレンズ学会, アメリカコンタクトレンズ学会

■研究課題

外眼部感染症 (Study on External Ocular Infections)

Scheimpflug カメラによる角膜および涙液動態の研究 (Study on The Cornea and Tear Fluid Dynamics using a Scheimpflug Camera)

■研究の概要

眼感染症の病態・治療ならびにシェーグレン症候群患者眼所見と涙液解析(プロテオミクスを応用)を行っている。

■著書

3 続発性角膜アミロイド変性, NEW MOOK 眼科 角膜ジストロフィ・角膜変性 (大野重昭 他), 金原出版, 東京, 2005

VIII眼科 眼痛、眼脂、眼の充血、, これだけは知っておきたいドントドゥー(松田重三編), (株)新興医学出版, 東京, 2004

■学術論文

Prevalence of primary cornea guttata and morphology of corneal endothelium in aging Japanese and Singaporean subjects, Ophthalmic Research, 2002

Successful management of conjunctival intraepithelial neoplasia by interferon alpha-2b, Japanese Journal of Ophthalmology, 2002

薬物性視覚障害(共著), 医学ジャーナル社, 1995

角膜ー新しい知見・疾患概念と治療-(共著), 金原出版, 1993

眼感染症治療戦略(共著), 文光堂, 1996

■共同研究希望(研究シーズ)

滴状角膜を含めた角膜内皮細胞形状に対する人種、紫外線等有害線被曝の影響

眼感染症の病態 特にアcantアメーバ角膜炎発症機構ならびに発症予防(コンタクトレンズケアも含めて)

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1978, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 眼球各組織における細胞膜系特異抗原の分離・精製とその性質に関する研究

医学部／感覚機能病態学(眼科学)

福田 正道 講師

氏名(カナ・英文名)	フクダ マサミチ FUKUDA Masamichi	生年月	1955.02
所 属	医学部／感覚機能病態学(眼科学)	職 名	講師
最終学歴	城西大学薬学部	学 位	薬学博士
電子メール	fukuda@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	眼科学, 薬物動態, 細胞生物学		

■職歴

1988-2001 金沢医科大学 助手, 1988-2001 Kanazawa Medical University, Assistant

■所属学会

日本眼感染症学会, 日本化学療法学会, 日本眼薬理学会, 日本眼科学学会, 国際眼毒性学会

■研究課題

薬物の眼内移行動態 (Intraocular Penetration Mode of Drugs.)

眼組織における薬物排出トランスポータの発現. (Expression of the efflux transport system in the ocular tissue.)

■研究の概要

(新たに角膜抵抗測定装置を開発して、この装置で角膜障害の定量化を試みている。) 角膜に角膜 CL 電極を装着し、角膜抵抗を測定することにより、角膜障害の定量化の可能性が示唆された。本装置は角膜障害を生体眼で測定可能な有用な方法になるであろうと考えている。

■著書

フルオロキノロン系抗菌点眼薬の AQCmax と MIC, Ocular Infection Navigator(大橋裕一編), インフロント東京, 東京, 2004

抗微生物, 眼科診療プラクティス 角結膜疾患の薬物療法 (丸尾敏夫 他編), 文光堂, 東京, 2002

■学術論文

培養角結膜上皮細胞のフルオロキノロン系抗菌剤の取り込み, 日本眼科学会雑誌, 1999

メラニンとフルオロキノロン剤の結合メカニズムの研究, 日本化学療法、感染症学会雑誌, 2000

表皮ぶどう球菌で誘発した家兎角膜感染眼モデルの作製, 日本眼科学会雑誌, 1999

Biapenem(BIPM)の家兎眼組織内移行動態の検討, あたらしい眼科, 1998

非エステル型セフェム系抗生物質 S-1090 の家兎眼組織内移行動態, 日本眼科紀要, 1997

■学術賞

国際眼毒性学会学会賞, 1992

日本眼感染症学会学会賞(三井賞), 1994

医学部／感覚機能病態学(眼科学)

永井 康太 助教

氏名(カナ・英文名)	ナガイ コウタ NAGAI Kouta	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(眼科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	k-nagai@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

白内障, 疫学

■学術論文

3 主病型以外の水晶体病変有所見率: Monzen Eye Study, 臨眼, 59:903－906, 2005

2005 年 ARVO 印象記, 日白内障会誌, 17:42-43, 2005

An alternative method of steroid-induced lens opacification in brown norway rat eyes applying systemic pulse administration, Ophthalmic Res., 36:231-236, 2004

Influence of cyclosporin on steroid-induced cataracts after renal transplantation, Jpn. J. Ophthalmol., 47: 254-259, 2003

Predicting postoperative anterior chamber depth in cataract patients using Scheimpflug slit photography, Ophthalmic Res., 34: 265-272, 2002

■学術賞

金沢医科大学医学会「論文表彰」, An Alternative Method of Steroid-Induced Lens Opacification in Brown Norway Rat Eyes Applying Systemic Pulse Administration. Ophthalmic Res., 36:231-236, 2004.2005.07

医学部／感覚機能病態学(眼科学)

河上 裕 助教

氏名(カナ・英文名)	カワカミ ユタカ KAWAKAMI Yutaka	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(眼科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	yutaka-k@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

白内障

■研究の概要

登録中

■学術論文

Localization of cortical cataract in subjects of diverse races and latitude, Invest. Ophthalmol. Vis. Sci., 44: 4210-4214, 2003

Predicting postoperative anterior chamber depth in cataract patients using Scheimpflug slit photography, Ophthalmic Res., 34: 265-272, 2002

Mite-specific IgE antibody response and dermatitis in NC mice infected with Myobia musculi, Med. Entomol. Zool., 53: 207-212, 2002

Eigenschaft und h ufigkeit kortikaler linsentr bung im fr hstadium (Die Reykjavik Eye Study in Island), Klin. Mbl. Augenheilk, 218: 78-94, 2001

NC/Num マウスにみられる水晶体所見の長期観察, 金医大誌, 25:277-286, 2000

医学部／感覚機能病態学(眼科学)

藤田 信之 助教

氏名(カナ・英文名)	フジタ ノブユキ FUJITA Nobuyuki	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(眼科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	n-fujita@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

ぶどう膜炎

■学術論文

小児白内障術後の無水晶体眼に発症した緑内障, 臨眼, 59:1585-1590, 2005

グルコン酸クロルヘキシジン液の培養角膜上皮細胞に対する影響, 日眼紀, 56:754-759, 2005

医学部／感覚機能病態学(眼科学)

萩原 健太 助教

氏名(カナ・英文名)	ハギハラ ケンタ HAGIWARA Kenta	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(眼科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	m96-0744@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)

友田 幸一 教授

氏名(カナ・英文名)	トモダ コウイチ TOMODA Koichi	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	職 名	教授
最終学歴	関西医科大学大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	tomoda@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	耳鼻咽喉科学, 医用生体工学		

■職歴

1980-1983 米国、テネシー大学 研究助手, 1983-1985 関西医科大学 助手, 1985-1987 筑波大学臨床医学系 講師, 1987-1992 関西医科大学 講師, 1992-1997 関西医科大学 助教授

■所属学会

日本耳鼻咽喉科学会, 日本コンピュータ外科学会, American Academy of Otolaryngology Head and Neck surgery(USA), 太平洋外科系学会, 日本アレルギー学会

■研究課題

耳鼻咽喉科用ナビゲーションシステムの開発 (Development of Navigation System for Otolaryngology)

鼻科手術教育の行動工学的評価と教育支援システムの開発 (System Engineering and Estimation for Nasal Surgical Skill and Education)

■著書

ナビゲーションガイド下顔面神経モニタリング, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療のコツと落とし穴 1.耳疾患(神崎 仁編), 中山書店, 東京, 2006

Draf 手術の術式と適応, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科ニカルトレンド Part 4, 中山書店, 東京, 2004

■学術論文

耳鼻咽喉科疾患治療の最前線 ナビゲーションシステムの耳鼻咽喉科手術への応用「鼻・副鼻腔領域の疾患を中心に」, 日耳鼻会報, 109:8-10, 2006

鼻科手術教育における解剖学的知識と手術手技の客観的評価, 耳鼻展望, 49:283-289, 2006

3次元立体モデルを用いたシミュレーション手術 鼻科手術, JOHNS, 22:1361-1366, 2006

手術教育の未来像—バーチャルリアリティの応用—, Otol Jpn, 14:144-148, 2004

内耳免疫, 耳鼻免疫アレルギー(JJIAO), 2001

■学術賞

第6回関西医科大学同窓会加多乃賞, 1988

■その他の業績

モルモット前庭系における神経・免疫クロストークについての研究(平成8年度厚生省特定疾患聴覚・平衡機能疾患調査研究班・前庭機能異常)

Effects of Immune Mediators to Intracellular Calcium Concentration in the Inner ear Sessary Cells

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ナビゲーションシステムを用いたイメージガイド下での人工内耳植え込みに関する研究

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ナビゲーションシステムを用いたイメージガイド下での人工内耳植え込みに関する研究

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2005, (独)産業技術総合研究所共同研究, 内視鏡下鼻内手術手技研修用患者モデルに関する研究(H17.8.1-H21.3.31)

2003, 石川県地域結集型共同研究事業, 次世代型脳機能計測・診断支援技術の開発(脳深部対応型 MEG システムの開発)

■研究費採択状況(その他の助成金)

2003, (財)金沢総合技術研究センター研究振興助成金, 薄膜技術を用いた人工内耳電極の新規開発

2002, (財)金沢総合技術研究センター研究振興助成金, 薄膜技術を用いた人工内耳電極の新規開発

医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)

鈴鹿 有子 准教授

氏名(カナ・英文名)	スズカ ユウコ SUZUKA Yuko	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	職 名	准教授
最終学歴	関西医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	suzie-nt@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	耳鼻咽喉科学		

■所属学会

日本聴覚医学会, 日本聴覚医学会アンチエイジング研究会, 太平洋外科系学会, 日本耳鼻咽喉科学会石川県地方部会, 日本耳鼻咽喉科学会

■研究課題

臨床耳科学, 平衡神経科学, 臨床鼻科学, 脳神経生理学, 医学教育

■著書

頭頸部 over view、耳鳴り、女性診療 外来マニュアル(天野恵子、他編), じほう, 東京, 2006

耳手術に応用できる新材料(セルスポンジ), 耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療のコツと落とし穴 1.耳疾患(神崎 仁編), 中山書店, 東京, 2006

■学術論文

嚥下障害が出現した頸部ガス壊疽の2症例, 日耳鼻感染症研会誌, 24:165-169, 2006

耳疾患の検査法, 周産期医学, 36:289-293, 2006

聴性誘発反応の多様性—MEG を使って左右脳半球をさぐる—, 耳鼻・頭頸外科, 78:181-190, 2006

耳鼻咽喉科・頭頸部領域の術後創部管理, アルメディア・プラクティス, 13-14, 2005

脳磁図を用いた左右脳半球の機能分析に関する研究, 金医大誌, 30:235-244, 2005

■研究費採択状況(その他の助成金)

2003, (財)金沢総合技術研究センター研究振興助成金, 脳磁図による前庭機能の評価

2002, (財)金沢総合技術研究センター研究振興助成金, 脳磁図による前庭機能の評価

医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)

辻 裕之 准教授

氏名(カナ・英文名)	ツジ ヒロユキ TSUJI Hiroyuki	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	職 名	准教授
最終学歴	関西医科大学医学部	学 位	—
電子メール	tsujih-i@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	鼻粘膜支持細胞における細胞内一酸化窒素動態と細胞内 Ca イオンの動態		

■所属学会

日本耳鼻咽喉科学会石川県地方部会

■研究課題

頭頸部腫瘍学、頭頸部外科学、頭頸部再建学、頭蓋底外科学

■著書

進行中咽頭癌側壁型に対する切除範囲と再建法、副咽頭間隙腫瘍に対する外科的治療、耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療のコツと落とし穴 3.喉頭・咽頭疾患(神崎仁編)、中山書店、東京、2006

頭蓋底手術アプローチ、アトラス頭蓋骨学(河本圭司編)、MCメディカ出版、東京、2005

■学術論文

Reconstruction with microvascular tissue transfer following head and neck tumor surgery., Acta Otolaryngology, 500:131-141, 1993

側壁型中咽頭癌にたいする切除範囲と再建法、耳鼻咽喉科臨床, 91:497-503, 1998

Mandibular swing approach による副咽頭隙郭清術、口腔咽頭科, 15:363-367, 2003

頭蓋底外科のための臨床解剖、頭頸部外科, 14:89-94, 2004

副咽頭間隙腫瘍の検討、耳鼻咽喉科臨床, 99:481-490, 2006

医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)

村田 英之 講師

氏名(カナ・英文名)	ムラタ ヒデユキ MURATA Hideyuki	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	jibimura@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	耳鼻咽喉科学		

■研究課題

臨床鼻科学, 頭頸部腫瘍学, 内視鏡外科学, コンピュータ外科学, レーザー医学

■研究の概要

鼻科学

■著書

高速マイクロデブリッターを用いた厚骨壁嚢胞開放について, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療のコツと落とし穴 2. 鼻・副鼻腔疾患(神崎 仁編), 中山書店, 東京, 2006

ナビゲーションシステムの利用, 内視鏡下鼻副鼻腔手術の実際と応用(洲崎春海, 間島雄一編), 金原出版, 東京, 2002

■学術論文

鼻科手術教育における解剖学的知識と手術手技の客観的評価法の検討, 金医大誌, 31:62-72, 2006

ナビゲーションシステムを利用した内視鏡視野と画像位置との誤差測定, 耳鼻展望, 49:275-277, 2006

鼻科手術教育における解剖学的知識と手術手技の客観的評価, 耳鼻展望, 49:283-289, 2006

3次元立体モデルを用いたシミュレーション手術 鼻科手術, JOHNS, 22:1361-1366, 2006

口腔乾燥の検査法, ENTONI, 65:7-12, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1993, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 真珠腫性中耳炎の発生因子の研究

医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)

堀口 章子 学内講師

氏名(カナ・英文名)	ホリグチ アキコ Horiguti Akiko	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	h-akiko@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	耳鼻咽喉科学		

■研究課題

聴覚・平衡神経科学, 喉頭・気管学, 音声言語学

■著書

喉頭摘出者のProvox2による術後音声再建, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療のコツと落とし穴 3.喉頭・咽頭疾患(神崎 仁編), 中山書店, 東京, 2006

ボイスプロテーシス Provox2 による代用音声の検討, 日本気管食道科学会誌, 日本気管食道学会, 東京, 2003

■学術論文

小児感音難聴症例, 河北耳鼻咽喉科臨床懇話会会誌(第1回～第6回), 1:8-9, 2004

Valproic acid-induced hearing loss and tinnitus, Intern. Med., 42: 1153-1154, 2003

次世代携帯画像メールの耳鼻咽喉科診療への応用, 耳展, 補 3, 46: 179-183, 2003

Valproic acid-induced hearing loss and tinnitus, Intern. Med., 42: 1153-1154, 2003

A new provox2 prothese for voice rehabilitation after total laryngectomy, 薬理と臨, 11: 203-204, 2001

医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)

下出 祐造 学内講師

氏名(カナ・英文名)	シモデ ユウゾウ SHIMODE Yuzo	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	—
電子メール	yuzo@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	頭頸部腫瘍、甲状腺腫瘍外科		

■研究課題

頭頸部腫瘍学, 甲状腺外科学, 耳鼻咽喉科臨床全般

■著書

ボイスプロテシス Provox2 による代用音声の検討, 日本気管食道科学会誌, 日本気管食道学会, 東京, 2003

■学術論文

副咽頭間隙腫瘍の検討, 耳鼻臨床, 99:481-490, 2006

嚥下障害が出現した頸部ガス壊疽の2症例, 日耳鼻感染症研会誌, 24:165-169, 2006

耳鼻咽喉科・頭頸部領域の術後創部管理, アルメディア・プラクティス, 13-14, 2005

喉頭癌の放射線加療中に照射野皮膚より発症した非結核性抗酸菌症の1例, 日耳鼻感染症研会誌, 23:179-182, 2005

術中 intactPTH 迅速測定の有用性, 医学と薬学, 53:643-647, 2005

医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)

石政 寛 助教

氏名(カナ・英文名)	イシマサ ヒロシ ISHIMASA Hiroshi	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	masa777@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

頭頸部腫瘍学, コンピュータ外科学, 内視鏡外科学, 耳鼻咽喉科臨床全般

■著書

Draf 手術の術式と適応, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科クニカルトレンド Part 4, 中山書店, 東京, 2004

■学術論文

鼻科手術教育における解剖学的知識と手術手技の客観的評価法の検討, 金医大誌, 31:62-72, 2006

鼻科手術教育における解剖学的知識と手術手技の客観的評価, 耳鼻展望, 49:283-289, 2006

3次元立体モデルを用いたシミュレーション手術 鼻科手術, JOHNS, 22:1361-1366, 2006

耳鼻咽喉科疾患治療の最前線 ナビゲーションシステムの耳鼻咽喉科手術への応用「鼻・副鼻腔領域の疾患を中心に」, 日耳鼻会報, 109:8-10, 2006

耳鼻咽喉科におけるナビゲーション手術, 金医大誌, 30:456-461, 2005

医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)

岩崎 紀子 助教

氏名(カナ・英文名)	イワサキ ノリコ IWASAKI Noriko	生年月	1965.05
所 属	医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	noriko@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	耳鼻咽喉科学		

■所属学会

日本耳鼻咽喉科学会，口腔・咽頭学会，日本耳科学会，日本唾液腺学会，日本頭頸部腫瘍学会

■研究課題

耳下腺混合腫瘍発生に関わる HMGI-C 遺伝子の活性化機構の解析 (The effect of HMGI-C gene activation intumorigenesis of human Salivary gland tumor)

■学術論文

Valproic acid-induced hearing loss and tinnitus, Intern. Med., 42: 1153-1154, 2003

MRSA との混合感染をみた蝶形洞アスペルギールス症の 1 例，公立能登総合病院医療雑誌, 13: 8-10, 2002

当直医のための耳鼻咽喉科救急患者診察のコツとポイント，公立能登総合病院医療雑誌, 11:60-61, 2000

失明状態から著明回復した副鼻腔・眼窩膿胞症例，公立能登総合病院医療雑誌, 11:20-23, 2000

耳鼻咽喉科感染症検出菌の動向，耳鼻展望, 43:76-80, 2000

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1999, 科学研究費補助金 萌芽研究, 耳下腺混合腫瘍発生に関わる HMGI-C 遺伝子の活性化機構の解析

1998, 科学研究費補助金 萌芽研究, 耳下腺混合腫瘍発生に関わる HMGI-C 遺伝子の活性化機構の解析

医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)

中泉 俊彦 助教

氏名(カナ・英文名)	ナカイズミ トシヒコ NAKAIZUMI Toshihiko	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	toshi-n@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

耳科学、耳鼻咽喉科臨床全般

■著書

ナビゲーションガイド下顔面神経モニタリング，耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療のコツと落とし穴 1.耳疾患(神崎 仁編)，中山書店，東京，2006

免疫反応，CLIENT21，No 5 内耳，内耳道（野村恭也，他編），中山書店，東京，2001

■学術論文

神経血管圧迫症候群の臨床，耳鼻臨床，98:426-427，2005

内耳遺伝子導入による神経栄養因子（BDNF）のモルモットラセン神経節細胞に対する保護効果，金医大誌，28: 215-223，2003

当施設における2000年のスギ花粉飛散数と患者の動向，花粉症研会報，12: 32-37，2001

ニルバジピンの前庭有毛細胞内カルシウムイオン濃度に及ぼす影響，耳鼻展望，44: 174-179，2001

ナビゲーションシステムの選択，使用指針，耳鼻展望，43:92-94，2000

医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)

宮澤 徹 助教

氏名(カナ・英文名)	ミヤザワ トオル MIYAZAWA Toru	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	—
電子メール	t-miya@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

基礎耳科学、耳鼻咽喉科臨床全般

■学術論文

口腔乾燥の検査法, ENTONI, 65:7-12, 2006

Developmental changes in oscillatory and slow responses of the rat accessory olfactory bulb, Neuroscience, 134:605-616, 2005

Odor-concentration coding in the guinea-pig piriform cortex, Neuroscience, 130:769-781, 2005

口内乾燥の治療, JOHNS, 20:1548-1552, 2004

当施設における 2003 年のスギ花粉の飛散数と患者の動向, 花粉症研会報, 15:23-29, 2004

医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)

北村 みわ 助教

氏名(カナ・英文名)	キタムラ ミワ KITAMURA Miwa	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	miwa-k2@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

耳鼻咽喉科臨床全般

■研究の概要

耳鼻咽喉科臨床全般

■学術論文

唾石症, ENTONI, 69:10-14, 2006

化膿性唾液腺炎, ENTONI, 69:7-9, 2006

Langer-Giedion syndrome, 耳鼻・頭頸外科, 78:159, 2006

Landau-Kleffner syndrome, 耳鼻・頭頸外科, 78:158, 2006

Klippel-Trenaunay-Weber syndrome, 耳鼻・頭頸外科, 78:157, 2006

医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)

酒井 あや 助教

氏名(カナ・英文名)	サカイ アヤ SAKAI Aya	生年月	1977.09
所 属	医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	ayaitoi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■学術論文

軟口蓋口蓋垂咽頭形成術(UPPP)の術式に関する検討, 口腔咽頭科, 18:393-400, 2006

小児閉塞性睡眠時呼吸障害の病態解明とその重症度判定の検討, 金医大誌, 31:1-9, 2006

Difference of pharyngeal morphology and mechanical property between OSAHS patients and normal subjects, Auris Nasus Larynx, 33:433-439, 2006

医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)

山田 奏子 助教

氏名(カナ・英文名)	ヤマダ カナコ YAMADA Kanako	生年月	—
所 属	医学部／感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院	学 位	医学博士
電子メール	kanako-y@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■学術論文

嚥下障害が出現した頸部ガス壊疽の2症例, 日耳鼻感染症研究会誌, 24:165-169, 2006

脳磁図を用いた左右脳半球の機能分析に関する研究, 30:235-244, 2005

医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)

望月 隆 教授

氏名(カナ・英文名)	モチヅキ タカシ MOCHIZUKI Takashi	生年月	1956.03
所 属	医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)	職 名	教授
最終学歴	滋賀医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	mocizuki@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	皮膚科学		

■職歴

1986-1997 滋賀医科大学 助手, 1992-1993 カリフォルニア大学リバーサイド校 客員準教授, 1991-1992 文部省在外研究員 テキサス大学オースチン校, 1986-1997 Shiga University of Medical Science, Assistant, 1992-1993 University of California, Riverside,

■所属学会

日本皮膚科学会, 国際医・動物真菌学会(International Society for Human and Animal Mycology), 日本菌学会, 日本研究皮膚科学会, 日本医真菌学会

■研究課題

病原真菌の分子分類学、分子疫学 (Molecular taxonomy of pathogenic fungi)

病原真菌の微細構造 (Micromorphology of pathogenic fungi)

■研究の概要

白癬の原因菌であるトリコフィトン・メンタグロフィテスおよびトリコフィトン・トズランズについて、リボソーム RNA 遺伝子の ITS 領域と NTS 領域を用いた制限酵素分析によって菌株のタイピングを行い、原因菌種の同定、感染経路の解明、さらに集団感染の実体を把握するための分子疫学的調査を行っている。

■著書

皮膚糸状菌症—最近の話題, 先端医療シリーズ 38 皮膚疾患の最新医療(斎田俊明、飯塚 一編), 先端医療技術研究所, 東京, 2006

外来のガイドライン診療 —診断、管理・治療— 白癬, ガイドライン外来診療(泉 孝英編), 日経メディカル, 東京, 2006

■学術論文

ミトコンドリア DNA による Trichophyton mentagrophytes complex の系統関係の検討, 皮膚科紀要, 1990

Random Amplification of Polymorphic DNA(RAPD)法による Trichophyton mentagrophytes var.interdigitale と Trichophyton rubrum の鑑別, 真菌誌, 1996

皮膚糸状菌への分子生物学の応用, 真菌誌, 2001

Molecular epidemiology of Arthroderma benhamiae, an emerging pathogen of dermatophytoses in Japan, by polymorphisms of the non-transcribed spacer region of the ribosomal DNA, Journal of Dermatological Science, 2001

Rapid identification of Trichophyton tonsurans by PCR RFLP analysis of ribosomal DNA regions, Journal of Dermatological Science, 2003

■学術賞

日本医真菌学会 奨励賞, 2001

第 47 回日本医真菌学会優秀講演賞, 2003

■共同研究希望(研究シーズ)

白癬菌群の分子同定システムの研究

Research on molecular identification system of Dermatophytes

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 核とミトコンドリア DNA のリボゾーム DNA 領域の多型に基づく白癬菌の同定

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 核とミトコンドリア DNA のリボゾーム DNA 領域の多型に基づく白癬菌の同定

1998, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 核とミトコンドリア DNA のリボゾーム DNA 領域の多型に基づく白癬菌の同定

■研究費採択状況(その他の助成金)

2004, 千葉大学真菌医学研究センター共同利用研究, 本邦で分離された Trichophyton mentagrophytes var.erinacei の分子疫学的研究

2003, 千葉大学真菌医学研究センター共同利用研究, 本邦で分離された Trichophyton mentagrophytes var.erinacei の分子疫学的研究

医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)

田邊 洋 准教授

氏名(カナ・英文名)	タナベ ヒロシ TANABE Hiroshi	生年月	—
所 属	医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)	職 名	准教授
最終学歴	関西医科大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	h-tanabe@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	皮膚科学		

■所属学会

日本皮膚科学会, 日本医真菌学会, 日本褥瘡学会, 日本接触皮膚炎学会, 日本フットケア学会

■研究課題

真菌症

褥瘡

■研究の概要

Species identification and strain typing of *Fonsecaea pedrosoi* using ribosomal RNA gene internal transcribed spacer regions

■著書

ニキビダニ座瘡, 皮膚科診療プラクティス18, 文光堂, 東京, 2005

特殊なにきびを知っておく:ニキビダニ(毛包虫), 皮膚科診療最前線シリーズにきび最前線, メディカルレビュー社, 東京, 2006

■学術論文

外陰部に生じた基底細胞癌の1例ー当科における過去15年間の基底細胞癌の検討ー, 皮の科, 5:411-414, 2006

足穿孔症を契機に発見された脊髄髄膜瘤の1例, 皮の科, 5:22-26, 2006

Pseudomonas Aeruginosa 感染による Toe Web Infection の2例, 皮の科, 5:53-56, 2006

生毛部白癬 *Mycrosporum canis*, Visual Dermatology, 5:324-325, 2006

Trichophyton tonsurans 感染症の3例ーブラシ検査結果の判定法とその問題点, 皮の科, 5:430-434, 2006

■学術賞

第104回日本皮膚科学会総会学術大会ポスター賞, 石川県で発生した黒癬の1例 2005.04

第49回日本医真菌学会総会ポスター賞, 日本の *Exophiala jeanselmei* の臨床分離株における種内変異について 2005.10

■その他の業績

平成18年金沢医科大学優秀教員(教育部門)

平成16年金沢医科大学優秀教員(教育部門)

医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)

河崎 昌子 講師

氏名(カナ・英文名)	カワサキ マサコ KAWASAKI Masako	生年月	—
所 属	医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢大学大学院理学研究科	学 位	理学修士, 博士(医学)
電子メール	masako-k@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	医真菌学		

■職歴

1974-1985 相模女子大学 助手, 1986- 現職, 1974-1985 Sagami Womens College, Research Assistant, 1986-

■所属学会

日本皮膚科学会, 日本医真菌学会, 国際人獣真菌学会(ISHAM)

■研究課題

皮膚糸状菌の系統分類 (Phylogeny of dermatophytes)

病原真菌の分子疫学 (Molecular epidemiology of pathogenic fungi)

■研究の概要

皮膚糸状菌 3 属のうちの 1 つである *Trichophyton* 属においては、従来の形態的分類体系と近年明らかにされて来た分子生物学的系統関係の間に明らかな矛盾がある。交配実験結果と多遺伝子解析に基づいて推定される系統関係とから、本属の 10 種についての種の境界を確定したい。種の境界を正しく認識できれば、分類体系の矛盾が解決されるものと考えている。

■学術論文

病原真菌のミトコンドリア DNA 分析, 日本医真菌学会雑誌, 1994

ミトコンドリア DNA 分析により推定された、ミクロスボルム属及びアースロデルマ属各種の系統的関係(共著), *Mycopathologia*, 1995

ミトコンドリア DNA(mtDNA)による黒色真菌のタイプ分けと分子疫学, 日本医真菌学会雑誌, 1996

Sporothrix schenckii の分子疫学(共著), 日本医真菌学会雑誌, 2000

遺伝子型の異なるアースロデルマ・ペンハムエ間に形成された子のう胞子の単離とその遺伝子型分析(共著), 日本医真菌学会雑誌, 2002

■学術賞

The First grade award in The 5th China Japan International Congress of Mycology, 2001

第 8 回日本医真菌学会優秀論文賞, Intra-species Variation of Genotypes of *Exophiala jeanselmei* Isolated from Patients in Japan.2006.10

医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)

渡邊 晴二 講師

氏名(カナ・英文名)	ワタナベ セイジ WATANABE Seiji	生年月	—
所 属	医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	seiji777@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	細菌学(含真菌学)		

■所属学会

日本皮膚悪性腫瘍学会, 日本褥瘡学会, 日本医真菌学会, 日本皮膚科学会

■研究課題

皮膚真菌症

■研究の概要

皮膚真菌症の原因真菌についての、迅速同定、タイプ分けを目的とする。

現在は皮膚深在性真菌症の原因菌の1つである、Fonsecaea pedrosoii について、メラニン産生遺伝子の1つである PKS1 領域を検討している。PCR により得られた同遺伝子領域の遺伝子配列の決定、その結果を基に、タイプ分けが可能な制限酵素を検索し、RFLP 法により菌のタイプ分けを行っている。

■学術論文

外陰部に生じた基底細胞癌の 1 例—当科における過去 15 年間の基底細胞癌の検討—, 皮の科, 5:411-414, 2006

Bullous transient acantholytic dermatosis, Visual Dermatology, 5:802-803, 2006

生息実態調査を施行した恙虫病の 1 例, 皮膚臨床, 48:1075-1079, 2006

食道拡張術により嚥下障害が改善した劣性栄養障害型表皮水疱症の1例, 皮膚臨床, 48:525-529, 2006

Pseudomonas Aeruginosa 感染による Toe Web Infection の 2 例, 皮の科, 5:53-56, 2006

医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)

阿部 真也 学内講師

氏名(カナ・英文名)	アベ シンヤ ABE Shinya	生年月	—
所 属	医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	abechan@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	皮膚科		

■所属学会

日本皮膚科学会, 癌学会

■研究課題

メラノーマ・線維肉腫における bFM-1 の影響について

メラノーマにおける bFGF の発現 (Expression of bFGF in Malignant melanoma)

■学術論文

外陰部に生じた基底細胞癌の 1 例ー当科における過去 15 年間の基底細胞癌の検討ー, 皮の科, 5:411-414, 2006

Down 症候群にみられた稗粒腫様特発性皮膚石灰沈着症の 1 例, 西日皮, 66:15-18, 2004

慢性関節リウマチに合併した皮膚クリプトコックス症の 1 例, 西日皮, 66:29-33, 2004

エアマツを除去することで軽快した後頭部褥瘡, Visual Dermatol., 2: 578-579, 2003

Trichophyton violaceum による black dot ringworm の姉妹例, 臨皮, 56: 1195-1198, 2002

医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)

藤井 俊樹

学内講師

氏名(カナ・英文名)	フジイ トシキ FUJII Toshiki	生年月	1969.07
所 属	医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	toshiki@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	皮膚病理学		

■研究課題

皮膚病理学

■研究の概要

皮膚疾患の電子顕微鏡による組織学的検討

■学術論文

弾力線維性仮性黄色腫, 皮病診療, 26:325-328, 2004

細菌性指間落屑性紅斑(北村)の1例, 臨皮, 55: 392-394, 2001

*Trichophyton verrucosum*による体部白癬の1例, 西日皮, 62:758-761, 2000

Eccrine Fibroadenoma 様変化を伴った Hidroacanthoma Simplex の1例, 西日皮, 62:196-198, 2000

高齢者水痘の1例, 皮膚, 42:591-594, 2000

医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)

石崎 康子 学内講師

氏名(カナ・英文名)	イシザキ ヤスコ ISHIZAKI Yasuko	生年月	—
所 属	医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)	職 名	学内講師
最終学歴	秋田大学医学部	学 位	—
電子メール	ishizaki@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	皮膚病理学		

■研究課題

皮膚病理学, 皮膚悪性腫瘍

■研究の概要

皮膚上皮性腫瘍における接着分子の発現パターンの解析

■学術論文

高齢発症の Blue Rubber Bleb Nevus Syndrome の 1 例, 皮膚臨床, 48:1096-1097, 2006

成人発症の血管芽細胞腫(中川)の 2 例, 日皮会誌, 115:2311-2314, 2005

医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)

竹田 公信 助教

氏名(カナ・英文名)	タケダ キミノブ TAKEDA Kiminobu	生年月	—
所 属	医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)	職 名	助教
最終学歴	藤田保健衛生大学医学部	学 位	—
電子メール	kiminobu@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	医学・皮膚科		

■研究課題

皮膚病一般

■学術論文

タカルシトール軟膏が奏功したfollicular keratosis of the hip の1例, 角化症研究会記録, 102-104, 2006

眼瞼部の腫脹で発症した血管肉腫の1例, 皮膚臨床, 48:848-849, 2006

The first isolation in Japan of *Trichophyton mentagrophytes* var. *erinacei* causing tinea manuum, Int. J. Dermatol., 44:765-768, 2005

Down 症候群にみられた稗粒腫様特発性皮膚石灰沈着症の1例, 西日皮, 66:15-18, 2004

Alagille 症候群の1例, 皮の科, 3:279-282, 2004

医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)

刀川 信幸 助教

氏名(カナ・英文名)	タチカワ ノブユキ TACHIKAWA Nobuyuki	生年月	—
所 属	医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	tachi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

真菌症

■学術論文

生毛部白癬 *Mycrosporium canis*, Visual Dermatology, 5:324-325, 2006

成人発症の血管芽細胞腫(中川)の2例, 日皮会誌, 115:2311-2314, 2005

生毛部白癬 *Microsporium canis*, Visual Dermatology, 5:324-325, 2005

医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)

若松 伸彦

助教

氏名(カナ・英文名)	ワカマツ ノブヒコ WAKAMATSU Nobuhiko	生年月	1969.04
所 属	医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	astre@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	皮フ科学		

■所属学会

日本皮膚科学会

■研究課題

皮フ病理学 (Dermatopathlogy)

■学術論文

Embryonal Cell Carcinoma を合併した Amyopathic Dermatomyositis の1例, 皮膚臨床, 46:101-103, 2004

慢性関節リウマチに合併した皮膚クリプトコックス症の1例, 西日皮, 66:29-33, 2004

Trichophyton violaceum による black dot ringworm の姉妹例, 臨皮, 56: 1195-1198, 2002

細菌性指間落屑性紅斑(北村) の1例, 臨皮, 55: 392-394, 2001

Silicone granuloma on the entry points of acupuncture, venepuncture and surgical needles, J. Cutan. Pathol., 27:301-305, 2000

医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)

藤田 純 助教

氏名(カナ・英文名)	フジタ ジュン FUJITA Jun	生年月	—
所 属	医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	ji96john@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

皮膚真菌症

■学術論文

生息実態調査を施行した恙虫病の1例, 皮膚臨床, 48:1075-1079, 2006

医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)

長谷井 麻希 助教

氏名(カナ・英文名)	ハセイ マキ HASEI Maki	生年月	—
所 属	医学部／環境皮膚科学(皮膚科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■学術論文

生息実態調査を施行した恙虫病の1例, 皮膚臨床, 48:1075-1079, 2006

Trichophyton tonsurans 感染症の3例—ブラシ検査結果の判定法とその問題点, 皮の科, 5:430-434, 2006

医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)

鈴木 孝治 教授

氏名(カナ・英文名)	スズキ コウジ SUZUKI Koji	生年月	1947.11
所 属	医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	ksuzuki@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	尿路結石症, 腎移植, urolithiasis, renal transplantation		

■所属学会

日本泌尿科学会, 国際泌尿器科学会, 日本腎臓学会, 日本移植学会, 日本 Endourology・ESWL 学会

■研究課題

蓚酸カルシウム結晶の凝集を阻止する高分子物質 (macromolecular inhibitor of calcium oxalate crystal aggregation)

■研究の概要

蓚酸カルシウム結石の発生における高分子物質の解析

■著書

Nucleotide sequence of renal prothrombin is different from the liver prothrombin, Urolithiasis 2000(AL Rodgers,et al.), The University of Cape Town, Cape Town, 2000

Analysis of prothrombin m RNA expression level in the normal and stone forming rat kidneys by competitive real time quantitative PCR, Urolithiasis 2000(AL Rodgers,et al.), The University of Cape Town, Cape Town, 2000

■学術論文

尿路結石の再発予防, 総合臨, 55:537-538, 2006

30 年間における腎移植 260 例の経験, 金医大誌, 30:522-530, 2005

腎移植後の耐糖能異常, 日臨, 63(supple):284-287, 2005

原発性膀胱尿管逆流症(VUR)に対するテフロンペースト注文療法の経験, 金沢医科大学雑誌, 1990

CONTINUOUS FLOW CRYSTALLIZER SYSTEM の開発と蓚酸カルシウム結晶形成率・成長率測定, 泌尿紀要, 1991

■その他の業績

生体腎移植腎提供者の術後機能変化

蓚酸カルシウム結晶内に存在する凝集阻止物質

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2002, 科学研究費分担研究, 蓚酸カルシウム結石発生における尿中高分子物質の作用機序解明に関する研究

2001, 科学研究費分担研究, 蓚酸カルシウム結石発生における尿中高分子物質の作用機序解明に関する研究

2001, 科学研究費分担研究, マトリックス蛋白からみた尿路結石の分子機構と脂質代謝異常の解明

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 腎尿細管プロトロンビン遺伝子導入実験動物における結石形成に関する研究

2000, 科学研究費分担研究, 蓚酸カルシウム結石発生における尿中高分子物質の作用機序解明に関する研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

1994, (財)金沢総合技術研究センター研究振興助成金, 腎尿細管における新しい PIVKA 蛋白の同定と役割解明

医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)

田中 達朗 准教授

氏名(カナ・英文名)	タナカ タツロウ TANAKA Tatsuro	生年月	1956.02
所 属	医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	職 名	准教授
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	tatsurot@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	泌尿器科学		

■所属学会

日本泌尿器科学会, 日本移植学会, 日本不妊学会, 日本 ESWL & Endourology 学会, 国際移植学会

■研究課題

腎移植における急性拒絶反応に関する研究 (Study on Acute Rejection of renal transplantation)

片腎摘除後の腎機能代償機能に関する研究 (Study on Functional Adaptation to Reduction in Renal Mass)

■研究の概要

腎容積減少にともなう腎機能保護機能を形態学的に確認後、遺伝子解析を行い腎容積減少にともなう腎機能の代償が何をきっかけに始まり、いかに成立するかを解明する。また、腎機能に関与する薬剤の影響を観察し、慢性腎不全における腎機能保持、改善の治療としての可能性を明らかにする。

■学術論文

泌尿器疾患における血清および尿中 α_1 -microglobulin 活性の検討, 日本泌尿器科学会雑誌, 76(9):1407-1412, 1985

泌尿器科領域における α_1 -microglobulin 測定の意義について, 金医大誌, 12(1):84-93, 1986

急性拒絶反応の診断, 泌紀, 37(10):1147-115, 1991

第2世代体外衝撃波結石破碎装置(LITHOSTAR)による上部尿路結石破碎術(ESWL)の経験, 泌外, 2(9):947-951, 1989

サンゴ状結石の治療-Combined therapy と結石再発について-, 泌紀, 39(11):1097-1101, 1993

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1988, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 腎移植における尿中NAG isoenzyme活性の検討

医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)

宮澤 克人 准教授

氏名(カナ・英文名)	ミヤザワ カツヒト MIYAZAWA Katsuhito	生年月	—
所 属	医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	職 名	准教授
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	miyazawa@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	尿路結石症の基礎と臨床		

■職歴

1994-2002 金沢医科大学 講師, 1994-2002 Assistant Professor, Kanazawa Medical University

■所属学会

日本泌尿器科学会, 日本移植学会, (米国 泌尿器科学会)American Urological Association, 国際泌尿器科学会, 国際移植学会

■研究課題

尿路結石症における阻止物質の同定 (Isolation of inhibitor on Urolithiasis)

前立腺癌に対する内分泌療法 (Endocrine therapy for prostatic cancer)

■研究の概要

尿路結石症の発生病序を尿酸および尿中・結晶内高分子物質と腎尿細管細胞との相互作用の視点から分子生物学的手法で解明を行っている。また、マイクロアレイから得られた結果から炎症関連分子(COX, PG など)の腎尿細管細胞に対する尿酸カルシウム結晶付着能の影響を評価している。

■著書

Quantification of prothrombin mRNA using competitive polymerase chain reaction, Urolithiasis 2000(AL Rodgers,et al.), The University of Cape Town, Cape Town, 2000

Analysis of prothrombin mRNA expression level in the normal and stone forming rat kidneys by competitive real time quantitative PCR, Urolithiasis 2000(AL Rodgers,et al.), The University of Cape Town, Cape Town, 2000

■学術論文

実験的尿酸カルシウム結石に対する Pentosan Polysulfate, Chlorphyllin の阻止効果の定量的検討, 日本泌尿器科学会雑誌, 1989

実験的尿酸カルシウム結石の研究, 金沢医科大学雑誌, 1989

尿路結石症における In vitro の結晶形成, 泌尿器科紀要, 1991

対側副腎へ転移した腎細胞癌の 1 例, 泌尿紀要, 1993

陳旧性陰嚢血腫の 1 例, 臨泌, 1993

■学術賞

日本尿路結石症学会学会賞, Apoptosis and its related genes in renal epithelial cells of the stone-forming rat2006.07

日本尿路結石賞学会学会賞, 2006.07

■その他の業績

前立腺癌に対する LH-RH agonist 療法

LH-RH agonist therapy for prostatic cancer

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 尿路結石症における Annexins の発現と機能解析の研究

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 尿路結石症における Annexins の発現と機能解析の研究

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 尿路結石症における Annexins の発現の機能解析の研究

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), DNA マクロアレイによる遺伝子発現からの尿路結石症病態解明

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), DNA マクロアレイによる遺伝子発現からの尿路結石症病態解明

医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)

川村 研二 講師

氏名(カナ・英文名)	カワムラ ケンジ KAWAMURA Kenji	生年月	1961.03
所 属	医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	kawamura@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	尿路結石症, 前立腺肥大症, Urinary stone, benign prostatic hypertrophy		

■所属学会

日本泌尿器科学会, 日本移植学会, 日本外科学会, 泌尿器科・分子細胞研究会, 日本サイトメトリー学会

■研究課題

RF 誘電加温におけるラット前立腺アルファレセプターにおよぼす影響について (The influence of alpha-adrenergic receptor in rat prostate by RF capacitive heating)

膀胱癌における中心体過剰複製と染色体不安定性について (Centrosome hyperamplification and chromosomal instability in bladder cancer)

■研究の概要

放射線照射後に細胞が G2 停止となり、中心体過剰複製が生じた。我々の検討では 2 つの重要な事実があり、ひとつは放射線照射後に G2 停止となった細胞に中心体過剰複製が生じたこと、もうひとつは G2 期に中心体過剰複製が生じて、その後に多極性の分裂が生じたことである。すなわち、細胞質分裂の障害により中心体数の異常が生じた訳ではなく、むしろ中心体数の異常が最初に生じて、そのために細胞分裂の障害が生じた事実である。

■学術論文

蔘酸カルシウム結石形成の危険因子に関する研究, 日本泌尿器科学会雑誌, 1989

閉塞用シリコンを用いた経皮的尿管閉塞術の経験, 泌尿器外科, 1990

Automatic biopsy gun を用いた経直腸的超音波ガイド下前立腺生検, 金沢医科大学卒雑誌, 1992

肉腫様増殖を示した尿管癌の 1 例, 泌尿器科紀要, 1991

EDAP LT-01 による中部尿管結石治療の試み, 泌尿器外科(4 巻臨時増殖号)

■学術賞

稲田賞 : 泌尿器科紀要 年間最優秀論文, 2000

■共同研究希望(研究シーズ)

中心体の複製制御

■その他の業績

The influence of alpha-adrenergic receptor in rat prostate by RF capacitive heating

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 膀胱癌における中心体過剰複製について

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 膀胱癌における中心体過剰複製について

1995, 科学研究費補助金 奨励研究(A), レーザー加温がラット前立腺 $\alpha 1$ -receptor の局在におよぼす影響

1994, 科学研究費補助金 奨励研究(A), ラジオ波誘電加温がラット前立腺 $\alpha 1$ -receptor におよぼす影響について・

1993, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 蔘酸カルシウム結石形成の危険因子 (metastable limit) に関する研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

2000, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, シンシナティ大学細胞生物学教室へ留学「研究テーマ:細胞分裂期の監視機構の破綻とセントロメアの分配の異常について」

医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)

森山 学 講師

氏名(カナ・英文名)	モリヤマ マナブ MORIYAMA Manabu	生年月	1964.03
所 属	医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	moriyama@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	腎移植、尿路結石症		

■職歴

金沢医科大学泌尿生殖器治療学 講師(2001.04)

■所属学会

日本泌尿器科学会, 日本移植学会, 日本腎臓学会, American Urological Association, 日本 Endourology ESWL 学会

■研究課題

腎尿細管細胞のシグナルトランス (Study on intra cellme signaling)

尿路結石症に関する研究 (Study on urinary tract calculus)

■研究の概要

腎尿細管細胞のシグナル伝達および細胞障害に関する指標や物理的変動による細胞への影響を研究している。ともに基礎的には分子生物学的なアプローチから培養細胞および小動物程度までの実験により尿路結石症における尿細管での変化および発生機序の研究から腎移植における提供腎機能の温存および腎機能発現予測などに至る臨床的にも幅広い分野をフィールドとする。

■著書

Nucleotide sequence of renal prothrombin is different from the liver prothrombin, Urolithiasis 2000(AL Rodgers,et al.), The University of Cape Town, Cape Town, 2000

Analysis of prothrombin m RNA expression level in the normal and stone forming rat kidneys by competitive real time quantitative PCR, Urolithiasis 2000(AL Rodgers,et al.), The University of Cape Town, Cape Town, 2000

■学術論文

PIVKA-2 関連モノクローナル抗体のヒト腎組織に対する反応性についての検討, 金沢医科大学雑誌, 1995

早期に発症し経皮的動脈形成術(PTA)を施行した Distal Transplant renal artery stenosis (TRAS)の一例, 移植, 2004

男性排尿障害に対する竜胆瀉肝湯の治療経験, 和漢医薬学雑誌, 2004

Immuno histochemical study using Anti PIVKA-2 monoclonal antibody in Hunan kidney Tissues, 1995

Expression on Inter- α -Inhibitor related Proteins In Kidneys and Urine of hyper oxaluric Rats, Journal of Urology, 2001

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ヒ尿細管培養細胞における結石関連蛋白質の発現に関する研究

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ヒ尿細管培養細胞における結石関連蛋白質の発現に関する研究

医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)

菅 幸大 助教

氏名(カナ・英文名)	スガ コウダイ SUGA Koudai	生年月	—
所 属	医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院	学 位	医学博士
電子メール	kosuga@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	泌尿器科学		

■研究課題

泌尿器科一般

■研究の概要

尿路結石の原因である尿中結晶成分凝集阻止物質である prothrombin の発現はラット結石モデルでは確認されている。この prothrombin の人腎組織での発現確認を検討している。

■著書

Analysis of prothrombin m RNA expression level in the normal and stone forming rat kidneys by competitive real time quantitative PCR, Urolithiasis 2000(AL Rodgers,et al.), The University of Cape Town, Cape Town, 2000

■学術論文

膀胱癌細胞株からの中心体分離-p53 mutation と中心体過剰複製についてー, 泌紀, 49: 69-74, 2003

膀胱癌における中心体過剰複製と染色体不安定性について, 金医大誌, 27:237-242, 2002

MRI appearance of a leiomyosarcoma of the female urethra, Clin Radiol, 56: 76-79, 2001

ヒト腎における prothrombin 遺伝子発現についての検討, 日本尿路結石症研究会記録集, 9:67-71, 2000

医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)

近沢 逸平 助教

氏名(カナ・英文名)	チカザワ イツペイ CHIKAZAWA Ippei	生年月	1969.12
所 属	医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	職 名	助教
最終学歴	川崎医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	泌尿器科学		

■職歴

1998- 金沢医科大学助手(泌尿器科学) , 1998- Faculty member.

■研究課題

腎細胞癌に対する免疫療法 (Immunotherapy for Renal cell carcinoma)

■研究の概要

尿失禁治療の中でも手術の対象となるのは腹圧性尿失禁である。我々は腹圧性尿失禁に対し、患者にとって安全、かつ効果的に満足度を提供できる TVT スリング術を行い、統計的に検討している。患者の年齢、BMI を測定し、尿流量測定、残尿超音波、チェーン尿道造影、パッドテストを術前術後に行い、3 か月後の長期経過観察も行っている。

■学術論文

インターフェロン療法が奏効した腎細胞癌多発肺転移例, 金沢医科大学雑誌, 1999

泌尿器科病棟における血液培養検査陽性症例の検討, 金医大誌, 31:132-137, 2006

小切開前立腺全摘除術におけるクリニカルパスの導入, 日クリニカルパス会誌, 8:125-132, 2006

勃起を伴う夜間頻尿に大黃牡丹皮湯が奏効した 1 例, 漢方医, 29:31, 2005

膀胱癌診断における尿中腫瘍マーカーの検討－尿中 BFP,CYFRA21-1,BTA テストおよび尿細胞診－, 癌の臨, 49: 1431-1436, 2003

医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)

徳永 亨介 助教

氏名(カナ・英文名)	トクナガ コウスケ TOKUNAGA Kousuke	生年月	1967.08
所 属	医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	kosuke-t@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	泌尿器科		

■所属学会

日本泌尿器科学会

■研究課題

泌尿器科一般

■研究の概要

前立腺肥大症例における経直腸の前立腺切除術施行後の残存前立腺組織内の前立腺癌発現に関して、手術施行症例の術後定期検索における評価項目の選定や前立腺全摘症例の検討を通じて患者に的確かつ最良の医療を提供すべく研究している。

■学術論文

腎部分切除術によって術後透析治療を回避できた慢性腎不全患者における腎細胞癌の1例, 日透析医学会誌, 38:1351-1354, 2005

早期に発症し経皮的動脈形成術(PTA)を施行した Distal Transplant renal artery stenosis(TRAS)の1例, 移植, 39:437-441, 2004

Centrosome hyperamplification and chromosomal damage after exposure to radiation, Oncology, 67:460-470, 2004

医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)

橘 宏典 助教

氏名(カナ・英文名)	タチバナ ヒロミチ TACHIBANA Hiromichi	生年月	—
所 属	医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	hiro~@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	泌尿器科学		

■研究課題

泌尿器科一般

■研究の概要

近年、前立腺癌は増加の一途を辿っており、癌の早期発見のため前立腺生検検査を積極的に行っている。年齢、PSA 値、F/T 比、前立腺体積などを元に統計学的に検討を行っている。

■学術論文

Prostatic ductal adenocarcinoma mimicking villous adenoma of the urethra, Virchows Arch., 449:597-599, 2006

前立腺嚢胞が原因と考えられた血精液症, 臨泌, 57: 83-85, 2003

膀胱癌診断における尿中腫瘍マーカーの検討ー尿中 BFP,CYFRA21-1,BTA テストおよび尿細胞診ー, 癌の臨, 49: 1431-1436, 2003

医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)

石井 健夫

助教

氏名(カナ・英文名)	イシイ タケオ ISHII Takeo	生年月	1972.06
所 属	医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	siitake@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	泌尿器科学		

■研究課題

泌尿器科一般

■研究の概要

前立腺癌の治療は、ホルモン療法、外科的切除の次の世代として、放射線治療が発展しつつある。我々の中でも患者にとって安全、かつ効果的に満足度を提供できる小線源治療に着目し、統計学的に検討を始めている。患者の年齢、TNM 分類、Gleason 分類を術前に行い、長期経過観察も検討する。前立腺全摘術症例、ホルモン療法症例、および外照射症例との比較も検討中である。

■学術論文

尿路感染症分離菌における薬剤感受性の検討, 金医大誌, 29:227-234, 2004

医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)

森田 展代 助教

氏名(カナ・英文名)	モリタ ノブヨ MORITA Nobuyo	生年月	—
所 属	医学部／泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院	学 位	医学博士
電子メール	nobuyo@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	泌尿器科学		

■研究の概要

癌治療の一つに抗癌剤治療があるが、癌細胞の中にはこの抗癌剤に対し効果のあるものもあるが、効果がない、すなわち抵抗性を持つ癌細胞もある。私達の研究は、抗癌剤耐性能の獲得機序を検討し、人間の癌細胞に高率に認める中心体過剰複製との関連について検討することにある。

■学術論文

泌尿器科病棟における血液培養検査陽性症例の検討, 金医大誌, 31:132-137, 2006

両側巨大多発性腎嚢胞を伴う腹部大動脈瘤手術の1例, 日心臓血管外会誌, 35:251-254, 2006

Induction of centrosome amplification in p53 siRNA-treated human fibroblast cells by radiation exposure, Cancer Sci., 97:252-258, 2006

小切開前立腺全摘除術におけるクリニカルパスの導入, 日クリニカルパス会誌, 8:125-132, 2006

抗癌剤耐性膀胱癌細胞株の中心体過剰複製について, 金医大誌, 30:266-274, 2005

医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)

牧野田 知 教授

氏名(カナ・英文名)	マキノダ サトル MAKINODA Satoru	生年月	1950.02
所 属	医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)	職 名	教授
最終学歴	北海道大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	mak@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	生殖生理学		

■職歴

北海道大学 助教授(1993.01), 北海道大学 講師(1987.10), 北海道大学 助手(1983.01), Universitat Regensburg Wissenschaftliche Hilfskraft (1980.05)

■所属学会

日本生殖医学会, 日本内分泌学会, 日本癌学会, 日本思春期学会, 日本性感染症学会

■研究課題

排卵機構におけるサイトカインの果たす役割およびその臨床応用について (Effect of cytokines on ovulation and its clinical application)

膣欠損症の治療 (Treatment of vaginal agenesis)

■研究の概要

多岐にわたる産科婦人科学のなかでも排卵現象の解明に関する生殖生理学の研究を中心に、排卵時の卵巣血行動態の解析から排卵の予知を行う研究、排卵に及ぼすサイトカイン、特に G-CSF の作用を解明し、G-CSF を排卵誘発補助薬として用いる臨床的試みも行っている。周産期学の分野では胎児の肺成熟診断に MRI を用いて行う可能性を示している。婦人科腫瘍学では婦人科悪性腫瘍の治療率向上に関する幅広い研究を行っている。

■著書

子宮の位置異常, NEW CONSENSUS 新撰産婦人科診療(石塚文平、金山尚裕、鈴木秋悦、安田 允編), 永井書店, 東京, 2006

性分化異常, 今日の治療指針2005, 医学書院, 東京, 2005

■学術論文

B-マインートラブルへの対処 新女性医学大系 22 正常妊娠, 中山書店、東京, 2001

異常妊娠・妊娠偶発合併症消化器疾患 看護のための最新医学講座, 中山書店、東京, 2001

排卵における卵巣組織血行動態について, 日本産科婦人科学会雑誌, 1980

卵巣動脈血行動態解析による human gonadotropin 投与後の排卵予知, 日産婦香川地方部会雑誌, 2001

妊娠維持における子宮動脈分枝血管壁増殖の重要性に関する研究, 日本産科婦人科学会雑誌, 1989

■学術賞

北海道産科婦人科学会大野学術奨励賞, 1992

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 卵巣機能における G-CSF、IL-6 などサイトカインの作用解明と臨床応用について

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 卵巣機能における G-CSF、IL-6 などサイトカインの作用解明と臨床応用について

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 排卵・妊娠維持ほか各種産科婦人科学領域における G-CSF の動態に関する研究

1998, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 排卵・妊娠維持ほか各種産科婦人科学領域における G-CSF の動態に関する研究

医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)

藤井 亮太 講師

氏名(カナ・英文名)	フジイ リョウタ FUJII Ryota	生年月	—
所 属	医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	ryota@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	産婦人科学		

■所属学会

日本産科婦人科学会, 日本生殖医学会, 日本産科婦人科学会石川地方分会

■研究課題

排卵とサイトカインに関する研究 (Sturdy on Ovulation and Cytokine)

■著書

内性器の奇形・位置異常, 新女性医学大系 17 性の分化とその異常 (藤本征一郎担当編), 中山書店, 東京, 2002

尿失禁, インフォームド・コンセント ガイダンスー婦人科治療編ー(野田起一郎・星合 昊編著), 先端医学社, 東京, 2000

■学術論文

子宮内膜症術後の GnRH アゴニスト療法の検討, エンドメトリオーシス研究会誌, 27:97-99, 2006

【PCOS 新たな視点】[PCOS の長期予後 新たな問題点 3]悪性腫瘍ー特に子宮体癌, 臨婦産, 60:1197-1199, 2006

An intravital microscopy method permitting continuous long-term observations of ovulation *in vivo* in the rabbit, Hum. Reprod., 21:624-631, 2006

重症高脂血症合併妊娠の一例, 日産婦栄代誌, 12:22-23, 2006

腎移植後女性における妊孕性に関する臨床的検討, 日産婦栄代誌, 11:83-84, 2005

医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)

渡邊 之夫 講師

氏名(カナ・英文名)	ワタナベ ユキオ WATANABE Yukio	生年月	—
所 属	医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	産婦人科学		

■職歴

金沢医科大学 助手(2001.04), 金沢医科大学 講師(2007.04)

■所属学会

日本産科婦人科学会, 日本周産期・新生児医学会, 日本生殖医学会, 日本母性衛生学会, 日本遺伝学会

■研究課題

卵巣動脈血行動態解析による human chorionic gonadotropin 投与後の排所予知 (Ovarian Arterial Blood Flow Analysis as a Method to predict Ovulation after hCG injection)

■研究の概要

先天性横隔膜ヘルニアは、出生前にさまざまな予後予測法が試みられているが、未だ確立されたものがあるとはいえない。MRI による肺/肝信号比で、胎児の肺成熟を予測できる事が明らかにされつつあり、予後予測法として、MRIの肺/肝信号比の有用性を中心に検討した。我々の行った予後予測法の結果では、MRIによる予後予測が最も有用であった。

■著書

異常妊娠・妊娠偶発合併症消化器疾患, 看護のための最新医学講座 (岡村州博編), 中山書店, 東京, 2001

尿失禁, インフォームド・コンセント ガイダンスー婦人科治療編ー(野田起一郎・星合 昊編著), 先端医学社, 東京, 2000

■学術論文

更年期女性の機能性子宮出血, 産科と婦人科, 2002

重症妊娠悪阻, 周産期医学必修知識 第5版, 2001

卵巣動脈血行動態解析による human chorionic gonadotropin 投与後の排所予知, 金沢医科大学雑誌, 2000

hCG 投与後排卵誘発時の卵巣動脈血流動態の解析, 産婦人科治療, 1999

Hemodynamic analysis of cephalothoracopagus by the color doppler method, Fetal. Diagn. Ther., 21:61-64, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2005, 科学研究費補助金 若手研究(B), G-CSF のヒト卵巣機能における局所調節機構の解明についての研究

2004, 科学研究費補助金 若手研究(B), G-CSF のヒト卵巣機能における局所調節機構の解明についての研究

2003, 科学研究費補助金 若手研究(B), G-CSF のヒト卵巣機能における局所調節機構の解明についての研究

医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)

富澤 英樹 学内講師

氏名(カナ・英文名)	トミザワ ヒデキ TOMIZAWA Hideki	生年月	1968.12
所 属	医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	h-tom@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	産婦人科学		

■所属学会

日本産科婦人科学会, 日本不妊学会, 日本新生児学会, 日本妊娠高血圧学会, 日本母性衛生学会

■研究課題

周産期医学, 生殖医学

■研究の概要

妊娠が成立すると、子宮内に胎嚢を認める。しかし中には FHB を認めない症例に遭遇する。枯死卵においても同様であるが、初診時にこれらを鑑別することは極めて困難である。我々は、妊娠初期絨毛、末梢血を使用しプロゲステロンなどの各種ホルモンや水輸送に関係するアクアポリンを研究し解明をはかっている。

■著書

B. マイナートラブルへの対処, 新女性医学大系 22 正常妊娠 (神保利春担当編), 中山書店, 東京, 2001

妊娠の異常－合併症妊娠, k.精神神経疾患, インフォームド・コンセント ガイドンスー周産期編－(佐藤和雄・水口弘司編著), 先端医学社, 東京, 2000

■学術論文

妊娠の異常合併症妊娠 K. 精神神経疾患, イフオームド・コンセントガイドンス周産期編(佐藤和雄・水口弘司編著), 2000

母体合併症と早産, 産婦人科の実際, 2000

B. マイナートラブルへの対処, 新女性医学大系 22 正常妊娠, 2001

胎児心拍動陰性胎衰の予後判定 Granulocyte-colony stimulating factor G-CSF 測定の有用性について, 産婦人科の世界, 2001

各科領域における腫瘍マーカーの評価 婦人科, 医学と薬学, 56:846-851, 2006

医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)

藤田 智子 助教

氏名(カナ・英文名)	フジタ サトコ FUJITA Satoko	生年月	1973.04
所 属	医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	chico@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	産婦人科学		

■所属学会

日本産科婦人科学会, 日本周産期新生児医学会, 日本婦人科腫瘍学会, 日本癌治療学会

■研究課題

hcg 投与後の卵巣血行動態解析による排卵予知法に関する研究

hcg 投与後の卵巣血行動態解析による排卵予知法に関する研究

■著書

早産患者における在胎期間延長因子, 周産期救急のコツと落とし穴, 中山書店, 東京, 2004

乳癌, ガイドライン外来診療 2002 (泉 孝英編), 日経メディカル開発, 東京, 2002

■学術論文

乳癌, ガイドライン外来診療 2002, 2002

胎児心拍動陰性胎嚢の予後判定-Granulocyte-colony stimulating factor: GSF 測定の有用性について, 産婦の世界, 2001

妊娠初期の異常の管理 子宮外妊娠—手術療法か、薬物療法か—, 産婦人科の実践, 2003

【完璧！産婦人科ローテート・マニュアル】産婦人科救急現場の研修 子宮外妊娠の診断と処置, 産婦の実践, 55 (別冊):280-285, 2006

本邦初の肝移植後妊娠症例における第2子妊娠・分娩, 日産婦栄代誌, 11:80-82, 2005

医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)

早稲田 智夫 助教

氏名(カナ・英文名)	ワセダ トモオ WASADA Tomoo	生年月	1973.08
所 属	医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	bu-tan@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■職歴

2003- 金沢医科大学医学部 助手, 2003- Reserch Associate, Kanazawa Medical University

■所属学会

日本産科婦人科学会, 日本不妊学会

■研究課題

hCG 投与後の卵巣動脈血行動態解析 (Hemodynamic respons of Ovarian artery after hCG)

■著書

子宮の位置異常, NEW CONSENSUS 新撰産婦人科診療(石塚文平、金山尚裕、鈴木秋悦、安田 允編), 永井書店, 東京, 2006

(3)感染症の管理[キーワード:ヒトパピローマウイルス]妊娠中期に外陰部および子宮腔部に尖形コンジローマを認めました。診療方針と対処の実際について教えて下さい。産科臨床ベストプラクティス 誰もが迷う 93 例の診療指針(岡井 崇編), 医学書院, 東京, 2004

■学術論文

ヒト絨毛性ゴナドトロピン投与後の卵巣動脈および内腸骨動脈血行動態解析による排卵予知法とその再現性に関する研究, 金医大誌, 2003

Analysis of homodynamics of fetus with mosaic trisomy 9 by using color Doppler methodo, 金医大誌, 2003

重症妊娠悪阻, 産婦人科治療, 2002

卵巣血行動態解析による human chorionic gonadotropin 投与後の排卵予知, 産妊香川会誌, 2001

Vmax is reliable Index for prediction of Ovelation after hCG injection, 9th World Congress of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology, 1999

医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)

井上 弘一 助教

氏名(カナ・英文名)	イノウエ ヒロカズ INOUE Hirokazu	生年月	1968.11
所 属	医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	nyk-0508@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	産婦人科学		

■職歴

金沢医科大学 研究医(2004.04)

■所属学会

日本婦人科腫瘍学会, 日本周産期・新生児医学会, 日本癌治療学会, 日本産科婦人科学会

■研究課題

周産期医学、出生前診断

■学術論文

子宮内膜症術後の GnRH アゴニスト療法の検討, エンドメトリオーシス研究会誌, 27:97-99, 2006

Hemodynamic analysis of cephalothoracopagus by the color doppler method, Fetal. Diagn. Ther., 21:61-64, 2006

超音波カラードブラ法による正常発育胎児の腎動脈血行動態解析, 金医大誌, 30:147-154, 2005

Analysis of renal arterial hemodynamics in normal fetuses using the color Doppler method, XIX Asian and Oceanic Congress of Obstetrics & Gynecology, 253-259, 2005

Hemodynamics of the renal artery and descending aorta in fetuses with renal disease using color Doppler ultrasound-longitudinal comparison to normal fetuses, J. Perinat. Med., 33:226-231, 2005

医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)

篠倉 千早 助教

氏名(カナ・英文名)	ササクラ チハヤ SASAKURA Chihaya	生年月	—
所 属	医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■学術論文

各科領域における腫瘍マーカーの評価 婦人科, 医学と薬学, 56:846-851, 2006

医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)

高木 弘明 助教

氏名(カナ・英文名)	タカギ ヒロアキ TAKAGI Hiroaki	生年月	—
所 属	医学部／生殖周産期医学(産科婦人科学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	terry-1@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■職歴

金沢医科大学 助教(2007.02)

■研究の概要

正常妊娠、分娩時ストレスおよび妊娠中毒症におけるエンドセリンの血中動態の解析

医学部／侵襲制御学(麻酔学)

土田 英昭 教授

氏名(カナ・英文名)	ツチダ ヒデアキ TSUCHIDA Hideaki	生年月	1954.02
所 属	医学部／侵襲制御学(麻酔学)	職 名	教授
最終学歴	札幌医科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	tsuchida@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	麻酔・蘇生学		

■職歴

1991-1993 札幌医科大学麻酔学講座 講師 , 1993-1994 クリーブランド・クリニック麻酔科 , 1994-1999 札幌医科大学麻酔学講座 講師 , 1999- 金沢医科大学麻酔学講座 教授 , 1991-1993 Assistant Professor, Dept. of Anesthesiology

■所属学会

日本麻酔科学会, 日本臨床麻酔学会, 日本循環制御医学会, アメリカ麻酔学会, 日本心臓血管麻酔学会

■研究課題

麻酔薬の心血管系に与える影響 (Effects of anesthetics on cardio-vascular system)

虚血性神経細胞死 (Neuronal Death Following Transient Cerebral Ischemia)

■著書

Q61. 糖尿病患者の手術中には, どんな点に注意したらよいのでしょうか?、全身麻酔器の CO₂ 吸収薬(ソーダライム)の交換の目安を教えてください. 古くになると患者さんにどんな症状が起きますか?, 手術室ナース Q&A(天羽敬祐, 他編), 総合医学社, 東京, 2006

ラリンジアルマスク(LMA)の挿入, イラストでわかる麻酔科必須テクニック(土肥修司編), 羊土社, 東京, 2006

■学術論文

Different hepatic vascular response to noradrenaline and histamine between guinea-pig and rat, Acta Physiol. Scand., 180:255-263, 2004

Effects of platelet-activating factor and thromboxane A₂ on isolated perfused guinea pig liver, Prostaglandins Other Lipid Mediat., 73:73-85, 2004

NO, but not CO, attenuates anaphylaxis-induced postsinusoidal contraction and congestion in guinea pig liver, Am. J. Physiol. Regul. Integr. Comp. Physiol., 286: R94-R100, 2004

Interference with Saville's method in determination of low-molecular weight S-nitrosothiols by ultrafiltration, Nitric Oxide, 9: 148-152, 2003

Comparison of adjuvant anesthetics for propofol induction, J Anesth, 17: 154-160, 2003

■共同研究希望(研究シーズ)

海馬錐体細胞の虚血再灌流障害

Ischemia Reperfusion Injury of Hippocampal Pyramidal Neurons

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), スナエズミ海馬錐体細胞における遅発性神経細胞死とストレス蛋白質の関与

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), スナエズミ海馬錐体細胞における遅発性神経細胞死とストレス蛋白質の関与

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), スナエズミ海馬錐体細胞における遅発性神経細胞死とストレス蛋白質の関与

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 敗血症ラット大動脈における交感神経 β 受容体を介する反応の変化とその機序の解明

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 敗血症ラット大動脈における交感神経 β 受容体を介する反応の変化とその機序の解明

医学部／侵襲制御学(麻酔学)

関 純彦 准教授

氏名(カナ・英文名)	セキ スミヒコ SEKI Sumihiko	生年月	—
所 属	医学部／侵襲制御学(麻酔学)	職 名	准教授
最終学歴	旭川医科大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	sseki@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	麻酔・蘇生学		

■職歴

1994-1996 米国クリーブランドクリニック 研究員, 1999-2002 札幌医科大学医学部 助手, 2002-2004 金沢医科大学医学部 講師, 2004- 金沢医科大学医学部 助教授, 1994-1996 Research Fellow, The Cleveland Clinic

■所属学会

日本麻酔学会, 日本ペインクリニック学会北陸支部, 日本麻酔科学会東海・北陸支部

■研究課題

麻酔薬の血管緊張性への影響 (Effects of Anesthetics on Vascular Reactivity)

■著書

パラメトリック検定2群, コ・メディカルのための統計学入門(並木昭義監修 山蔭道明), 日本放射線技師会出版, 東京, 2005

麻酔機材・麻酔器の点検, 麻酔事故防止のための点検, モニター, 麻酔実践ハンドブック, 改訂第4版(青野 允, 他編), 南江堂, 東京, 2004

■学術論文

Fetal and postnatal development of Ca²⁺ transients and Ca²⁺ sparks in rat cardiomyocyte., Cardiovascular Research, 2003

Role of endothelium-derived hyperpolarization factor in phenylephrine-induced oscillatory vasomotion in rat small mesenteric artery, Anesthesiology, 2003

Fetal and postnatal development of Ca²⁺ transients and Ca²⁺ sparks in rat cardiomyocyte., Cardiovascular Research, 2003

Role of endothelium-derived hyperpolarization factor in phenylephrine-induced oscillatory vasomotion in rat small mesenteric artery, Anesthesiology, 2003

喉頭鏡とトラキライト®の併用で気管挿管を施行した巨大喉頭蓋嚢胞の1症例, 麻酔, 55:468-470, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 正常および敗血症ラットの微小腸間膜動脈運動に及ぼす鎮静薬の影響

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 肺高血圧症モデルにおける肺動脈収縮に対する吸入麻酔薬の影響の検討

医学部／侵襲制御学(麻酔学)

白石 美治 学内講師

氏名(カナ・英文名)	シライシ ミハル SHIRAIISHI Miharuru	生年月	—
所 属	医学部／侵襲制御学(麻酔学)	職 名	学内講師
最終学歴	富山医科薬科大学医学部	学 位	—
電子メール	miharu@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	麻酔・蘇生学		

■所属学会

日本麻酔学会, 日本臨床麻酔学会, 日本ペインクリニック学会, 日本集中治療医学会, 日本救急医学会

■研究課題

心臓麻酔, 心血管作動薬 (Cardiac Anesthesia, Cardiovascular Agents)

■研究の概要

敗血症における血管反応性の変化

■著書

事例に沿ってマスターする手術室のくすりー循環に関する薬剤(塩酸エフェドリン、硫酸アトロピン、塩酸ランジオロール、アルブロスタジル), オペナージング, メディカ出版, 大阪, 2007

Q61. 糖尿病患者の手術中には, どんな点に注意したらよいのでしょうか?, 全身麻酔器の CO2 吸収薬(ソーダライム)の交換の目安を教えてください. 古くになると患者さんにどんな症状が起こりますか?, 手術室ナージング Q&A(天羽敬祐, 他編), 総合医学社, 東京, 2006

■学術論文

肺動脈カテーテル挿入により循環動態が劇的に改善した肺血栓塞栓症の 1 症例, 日本集中治療医学会雑誌, 2001

A case of acute pulmonary thromboembolism improved by insertion of a pulmonary artery catheter, Journal of the Japanese Society of Intensive Care Medicine, 2001

子宮収縮薬によるアナフィラキシーショックの 1 症例, 麻酔, 55:447-450, 2006

全身麻酔下の上部消化管内視鏡検査後に換気障害となった左横隔神経麻痺の 1 症例, 麻酔, 54 :163-165, 2005

小児両側胸骨後ヘルニアに対する腹腔鏡下修復術の麻酔経験, 麻酔, 53:417-419, 2004

医学部／侵襲制御学(麻醉学)

霜 知浩 助教

氏名(カナ・英文名)	シモ トモヒロ SHIMO Tomohiro	生年月	—
所 属	医学部／侵襲制御学(麻醉学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	麻醉・蘇生学		

■所属学会

日本麻醉科学会

■研究課題

アナフィラキシー

■学術論文

子宮収縮薬によるアナフィラキシーショックの 1 症例, 麻醉, 55:447-450, 2006

N^o-nitro-L-arginine methyl ester potentiates anaphylactic venoconstriction in rat perfused livers, Clin. Exp. Pharmacol. Physiol., 33:1073-1077, 2006

ポリドカノールによる血管硬化療法中に 2 度心停止を起こした小児の 1 症例, 麻醉, 54:57-59, 2005

Different hepatic vascular response to noradrenaline and histamine between guinea-pig and rat, Acta Physiol. Scand., 180:255-263, 2004

Effects of platelet-activating factor and thromboxane A2 on isolated perfused guinea pig liver, Prostaglandins Other Lipid Mediat., 73:73-85, 2004

医学部／侵襲制御学(麻醉学)

福岡 直 助教

氏名(カナ・英文名)	フクオカ タダシ FUKUOKA Tadashi	生年月	—
所 属	医学部／侵襲制御学(麻醉学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	麻醉・蘇生学		

■所属学会

日本麻醉学会，日本臨麻醉学会，日本ペインクリニック学会

■研究課題

集中治療

■学術論文

高齢者の CHS の麻醉. 痴呆症状が進行していれば全身麻醉, LiSA, 7:601-602, 2000

生体部分肝移植 4 症例の麻醉経験, 北陸麻誌, 24:37-41, 2000

各種フィルター付人工鼻の保湿加湿状態についての比較検討, 北陸麻誌, 24:7-12, 2000

医学部／侵襲制御学(麻醉学)

堀内 桂 助教

氏名(カナ・英文名)	ホリウチ カツラ HORIUCHI Katsura	生年月	—
所 属	医学部／侵襲制御学(麻醉学)	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

医学部／侵襲制御学(麻醉学)

唐澤 紀幸 助教

氏名(カナ・英文名)	カラサワ ノリユキ KARASAWA Noriyuki	生年月	—
所 属	医学部／侵襲制御学(麻醉学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

医学部／侵襲制御学(麻醉学)

山岡 祐子 助教

氏名(カナ・英文名)	ヤマオカ ユウコ YAMAOKA Yuko	生年月	—
所 属	医学部／侵襲制御学(麻醉学)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)

瀬上 夏樹 教授

氏名(カナ・英文名)	セガミ ナツキ SEGAMI Natsuki	生年月	—
所 属	医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)	職 名	教授
最終学歴	川崎医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	n-segami@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	口腔外科学		

■所属学会

日本口腔外科学会, 日本口腔科学会, 日本口腔腫瘍学会, 国際口腔顎顔面外科学会, 日本顎関節学会

■研究課題

顎関節鏡視法に関する研究 (Study on arthroscopy of the temporomandibular joint)

口腔癌の病態と治療法に関する研究 (Study on Pathology and treatment modality of Oral cancer)

■研究の概要

1. 顎関節疾患の機能病態解析と治療体系に関する基礎的臨床的研究 2. 口腔癌の増殖、転移様相に関する分子生物学的研究 3. 顎顔面の発育異常の病態生理に関する研究

■著書

外科的療法－バンピングマニピュレーションと顎関節洗浄法－, 顎関節症 (日本顎関節学会編), 永末書店, 東京, 2003

■学術論文

Thermal injury during temporomandibular joint arthroscopy: a case report, J. Oral Maxillofac. Surg., 62:508-510, 2004

Does joint effusion on T2 magnetic resonance images reflect synovitis? Part 3. Comparison of histologic findings of arthroscopically obtained synovium in internal derangements of the temporomandibular joint, Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol. Endod., 95: 761-766, 2003

Does joint effusion on T2 magnetic resonance images reflect synovitis? Part 2. Comparison of concentration levels of proinflammatory cytokines and total protein in synovial fluid of the temporomandibular joint with internal derangements and osteoarthritis, Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol. Endod., 94: 515-521, 2002

Does joint effusion on T2 magnetic resonance images reflect synovitis?: Comparison of arthroscopic findings in internal derangements of the temporomandibular joint, Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol. Endod., 92: 341-345, 2001

Arthroscopic eminoplasty for habitual dislocation of the temporomandibular joint ; preliminary study., Journal of Cranio-Maxillofacial Surgery., 1999

■学術賞

日本顎関節学会学術奨励賞, 1993

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 顎関節疾患のMR画像における滲出液像の本態解明と診断的意義の確立

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 顎関節疾患のMR画像における滲出液像の本態解明と診断的意義の確立

1999, 科学研究費補助金 萌芽研究, 菌性病巣感染における菌凝集反応試験の確立と臨床応用に関する血清学的臨床的研究

1998, 科学研究費補助金 基盤研究(B), 顎関節症に対する関節鏡視法の適応、効果ならびに有害性に関する基礎的臨床的研究

1998, 科学研究費補助金 萌芽研究, 菌性病巣感染における菌凝集反応試験の確立と臨床応用に関する血清学的臨床的研究

医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)

吉村 弘 准教授

氏名(カナ・英文名)	ヨシムラ ヒロシ YOSHMURA Hiroshi	生年月	1958.07
所 属	医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)	職 名	准教授
最終学歴	京都大学大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	hyoshimu@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	神経・筋肉生理学		

■所属学会

日本生理学会，日本神経科学学会

■研究課題

大脳皮質視覚野におけるシナプス可塑性に関する研究 (Study on Synaptic Plasticity in Visual Cortex)

■学術論文

Synchronised population oscillation of excitatory synaptic potentials dependent on calcium-induced calcium release in rat neo cortex layer II/III neurons, Brain Research, 2001

Age-dependant occurrence of synchronized population oscillation of synaptic potentials in the rat visual cortex, Developmental Brain Research, 2002

Motivation-Dependent Activity in the Dorsolateral Part of the Prefrontal Cortex in the Monkey, Neuroscience Letters, 1997

Attenuation of Mg^{2+} -block of Synaptic N-methyle-D-aspartate Receptors in the Visual Cortex of Rats Raised under Optic Nerve Blockade, Brain Res., 733:108-112, 1996

Reduced Mg^{2+} block of N-methyle-Daspartate Receptor-mediated Synaptic Potentials in Developing Cortex., Proceeding National Academy Science of USA, 90:7114-7118, 1993

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, 厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業, 老人性痴呆症・アルツハイマー病の予防および治療を目的とした中枢機能賦活口腔スプリントの開発

2005, 厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業, 老人性痴呆症・アルツハイマー病の予防および治療を目的とした中枢機能賦活口腔スプリントの開発

2001, 厚生労働科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業, 歯牙喪失後の中枢神経機能低下の予防に関する研究

医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)

金山 景錫 講師

氏名(カナ・英文名)	カネヤマ ケイセキ KANEYAMA Keiseki	生年月	—
所 属	医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	修士(歯学), 博士(医学)
電子メール	—		
専門分野	外科系歯学		

■職歴

2000- 金沢医科大学助手、2003- 同学内講師、2005- 同講師(2005.04)

■所属学会

日本口腔外科学会, 日本口腔科学会, 日本顎関節学会, 日本口腔腫瘍学会

■研究課題

顎関節損傷の病態と治療体系 (Pathologeresis and Treatment of the Temporo mandibular joint Disorders)

■研究の概要

顎関節症の滑液・滑膜検体を用い、分子生物学的・生化学的・形態学的アプローチによりその病態機構の解明と新規診断法・治療法についての研究を行っている。さらに歯科インプラント(人工歯根)、顎変形症や口腔腫瘍に関する臨床的研究も行っている。

■学術論文

Interleukin-6 family of cytokines as biochemical markers of osseous changes in the temporomandibular joint disorders, Br J Oral Maxillofac Surg, 42:246-250, 2004

The ideal lavage volume for removing bradykinin, interleukin-6, and protein from the temporomandibular joint by arthrocentesis, J. Oral Maxillofac. Surg., 62:657-661, 2004

Analysis of tumor necrosis factor- α , interleukin-6, interleukin-1 β , soluble tumor necrosis factor receptors I and II, interleukin-6 soluble receptor, interleukin-1 soluble receptor type II, interleukin-1 receptor antagonist, and protein in the synovial fluid of patients with temporomandibular joint disorders, Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol. Endod., 99:276-284, 2005

Levels of soluble cytokine factors in temporomandibular joint effusions seen on magnetic resonance images, Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol. Endod., 99:411-418, 2005

Expression of capsaicin receptor TRPV-1 in synovial tissues of patients with symptomatic internal derangement of the temporomandibular joint and joint pain, Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol. Endod., 100:674-681, 2005

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 若手研究(B), 破骨細胞を介した変形性顎関節症の病態機構の解明

2005, 科学研究費補助金 若手研究(B), 破骨細胞を介した変形性顎関節症の病態機構の解明

2004, 科学研究費補助金 若手研究(B), 破骨細胞を介した変形性顎関節症の病態機構の解明

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 顎関節症における関節疼痛のメカニズムに関する病態機構の解明

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 顎関節症における関節疼痛のメカニズムに関する病態機構の解明

医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)

出村 昇 講師

氏名(カナ・英文名)	デムラ ノボル DEMURA Noboru	生年月	1959.09
所 属	医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)	職 名	講師
最終学歴	岐阜歯科大学歯学部	学 位	歯学博士
電子メール	n-demura@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	歯科矯正学		

■所属学会

日本矯正歯科学会, 日本顎関節学会, 日本口蓋裂学会, 日本小児歯科学会, American Association of Orthodontists

■研究課題

咽頭扁桃と顎顔面形態の関連性について (The relationship between pharyngeal tonsil and dentofacial morphology)

■学術論文

顎関節規格 X 線写真による下顎頭動態の解析, 日本矯正歯科学会雑誌, 1987

顎関節規格 X 線写真による下顎頭動態の解析 -顎関節症患者への応用-, 近畿東海矯正歯科学会雑誌, 1988

口唇口蓋裂患者の顎裂に近接する歯の態様について, 近畿東海矯正歯科学会雑誌, 1989

頭部 X 線規格写真における CR(Computed Radiography)システム画像処理条件の検討, 日本矯正歯科学会雑誌, 1994

頭部 X 線規格写真における CR 画像処理条件の検討(II)-ROC 曲線による画像評価-, 日本矯正歯科学会雑誌, 1994

医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)

高橋 基浩 助教

氏名(カナ・英文名)	タカハシ モトヒロ TAKAHASHI Motohiro	生年月	—
所 属	医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)	職 名	助教
最終学歴	松本歯科大学歯学部	学 位	—
電子メール	mt1119@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■所属学会

日本口腔外科学会, 日本口腔科学会, 日本口腔腫瘍学会

■研究課題

クリックを伴う顎関節症に関する研究 (Study on temporomandibular joint disorders with click)

■研究の概要

登録中

■学術論文

骨付大胸筋皮弁、広背筋皮弁による口腔癌切除後の下顎再建(共著), 日本口腔腫瘍学会誌, 1991

口腔カンジタ症に併発した下口唇 Verrucos carcinoma の一例(共著), 日本口腔外科学会, 1991

信州大学医学部における嗅覚及び味覚障害の臨床例と体液、呼気の生化学検査について(共著), 第 23 回 味と匂のシンポジウム論文集, 1989

有病者における歯科・口腔外科に関する臨床的検討 -1、当科における臨床的検討-(共著), 日本口腔科学会雑誌, 1991

町のドクターお達者通信, 広報しお, 2002

■その他の業績

歯科口腔状態と介護予防に関する調査事業(共著)

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 顎関節症の病因解明の試み;滑液中の蛋白修飾糖類の解析による糖鎖異常の検討

医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)

長尾 壽和 助教

氏名(カナ・英文名)	ナガオ トシカズ NAGAO Toshikazu	生年月	—
所 属	医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)	職 名	助教
最終学歴	京都大学大学院医学研究科医学研究科	学 位	医学博士(京都大学)
電子メール	tnagao@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	外科系歯学		

■所属学会

日本口腔外科学会, 日本癌学会, 日本歯周病学会

■研究課題

有病者歯科

■研究の概要

細胞増殖、分化

■学術論文

The oncoprotein gankyrin binds to MDM2/HDM2, enhancing ubiquitylation and degradation of p53., cancer cell, 8(1):75-87, 2005

A cleaved form of MAGE-A4 binds to Miz-1 and induces apoptosis in human cells., J. Biol. Chem., 279(15):15505-14, 2004

Engineered long terminal repeats of retroviral vectors enhance transgene expression in hepatocytes in vitro and in vivo., Mol Ther, 8(5):796-803, 2003

MAGE-A4 interacts with the liver oncoprotein gankyrin and suppresses its tumorigenic activity., J. Biol. Chem., 278(12):10668-74, 2003

A novel protein overexpressed in hepatoma accelerates export of NF-kappa B from the nucleus and inhibits p53-dependent apoptosis., cancer cell, 2(4):335-46, 2002

医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)

西浦 里英 助教

氏名(カナ・英文名)	ニシウラ リエ NISHIURA Rie	生年月	—
所 属	医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)	職 名	助教
最終学歴	鶴見大学歯学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	外科系歯学		

■研究の概要

ゲノム解析に基づく変形性顎関節症の病態解明

医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)

本庄 美穂 助教

氏名(カナ・英文名)	ホンジョウ ミホ HONJOU Miho	生年月	—
所 属	医学部／顎口腔機能病態学(口腔科学)	職 名	助教
最終学歴	日本歯科大学新潟歯学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	外科系歯学		

■所属学会

近畿東海矯正歯科学会，日本矯正歯科学会

■研究の概要

歯列不正が引き起こす情動発育への影響に関する研究

医学部／救急医学

和藤 幸弘 教授

氏名(カナ・英文名)	ワトウ ユキヒロ WATOH Yukihiro	生年月	—
所 属	医学部／救急医学	職 名	教授
最終学歴	鳥取大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	allstar@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	麻酔学, 救急医学, 災害医学, Anesthesiology, Emergency Medicine, Disaster Medicine		

■所属学会

World Association for Disaster and Emergency Medicine, American college of Emergency physicians, 日本麻酔学会, 日本救急医学会, 日本集団災害医療研究会

■研究課題

麻酔中の血管拡張剤の応用と循環動態 (Circulatory Effects of Induced hypotension by vasodilators During general Anesthesia)

災害医療システム (Disaster Medical system)

■著書

心マッサージ, Emergency nursing (大田宗夫 編), メディカ出版, 東京, 2004

パルスオキシメーター, Emergency nursing (大田宗夫 編), メディカ出版, 東京, 2004

■学術論文

プロスタグランディン E_1 , ニカルジピン, ニトログリセリン, 硝酸イソソルバイドによる低血圧麻酔中の右室循環動態, 1997

グローバルヘルス災害情報ネットワークの紹介, 日本集団災害医療研究会誌, 1997

救急蘇生法, ビジュアルノート, メデックメディア, 1997

緊急麻酔法, 今日の治療指針, 1997

ヘリコプターによる救急搬送に適した医療機器研究委員会報告書-ヘリコプター搬送用呼吸管理器材、衛生材料及び常備薬剤, 救急振興財団企画調査課, 1997

■その他の業績

トルコ共和国公共事業省地震研究所へ国際協力事業団(JICA)短期専門家として派遣

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2001, 厚生科学特別研究事業, 老年者高血圧の治療と予後に関する研究

医学部／救急医学

真柴 智 学内講師

氏名(カナ・英文名)	マシバ サトル MASHIBA Satoru	生年月	1965.04
所 属	医学部／救急医学	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	massy@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	救急医学		

■所属学会

日本救急学会, 日本循環器学会, 日本集中治療医学会, 日本消化器内視鏡学会, 日本熱傷学会

■研究課題

救急医学, アナフィラキシーショック

■学術論文

救急センターにおける運動誘発アナフィラキシーの治療の実際, 金沢医科大学雑誌, 1995

ブロムワレリル尿素, 救急医学, 2001

電撃症; 初療医の評価が不十分であった症例, 救急医学, 2002

Exercise-Induced Anaphylaxis in Emergency Department, JOURNAL OF KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY, 1995

Bromvaleryl urea, THE JAPANESE JOURNAL OF ACUTE MEDICINE, 2001

医学部／救急医学

林 信行 助教

氏名(カナ・英文名)	ハヤシ ノブユキ HAYASHI Nobuyuki	生年月	—
所 属	医学部／救急医学	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	救急医学		

■所属学会

日本救急医学会

■研究課題

救急医学

■学術論文

Features of patients with influenza virus infection examined in the emergency department of a university hospital in north-western japan, J. Int. Med. Res., 32: 331-336, 2004

救急搬送の適応に関する検討, 北陸救急医療, 1: 33-34, 2001

シミュレータを用いた医学部5学年生の蘇生実習, 北陸救急医療, 1: 31-32, 2001

アナフィラキシーショックの経過中に無症候性冠攣縮を認めた一例, 北陸救急医療, 1: 23-25, 2001

医学部／救急医学

盛田 英樹 助教

氏名(カナ・英文名)	モリタ ヒデキ MORITA Hideki	生年月	—
所 属	医学部／救急医学	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■研究課題

救急医学

■学術論文

救急患者の輸液，総合臨床 救急マニュアル2004，53(増刊):733-737, 2004

救急車搬送の適応に関する検討，日臨救急医学会誌，6(3):324-329, 2004

Features of patients with influenza virus infection examined in the emergency department of a university hospital in north-western japan, J. Int. Med. Res., 32: 331-336, 2004

救急車搬送の適応に関する検討，日臨救急医学会誌，6: 324-329, 2003

救急搬送の適応に関する検討，北陸救急医療，1: 33-34, 2001

医学部／救急医学

後藤 哲郎 助教

氏名(カナ・英文名)	ゴトウ テツロウ GOTO Tetsuro	生年月	—
所 属	医学部／救急医学	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	g-saibar@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

救急医学

■著書

急性中毒の特異的治療法，救急医療の最先端（島崎修次、山本保博、相川直樹），先端医療技術研究所，東京，2004

■学術論文

Features of patients with influenza virus infection examined in the emergency department of a university hospital in north-western japan, J. Int. Med. Res., 32: 331-336, 2004

医学部／救急医学

水沼 真理子 助教

氏名(カナ・英文名)	ミズヌマ マリコ MIZUNUMA Mariko	生年月	—
所 属	医学部／救急医学	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	mariko-m@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

救急医学

医学部／救急医学

中田 麻里 助教

氏名(カナ・英文名)	ナカタ マリ NAKATA Mari	生年月	—
所 属	医学部／救急医学	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	g-mary@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

救急医学

■学術論文

Features of patients with influenza virus infection examined in the emergency department of a university hospital in north-western japan, J. Int. Med. Res., 32: 331-336, 2004

医学部／腫瘍治療学

元雄 良治 教授

氏名(カナ・英文名)	モトオ ヨシハル MOTOO Yoshiharu	生年月	—
所 属	医学部／腫瘍治療学	職 名	教授
最終学歴	東京医科歯科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	臨床腫瘍学，消化器内科学		

■職歴

金沢大学がん研究所附属病院 内科講師(1992)，金沢大学がん研究所腫瘍制御研究部門 腫瘍内科研究分野助教授(2003)，金沢医科大学 腫瘍治療学教授(2005)，金沢医科大学病院 集学的がん治療センター長(2005)，金沢医科大学 総合医学研究所 分子腫瘍学研究部門 教授(併任)(2005.06)

■所属学会

日本臨床腫瘍学会，米国内科学会(ACP)，日本消化器病学会，日本東洋医学会，日本内科学会

■研究課題

膵疾患におけるアポトーシスの意義 (Significance of apoptosis in pancreatic diseases)

膵炎関連蛋白の基礎と臨床 (Studies on pancreatitis-associated protein)

■研究の概要

膵炎関連蛋白(PAP)の発現・機能解析・臨床応用を行ってきた。現在癌細胞における PAP 発現の意義の解明をめざしている。また、抗がん剤の感受性予測・耐性克服をめざした分子レベルでのアプローチを行っている。癌種では最難治癌である膵癌を中心に消化器癌を扱っているが、本学における臨床腫瘍学(腫瘍内科学)部門の確立のため種々の臓器癌を研究対象にしていきたい。

■学術論文

High level of tumour protein p53-induced nuclear protein 1 (TP53INP1) expression in anaplastic carcinoma of the thyroid, Pathology., 38:545-547, 2006

Effect of gemcitabine on the expression of apoptosis-related genes in human pancreatic cancer cells, World J Gastroenterol, 12(10):1597-1602, 2006

Herbal medicine Ninjinyoeito ameliorates ribavirin-induced anemia in chronic hepatitis C: A randomized controlled trial, World J. Gastroenterol., 11:4013-4017, 2005

Overexpression of pancreatitis-associated protein (PAP) in human pancreatic ductal adenocarcinoma., DIGESTIVE DISEASES AND SCIENCES, 2003

p8 expression is induced in acinar cells during chronic pancreatitis., DIGESTIVE DISEASES AND SCIENCES, 2001

■学術賞

第1回日本東洋医学会北陸支部奨励賞, 2000

日本東洋医学会学術奨励賞, 柴胡桂枝湯の膵炎治療効果の機序に関する研究 2006.06

■共同研究希望(研究シーズ)

膵炎関連蛋白の性状に関する研究

抗がん剤感受性予測システムの開発

■その他の業績

日台交流セミナー助成

膵臓病研究財団研究奨励賞「膵癌における塩酸ゲムシタビン耐性克服法の開発

■研究費採択状況(その他の助成金)

2006, (財)日本漢方医学研究所研究助成金, 外来がん化学療法への漢方の導入とその延命効果に関する研究

2005, 日本漢方生薬製剤協会研究助成金, 慢性肝炎の抗ウイルス療法の副作用軽減をめざした漢方生薬製剤の新しい応用:ランダム化比較研究と薬剤経済学的解析

医学部／腫瘍治療学

中島 日出夫 講師

氏名(カナ・英文名)	ナカジマ ヒデオ NAKAJIMA Hideo	生年月	1963.11
所 属	医学部／腫瘍治療学	職 名	講師
最終学歴	東京医科歯科大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	hideonak@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	消化器内科学		

■職歴

金沢医科大学 腫瘍治療学教室講師(2005.09), 金沢大学 心肺総合外科医員(2004.10), 国立長寿医療センター研究所 免疫研究室長(2000.07), パーゼル免疫学研究所 研究員(1997.03), 東京大学医科学研究所 癌体質学研究部客員研究員(1994.07)

■所属学会

日本癌学会, 日本臨床腫瘍学会, 日本消化器外科学会, 日本外科学会

■研究課題

臨床腫瘍学, 免疫学, 消化器病学

■研究の概要

白血病細胞に熱ショックを与えることで遺伝子発現の上昇した、新規蛋白質(HITS)を同定し、その解析を行っている。HITSはショウジョウバエから保存された未知のタンパク質のモチーフをもち、ヒトにはHITSと類似したもう一つのタンパク質が存在している。いずれも癌細胞でその遺伝子発現が低くなっており、熱ショックで誘導されるがん抑制遺伝子と考えており、解析を進めている。

■著書

ILT receptors at the interface between lymphoid and myeloid cells, Lymphoid Organogenesis, Current Topics in Microbiology and Immunology, Springer, USA, 1999

MHC クラスIレセプターによるNK活性の制御機能, Annual Review 免疫, 中外医学社, 日本, 1997

■学術論文

Large defects of type I allergic response in telomerase reverse transcriptase knockout mice, J Leuk. Biol., 82:, 2007

Transcriptional regulation of ILT family receptors, J. Immunol., 171(12):6611-20, 2003

Dramatic increase of telomerase activity during dendritic cell differentiation and maturation, J. Leuk. Biol., 74(2):270-6, 2003

Patients with X-linked lymphoproliferative disease have a defect in 2B4 receptor-mediated NK cell cytotoxicity, Eur. J. Immunol., 30(11):3309-18, 2000

Plasmacytoid monocytes migrate to inflamed lymph nodes and produce large amounts of type I interferon., Nat. Med., 5(8):919-23, 1999

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, 国立長寿医療センター長寿医療研究委託事業, 加齢に伴う免疫力低下による疾患の発生病序の解明と臨床応用に関する研究(自然免疫系の低下による老化関連疾患発症機序の解明と免疫系の賦活化による克服)

2005, 国立長寿医療センター長寿医療研究委託事業, 加齢に伴う免疫力低下による疾患の発生病序の解明と臨床応用に関する研究(自然免疫系の低下による老化関連疾患発症機序の解明と免疫系の賦活化による克服)

■研究費採択状況(その他の助成金)

2006, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, がん温熱療法分子機構の解明と効果的な臨床応用への探索

医学部／腫瘍治療学

島崎 猛夫 助教

氏名(カナ・英文名)	シマサキ タケオ SHIMASAKI Takeo	生年月	—
所 属	医学部／腫瘍治療学	職 名	助教
最終学歴	浜松医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■研究の概要

がん細胞の転移浸潤に関するメカニズム、抗がん剤の作用増強、副作用軽減に関する分子生物学的解析、バイオインフォマティクス

■共同研究希望(研究シーズ)

膵癌における塩酸ゲムシタビン耐性誘導メカニズムの分子機構の解明及び克服薬剤の探索

オントロジーによるがん登録システムの開発

■研究費採択状況(その他の助成金)

2006, (財)膵臓病研究財団助成金, 膵癌における塩酸ゲムシタビン耐性克服法の開発

医学部／総合内科学(総合診療科)

神田 享勉 教授

氏名(カナ・英文名)	カンダ ツギヤス KANDA Tsugiyasu	生年月	—
所 属	医学部／総合内科学(総合診療科)	職 名	教授
最終学歴	群馬大学大学院医科学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	kandat@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	心臓病学, 総合診療学		

■所属学会

日本循環器病学会, 日本糖尿病学会, 日本内科学会, 日本臨床病理学会, 北関東医学会

■研究課題

拡張型心筋症および急性心筋炎に関する研究 (Study on Dilated Cardiomyopathy and Acute Myocarditis)

■研究の概要

心不全、心筋症を含む心血管系に関するサイトカインの治療応用が研究の主体である。今までにインターロイキン 6、8、10、TNF- α 、レプチン、アディポネクチンなどの解析をおこなった。研究の動物モデルはマウスウイルス性心筋炎、ラット心筋梗塞、マウス糖尿病などである。

■著書

診断のための心血管系臨床検査の進め方, 心血管病学, 朝倉書店, 東京, 2005

基本に還る診療・医療面接, 循環plus, メディカルトリビューン, 東京, 2004

■学術論文

Impaired expression of cardiac adiponectin in leptin-deficient mice with viral myocarditis, Int. Heart J., 47:107-123, 2006

Interleukin-6 and cardiovascular diseases., Jpn heart J, 45:183-193, 2004

Leptin deficiency enhances myocardial necrosis and lethality in a murine model of viral myocarditis., Life Sci., 75:1435-1447, 2004

A novel serotonin blocker, sarpogrelate, increases circulating adiponectin levels in diabetic patients with arteriosclerosis obliterans, Diabetes Care., 26: 2477-2478, 2003

Upregulation of cardiac ghrelin mRNA in leptin-deficient and leptin receptor-deficient mice with viral myocarditis, J. Int. Med. Res., 31: 503-508, 2003

■学術賞

公益信託臨床病理学研究振興基金研究奨励賞, 1995

第 31 回成人病研究助成受賞, 1998

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 心筋内アディポネクチンによる心筋再生機構と治療応用

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 心筋内アディポネクチンによる心筋再生機構と治療応用

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), レプチンの新しい心筋保護作用と治療応用

■研究費採択状況(その他の助成金)

2004, 学術研究振興資金, レプチン・シグナル制御による心臓血管治療

2003, 学術研究振興資金, レプチン・シグナル制御による心臓血管治療

医学部／総合内科学(総合診療科)

高橋 孝 准教授

氏名(カナ・英文名)	タカハシ タカシ TAKAHASHI Takashi	生年月	1960.10
所 属	医学部／総合内科学(総合診療科)	職 名	准教授
最終学歴	群馬大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	taka2si@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	膠原病・アレルギー・感染症内科学		

■職歴

1998-2003 東京大学医科学研究所 助手, 金沢医科大学 講師(2003.04)

■所属学会

日本環境感染学会, 日本感染症学会

■研究課題

感染症と脂肪由来生理活性物質との相互関係 (Relationship between infectious diseases and adipocytokines)

■研究の概要

総合診療医学、感染症学、感染制御学、呼吸器病学、臨床微生物学

■著書

大腸菌感染症、クレブシエラ感染症, 改訂第4版疾患別最新処方, メジカルビュー社, 東京, 2005

免疫不全患者, 呼吸器研修医ノート, 診断と治療社, 東京, 2004

■学術論文

A novel serotonin blocker, sarpogrelate, increases circulating adiponectin levels in diabetic patients with arteriosclerosis obliterans., *Diabetes Care*, 2003

Utility of testing of bronchoalveolar lavage fluid for cryptococcal ribosomal DNA., *J. Int. Med. Res.*, 2003

Immunohistochemical study of surgically excised choroidal neovascular membranes., *J. Int. Med. Res.*, 2003

Molecular analysis of human herpesvirus 8 using single nucleotide polymorphisms in open reading frame 26., *J. Clin. Microbiol.*, 2003

Acute disseminated encephalomyelitis following *Plasmodium vivax* malaria., *J. Infect. Chemother.*, 2003

■共同研究希望(研究シーズ)

疲労を予防する食品に関する研究

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), ニューモシスチス・カニの薬剤耐性に関する研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

2006, (財)日本漢方医学研究所研究助成金, 慢性疲労症候群の日内リズム障害に対する漢方薬の有効性に関する基礎的・臨床的解析

医学部／総合内科学(総合診療科)

山川 淳一 助教

氏名(カナ・英文名)	ヤマカワ ジュンイチ YAMAKAWA Junichi	生年月	1964.01
所 属	医学部／総合内科学(総合診療科)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	yamakawa@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	漢方医学		

■所属学会

日本内科学会, 日本東洋医学会, 和漢医薬学会, 日本神経内科学会, 神経治療学会

■研究課題

防已黄耆湯のメタボリックシンドロームに対する効果の解析

動脈硬化症合併糖尿病患者に対する桂枝茯苓丸と塩酸サルボグレラートの併用治療法における臨床効果

■研究の概要

メタボリック症候群の誘因となる肥満症に対して漢方薬の有効性を確認している。特に、肥満の発症を予測する迅速診断マーカーの開発プロセスの確立を研究している。

DNA マイクロアレイにより遺伝子マップを明らかにし、これを臨床応用し肥満の発症を予測するマーカーおよび証の迅速診断マーカーとして臨床応用の可能性を追及する事を目的としている。

■学術論文

A novel serotonin blocker, sarpogrelate, increases circulating adiponectin levels in diabetic patients with arteriosclerosis obliterans, Diabetes Care., 26: 2477-2478, 2003

Effect of the serotonin blocker sarpogrelate on circulating interleukin-18 levels in patients with diabetes and arteriosclerosis obliterans, J. Int. Med. Res., 32:166-169, 2004

Clinical Research Activity Shown by Key Word Listings, J. Kanazawa. Med. Univ., 27: 143-146, 2002

患者さんのメリットを、いつも考えていたい, 漢方医, 26: 281-284, 2002

Activation of the alternative complement pathway by Agaricus blazei murill, Phytomedicine, 9: 536-545, 2002

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 防已黄耆湯のメタボリックシンドロームに対する効果の解析

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 防已黄耆湯のメタボリックシンドロームに対する効果の解析

医学部／総合内科学(総合診療科)

守屋 純二 助教

氏名(カナ・英文名)	モリヤ ジュンジ MORIYA Junji	生年月	—
所 属	医学部／総合内科学(総合診療科)	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	内科学一般(含心身医学)		

■所属学会

日本東洋医学会

■研究費採択状況(その他の助成金)

2006, 日本漢方生薬製剤協会研究助成金, 防已黄耆湯のメタリックシンドロームに対する効果判定と有効成分の解析

医学部／運動機能病態学(リハビリ科)

山口 昌夫 教授

氏名(カナ・英文名)	ヤマグチ マサオ YAMAGUCHI Masao	生年月	1943.04
所 属	医学部／運動機能病態学(リハビリ科)	職 名	教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	ms-yamch@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	リハビリテーション医学		

■所属学会

日本リハビリテーション医学会, 日本整形外科学会, 国際物理医学・リハビリテーション医学協会(International Society of Physical and Rehabilitation), 日本温泉気候物理医学会, 日本義肢装具学会

■研究課題

歩行における筋活動:筋電図学的手法による分析 (Characteristics of Muscular Activities in Gait using EMG)

■研究の概要

歩行中の下肢筋から記録した筋電図の周波数分析を行い、歩行周期における各筋の活動動態を明らかにし、それらの筋における速筋線維と遅筋線維の組成割合を求めて、運動療法に役立てる。

■著書

疾患・病態ごとにみた環境と適応 骨関節疾患に対する環境と適応, 環境と理学療法(内山 靖編), 医歯薬出版, 東京, 2004

リハビリテーション 体幹装具, 今日の整形外科治療指針 第5版(二ノ宮節夫他編), 医学書院, 東京, 2004

■学術論文

歩行速度の違いによる筋活動の差の筋電図学的研究(共著), 理学療法ジャーナル, 1993

健康成人大腿四頭筋のパワースペクトル解析(共著), 理学療法学, 1992

リハビリテーションマニュアル(生涯教育シリーズ 35), 日本医師会, 1994

身体機能の老化と運動訓練-リハビリテーションから健康増進まで-, 日本出版サービス, 1996

短期温泉浴と末梢血液中免疫担当細胞への影響-量的変動-, 日本温泉気候物理医学会誌, 1999

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 人の歩行時における下肢筋の運動単位の発火・漸増制御メカニズムの解明

1998, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 人の歩行時における下肢筋の運動単位の発火・漸増制御メカニズムの解明

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器外科)

佐久間 勉 教授

氏名(カナ・英文名)	サクマ ツトム SAKUMA Tsutomu	生年月	1952.09
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器外科)	職 名	教授
最終学歴	東北大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	sakuma-t@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	呼吸器外科学		

■所属学会

American Thoracic Society, 呼吸器外科学会, 日本呼吸器学会

■研究課題

肺胞水分再吸収機序 (Alveolar fluid clearance)

胸腔鏡手術 (Thoracoscopic Surgery)

■著書

喀痰細胞診, がん検診計画ハンドブック, 南江堂, 東京, 2004

呼吸器外科の画像問題集(改訂版), (佐久間勉), 金沢医科大学出版局, 内灘, 2004

■学術論文

Stimulation of alveolar epithelial fluid clearance in human lungs by exogenous epinephrine, Crit. Care Med., 34:676-681, 2006

Catecholamine clearance from alveolar spaces of rat and human lungs, Respiration, 72:189-196, 2005

Annual periodic increases in serum carcinoembryonic antigen concurrent with ground-glass opacity in the lung: report of a case, Surg Today, 35:883-885, 2005

Uridine 5'-triphosphate stimulates alveolar fluid clearance in the isolated rat lungs, J. Pharmacol. Sci., 95:420-425, 2004

Malnutrition impairs alveolar fluid clearance in rat lungs, Am. J. Physiol., 286:L1268-L1274, 2004

■学術賞

第1回日本外科学会研究奨励賞, 1995

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 肺胞水分蛋白再吸収機序の活性化による肺傷害治療法の開発

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 肺胞水分蛋白再吸収機序の活性化による肺傷害治療法の開発

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 肺切除周術期における肺胞水分再吸収機序の研究

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 肺切除周術期における肺胞水分再吸収機序の研究

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 肺切除周術期における肺胞水分再吸収機序の研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

2005, (社)日本損害保険協会研究助成金, 交通事故誘発肺傷害における肺胞上皮細胞マーカー変動に関する研究

2000, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, 肺癌に対する胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術に関する研究

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器外科)

佐川 元保 教授

氏名(カナ・英文名)	サガワ モトヤス SAGAWA Motoyasu	生年月	1957.12
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器外科)	職 名	教授
最終学歴	東北大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	sagawam@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	胸部外科学		

■職歴

1982-1993 東北大学抗酸菌病研究所 研究員(研究生および医員), 1994-1996 米国国立がん研究所 客員研究員, 1997-2000 東北大学加齢医学研究所 助手, 2000-2001 東北大学医学部附属病院 講師, 2001-2005 金沢医科大学 助教授(2001.04)

■所属学会

日本肺癌学会, 日本呼吸器内視鏡学会, 日本臨床細胞学会, International Association for the Study of Lung Cancer, 日本胸部外科学会

■研究課題

肺癌の診断と治療に関する研究 (Study on diagnosis and therapy of lung cancer)

■研究の概要

呼吸器外科学、肺癌の診断・治療、がん検診、気管支鏡による診断・治療、低侵襲外科治療

■著書

喀痰細胞診による早期肺癌の発見, 肺癌の臨床(加藤治文、西條長宏、福岡正博、他編), 篠原出版社, 東京, 2006

気管支鏡検査のコツ, 肺癌診療二頁の秘訣, 金原出版, 東京, 2004

■学術論文

Two-staged treatment of bronchial carcinoid without pulmonary parenchymal resection, J. Thorac. Cardiovasc. Surg., 131:753-754, 2006

Localized bronchioloalveolar carcinoma with small foci of active fibroblastic proliferation, Respiration, 73:694-697, 2006

臨床病期Ⅱ期およびⅢ期小細胞癌患者の外科治療成績: 討論1, 胸部外科, 59:883-884, 2006

がん検診の精度管理, 臨研・生物統計研究会誌, 26:22-27, 2006

有効性評価に基づく肺がん検診ガイドラインの作成, CT検, 13:225-230, 2006

■学術賞

篠井・河合賞(日本肺癌学会), 2002

北國がん基金, 2003

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 仮想および極細径気管支鏡による肺野微小肺癌・前癌病変の遺伝子診断と発癌過程解析

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 仮想および極細径気管支鏡による肺野微小肺癌・前癌病変の遺伝子診断と発癌過程解析

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 仮想および極細径気管支鏡による肺野微小肺癌・前癌病変の遺伝子診断と発癌過程解析

2001, 科学研究費補助金 萌芽研究, 葉酸拮抗剤 MTX,TNP-351 の血管新生阻害による Tumor Dormancy

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, がん研究助成金, がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究

2005, がん研究助成金, がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究

2004, がん研究助成金, がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究(適切ながん検診の方法および評価法に関する研究)

■研究費採択状況(その他の助成金)

2004, (財)宮城県対がん協会研究助成金, 胸部CT検診で発見される肺野微小肺癌の診断法の確立: 仮想気管支鏡ナビゲーションによる極細径気管支鏡下組織採取法の確立および得られた検体の遺伝子変異分析による発癌過程の解析

2003, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, Multidetector-CT で作成した Virtual Bronchoscopy と極細径気管支鏡および得られた検体の遺伝子解析を用いた肺野微小肺癌の診断法の確立

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器外科)

薄田 勝男 准教授

氏名(カナ・英文名)	ウスダ カツオ USUDA Katsuo	生年月	1959.07
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器外科)	職 名	准教授
最終学歴	福島県立医科大学	学 位	医学博士
電子メール	usuda@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	呼吸器外科学		

■職歴

富山医科薬科大学附属病院 光学医療診療部 助教授(2000.07), いわき市立総合磐城共立病院 呼吸器外科科長(1999.09)

■所属学会

日本呼吸器外科学会

■研究課題

呼吸器外科、胸腔鏡手術、気管支鏡診断および治療、仮想気管支鏡 (Thoracic surgery, Video-assisted thoracoscopic surgery (VATS), Bronchoscopic diagnosis and treatment, Virtual bronchoscopy)

■研究の概要

作成中

■著書

レーザーとステント療法, 呼吸器外科の最新医療, 先端医療技術研究所, 東京, 2004

■学術論文

Laryngeal glomangiomyoma., J Bronchol., 12: 102-103, 2005

The efficacy of sputum cytology in mass screening program for early detection of lung cancer., Anticancer Res., 23: 597-600, 2003

Tumor doubling time and prognostic assessment of patients with primary lung cancer., Cancer, 74: 2239-2244, 1994

Relation between bronchoscopic findings and tumor size of roentgenographically occult bronchogenic squamous cell carcinoma., J Thorac Cardiovasc Surg, 106: 1098-1103, 1993

医学部／呼吸機能治療学(呼吸器外科)

相川 広一 助教

氏名(カナ・英文名)	アイカワ ヒロカズ AIKAWA Hirokazu	生年月	1966.08
所 属	医学部／呼吸機能治療学(呼吸器外科)	職 名	助教
最終学歴	東北大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	h-aikawa@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	胸部外科学		

■職歴

金沢医科大学 呼吸機能治療学(呼吸器外科)助教(2007.04), 金沢医科大学 呼吸機能治療学(呼吸器外科)助手(2006.07), 岩手県立中央病院 呼吸器外科医長(2003.07), 東北大学医学部附属病院 呼吸器外科医師(2001.11), 宮城県立がんセンター 呼吸器科医師(2001.09)

■所属学会

日本外科学会, 日本呼吸器外科学会, 日本呼吸器内視鏡学会, 日本肺癌学会, 日本胸部外科学会

■研究の概要

呼吸器外科学、肺癌の診断・治療、気管支鏡による診断・治療、低侵襲外科手術

■学術論文

Immunohistochemical study on tumor angiogenic factors in non-small cell lung cancer., Anticancer Res., 19:4305-4309, 1999

MDM2 expression is associated with progress of disease and WAF1 expression in resected lung cancer., Int J Mol Med, 5:631-633, 2000

経気道的酸素投与下の気管内局所酸素濃度の検討—気道内の発火事故防止のために—, 気管支学, 26:154-158, 2004

右肺癌に対する胸腔鏡下肺葉切除手技, 胸部外科, 57:519-524, 2004

がん検診の精度管理, 臨研・生物統計研究会誌, 26:22-27, 2006

看護学部／基礎看護学

俵 友恵 教授

氏名(カナ・英文名)	タワラ トモエ TAWARA Tomoe	生年月	—
所 属	看護学部／基礎看護学	職 名	教授
最終学歴	金沢大学大学院医学系研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	—		
専門分野	基礎看護学		

■職歴

金沢医科大学看護学部 専任教員・教授・学部長(2007.04), 福井医療技術短期大学 専任教員・教授(2006.04), 金沢大学医学部保健学科看護学専攻専任教員・教授(1995.10), 金沢大学医療技術短期大学部看護学科 専任教員・教授(1993.04), 石川県看護協会・石川県看護教員養成講習会(厚生省認定) 非常勤講師(1992.06)

■研究課題

基礎看護学、国際看護・異文化看護、PHC、看護管理、看護倫理

看護学部／基礎看護学

坂井 恵子 准教授

氏名(カナ・英文名)	サカイ ケイコ SAKAI Keiko	生年月	—
所 属	看護学部／基礎看護学	職 名	准教授
最終学歴	金沢大学保健学部	学 位	博士(保健学)
電子メール	slope-k@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	基礎看護学		

■職歴

金沢医科大学(2007.4-准教授),石川県立総合看護専門学校(1998.4-2006.12 教務主任),厚生労働省看護研修研究センター幹部教員養成課程受講(1996.4-1997.3),石川県立総合看護専門学校(1984.4-専任教員),石川県立中央病院(1976.4-看護師)(1976.04)

■所属学会

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護学教育学会, 日本うつ病学会, 看護実践学会(石川看護研究会)

■研究課題

看護教員のストレスと熟練、慢性疾患とがんを体験した人への支援。

■研究の概要

看護教員のストレスや熟練過程を解明。慢性疾患やがんを体験した人々の支援。看護教育の方法。

■学術論文

看護教員のストレス要因を測定するストレス尺度の開発, 日本看護研究学会雑誌, 28:25-35, 2005

看護学生の自己教育力と性差との関連, 第 35 回日本看護学会論文集(看護教育), 263-265, 2005

Study regarding the Proficiency of Nursing Teacher and Stressor -Targeting Nursing Teachers at Special Technical Schools-, 金沢大つるま保健会誌, 30(2),113-124, 2007

看護教員のストレス要因を測定するストレス尺度の開発-専修学校の教員を対象として-, 日本看護研究学会雑誌, 28(5),25-35, 2005

低出生体重児の母親の思いと変化のタイプ, 第 35 回日本看護学会論文集(小児看護), 59-61, 2004

看護学部／精神看護学

北岡 和代 教授

氏名(カナ・英文名)	キタオカ カズヨ KITAOKA Kazuyo	生年月	1954.01
所 属	看護学部／精神看護学	職 名	教授
最終学歴	金沢大学法文学部	学 位	—
電子メール	kitaoka@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	精神看護学		

■職歴

石川県立看護大学 准教授(2005.04), 石川県立看護大学大学院 講師(2004.04), 石川県立看護大学 講師(2000.04), 金沢医科大学病院 看護師(1992.12), 日本赤十字社医療センター 看護師(1981.04)

■所属学会

国際看護学会, 日本看護科学学会, 日本産業衛生学会, 日本心理学会, 日本精神障害者リハビリテーション学会

■研究課題

産業領域におけるバーンアウトと企業損失に関する縦断研究 (Longitudinal study of burnout to organizational loss in the occupational domain)

精神科看護者の心身のウェル・ビーイングに関する縦断調査; クリニカルパス導入が及ぼす影響

■研究の概要

主な研究領域は、産業精神保健と精神障がい者リハビリテーションである。働く人々のバーンアウト予防のために、発展的に研究を続けている。特に、バーンアウトを測定するグローバルな尺度である *the Maslach Burnout Inventory (MBI)* の研究用日本版を作成し、日本におけるバーンアウト研究に寄与している。また、精神に障がいを持っている人々のリハビリテーション(全人間的復権)をサポートするための方法論を探究している。

■著書

日本版 Maslach Burnout Inventory-General Survey (MBI-GS), ストレススケールガイドブック(パブリックヘルスリサーチセンター), 実務教育出版, 東京, 2004

臨床看護職者の仕事ストレスサー測定尺度, ストレススケールガイドブック(パブリックヘルスリサーチセンター), 実務教育出版, 東京, 2004

■学術論文

Burnout as a developmental process among Japanese nurses; Investigation of Leiter's model, Japanese Journal of Nursing Science, 2: 9-16, 2005

Construct validity of the Maslach Burnout Inventory-General Survey, Stress and Health, 20: 255-260, 2004

Job strain, coping, and burnout among Japanese nurses, Jpn. J. Health & Human Ecology, 69: 66-79, 2003

Social support and individual styles of coping in the Japanese workplace; An occupational stress model by structural equation analysis, Stress and Health, 19: 37-43, 2003

Burnout and related factors among hospital nurses, J. Occup. Health, 41: 215-224, 1999

■学術賞

日本精神障害者リハビリテーション学会 10 周年記念事業研究表彰, 精神障害者への態度に及ぼす接触体験の効果. 精神障害とリハビリテーション. 5(2):142-147, 2001. 2002.10

看護学部／成人看護学

田村 幸子 教授

氏名(カナ・英文名)	タムラ サチコ TAMURA Sachiko	生年月	—
所 属	看護学部／成人看護学	職 名	教授
最終学歴	金沢大学大学院医学系研究科	学 位	博士(保健学)
電子メール	—		
専門分野	臨床看護学		

■職歴

金沢医科大学看護学部看護学科 教授(2007.04), 日本臓器移植ネットワーク 都道府県臓器移植コーディネーター(併任)(1995.04), 金沢医科大学病院 看護師長(1987.04), 金沢医科大学病院 看護主任(1974.09)

■所属学会

日本腎不全看護学会, 日本移植学会, 日本看護研究学会

■研究の概要

生体臓器移植ドナーのケアモデル開発

■著書

骨関節痛－看護アセスメントとケア, 透析ケア, メディカ出版, 大阪, 2005

医療従事者の移植に対する意識の影響要因, 今日の移植, 日本医学館, 東京, 2001

■学術論文

小児生体肝移植においてドナーとなった母親のその後の影響を軽減するケアの開発, 金沢大つるま保健会誌, 30:59-69, 2007

小児生体肝移植においてドナーとなった母親の経験, 金沢大つるま保健会誌, 30:193-201, 2007

看護学部／成人看護学

平山 恵美子 准教授

氏名(カナ・英文名)	ヒラヤマ エミコ HIRAYAMA Emiko	生年月	1956.07
所 属	看護学部／成人看護学	職 名	准教授
最終学歴	京都大学大学院医学研究科	学 位	社会健康医学修士
電子メール	emiko140@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	看護倫理, 成人看護学		

■職歴

飯田女子短期大学 看護学科 准教授(2004.04), こまつ看護学校 専任教員(1994.05), 金沢聖霊病院 看護師長(1983.06), 名古屋第一赤十字病院(1979.04)

■所属学会

M-GTA研究会, 日本生命倫理学会, 日本看護学教育学会, 日本看護研究学会

■研究課題

日常の看護実践に内在する倫理の様相 (The aspects of ethics which are embedded in daily nursing practice.)

■研究の概要

日常の看護実践に内在する倫理を具体的に浮かび上がらせ, その在り様を明らかにする.

看護学部／成人看護学

内田 真紀 助教

氏名(カナ・英文名)	ウチダ マキ UCHIDA Maki	生年月	—
所 属	看護学部／成人看護学	職 名	助教
最終学歴	金沢大学大学院医学系研究科	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■職歴

石川県立看護大学 助手(2004.04), 金沢訪問看護ステーション・泉野 訪問看護師(2001.06), 金沢大学がん研究所附属病院 看護師(1991.04)

■研究課題

HCV 由来肝硬変・肝がん患者が語る病みの経験 (The Ill Experience though the Story Telling of Patients with HCV-Caused Liver Cirrhosis or Cancer)

■研究の概要

HCV 由来肝がん患者の病みの経験に関する質的研究

看護学部／高齢看護学

天津 榮子 教授

氏名(カナ・英文名)	アマツ エイコ AMATSU Eiko	生年月	—
所 属	看護学部／高齢看護学	職 名	教授
最終学歴	北里大学大学院看護学研究科	学 位	看護学修士
電子メール	eiko1127@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	高齢看護学		

■研究課題

高齢者看護の質向上に関する研究

■研究の概要

認知症高齢者の日常生活行動とコミュニケーションに関するケアの検証、及び、地域を基盤にした高齢者の認知症予防活動の有効性の検証。
F. Nightingale の看護の原理が現代の看護にどのように関連しているかについて、看護現象における看護師の認識と表現を課題に研究。

看護学部／母性看護学

塚田 トキエ 教授

氏名(カナ・英文名)	ツカダ トキエ TSUKADA Tokie	生年月	—
所 属	看護学部／母性看護学	職 名	教授
最終学歴	東洋大学文学部教育学科入学文学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	母性看護学		

■職歴

聖隷クリストファー大学看護短期大学部 学部長 (2005.04), 聖隷学園浜松衛生短期大学 学長 (2003.04), 放送大学学園 非常勤講師 (2000.04), 富山医科薬科大学大学院医学系研究科 教授 (1997.04)

■所属学会

日本思春期学会, 日本母性衛生学会

■研究課題

「分娩第 1 期の看護」CAI 教材の開発と評価 (CAI development and evaluation of 'Nursing of first stage of labor)

母性看護学

■研究の概要

母子関係
「分娩第 1 期の看護」CAI 教材の開発と評価

■学術論文

CAI 教材「沐浴できるかな？」の開発とその教育効果, 聖隷クリストファー大学看護短期大学部紀要, 27・15-23, 2005

母乳育児への支援～分娩後退院までの初産婦への助産師による授乳援助を中心に～, 聖隷クリストファー大学看護短期大学部紀要, 27・25-32, 2005

母性看護実習における母性意識の変化, 富山医科薬科大学看護学会誌, 第 4 巻 1 号・41-51, 2001

Susceptibility to acyclovir of herpes simplex virus isolates obtained between 1977 and 1996 in japan, 63・57-63, 2001

産褥婦の分娩後の喪失と対処に関する質的研究, 日本母性衛生, 41(1)53-64, 2000

看護学部／母性看護学

笹野 京子 准教授

氏名(カナ・英文名)	ササノ キョウコ SASANO Kyoko	生年月	—
所 属	看護学部／母性看護学	職 名	准教授
最終学歴	富山医科薬科大学大学院医学系研究科	学 位	修士(看護学)
電子メール	ksasano@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	母性看護学		

■所属学会

日本看護科学学会，日本助産学会会員，日本母性衛生学会，日本母性看護学，日本更年期医学会

■研究課題

高校生の社会的スキルおよび自尊感情の状況と思いやり行動の関連

母親が児の泣き方を判別する能力獲得に関する要因の検討

■研究の概要

3 か月児をもつ母親の愛着と哺乳形態とに関連する要因

母性看護学実習における母性意識の変化

■学術論文

3 か月児をもつ母親の愛着と哺乳形態とに関連する要因，富山医科薬科大学看護学会誌，6(1):111-120, 2005

日本訪問看護振興財団方式(JAC-LTC 方式)を用いて検討すべき問題・ニーズ領域として選定されながら介護支援専門員がケアプランを作成しない理由の検討，日本看護学会誌(0917-513X)，14 巻:22-31, 2005

看護学生における妊婦体験学習効果，新潟県立看護短期大学紀要，10:1-8, 2004

高校生の社会的スキル及び自尊感情の状況と思いやり行動の関連 課程別(看護科,普通科)比較，富山医科薬科大学看護学会誌(1344-1434)，5:61-72(, 2003

高校生の社会的スキルおよび自尊感情の状況と思いやり行動の関連，富山医科薬科大学看護学会誌，5(1):61-72, 2003

看護学部／地域看護学

福間 和美 教授

氏名(カナ・英文名)	フクマ カズミ FUKUMA Kazumi	生年月	—
所 属	看護学部／地域看護学	職 名	教授
最終学歴	大阪教育大学大学院教育研究科教育研究科	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	地域看護学		

■職歴

県立長崎シーボルト大学大学院 教授(2001.04), 京都府立医科大学医療技術短期大学部専攻科保健学専攻 助教授(1996.04)

■所属学会

日本公衆衛生学会, 日本地域看護学会, 日本看護科学学会, 日本健康教育学会

■研究課題

住民の生活像とサクセスフルエイジングの要因 (Present Life Style and Factors for Saccesful aging)

■研究の概要

中高年の老後に向けての準備行動について、数か所の地域調査を行い関連要因を分析した。その結果、老後の向けての準備行動は「家族関係」や「友人・地域社会」「経済」「健康」が大きく関与していることが明らかとなった。近年は WHO SUBI 質問紙による主観的幸福観についても調査分析をしている。

■著書

公衆衛生看護, 地域看護学, 中央法規出版, 東京, 2004

高齢者虐待の啓発活動の取り組みから, 高齢者虐待, 北大路書房, 京都, 2002

■学術論文

雲仙・普賢噴火災害地域におけるコミュニティの再編成過程, 田園調布学園大学 人間福祉研究, Vol. 7 21-43, 2004, 2005

民家型グループホームにおける痴呆高齢者の客観的評価, 県立長崎シーボルト大学「協同教育研究費」に係る研究報告, 平成15年度, 2004

都市部住民の生活像とサクセスフルエイジングの条件, 京都府立医科大学看護学科紀要 第12巻第2号, Vol.12 N2 121-129, 2003

中高年におけるサクセスフルエイジングに向けての準備行動とその要因に関する研究, 県立長崎シーボルト大学 看護栄養学部紀要, 3・67-83, 2003

看護学部／地域看護学

浜崎 優子 助教

氏名(カナ・英文名)	ハマザキ ユウコ HAMAZAKI Yuko	生年月	—
所 属	看護学部／地域看護学	職 名	助教
最終学歴	金沢大学大学院医学系研究科	学 位	保健学修士
電子メール	hamayu@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	地域・老年看護学		

■職歴

金沢医科大学看護学部 助教(2007.04), 金沢市役所 保健師・主査(1980.04), 金沢大学大学院保健学科 非常勤講師(2006.10)

■所属学会

日本公衆衛生学会, 日本地域看護学会, 日本難病看護学会, 北陸公衆衛生学会

■研究課題

自立高齢者の心身機能と社会活動との関連性 (Factors associated with physical/mental function and social activities of independent elderly people)

■研究の概要

地域の高齢者及び難病患者に関する研究を行っている。

- ①高齢者の社会活動促進要因に関する研究
- ②在宅難病患者の主観的幸福感に関する研究

■著書

福祉マップ, 福祉マップ 第5版, 能登印刷出版部, 石川県, 1996

■学術論文

地方中核都市における高齢者の社会活動と幸福感に関する研究(第1報)－自立高齢者の社会活動の実態－, 北陸公衛誌, 33(2):80-85, 2007

地方中核都市における高齢者の社会活動と幸福感に関する研究(第2報)－後期高齢者の主観的幸福感の関連要因－, 北陸公衛誌, 33(2):86-91, 2007

高齢者の虐待予防活動の展開－在宅介護支援センターの取り組み－, 第27回全国地域学術研究会報告集, 198-199, 2005

ポータージ乳幼児療育プログラムを用いた早期療育指導について, 小児保健研究, 48(2)・194-195, 1988

■その他の業績

財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究助成金取得

金沢医科大学奨励研究費取得

看護学部／在宅看護学

前田 修子 講師

氏名(カナ・英文名)	マエダ シュウコ MAEDA Shuko	生年月	1973.04
所 属	看護学部／在宅看護学	職 名	講師
最終学歴	杏林大学大学院保健学研究科保健学研究科	学 位	—
電子メール	mshuko@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	地域・老年看護学		

■職歴

石川県立看護大学 在宅看護学 助手(2001.04), 能登北部保健福祉センター(柳田村役場派遣) 保健師(2000.04), 石川県立中央病院 看護師(1998.04)

■所属学会

日本環境感染学会, 日本地域看護学会, 日本在宅ケア学会, 日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会

■研究課題

「訪問看護師を対象とした感染管理教育プログラム」の実証と再構築に関する研究 (Practice and restructuring of the infection control education program for home visiting nurses)

訪問看護従事者に対する感染管理教育プログラムの実施とその効果検証 —【手洗い・うがい】に焦点をあてて— (Verification of the education program for home-visiting nurses— focus on “handwashing and gargling” —)

■研究の概要

研究テーマは、在宅における感染管理に関する研究である。在宅における訪問看護師の感染管理実態調査から、訪問看護師を対象とした感染管理マニュアルの作成、訪問看護師を対象とした感染管理教育プログラムの開発を行ってきた。最近では、これらマニュアルの評価や、教育プログラムの実践を通じた評価を行っている。また、在宅の感染管理には欠かせない医療・衛生材料の供給システムに関する研究も進めている。

■学術論文

訪問看護師が評価した「在宅における感染管理に関するマニュアル」—現場の声をカテゴリ化して分析し効果を検証, コミュニティケア, 9(3):66—71, 2007

「在宅における感染管理に関するマニュアル」の内容に関する評価—訪問看護師を対象とした調査より—, 日在宅ケア会誌, 10(2):91—98, 2007

訪問看護従事者の感染管理に関する学習の現状と要望—学習機会、所属機関、訪問看護経験年数による比較—, 環境感染, 22(1):41—45, 2007

在宅療養者への医療・衛生材料供給に向けての課題, 癌と化学療法, 33:273—275, 2006

在宅療養者への医療・衛生材料供給に向けての課題—在宅医療に携わる医師・看護師の職種と所属機関の分析から—, 日本看護研究学会誌, 29(5):109—114, 2006

■学術賞

医局奨励賞, 日常生活動作の自立度における患者、看護婦間の認識の相違について—脳疾患患者に焦点を当てて—2000.07

看護学部／人間科学領域

石橋 隆治 教授

氏名(カナ・英文名)	イシバシ タカハル ISHIBASHI Takaharu	生年月	1956.03
所 属	看護学部／人間科学領域	職 名	教授
最終学歴	旭川医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	ishitaka@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	pharmacology in General, 生物系薬学		

■職歴

金沢医科大学 助教授(1998.01), 1986-1998 新潟大学医学部 助手(1986.10), 1986 旭川医科大学 助手(1986.04)

■所属学会

日本薬理学会, 日本循環器学会, 国際心臓研究学会, 日本脈管作動物質学会, 日本循環薬理学会

■研究課題

NO および NO 関連血管拡張薬の作用機序 (Vasorelaxant mechanism of nitric oxide and related vasodilators)

NO および NO 関連物質の体内動態 (Kinetics of NO and NO - related compounds)

■研究の概要

生体内 NO 動態の解明。血管内皮機能の指標を探索する。この知見に基づいて、NO-放出型血管拡張薬の動静脈選択性の違いなどの機序の解明につなげた。

■著書

第 15 章 心臓血管系:心臓, トートラ「人体解剖生理学」(原著第6版)(佐伯由香・黒澤美枝子・細谷安彦・高橋研一ら編訳), 丸善, 東京, 2004

第 20 章 心臓血管系:心臓, トートラ「人体の構造と機能」(原著第 10 版)(大野忠雄・黒澤美枝子・高橋研一ら編訳), 丸善, 東京, 2004

■学術論文

New methods to evaluate endothelial function: A search for a marker of nitric oxide (NO) in vivo: Re-evaluation of NOx in plasma and red blood cells and a trial to detect nitrosothiols, J. Pharmacol. Sci., 93: 409-416, 2003

Interference with Saville's method in determination of low-molecular weight S-nitrosothiols by ultrafiltration, Nitric Oxide, 9: 148-152, 2003

Decrease in plasma NOx concentration by isosorbide dinitrate, an organic nitrate ester, J. Cardiovasc. Pharmacol., 41: 40-48, 2003

Respiratory alkalosis does not alter NOx concentrations in human plasma and erythrocytes, Am. J. Physiol. Heart Circ. Physiol., 281: H2757-H2761, 2001

Negative NO₃⁻ difference in human coronary circulation with severe atherosclerotic stenosis, Life Sci., 66:173-184, 2000

看護学部／人間科学領域

岡田 正人 教授

氏名(カナ・英文名)	オカダ マサト OKADA Masato	生年月	1950.11
所 属	看護学部／人間科学領域	職 名	教授
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	博士(医学)
電子メール	—		
専門分野	整形外科科学		

■職歴

金沢医科大学看護学部看護学科専門基礎 教授(2007.04), 金沢医科大学 助教授(2001.05), 金沢医科大学 講師(1988.04), 金沢医科大学 助手(1980.04)

■所属学会

日本整形外科学会, 中部日本整形外科・災害外科学会, 日本骨折治療学会, 日本末梢神経学会

■研究課題

踵骨骨折、絞扼性末梢神経障害の外科的治療 (Surgical treatment of the calcaneal fracture and entrapment neuropathy)

■研究の概要

Tongue-type Sanders 2, 3 の関節面が転位した踵骨骨折に対して経皮的骨接合術を行った。14 例の成績は excellent 8 例、good 6 例で全例良好な結果が得られた。本術式は tongue-type Sanders 2, 3 の関節面が転位した踵骨骨折に適応がある。
8 例の Neer type II 鎖骨遠位端骨折に対して Telos 人工靱帯を用いて手術治療を行った。全例平均 3 カ月で骨癒合が得られた。本骨折に Telos 人工靱帯を用いた手術手技は有用である。

■学術論文

手根管症候群に対する鏡視下手根管開放術の治療成績, 別冊整形外科, 49:195-200, 2006

Clinical study of surgical treatment of carpal tunnel syndrome: Open versus endoscopic technique, J.Orthop.Surg., 8:19-25, 2000

A Long-term follow-up study for slipped capital femoral epiphysis: Investigation of bilaterality and risk factor of osteoarthritis, J.Neurol.Orthop.Med.Surg., 20:47-51, 2000

踵骨骨折に対する経皮的骨接合術の術後成績, 骨折, 26:719-723, 2004

人工靱帯を用いた円錐靱帯再建術による Neer type II 鎖骨遠位端骨折の治療成績, 整・災外, 47:779-784, 2004

看護学部／人間科学領域

柿沼 宏明 教授

氏名(カナ・英文名)	カキヌマ ヒロアキ KAKIMUMA Hiroaki	生年月	—
所 属	看護学部／人間科学領域	職 名	教授
最終学歴	千葉大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	p-kaki@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	小児科学		

■所属学会

日本小児神経学会

■研究課題

小児神経学, 小児代謝性疾患

■学術論文

Valproate hepatotoxicity in a 5-year-old boy with cerebral palsy due to neonatal asphyxia, *Pediatr. Int.*, 48:631-633, 2006

Schinzel-Giedion 症候群の女兒一責任遺伝子についての考察一, *小児臨*, 59:2063-2066, 2006

遺伝子学的検査の目的と遺伝カウンセリングの役割, *金医大誌*, 31:119-123, 2006

金沢医科大学病院・遺伝外来における「ダウン症の赤ちゃん体操教室」, *小児保健いしかわ*, 18:26-30, 2006

Three novel and six common mutation in 11 patients with methylmalonic acidemia, *Pediatr. Int.*, 48:1-4, 2006

■研究費採択状況(その他の助成金)

1995, 森永奉仕会研究助成金, 低出生体重児における白血球脂肪酸酸化能に関する研究

看護学部／人間科学領域

甲野 裕之 教授

氏名(カナ・英文名)	コウノ ヒロユキ KOHNO Hiroyuki	生年月	1957.12
所 属	看護学部／人間科学領域	職 名	教授
最終学歴	北海道大学薬学部	学 位	医学博士
電子メール	h-kohno@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	実験病理学		

■職歴

1982-1989 資生堂基礎科学研究所 研究員, 1989-1995 金沢医科大学 助手, 1995-2004 金沢医科大学 講師, 2004- 金沢医科大学 学 助教授

■所属学会

日本癌学会, 日本免疫学会, 日本病理学会, 日本細菌学会, 日本薬学会

■研究課題

がんの化学予防 (Cancer chemoprevention)

■著書

The modifying effects of hesperidin glycoside on chemically-induced tongue and colon carcinogenesis in F344 rats, Carcinogenesis and Modification of Carcinogenesis (Takuji Tanaka, Hiroyuki Tsuda), Research Signpost, Kerala (India), 2005

The prevention effects of β -cryptoxanthin and hesperidin rich powder prepared from Citrus unshiu Marc. juice on chemically induced tongue and colon carcinogenesis in rats, Carcinogenesis and Modification of Carcinogenesis (Takuji Tanaka, Hiroyuki Tsuda), Research Signpost, Kerala (India), 2005

■学術論文

Dietary administration with prenyloxycompounds, auraptene and collinin, inhibits colitis-related colon carcinogenesis in mice, Int. J. Cancer., 118:2936-2942, 2006

An animal model for the rapid induction of tongue neoplasms in human c-Ha-ras proto-oncogene transgenic rats by 4-nitroquinoline 1-oxide: its potential use for preclinical chemoprevention studies, Carcinogenesis, 27:619-630, 2006

Strain differences in susceptibility to azoxymethane and dextran sodium sulfate-induced colon carcinogenesis in mice, Carcinogenesis, 27:162-169, 2006

β -Catenin-accumulated crypts in the colonic mucosa of juvenile Apc^{Min/+} mice, Cancer Lett., 239:123-128, 2006

Lack of enhancing effects of degraded λ -carrageenan on the development of β -catenin-accumulated crypts in male DBA/2J mice initiated with azoxymethane, Cancer Lett., 238:69-75, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1994, 科学研究費補助金 奨励研究(A), がん転移形成におけるムコ多糖糖鎖の役割

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, がん研究助成金, ヒがんに発生に係わる環境要因及び感受性要因に関する研究

2005, がん研究助成金, ヒがんに発生に係わる環境要因及び感受性要因に関する研究

2004, がん研究助成金, ヒがんに発生に係わる環境要因及び感受性要因に関する研究

■研究費採択状況(その他の助成金)

1992, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, がんと摂取脂肪酸種の関連性とその解析

看護学部／人間科学領域

森河 裕子 教授

氏名(カナ・英文名)	モリカワ ユウコ MORIKAWA Yuko	生年月	—
所 属	看護学部／人間科学領域	職 名	教授
最終学歴	富山医科薬科大学医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	ymjr@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	公衆衛生学・健康科学		

■所属学会

日本産業衛生学会, 日本衛生学会, 北陸公衆衛生学会, 日本循環器管理研究協議会・日本循環器予防学会

■研究課題

循環器疾患の疫学, 産業保健学, 健康保健学

■研究の概要

主として労働者の労働態様の健康影響の疫学的研究である。(1) 追跡研究によって夜勤交代勤務や長時間労働などの作業態様が高血圧、糖尿病の発症や糖・脂質代謝異常のリスクになることを示してきた。(2) 長期に渡る追跡研究によって心筋梗塞や脳血管疾患などの発生との関連も研究中である。(3) 労働者の心理社会的要因と精神的健康度や自然免疫能への影響を明らかにした。

■著書

社会組織とストレスと健康, 21世紀の健康づくり10の提言 社会環境と健康問題 (M. Marmot, R. G. Wilkinson 編, 西 三郎, 鏡森定信監訳), 日本医療企画, 東京, 2002

Urinary copper and mortality among inhabitants living in a cadmium polluted area in Japan, Trace Elements in Man and Animals(A.M.Roussel, et al.), Kluwer Academic/Plenum Publishers, New York, 2000

■学術論文

Effect of shift work on body mass index and metabolic parameters, Scand. J. Work Environ. Health, 33: 45-50, 2007

夜勤・交代勤務の耐糖能に及ぼす影響—血糖日内変動とインスリン感受性の検討—課題研究番号 16590520 研究代表者森河裕子, 平成 16 年～平成 17 年度科学研究補助金基盤研究(C)研究成果報告書, 1-20, 2006

G-protein β 3 subunit variant C825T is a risk factor for hypertension in Japanese females—a prospective cohort study over 5 years, Ann. Hum. Genet., 70:767-777, 2006

血圧低下のための個別健康支援プログラムの効果に関する非無作為化比較試験—石川県小松市における国保ヘルスアップモデル事業—, 日公衛誌, 53:533-542, 2006

Causes of death and renal tubular dysfunction in residents exposed to cadmium in the environment, Occup Environ Med, 63:545-550, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 夜勤・交代勤務の耐糖能に及ぼす影響—血糖日内変動とインスリン感受性の検討

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 夜勤・交代勤務の耐糖能に及ぼす影響—血糖日内変動とインスリン感受性の検討

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 夜勤ストレスの自然免疫能への影響

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 夜勤ストレスの自然免疫能への影響

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 交代勤務の循環器機能への影響—正常血圧者と高血圧者の比較

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

1994, 作業関連疾患総合対策研究, 各種作業態様の糖尿病の発症に及ぼす影響

1993, 作業関連疾患総合対策研究, 各種作業態様の糖尿病の発症に及ぼす影響

1992, 作業関連疾患総合対策研究, 各種作業態様の糖尿病の発症に及ぼす影響

看護学部／人間科学領域

本多 隆文 准教授

氏名(カナ・英文名)	ホンダ リュウモン HONDA Ryumon	生年月	1950.10
所 属	看護学部／人間科学領域	職 名	准教授
最終学歴	金沢大学大学院理学研究科	学 位	理学修士，医学博士
電子メール	ryumon@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	環境中毒学		

■所属学会

日本衛生学会，日本公衆衛生学会，日本産業衛生学会，日本微量元素学会，日本分析化学会

■研究課題

カドミウムによる健康障害の疫学 (Epidemiology of Cadmium-induced Health Effects)

鉛による健康障害の疫学 (Epidemiology of Lead-induced Health Effects)

■研究の概要

イタイタイ病は比較的高レベルの環境 Cd 暴露による慢性中毒の最も重篤な病態で腎障害と多発性の骨折を特徴とする。比較的低レベル暴露による骨への影響についてはその機序も含めて未だ議論の余地がある。近年、石川県の非汚染地都市部一般女性について調査したところ、加齢を調整しても尿中 Cd 濃度でみたCd暴露と骨量の減少が関連することが観察された。

■著書

Worldwide trends of dioxin levels in human breast milk with comparison between Toyama prefecture in Japan and other areas, Water and soil environments (K. Tazaki), Kanazawa University, Kanazawa, 2003

■学術論文

環境カドミウム汚染住民における骨障害とその性差の発現機序，金沢医大誌，1991

食酒による血圧上昇と赤血球 Na⁺/K⁺-ATPase 活性、および赤血球 Na、K 濃度，臨床病理，1993

生化学的マーカーからみたカドミウム汚染地住民の骨代謝，環境保健レポート，1999

慢性環境 Cd 曝露に伴う骨中ミネラルの変動，環境保健レポート，1999

環境カドミウム汚染地女性における尿中デオキシピリジノリン排泄，環境保健レポート，1999

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C)，ゴム手袋使用作業者におけるラテックス特異 IgE 抗体保有率と身体所見との関連

1991, 科学研究費補助金 一般研究(C)，環境Cd暴露における人臓器中Se、Zn、Cu、Ca、Mg、C、間の相互影響評価

1990, 科学研究費補助金 一般研究(C)，環境cd暴露における人臓器中SeZnCuCa

1979, 科学研究費補助金 奨励研究(A)，暴露示標としての甲状腺中カドミウム濃度の意義

■研究費採択状況(その他の助成金)

1998, (財)骨粗鬆症財団研究助成金，骨粗鬆症検診のための簡易栄養調査票の確立

看護学部／人間科学領域

小島 正美 准教授

氏名(カナ・英文名)	コジマ マサミ KOJIMA Masami	生年月	—
所 属	看護学部／人間科学領域	職 名	准教授
最終学歴	神戸学院大学栄養学部	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	眼科学		

■職歴

金沢医科大学 医学部専修生(1982.04), 金沢医科大学 医学部助手(1985.04), アレキサンダーフォン フンボルト財団留学生(ボン大学)(1988.10), 金沢医科大学 医学部講師(1995), 金沢医科大学 准教授(2007.04)

■所属学会

日本眼科学会, 国際眼研究学会, 日本白内障学会, 日本眼薬理学会, 日本 ME 学会

■研究課題

白内障発生機序の研究 (Study of Cataractogenesis mechanisms)

環境温度および非電離線曝露による眼内温度と眼傷害の関係 (Relation of the intraocular temperature during infrared exposure and environmental temperature)

■研究の概要

紫外線、可視光、赤外線、マイクロ波、ミリ波などの非電離線曝露による眼傷害の発生の有無、電磁波曝露による眼傷害の経過と眼傷害発症閾値検索について、動物実験を中心に行っている。これとは別に、気象等の環境条件の異なる世界各地において、疫学的眼科学検診を行い、眼傷害と環境因子の関連についての研究を白内障発症および水晶体混濁促進因子解明を中心に研究を行っている。

■著書

Environmental temperature and cataract progression in experimental rat cataract models, Dev. Ophthalmol. (O.Hockwin et al.), Karger, Basel, 2002

老年病各論 眼疾患 紫外線—B, 長寿科学事典(祖父江逸郎 監), 医学書院, 東京, 2003

■学術論文

Influence of anesthesia on ocular effects and temperature in rabbit eyes exposed to microwaves, Bioelectromagnetics, 25:228–233, 2004

Low Vitamin E level as a subliminal risk factor in a rat model of prednisolone-Induced cataract, Invest. Ophthalmol. Vis. Sci., 43: 1116–1120, 2002

Ultraviolet exposure as a risk factor of cataract formation, Environmental Sciences, 7:269–280, 2000

Enzymatic distribution patterns of rat lenses and the changes that occur during Naphthalene cataract development, Ophthalmic Research, 1992

A study on the image analyzing methods for experimental animal cataract, 1990

■学術賞

日本白内障学会学術奨励賞, 1992

国際前眼部画像解析学会(Scheimpflug Club Meeting)賞, 1993

■その他の業績

Cataract epidemiological study in West Sumatra

Reykjavik(Iceland)cataract epidemiological survey

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 環境温度および非電離線曝露による眼内温度と眼傷害の関係

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 環境温度および非電離線曝露による眼内温度と眼傷害の関係

1997, 科学研究費補助金 基盤研究(C), マネキンに装着した微小紫外線センサーによる水晶体の局所被曝量の定量

1996, 科学研究費補助金 基盤研究(C), マネキンに装着した微小紫外線センサーによる水晶体の局所被曝量の定量

1991, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 水晶体層間解析法による水晶体中生化学物質の分布研究

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2004, (財)テレコム先端技術研究支援センター委託事業(総務省), マイクロ波曝露における眼内温度測定およびデータ解析支援

大学病院／内視鏡センター

白枝 久和 助教

氏名(カナ・英文名)	シロエダ ヒサカズ SHIROEDA Hisakazu	生年月	—
所 属	大学病院／内視鏡センター	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	—
電子メール	shiroeda@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■学術論文

Study of mitochondrial DNA deletion in alcoholics, Alcohol. Clin. Exp. Res., 24(Suppl.4):12S-15S, 2000

大学病院／内視鏡科

伊藤 透 准教授

氏名(カナ・英文名)	イトウ トオル ITOU Tohru	生年月	1955.07
所 属	大学病院／内視鏡科	職 名	准教授
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	博士(医学)
電子メール	itotohru@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	消化器内科学・消化器内視鏡学		

■所属学会

日本消化器内視鏡学会, 日本消化器病学会, 日本外科学会, 日本癌学会, 日本癌治療学会

■研究課題

消化器一般, 内視鏡診断・治療

■研究の概要

早期胃癌の 500 μ m 以深の粘膜下層(以下sm)浸潤では、リンパ節転移は 18%前後で、80%は転移がないのである。少なくとも転移が推定できれば、治療方針に大きく寄与できる可能性があると思われる。sm浸潤癌の術前生検、手術標本を用いて核酸解析技術を用いて波形解析、また同様の標本で各癌遺伝子(テロメラーゼ、c-erb2 など)の発現状況を確認しリンパ節転移の状態とさらに波形解析との相関をみる実験を行っている。

■著書

抗コリン剤を前立腺肥大のある男性に投与した、上部内視鏡検査例に下部内視鏡のための寛腸が行われた、消化器内視鏡のトラブル防止マニュアル, 日本メディカルセンター, 東京, 2004

33.マーキング紙を用いる粘膜切除術, 消化器内視鏡 New Procedure:消化管(中山桓夫, 他編), メジカルビュー社, 東京, 2000

■学術論文

内視鏡室の紹介, 日消内視鏡会誌, 47:2218-2221, 2005

Selective binding of sucralfate to endoscopic mucosal resection-induced gastric ulcer: evaluation of aluminum adherence., J. Int. Med. Res., 32:520-529, 2004

Herpes simplex esophagitis from 1307 autopsy cases, J. Gastroenterol. Hepatol., 18: 1407-1411, 2003

The effect of the herbal medicine dai-kenchu-to on post-operative ileus, J. Int. Med. Res., 30: 428-432, 2002

Three-point fixation of stomach to abdominal wall in the percutaneous endoscopic gastrostomy procedure, Endoscopy., 37:494, 2005

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), グレリンおよびテロメラーゼ活性による新しい早期胃癌の診断、治療法の開発

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), グレリンおよびテロメラーゼ活性による新しい早期胃癌の診断、治療法の開発

大学病院／内視鏡科

川浦 健 助教

氏名(カナ・英文名)	カワウラ ケン KAWAURA Ken	生年月	—
所 属	大学病院／内視鏡科	職 名	助教
最終学歴	—	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

■研究の概要

大腸粘膜下層浸潤癌における、リンパ節転移の危険因子の検討

■学術論文

慢性胃炎症例における *Helicobacter pylori* 除菌前後の血小板数および動脈硬化関連因子の検討, 金医大誌, 31:17-22, 2006

大学病院／健康管理センター

松田 芳郎 教授

氏名(カナ・英文名)	マツダ ヨシロウ MATSUDA Yoshiro	生年月	—
所 属	大学病院／健康管理センター	職 名	教授
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	yoshiro@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	消化器病学、肝臓学		

■研究課題

消化器病学, 肝臓病学

■研究の概要

アルコール性肝障害の発生機序について広い範囲より研究を進めている。この発生機序としてアルコール脱水酵素(ADH)を介さない非 ADH 系産生性アセトアルデヒド^{*}(AcCHO)が重要であることを示している。非 ADH 系を介して産生された Ac-CHO は ADH 系産生性のそれよりも明らかに代謝が遅く、長期の飲酒に伴って代謝の遅い Ac-CHO の産生が増加し肝内の Ac-CHO も増加する。このため、肝微小管の重合は阻害され Golgi 装置の機能が阻害されることになる。

■学術論文

病院マネジメントシステムにおける「意志決定と問題解決のプロセス」に関する論考, 金医大誌, 30:479-486, 2005

医療経済の角度からみたクリティカルパス, 医療とコンピュータ, 12: 8-12, 2001

医療情報公開時代——電子カルテで何が変わるか——, 月刊ナーシング, 20:27-31, 2000

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2001, 科学研究費補助金 萌芽研究, 電子カルテ医療情報を活用する新しい病院経営分析法の研究

2000, 科学研究費補助金 萌芽研究, 電子カルテ医療情報を活用する新しい病院経営分析法の研究

1986, 科学研究費補助金 一般研究(B), アルコール性肝障害におけるマイクロゾーム産生性アセトアルデヒドの病因的意義

1985, 科学研究費補助金 一般研究(B), アルコール性肝障害におけるマイクロゾーム産生性アセトアルデの病因的意義

1984, 科学研究費補助金 一般研究(B), アルコール性肝障害におけるマイクロゾーム産生性アセトアルデヒドの病因的意義

大学病院／健康管理センター

中西 由美子 講師

氏名(カナ・英文名)	ナカニシ ユミコ NAKANISHI Yumiko	生年月	—
所 属	大学病院／健康管理センター	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	nakanisy@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	健康保健学		

■研究課題

健康保健学

■学術論文

夜勤・交代勤務の耐糖能に及ぼす影響－血糖日内変動とインスリン感受性の検討－課題研究番号 16590520 研究代表者森河裕子，平成 16 年～平成 17 年度 科学研究補助金基盤研究(C)研究成果報告書，1-20，2006

血圧低下のための個別健康支援プログラムの効果に関する非無作為化比較試験－石川県小松市における国保ヘルスアップモデル事業－，日公衛誌，53:533-542，2006

小学生高学年の喫煙に対する意識と喫煙防止教室の効果，北陸公衛会誌，32:73-78，2006

虚血性心疾患および脳血管疾患の社会経済的格差に関する疫学研究成果，金医大誌，30:432-437，2005

石川県における先天異常の発生状況(分担研究:先天異常のモニタリングに関する研究)，厚生労働科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)先天異常モニタリング・サーベイランスに関する研究 平成 16 年度 研究報告書，16-26，2005

大学病院／健康管理センター

早瀬 満 講師

氏名(カナ・英文名)	ハヤセ ミツル HAYASE Mitsuru	生年月	—
所 属	大学病院／健康管理センター	職 名	講師
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	hayase@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	臨床細菌学, 臨床免疫学		

■所属学会

日本臨床病理学会, 日本感染症学会, 日本内科学会, 日本胸部疾患学会, 日本環境感染学会

■研究課題

院内感染(MRSA) (Hospital acquired infection (MRSA))

自己免疫性心筋炎 (auto-immunity myocarditis)

■著書

ライター株蛋白質補体結合試験・他, 医学大辞典 (伊藤正男, 他編), 医学書院, 東京, 2003

■学術論文

非チフス性サルモネラ属菌による腸管外感染症の臨床的細菌学的検討, 臨床病理, 1989

ブラハメラ, 化学療法領域, 1985

臨床分離株の β -lactamase 産生と Sulbactam-Ampicillin の呼吸器感染症に対する臨床効果の検討, CHEMOTHERAPY, 1988

著明なる末梢気道障害をきたしたマイコプラズマ肺炎の 1 例, 日本胸部臨床, 1988

Actinobacillus による感染性心内膜炎の 1 例, 臨床と微生物, 1988

大学病院／健康管理センター

釘抜 康明 学内講師

氏名(カナ・英文名)	クギヌキ ヤスアキ KUGINUKI Yasuaki	生年月	—
所 属	大学病院／健康管理センター	職 名	学内講師
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	放射線診断学		

■職歴

金沢医科大学 学内講師(1996.10)

■所属学会

日本医学放射線学会

■研究課題

ラセン型 CT の画像評価 (Evaluation of helical CT)

■研究の概要

マルチスライスCT画像を使って、通常の大動脈動脈瘤で血流を数値的にシミュレーションすること。我々の予備研究は、マルチスライスCT画像を使って数学的シミュレーションが大動脈で血行力学的血流の評価のに有用であることを示唆している。

■著書

Evaluation of pharyngolaryngeal region with 3-D computed tomography, Current Topics on Tonsils and Mucosal Barriers of Upper Airways (N.Yamanaka, et al. edt), Elsevier B.V., Amsterdam, 2003

■学術論文

小児横紋筋肉腫の MRI, 日本小児放射線学会誌, 1993

小児線維腫症の比例 MRI2 症例, 日本核磁気共鳴画像学会誌, 1993

MRI in the Evaluation of children with Rhabdomyosarioma, Journal of Japanese Society of Red atric Radiology, 1993

MRI of Infantile fibromatosis two cases, 1993

Coronary Arteries : Three-Dimensional MR Imaging with Retrospective Respiratory Gating "Jointly authored", Radiology, 1996

■研究費採択状況(その他の助成金)

1993, (財)橘勝会試験研究助成, CT 画像における胃癌浸潤及び深達度の術前画像診断

大学病院／健康管理センター

日下 一也 助教

氏名(カナ・英文名)	クサカ カズヤ KUSAKA Kazuya	生年月	1968.03
所 属	大学病院／健康管理センター	職 名	助教
最終学歴	秋田大学医学部	学 位	—
電子メール	kusaka@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■所属学会

日本抗加齢医学会, 日本東洋医学会, 日本消化器内視鏡学会, 日本消化器病学会, 日本内科学会

■研究課題

消化器一般, 内視鏡診断・治療

■著書

抗コリン剤を前立腺肥大のある男性に投与した、上部内視鏡検査例に下部内視鏡のための寛腸が行われた、消化器内視鏡のトラブル防止マニュアル, 日本メディカルセンター, 東京, 2004

■学術論文

肥満と感染－レプチンを軸として－, Infection Inflammation Immunity, 33: 55-57, 2003

Three-point fixation of stomach to abdominal wall in the percutaneous endoscopic gastrostomy procedure, Endoscopy., 37:494, 2005

Brugada-like electrocardiographic changes during influenza infection, J. Int. Med. Res., 31: 244-246, 2003

Congestive heart failure induced by the combination of atrial fibrillation and tricuspid regurgitation, J. Int. Med. Res., 31: 475-480, 2003

Selective binding of sucralfate to endoscopic mucosal resection-induced gastric ulcer: evaluation of aluminum adherence., J. Int. Med. Res., 32:520-529, 2004

大学病院／健康管理センター

藪野 喜利 助教

氏名(カナ・英文名)	ヤブノ ヨシノリ YABUNO Yoshinori	生年月	—
所 属	大学病院／健康管理センター	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	key@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	画像診断		

■研究課題

画像診断

■研究の概要

画像診断

■学術論文

Influence of saline flushing on the optimal temporal window for CT of the liver using a time-density analysis, Radiat. Med., 23:557-562, 2005

高濃度造影剤通常量（100ml）投与と通常濃度造影剤多量（150ml）急速投与の time-density-curve による比較-MDCT における肝ダイナミックスタディーと CT Angiography を想定して-, 日本医放会誌, 63: 98-102, 2003

大学病院／健康管理センター

櫻井 勝 助教

氏名(カナ・英文名)	サクライ マサル SAKURAI Masaru	生年月	—
所 属	大学病院／健康管理センター	職 名	助教
最終学歴	金沢大学大学院医学系研究科	学 位	医学博士
電子メール	m-sakura@kanazawa.med.ac.jp		
専門分野	公衆衛生学・健康科学		

■所属学会

日本内科学会，日本糖尿病学会，日本疫学会，日本公衆衛生学会，米国糖尿病協会

■研究課題

肥満，糖尿病，メタボリックシンドロームの疫学

■研究の概要

肥満，糖尿病，メタボリックシンドロームの疫学
2型糖尿病の病態（インスリン分泌とインスリン抵抗性）

大学病院／生活習慣病センター

赤澤 純代 助教

氏名(カナ・英文名)	アカザワ スミヨ KUDOH AKAZAWA Sumiyo	生年月	—
所 属	大学病院／生活習慣病センター	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	sumiyok@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	循環器内科学		

■所属学会

日本性差医療学会, 日本アンチエイジング学会, 日本糖尿病学会, 日本循環器学会, 日本内科学会

■研究の概要

登録中

■著書

女性外来とは？, 女性外来ハンドブックこんなときどうする？(女性医療ネットワーク編), Women's Clinic Network, 東京, 2006

■学術論文

Mechanical stress は AngII の関与がなくても AT1receptor を活性化する, (6):499-506. Epub, 2004

Leptin deficiency enhances myocardial necrosis and lethality in a murine model of viral myocarditis, Life Sci., 75:1435-1447, 2004

Transient glucose deprivation causes upregulation of heme oxygenase-1 and cyclooxygenase-2 expression in cardiac fibroblasts., J. Mol. Cell. Cardiol., 36:821-830, 2004

A novel LIM protein Cal promotes cardiac differentiation by association with CSX/NKX2-5, J. Cell Biol., 164:395-405, 2004

UPregulation of cardiac ghrelin mRNA in leptin-deficient and leptin receptor-deficient mice with viral myocarditis, J. Int. Med. Res., 31: 503-508, 2003

■学術賞

日本循環器学会 CPIS 賞, 1997.04

アメリカ心不全学会 YIA, 1997

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), アンジオテンシン II 1 型受容体阻害薬のインバースアゴニスト活性について

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), アンジオテンシン II 1 型受容体阻害薬のインバースアゴニスト活性について

2004, 科学研究費補助金 若手研究(B), 心筋梗塞の新しい治療法の開発—体性幹細胞を用いた再生治療

2003, 科学研究費補助金 若手研究(B), 心筋梗塞の新しい治療法の開発—体性幹細胞を用いた再生治療

2002, 科学研究費補助金 若手研究(B), 心筋梗塞の新しい治療法の開発—体性幹細胞を用いた再生治療

■研究費採択状況(その他の助成金)

2003, 学術研究振興資金, レプチン・シグナル制御による心臓血管治療

2002, 学術研究振興資金, レプチン・シグナル制御による心臓血管治療

大学病院／生活習慣病センター

北田 宗弘 助教

氏名(カナ・英文名)	キタダ ムネヒロ KITADA Munehiro	生年月	—
所 属	大学病院／生活習慣病センター	職 名	助教
最終学歴	富山医科薬科大学医学部	学 位	—
電子メール	—		
専門分野	—		

大学病院／生活習慣病センター

鴨田 佐知子 助教

氏名(カナ・英文名)	カモダ サチコ KAMODA Sachiko	生年月	—
所 属	大学病院／生活習慣病センター	職 名	助教
最終学歴	金沢医科大学医学部	学 位	—
電子メール	m95-0309@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■研究課題

脳画像診断, てんかん

■学術論文

精神科外来診療における防風通聖散(TJ-62)の使用経験-TJ-62 の抗肥満効果を中心に-, 精神, 8:521-525, 2006

金沢医科大学神経精神医学教室における生物学的精神医学研究の現況, 脳と精と医, 15:167-173, 2004

健常成人および部分てんかん患者における functional MRI を用いた記憶課題遂行時の脳内賦活部位に関する研究, 金医大誌, 29:260-271, 2004

Functional MRI を用いた側頭葉てんかん患者の記憶機能マッピングに関する研究, てんかん治療研究振興財団研究年報, 14: 131-139, 2002

■研究費採択状況(その他の助成金)

2006, 金沢医科大学北辰同窓会研究助成, functional MRI(f-MRI)を用いた総合失調症に対するアリピプラゾール治療効果の検討

総合医学研究所／人類遺伝学研究部門(生化)

久原 とみ子 教授

氏名(カナ・英文名)	クハラ トミコ KUHARA Tomiko	生年月	—
所 属	総合医学研究所／人類遺伝学研究部門(生化)	職 名	教授
最終学歴	九州大学薬学部	学 位	薬学博士
電子メール	kuhara@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	メタボローム解析, 個別化医療, 質量分析法, メタボローム, 化学診断, 分子診断学, システムズバイオロジー, 先天性代謝異常症, 分子遺伝学, メタボロミクス		

■職歴

1968-1979 久留米大学医学部 助手, 1979-1983 久留米大学医学部ガスクロマトー質量分析応用研究施設 講師, 1983-1989 金沢医科大学人類遺伝研究所 助教授, 1989-1995 金沢医科大学総合医学研究所人類遺伝学研究部門 助教授, 1995- 金沢医科大学総合医学研究所人類遺伝学研究部門 部長、教授

■所属学会

国際先天代謝異常学会(The Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism), 日本医用マススペクトル学会, 国際マススクリーニング学会(International Society for Neonatal Screening), 日本先天代謝異常学会, 日本生化学会

■研究課題

メタボローム解析による個別化医療、毒性発現予測 (Metabolome research for pharmacogenomics, personalized medicine and toxicity prediction)

メタボローム解析による改変遺伝子、導入遺伝子の機能解析 (The functional analysis of modified or introduced genes by metabolomics)

■研究の概要

メタボローム解析による疾患の診断, モニタリング, 薬効・毒性予測

■著書

Metabolome Profiling of Human Urine with Capillary Gas Chromatography/Mass Spectrometry, Chemical Diagnosis of Inborn Errors of Metabolism and Metabolome Analysis of Urine by Capillary Gas Chromatography/Mass Spectrometry, Metabolomics:The Frontier of system biology (M.Tomita,T.Nishioka Eds.), Springer, Tokyo, 2005

GC-MS によるメタボローム測定法, メタボローム解析による先天性代謝異常診断, メタボローム研究の最前線 (富田勝、他編), シュプリンガー・フェアラーク, 東京, 2003

■学術論文

Gas chromatographic-mass spectrometric urinary metabolome analysis to study mutations of inborn errors of metabolism, Mass Spectrom. Rev., 24:814-827, 2005

Rapid gas chromatographic-mass spectrometric diagnosis of dihydropyrimidine dehydrogenase deficiency and dihydropyrimidinase deficiency, J. Chromatogr. B, 792:107-115, 2003

Gas chromatographic-mass spectrometric newborn screening for propionic acidaemia by targeting methylcitrate in dried filter-paper urine samples, J. Inherit. Metab. Dis., 25: 98-106, 2002

Diagnosis and monitoring of inborn errors of metabolism using urease-pretreatment of urine, isotope dilution, and gas chromatography-mass spectrometry, J. Chromatogr. B, 781: 497-517, 2002

Diagnosis of inborn errors of metabolism using filter paper urine, urease treatment, isotope dilution and gas chromatography-mass spectrometry, J. Chromatogr. B, 758: 3-25, 2001

■学術賞

日本医用マススペクトル学会松本勇賞, ガスクロマトグラフィー・質量分析法を用いたヒトメタボローム解析法の確立 2005.09

■共同研究希望(研究シーズ)

個別化医療とヒューマンメタボロームサイエンス

Personalized medicine and human metabolome science

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 簡易ウレアゼ前処理による尿中代謝物一斉分析法の先天代謝異常症診断支援への応用

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 簡易ウレアゼ前処理による尿中代謝物一斉分析法の先天代謝異常症診断支援への応用

1997, 科学研究費補助金 基盤研究(C), GC/MSを用いる代謝性疾患の前処理を含む全自動の診断システムの開発

1996, 科学研究費補助金 基盤研究(C), GC/MSを用いる代謝性疾患の前処理を含む全自動の診断システムの開発

1993, 科学研究費補助金 一般研究(C), 心身障害発生予防のための高乳酸血症の鑑別診断に関する研究

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2005, 厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研究推進事業, わが国の21世紀における新生児マススクリーニングのあり方に関する研究

2004, 厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研究推進事業, わが国の21世紀における新生児マススクリーニングのあり方に関する研究(分担研究課題名:新しい新生児マススクリーニング体制に関する研究)

2003, 国立成育医療センター成育医療研究委託費, 重症障害新生児医療のガイドライン及びハイリスク新生児の診断システムに関する総合的研究(先天代謝異常を有する児に対する確定診断の迅速化への方略)

■研究費採択状況(その他の助成金)

2000, 日母おぎゃー献金, 簡易ウレアゼ・GC/MSによる代謝異常症の化学診断と病態解析

1999, 日母おぎゃー献金, GC/MSによる化学診断法の先天代謝異常症マススクリーニングへの応用

総合医学研究所／人類遺伝学研究部門(生化)

新家 敏弘 准教授

氏名(カナ・英文名)	シンカ トシヒロ SHINKA Toshihiro	生年月	—
所 属	総合医学研究所／人類遺伝学研究部門(生化)	職 名	准教授
最終学歴	東北大学大学院理学研究科	学 位	理学博士
電子メール	shinka@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	病態検査学, 病態医化学, 分離、精製、検出法		

■職歴

1975-1980 久留米大学医学部 助手, 1980-1983 久留米大学医学部 講師, 1983-1989 金沢医科大学人類遺伝学研究所 助教授, 1989- 金沢医科大学総合医学研究所 助教授, 1975-1980 Kurume University, Research Assistant

■所属学会

日本小児科学会, 日本先天代謝異常学会, 日本マススクリーニング学会, 日本医用マススペクトル学会

■研究課題

質量分析計を用いた先天性代謝異常症の化学診断 (Chemical Diagnosis of Inborn Errors of Metabolism by Mass Spectrometry)

脂肪酸酸化異常症とカルニチン代謝 (Carnitine Metabolism fatty acid oxidation defect)

■研究の概要

先天性代謝異常症を始めとした代謝疾患の質量分析計を用いた生化学的診断法の確立。主として低分子化合物を対象に GC/MS および ESIMS 法により診断指標となる化合物の定量分析法の確立を行っている。特に最近では ESIMS を用いた代謝疾患関連難揮発性有機酸の分析法の確立に力を注いでいる。

■学術論文

Stability of 5-aminolevulinic acid on dried urine filter paper for a diagnostic marker of tyrosinemia type I, J. Chromatogr. B Analyt. Technol. Biomed. Life Sci., 823:44-46, 2005

ろ紙吸着尿GC/MS分析によるチロシン症 I 型の化学診断, 日本マス・スクリーニング学会誌, 15:55-61, 2005

Differential chemical diagnosis of primary hyperoxaluria type II. Highly sensitive analysis of optical isomers of glyceric acid by GC/MS as diastereoisomeric derivatives, J. Chromatogr. B Analyt. Technol. Biomed. Life Sci., 823:2-6, 2005

Quantification of urinary 5-aminolevulinic acid by gas chromatography-mass spectrometry, J. Chromatogr. B, 806: 19-23, 2004

Effect of valproic acid on the urinary metabolic profile of a patient with succinic semialdehyde dehydrogenase deficiency, J. Chromatogr. B, 792:99-106, 2003

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1998, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 新生児尿 GC/MS 分析によるガラクトース血症のヘテロ検索

1997, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 新生児尿 GC/MS 分析によるガラクトース血症のヘテロ検索

1995, 科学研究費補助金 一般研究(C), 新生児型高チロシン血症の早期鑑別診断法の確立に関する研究

総合医学研究所／人類遺伝学研究部門(生化)

井上 義人 講師

氏名(カナ・英文名)	イノウエ ヨシト INOUE Yoshito	生年月	—
所 属	総合医学研究所／人類遺伝学研究部門(生化)	職 名	講師
最終学歴	第7 パリ大学大学院理学系研究科	学 位	理学博士(Doctorat de Troisième Cycle), 農学修士
電子メール	yosh@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	代謝学		

■職歴

1972-1983 久留米大学 助手, 1983- 金沢医科大学 講師, 1972-1983 Research Assistant, Kurume University, 1983- Kanazawa Medical University Senior Assistant Professor (1983.04)

■所属学会

日本生化学会, 日本小児科学会, 日本医用マススペクトル学会, 日本先天代謝異常学会, 日本マススクリーニング学会

■研究課題

有機酸代謝異常症の出生前診断 (Prenatal Chemical Diagnosis of Organic Acidemia.)

Canavan 病の化学診断 (Chemical Diagnosis of Canavan Disease)

■学術論文

Differential chemical diagnosis of primary hyperoxaluria type II. Highly sensitive analysis of optical isomers of glyceric acid by GC/MS as diastereoisomeric derivatives, J. Chromatogr. B Analyt. Technol. Biomed. Life Sci., 823:2-6, 2005

Rapid and sensitive screening for and chemical diagnosis of Canavan disease by gas chromatography-mass spectrometry, J. Chromatogr. B, 806: 33-39, 2004

Fast Atom Bombardment Tandem Mass Spectrometric Analysis of N-Carbamoylamino Acids, Biol. Mass Spectrom., 20: 593-601, 1991

Polychlorinated Biphenyls in Human Blood, The Kurume Medical Journal, 20:861-870, 1973

Rapid and sensitive method for prenatal diagnosis of propionic acidemia using stable isotope dilution gas chromatography-mass spectrometry and urease pretreatment, J. Chromatogr. B, 776: 71-77, 2002

■その他の業績

En Spectrometrie de Masse Contribution (JJ1102) une Banque de Donn(JJ1117)es Orient(JJ1117)ee vers la Conception Assist(JJ1117)ee par Ordinateur

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 世界中のどこからでも容易に依頼可能な有機酸代謝異常症の出生前診断法の検討

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 世界中のどこからでも容易に依頼可能な有機酸代謝異常症の出生前診断法の検討

1991, 科学研究費補助金 一般研究(C), 先天性代謝異常症の国際的診断システムの確立

総合医学研究所／人類遺伝学研究部門(臨床)

高林 晴夫 准教授

氏名(カナ・英文名)	タカバヤシ ハルオ TAKABAYASHI Haruo	生年月	—
所 属	総合医学研究所／人類遺伝学研究部門(臨床)	職 名	准教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	htogkmu@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	産婦人科学, 胎児医学, 人類遺伝学		

■所属学会

日本産科婦人科学会, 日本臨床細胞学会, 日本不妊学会, 日本臨床遺伝学会, 日本受精着床学会

■研究課題

母体血による無侵襲的胎児 DNA 診断法の開発と臨床応用 (Development of Non-invasive Fetal DNA Diagnosis from Maternal Blood and Clinical Application)

■研究の概要

妊婦末梢血中に胎児由来の細胞が移行していることが知られるようになり、それら胎児由来有核細胞を選択的に回収し DNA 診断することが可能であるかどうかの検討が、内外の研究グループによって行われている。母体血による non-invasive 胎児 DNA 診断法に近い将来、実用化し現実のものとなればそれは周産期医療に大きな変革をもたらすものと考えられる。

■著書

遺伝子・染色体検査法, 新女性医学大系, 第5巻「産婦人科検査診断法」(武谷雄二), 中山書店, 東京, 2001

Fetal DNA Diagnosis from Maternal Blood(FDD-MB), Fetal DNA Diagnosis from Maternal Blood(FDD-MB)A New Technique in Fetal Medicine,2000
Video(H.Takabayashi), IDM, 金沢, 2000

■学術論文

自動細胞診断装置による子宮頸癌集団検診の応用に伴う問題の検討, 日産婦誌, 1980

Flow cytometry によるヒト胎盤絨毛細胞の増殖動態に関する研究, 産婦人科治療, 1983

Flow cytometry による胞状奇胎絨毛細胞の核酸量分析, 日本臨床細胞学会誌, 1983

婦人性器癌患者における嫌気性菌の検索成績と Tiridazole の抗菌作用, 臨床婦人科産科, 1983

婦人科領域における Aztreonam の組織内移行性に関する検討, 1985

■学術賞

An award for the best science poster at the 15th FIGO
World Congress of Ob / Gyn, 1997

■共同研究希望(研究シーズ)

母体血による胎児 DNA 診断法の開発と臨床応用

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 母体血中胎児有核赤血球の single cell level の DNA 分析

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 母体血中胎児有核赤血球の single cell level の DNA 分析

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 母体血中胎児有核赤血球の回収と DNA 分析

1998, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 母体血中胎児有核赤血球の回収と DNA 分析

1995, 科学研究費補助金 一般研究(C), 母体血による無侵襲的胎児 DNA 診断法の開発と臨床応用

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, (独)科学技術振興機構・産学共同シーズイノベーション化事業・顕在化ステージ, 母体血中有核赤血球のハイスループット分離精製方法の検証

2003, 経済産業省地域新生コンソーシアム研究開発事業, 母胎血による胎児 DNA 診断のための胎児由来細胞回収装置の開発

2002, 経済産業省地域新生コンソーシアム研究開発事業, 母胎血による胎児 DNA 診断のための胎児由来細胞回収装置の開発

■研究費採択状況(その他の助成金)

1998, 日母おぎゃー献金, 母体血中胎児有核赤血球の single cell level の DNA 分析

総合医学研究所／共同利用部門(RI センター)

石垣 靖人 講師

氏名(カナ・英文名)	イシガキ ヤスヒト ISHIGAKI Yasuhito	生年月	—
所 属	総合医学研究所／共同利用部門(RI センター)	職 名	講師
最終学歴	金沢大学大学院薬学研究科	学 位	博士(薬学)
電子メール	ishigaki@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	生物系薬学		

■職歴

1996-2001 金沢大学 助手 , 2002-金沢大学大学院助手 , , 1991- Kanazawa University

■所属学会

日本分子生物学会, 日本癌学会, 日本光医学光生物学会, 北陸地域アイソトープ研究会

■研究課題

遺伝情報の品質管理制御 (Quality control of genetic informa)

■研究の概要

遺伝情報の品質管理機構解析とその応用
早期老化症候群の解析

■学術論文

The exon-exon junction complex is detected on CBP80-bound but not eIF4E-bound mRNA in mammalian cells: Dynamics of mRNP remodeling, EMBO JOURNAL, 2002

Evidence for a pioneer round of mRNA translation: mRNAs subject to nonsense-mediated decay in mammalian cells are bound by CBP80 and CBP20, CELL, 2001

NMD の役割とその機構, 蛋白質核酸酵素, 2003

RNAi と microRNA, ファルマシア, 2004

Human NTH1 physically interacts with p53 and proliferating cell nuclear antigen., Biochem. Biophys. Res. Commun., 2004

■共同研究希望(研究シーズ)

紫外線誘発 DNA 損傷量の定量

Measurement of UV-induced DNA damage.

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 疑ウエルナー症候群の病態解明

2006, 科学研究費分担研究, ヘルスケアにつなげる光触媒型活性酸素パッチの開発

2005, 科学研究費補助金 特定領域研究, 劣性遺伝疾患原因遺伝子検索システムの構築

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), がん治療効果改善を目指す DNA 傷害センサーの解析

■研究費採択状況(その他の助成金)

2005, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, がん化細胞における遺伝情報の品質管理機構制御

2005, (財)住友財団研究助成金, 最初の翻訳は細胞のどこで起こるのか?

総合医学研究所／共同利用部門(動物飼育センター)

宗 志平 講師

氏名(カナ・英文名)	ソウ シヘイ SO Shihei (ZONG zhi-ping)	生年月	1957.03
所 属	総合医学研究所／共同利用部門(動物飼育センター)	職 名	講師
最終学歴	金沢医科大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	zong3961@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	細胞周期制御と免疫病理学.		

■所属学会

日本癌学会, 日本サイトメトリー学会, 日本病理学会, THE NEW YORK ACADEMY OF SCIENCES, 日本炎症・再生医学会

■研究課題

終末分化細胞における細胞周期の制御機構に関する研究

■学術論文

同種異系植皮に対するシクロスポリン軟膏の局部投与の薬理効果, 炎症, 1993

Autoimmune hair loss induced by alloantigen in C57BL/6 mice, Cell Struct Funct., 2003

minimizes experimental autoimmune myocarditis in rats. (jointly worked), Eur J Pharmacol., 2003

POTENTIATION OF K-252a, A PROTEIN KINASE INHIBITOR-INDUCED POLYPLOIDILATION BY CAMP IN CULTURED FIBROSARCOMA CELL LINE, BIOCHEMICAL AND BIOPHYSICAL RESEARCH COMMUNICATIONS, 1994

THE IMPORTANT ROLE OF PKC IN CONTROLLING POLYPLOIDY FORMATION IN CULTURED FIBROSARCOMA CELL LINE, BIOCHEMISTRY and MOLECULAR BIOLOGY INTERNATIONAL, 1995

■学術賞

金沢医科大学医学会論文表彰, 1996

金沢医科大学医学会論文表彰, 1997

総合医学研究所／共同利用部門(形態機器センター)

栗原 孝行 講師

氏名(カナ・英文名)	クリハラ タカユキ KURIHARA Takayuki	生年月	1945.04
所 属	総合医学研究所／共同利用部門(形態機器センター)	職 名	講師
最終学歴	東京理科大学理学部	学 位	博士(医学)
電子メール	tkuri@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	体細胞生物学, 医学電子顕微鏡技術, 放射線生物学		

■所属学会

日本放射線影響学会

■研究課題

染色体不安定性症候群の病因に関する研究 (Etiology of Chromosome Instability Syndrome.)

生物試料の電子顕微鏡観察法に関する研究 (Electron Microscopy for Biological Materials.)

■学術論文

Targeted disruption of Np95 gene renders marine embryonic stem cells hypersensitive to DNA damaging agents and DNA replication blocks

, Journal of Biological Chemistry, 2002

Lung deflation impairs alveolar epithelial fluid transport in ischemic rabbit and rat lung

, Transplantation

, 2000

Cytotoxic Effects of Antifungal Drugs on Cultured Human Conjunctival Cells.(共著)

, Ocular Toxicology

, 1995

Relationship Between the Transgenerational Effects and DNA Repair in Germ Cells of Male Mice., 1995

Increased Rate of Spontaneous Mitotic Recombination in T Lymphocytes from a Bloom's Syndrome Patient Using a Flow-cytometric Assay at HLA-A Locus.

, Japanese Journal of Cancer Research, 1994

■学術賞

日本電子顕微鏡学会技術賞, 1989

医学・生物学電子顕微鏡技術研究会功労賞, 1994

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1991, 科学研究費分担研究, <がん特別研究(1);京都大学医学部 巽 紘一 助教授>日本人ブルーム症候群の分子欠陥

1990, 科学研究費分担研究, <がん特別研究(1);京都大学医学部 巽 紘一 助教授>日本人ブルーム症候群の分子欠陥

1989, 科学研究費分担研究, <がん特別研究(1);京都大学医学部 巽 紘一 助教授>日本人ブルーム症候群の分子欠陥

総合医学研究所／細胞医学研究部門

藤川 孝三郎 教授

氏名(カナ・英文名)	フジカワ コウザブロー FUJIKAWA Kohzaburo	生年月	—
所 属	総合医学研究所／細胞医学研究部門	職 名	教授
最終学歴	北海道大学大学院理学研究科	学 位	理学博士
電子メール	fujikawa@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	細胞生物学		

■所属学会

日本化学会, 日本サイトメトリー学会, 国際分化学会(International Society of Differentiation), 国際解析細胞学会(International Society for Analytical Cytology)

■研究課題

細胞の倍数性変換についての研究 (Cell cycle regulation to polyploidize culture cells)

多倍体動物の創成 (Production of polyploid animals)

■著書

多倍体細胞へのアプローチ, , 金沢医科大学出版局, 内灘, 2004

仮説 核のフラクタル構造とその複製, (M.Takahashi 著、藤川孝三郎 監訳), 金沢医科大学出版局, 内灘, 2004

■学術論文

Cytological analysis of cholangiocarcinoma and bile duct epithelial cells - Influence of bile acid load on nuclear area and PCNA expression in diisopropanolnitrosamine-induced proliferated bile ductule lesion and cholangiocarcinomas in hamsters., Ann. Rep. Med. Res. Inst. Kanazawa Med. Univ., 1997

Bile acied load on the DNA distribution pattern of bile ductules and cholangiocarcinoma induced by diisopropanolnitrosamine in hamsters., Oncology, 1998

Intersystem crossing quantum yield of phthalazine and pyridazine, Bull. Chem. Soc. Japan, 1972

Apoptotic cell death of high polyploid cells in a cultured sarcoma cell line. (共著), Cell Struct. Func., 1998

Measurement of Singlet-Triplet absorption spectrum of pyridazine by a sensitized-phosphorescence excitation method, Bull. Chem. Soc. Japan, 1975

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 多倍体化培養細胞株の樹立と多倍体化がもたらす形質変換の研究

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 多倍体化培養細胞株の樹立と多倍体化がもたらす形質変換の研究

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 多倍体化培養細胞株の樹立と多倍体化がもたらす形質変換の研究

1989, 科学研究費補助金 一般研究(C), フローサイトメトリーを用いた貧食作用活性の動的解析法の開発

1988, 科学研究費補助金 一般研究(C), フローサイトメトリーを用いた貧食作用活性の動的解析法の開発

■研究費採択状況(その他の助成金)

1994, (財)金沢総合技術研究センター研究振興助成金, がん細胞の多倍体化による細胞形質変換を利用した制がんの基礎的研究

1993, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, 細胞周期 M 期制御による癌細胞の形質変換に関する基礎研究

総合医学研究所／細胞医学研究部門

宮越 稔 助教

氏名(カナ・英文名)	ミヤゴシ ミノル MIYAGOSHI Minoru	生年月	—
所 属	総合医学研究所／細胞医学研究部門	職 名	助教
最終学歴	東京農業大学農学部	学 位	博士(医学)
電子メール	miyako@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	組織培養		

■所属学会

日本癌学会, 日本放射線影響学会, 日本消化器癌発生学会, 日本サイトメトリー学会

■研究課題

胆管細胞癌の発生 (The occurrence of cholangiocarcinoma)

■著書

Environmental temperature and cataract progression in experimental rat cataract models, Dev. Ophthalmol. (O. Hockwin et al.), Karger, Basel, 2002

■学術論文

Werner 症候群由来の皮膚線維芽細胞の CNA 修復, 金沢医科大学雑誌, 1985

DNA Repair in Werner's Syndrome Skin Fibroblasts, 1985

Bile Acid Load on the DNA Distribution Pattern of Bile Ductules and Cholangiocarcinoma Induced by Diisopropanol nitrosamine in Hamsters (共著), Oncology, 1998

The Influence of Bile Acid Load on the Incidence of Cholangiocarcinoma Induced by Diisopropanolnitrosamine in Hamsters, J.Kanazawa Med. Univ., 1999

フローサイトメトリーを用いた細胞周期解析Ⅲ-スタトモキネティック解析-, Cytometry Res, 16:43-49, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1990, 科学研究費補助金 奨励研究(A), マウス肺細胞におけるメチル化DNA損傷とその修復能に関する研究

総合医学研究所／先進医療研究部門

松井 忍 教授

氏名(カナ・英文名)	マツイ シノブ MATSUI Shinobu	生年月	1945.11
所 属	総合医学研究所／先進医療研究部門	職 名	教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	matsui@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	循環器内科学		

■職歴

1974-1977 金沢医科大学 助手, 1977-1985 金沢医科大学 講師, 1985-1992 金沢医科大学 助教授, 1992-2003 金沢医科大学 教授, 1977-1985 Lecturer, Kanazawa Medical University

■所属学会

日本内科学会, 日本循環器学会, 日本老年医学会, 日本臨床生理学会, 日本集中治療学会

■研究課題

心不全の病態生理 (Pathophysiology of heart failure)

拡張型心筋症における自己免疫機序 (Autoimmunological mechanism in dilated cardiomyopathy)

■研究の概要

抗 β 心筋膜受容体抗体吸着療法の開発

β 1ペプチド免疫にて作成した実験的自己免疫性心筋症家兎を用い、選択的自己抗体吸着実験を施行した。その結果、一回の120分間の体外循環による吸着で抗 β 1抗体は約50%吸着された。吸着3ヶ月後には有意な心肥大の退縮と心内腔の縮小ならびに心機能の回復をみた。この結果は、抗心筋膜受容体抗体吸着療法が拡張型心筋症の治療法として有用であることを示唆した。

■著書

女性外来とは？, 女性外来ハンドブックこんなときどうする？(女性医療ネットワーク編), Women's Clinic Network, 東京, 2006

β 遮断薬による心筋梗塞後心不全の治療, 虚血性心疾患のコツと落とし穴 (上松瀬勝男 編), 中山書店, 東京, 2003

■学術論文

心不全とショック, 南江堂, 1987

陳旧性心筋梗塞-合併症とその管理-, 中山書店, 1990

心筋梗塞症急性期における高血圧状態に関する検討, 金沢大学十全医学会雑誌, 1981

運動能力規定因子としての Adenosine-健常若年男性における検討-, 金沢医科大学総合医学3 研究所年報(1991 年号), 1993

運動に伴う血中アデノシン動態-健常若年男性における検討-, 体力科学, 1993

■共同研究希望(研究シーズ)

拡張型心筋症の治療

Treatment of Dilated Cardomyopathy

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 心筋膜受容体に対する自己免疫機序による心筋症の発症・進展:自己抗体吸着療法の開発

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 心筋膜受容体に対する自己免疫機序による心筋症の発症・進展:自己抗体吸着療法の開発

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 拡張型心筋症に対する抗心筋膜受容体抗体吸着療法の開発-実験的検討-

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 拡張型心筋症に対する抗心筋膜受容体抗体吸着療法の開発-実験的検討-

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 拡張型心筋症に対する抗心筋膜受容体抗体吸着療法の開発-実験的検討-

■研究費採択状況(その他の助成金)

1997, 三井生命記念事業成人病研究助成, G 蛋白に共役する心筋膜受容体に対する自己免疫機序による拡張型心筋症の発症進展

1995, (財)福田記念医療技術振興財団国際交流助成, 近赤外分光法を用いた客観的運動能力評価とそれに基づく運動処方の検討

総合医学研究所／先進医療研究部門

友杉 直久 教授

氏名(カナ・英文名)	トモスギ ナオヒサ TOMOSUGI Naohisa	生年月	—
所 属	総合医学研究所／先進医療研究部門	職 名	教授
最終学歴	金沢大学医学部	学 位	医学博士
電子メール	tomosugi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	腎臓内科学		

■研究課題

糸球体腎炎の進展機序 (Progression of glomerulonephritis)

腎疾患のプロテオーム解析に基づく腎障害進展因子の研究

■学術論文

hepcidin: 血液透析患者における鉄代謝制御因子, 日透析医会誌, 21:316-321, 2006

Detection of serum hepcidin in renal failure and inflammation by using ProteinChip System, Blood, 108:1381-1387, 2006

Proteomic analysis of serum, outflow dialysate and adsorbed protein onto dialysis membranes (polysulfone and PMMA) during hemodialysis treatment using SELDI-TOF-MS, Am. J. Nephrol., 26:372-380, 2006

涙の蛋白質とシェーグレン症候群 プロテオミクス技術を用いた非侵襲的診断法の開発, 検と技, 34:397-399, 2006

Proteomic analysis of rat plasma by SELDI-TOF-MS under the condition of prevention of progressive adriamycin nephropathy using oral adsorbent AST-120, Nephron. Physiol., 103:125-130, 2006

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), アデノウイルスを用いた MIF 遺伝子導入による糸球体腎炎の制御に関する研究

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), アデノウイルスを用いた MIF 遺伝子導入による糸球体腎炎の制御に関する研究

1995, 科学研究費補助金 一般研究(C), マンギウム細胞における膜型マトロプロテイン-2の発現-糸球体におけるマトロプロテイン-2の活性化機序-

総合医学研究所／先進医療研究部門

長尾 嘉信 准教授

氏名(カナ・英文名)	ナガオ ヨシノブ NAGAO Yosinobu	生年月	—
所 属	総合医学研究所／先進医療研究部門	職 名	准教授
最終学歴	鹿児島大学理学部	学 位	理学博士
電子メール	y-nag@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	生殖細胞(哺乳類の精子形成), 内分泌攪乱化学物質の影響		

■職歴

金沢医科大学医学部 助手(1979), 金沢医科大学医学部 講師(1985), 金沢医科大学総合医学研究所 (医学部 併任) 助教授(1990)

■所属学会

日本生化学会, AAAS(American Association for the Advancement of Science)

■研究課題

ラットの精子形成における c-mos プロトオンコジーン産物の機能 (Function of the c-mos proto-oncogene product in rat spermatogenesis)

ラット精子形成細胞に及ぼす内分泌攪乱物質の影響 (Effects of endocrine disruptors on rat spermatogenic cells)

■研究の概要

開発したラット精細胞培養系を用いて、減数分裂前期の細胞周期調節ならびにエピジェネティクスについての究明を行う。また、それ等に対する内分泌攪乱物質の影響を調べる。

■著書

基本的な細胞培養技術(基本設備,培養器具およびその洗浄と滅菌),フローサイトメリー(DNA),分子細胞生物学実験法(新垣尚捷、角野富三郎、西川克三、樋口富彦、細井和雄、堀内義史、松尾雄志、宮崎香、編), 南江堂, 東京, 2004

精細胞の培養法, 細胞生物学実験法 (大熊勝治 編), 廣川書店, 東京, 1999

■学術論文

In vitro proton magnetic resonance spectroscopic lactate and choline measurements, 18F-FDG uptake, and prognosis in patients with lung adenocarcinoma, J. Nucl. Med., 45:1334-1339, 2004

Definitive expression of c-mos in late meiotic prophase leads to phosphorylation of a 34 kDa protein in cultured rat spermatocytes, Cell Biol. Int., 26: 193-201, 2002

Expression of c-mos protein in cultured rat spermatogenic cells and evidence that rat testicular 43 kDa c-mos protein has an elongated amino acid sequence at the N-terminus, Biochimica et Biophysica Acta, 1245:130-143, 1995

Selective activation of testis-specific genes in cultured rat spermatogenic cells, Biochimica et Biophysica Acta., 1049:331-338, 1990

Viability of meiotic prophase spermatocytes of rat is facilitated in primary culture of dispersed testicular cells on collagen gel by supplementing epinephrine or norepinephrine : Evidence that meiotic prophase spermatocytes complete meiotic divisions in vitro, In Vitro Cell. Dev. Biol., 25:1088-1098, 1989

■共同研究希望(研究シーズ)

培養精細胞を用いた臨床又は基礎研究

Clinical or basic study using cultured spermatogenic cells

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1981, 科学研究費補助金 奨励研究(A), 培養肝癌細胞におけるビルビン酸キナーゼアイソエンザイム発現の調節

総合医学研究所／先進医療研究部門

上田 忠司 助教

氏名(カナ・英文名)	ウエダ タダシ UEDA Tadashi	生年月	1953.05
所 属	総合医学研究所／先進医療研究部門	職 名	助教
最終学歴	日本大学理工学部	学 位	博士(医学)
電子メール	tadashi@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	肺の微細形態と細胞化学		

■職歴

1978-1982 環境科学総合研究所 研究員, 1982-2006 金沢医科大学 助手(1982.07), 1978-1982 Interdisciplinary Research Institute of Environmental Science(1978.03), 1982-2006 Kanazawa Medical University(1982.07)

■所属学会

日本解剖学会, 日本電子顕微鏡学会, 日本組織細胞化学会, 日本毒性病理学会

■研究課題

肺の薬物代謝と細胞分化 (The Drug Metabolism and Cell Differentiation in Lung)

■研究の概要

呼吸器系(気管、細気管支、肺胞上皮)、循環器系(心臓)の傷害と再生の過程を細胞化学的手段や免疫組織化学的手段を用い検索している。

■学術論文

Cotribution of ciliated cells to Clara cell to regeneration following complete loss of bronchiolar Clara cells in bromobenzene-injected mice, Acta Histochem Cytochem, 24:545-561, 1991

Expression of peroxidase activity in rat tracheal epithelial cells associated with Mycoplasma pulmonis, Am. J. Physiol. Lung Cell Mol. Physiol., 262:L92-L99, 1992

Ultracytochemistry for detection of O_2^- in polymorphonuclear leukocytes using the tetrazolium method : Comparison of various tetrazolium salts, Acta Histochem Cytochem, 32:351-357, 1999

Microvascular Angina に対する Nicorandil の効果について: Nicorandil 投与前後での Endothelial Nitric Oxide Synthase(eNOS)発現を中心として, Therapeutic Research, 21:67-76, 2000

Myocardial glucose metabolism assessed by positron emission tomography and the histopathologic findings of microvessels in syndrome X, Circ. J., 68 :220-226, 2004

総合医学研究所／分子腫瘍学研究部門

竹上 勉 教授

氏名(カナ・英文名)	タケガミ ツトム TAKEGAMI Tsutomu	生年月	1948.10
所 属	総合医学研究所／分子腫瘍学研究部門	職 名	教授
最終学歴	名古屋大学大学院理学研究科	学 位	博士(医学), 理学博士
電子メール	takegami@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	分子生物学		

■職歴

1977-1985 東京都神経科学研究所 研究員, 1986-2003 金沢医科大学, 講師(1986-) - 助教授(1989-) - 教授(2000), Prof. (2000), Associate Prof. (1989)

■所属学会

分子生物学会, 生化学会, 肝臓学会, アメリカ微生物学会, 日本感染症学会

■研究課題

フラビウイルスの複製と遺伝子発現の機構解析 (Study on the replication and gene expression of flavivirus.)

C型肝炎ウイルス複製と細胞ガン化との関わりについての研究 (Study on the involvement of hepatitis C virus replication in cellular transformation.)

■学術論文

Inhibitory effect of RNAi on Japanese encephalitis virus replication in vitro and in vivo, Microbiol. Immunol., 49:1047-1056, 2005

日本脳炎, ウイルス, 53: 25-30, 2003

Hepatitis C virus nonstructural protein NS3 binds to Sm-D1, a small nuclear ribonucleoprotein associated with autoimmune disease, Microbiol. Immunol., 47: 601-611, 2003

Isolation and molecular comparison of Japanese encephalitis virus in Ishikawa, Japan, Jpn.J.Infect.Dis., 53:178-179, 2000

Hepatitis C virus nonstructural protein NS3 transforms NIH3T3 cells., J. Virol., 1995

■学術賞

北国がん研究助成金, 1999

■共同研究希望(研究シーズ)

抗ウイルス剤の開発:RNAi の活用

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2006, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 流行するフラビウイルスの急所は何か:NS4a 蛋白及びゲノム 3'UTR の役割

2002, 科学研究費分担研究, 西ナイル熱ウイルスなどのフラビウイルス感染症の診断法、疫学および予防法

2000, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 肝発癌に関わる C 型肝炎ウイルス蛋白 NS3 と p53 等の宿主蛋白との相互作用の解析

1999, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 肝発癌に関わる C 型肝炎ウイルス蛋白 NS3 と p53 等の宿主蛋白との相互作用の解析

1997, 科学研究費補助金 基盤研究(C), C 型肝炎ウイルス非構造蛋白質 NS3 の腫瘍形成能に関する分子細胞生物学的解析

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

1999, 科学技術振興事業団・独創的研究成果育成事業, 活性酸素を介する低毒性抗菌抗ウイルス抗腫瘍薬(フラナフトキン誘導体の抗ウイルス活性評価)

1996, 東京都神経研委託事業, C 型肝炎ウイルス蛋白質 NS3 の腫瘍形成における宿主因子との相互作用の果たす役割に関する分子細胞生物学解析

1995, 東京都神経研委託事業, C 型肝炎ウイルス蛋白質 NS3 の腫瘍形成能に関する分子細胞学解析

■研究費採択状況(その他の助成金)

1999, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金, 肝臓癌化に関わる C 型肝炎ウイルス持続感染及びウイルス蛋白 NS3 と腫瘍抑制遺伝子 p53 等の宿主因子との相互作用の解析

総合医学研究所／分子腫瘍学研究部門

太田 隆英 准教授

氏名(カナ・英文名)	オオタ タカヒデ OTA Takahide	生年月	1955.01
所 属	総合医学研究所／分子腫瘍学研究部門	職 名	准教授
最終学歴	神戸大学大学院理学研究科	学 位	理学修士，博士(医学)
電子メール	takahide@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	医化学一般		

■職歴

金沢医科大学総合医学研究所 助教授(2002.01)，リバプール大学 ブリティッシュ・カウンシル・奨学生(1996.06)，金沢医科大学医学部 講師(1992.09)，金沢医科大学医学部 助手(1982.01)

■所属学会

日本癌学会，転移研究会 日本癌移転学会，サイトメトリー学会，日本細胞生物学会

■研究課題

がん細胞の転移 (Metastasis of Cancer Cells)

がん細胞の染色体不安定性 (chromosomal instability of cancer cells)

■研究の概要

我々は Rho ファミリーの低分子量 G 蛋白質の制御分子のひとつである RhoGDI β (LyGDI/D4GDI/RhoGDI2)が、がん転移過程に関わることを見いだした。培養細胞や組織におけるこの分子の機能を細胞生物学的、分子遺伝学的に解析し、がんの悪性化進展や転移過程における役割を探ると同時に、それらの情報に基づき、がん転移抑制法を開発したいと考えている。

■著書

肝細胞の分離法，免疫実験操作法(II)，右田俊介・紺田進・本庶佑・濱岡利之編，南江堂，東京，1995

■学術論文

RhoGDI β lacking the N-terminal regulatory domain suppresses metastasis by promoting anoikis in v-src transformed cells., Clin. Exp. Metastasis., 23:323-334, 2006

LyGDI functions in cancer metastasis by anchoring Rho proteins to the cell membrane, Mol. Carcinog., 39:206-220, 2004

Functional suppression of integrin β 4-mediated adhesion caused by in vivo sequential selection for cancer cell intravasation, Anticancer Res., 21: 205-211, 2001

Decrease of metastatic ability after selection for intravasating ability in Lewis Lung Carcinoma(3LL)cell line., Cancer Lett., 139:105-108, 1999

Interactions between sex-transformation mutants of Drosophila melanogaster. Hemolymph vitellogenins and gonad morphology., Genetics, 99:429-441, 1981

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

2005, 科学研究費補助金 基盤研究(C)，大腸癌における RhoGDI による転移制御機構の解明

2004, 科学研究費補助金 基盤研究(C)，大腸癌における RhoGDI による転移制御機構の解明

2003, 科学研究費補助金 基盤研究(C)，大腸癌細胞の悪性進展における中胚葉分化制御遺伝子 Eomes の役割

2002, 科学研究費補助金 基盤研究(C)，大腸癌細胞の悪性進展における中胚葉分化制御遺伝子 Eomes の役割

2001, 科学研究費補助金 基盤研究(C)，癌細胞の血中遊離過程におけるインテグリンおよび D4GDI の機能の分子遺伝学的解析

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

1999, がん研究助成金，消化器がん発生に影響する食品中の要因に関する研究(口腔がん発生に対する影響因子)

■研究費採択状況(その他の助成金)

1998, (財)佐川がん研究助成振興財団助成，欠失変異遺伝子導入による転移誘導遺伝子の機能解析

1991, (財)北国がん研究振興財団北国がん基金研究助成金，がん転移初期過程の実験病理学的解析に関する研究

総合医学研究所／分子腫瘍学研究部門

村上 学 助教

氏名(カナ・英文名)	ムラカミ マナブ MURAKAMI Manabu	生年月	—
所 属	総合医学研究所／分子腫瘍学研究部門	職 名	助教
最終学歴	玉川大学大学院農学研究科	学 位	博士(農学)
電子メール	manabu@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	—		

■所属学会

日本ウイルス学会, 日本サイトメトリー学会, 日本癌学会

■研究課題

ウイルス (Virus)

■研究の概要

ウイルス学

■学術論文

半経験的方法で算出した log P の構造活性相関への応用(共著), 玉川大学農学部研究報告, 1993

三種の B16 melanoma 細胞株に対するデメコルチンの作用(共著), 金沢医科大学総合医科研究所年報, 1997

Structure-Activity Relationship of s-Triazine Nitrification Inhibitors, The 6th China-Japan Symposium on Pesticide Science, 1992

Synthesis of Trichloromethyl-1,3,5-triazines and Their Nitrification-Inhibitory Activity, Journal of Pesticide Science, 1993

Synthesis and Structure-Activity Relationship of Newer Trichloromethyl-1,3,5-triazine Nitrification Inhibitors(共著), Journal of Pesticide Science, 1993

総合医学研究所／皮膚真菌学研究部門

石崎 宏 客員教授

氏名(カナ・英文名)	イシザキ ヒロシ ISHIZAKI Hiroshi	生年月	—
所 属	総合医学研究所／皮膚真菌学研究部門	職 名	客員教授
最終学歴	金沢大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	—		
専門分野	真菌症		

■研究課題

真菌症

■研究の概要

ヒトの皮膚から分離された真菌の同定と、病原真菌であるスポトリクス・シェンキイ、フォンセアエア・ペドロソイ等の分子疫学的調査をミトコンドリア DNA および核リボソーム RNA 遺伝子の制限酵素切断片長多型分析を用いて行っている。

■著書

皮膚および粘膜のカンジダ症，皮膚疾患最新の治療(新村真人，瀧川雅浩編)，南江堂，東京，2000

■学術論文

生息実態調査を施行した恙虫病の 1 例，皮膚臨床，48:1075-1079, 2006

食道拡張術により嚥下障害が改善した劣性栄養障害型表皮水疱症の1例，皮膚臨床，48:525-529, 2006

足穿孔症を契機に発見された脊髄髄膜瘤の 1 例，皮の科，5:22-26, 2006

妊娠中に発症したマムシ咬傷の 1 例，西日皮，68:40-42, 2006

Pseudomonas Aeruginosa 感染による Toe Web Infection の 2 例，皮の科，5:53-56, 2006

■学術賞

第 8 回日本医真菌学会優秀論文賞，Intra-species Variation of Genotypes of *Exophiala jeanselmei* Isolated from Patients in Japan.2006.10

第 8 回日本医真菌学会優秀論文賞，Intra-species Variation of Genotypes of *Exophiala jeanselmei* Isolated from Patients in Japan.2006.10

総合医学研究所／環境原性視覚病態研究部門

佐々木 一之 客員教授

氏名(カナ・英文名)	ササキ カズユキ SASAKI Kazuyuki	生年月	—
所 属	総合医学研究所／環境原性視覚病態研究部門	職 名	客員教授
最終学歴	東北大学大学院医学研究科	学 位	医学博士
電子メール	sasaki-k@kanazawa-med.ac.jp		
専門分野	眼科学, 健康科学, 薬理学一般		

■職歴

金沢医科大学 総合医学研究所 環境原性視覚病態研究部門 客員教授(2004.12), 金沢医科大学 客員教授(2003.04), 金沢医科大学 図書館長(1998.11), 金沢医科大学病院 副院長(1992.04), 金沢医科大学(眼科学講座) 主任教授(1977.03)

■所属学会

日本眼科学会, 日本白内障学会, Association for Research in Vision & Ophthalmology (ARVO), European Association for Vision and Eye Research (EVRE), アジア白内障研究機構

■研究課題

白内障の病因・治療に関する研究 (Basic & epidemiological cataract research)

電磁波による眼部傷害の研究 (Studies on ocular injury by electromagnetic waves)

■研究の概要

2000 年以降の主たる研究テーマは #1) 水晶体研究、#2) 非電離線ばく露により誘発される眼部疾患である。 #1 は動物実験、白内障の疫学(国際、国内での疫学調査)、人眼白内障に関する臨床研究で、#2 は紫外線被曝眼傷害については臨床研究、疫学研究、細胞レベルを含む実験的研究であるが、赤外線、電磁波被曝による眼傷害については実験的研究を中心としている。

■著書

Evaluating Cataract Development with the Scheimpflug Camera, Noninvasive Diagnostic Techniques in Ophthalmology (Barry R. Masters), Springer-Verlag, U.S.A., 1990

水晶体核硬化度と水晶体混濁パターンの分類, 眼科プラクティス 4眼科所見の捉え方と描き方(田野保雄), 文光堂, 東京, 2005

■学術論文

Multi-Purpose instrument for the Documentation of Anterior Eye Segments, 1988

Studies on the binding mechanism of fluoroquinolones to melanin, J.Infect.Chemother., 6:72-76, 2000

Racial differences of lens transparency properties with aging and prevalence of age-related cataract applying a WHO classification system, Ophthalmic Res., 36:332-340, 2004

Localization of cortical cataract in subjects of diverse races and latitude, Invest. Ophthalmol. Vis. Sci., 44: 4210-4214, 2003

Influence of anesthesia on ocular effects and temperature in rabbit eyes exposed to microwaves, Bioelectromagnetics, 25:228-233, 2004

■学術賞

Scientific Award 2002, 2002

International Award(米国白内障学会), 1995

■その他の業績

Population based cataract epidemiological survey in Monzen, Ishikawa

Singapore eye epidemiological survey

■研究費採択状況(文部科学省科学研究費補助金)

1998, 科学研究費補助金 基盤研究(C), アトピー性白内障発現機構の解明と水晶体混濁進行促進に関与する紫外線 B の位置付け

1997, 科学研究費補助金 基盤研究(C), アトピー性白内障発現機構の解明と水晶体混濁進行促進に関与する紫外線 B の位置付け

1996, 科学研究費補助金 基盤研究(C), 水晶体の光透過特性の白内障眼視覚におよぼす影響

1995, 科学研究費補助金 一般研究(C), 水晶体の光透過特性の白内障眼視覚におよぼす影響

1991, 科学研究費補助金 一般研究(C), 硝子体手術眼における白内障進行機序に関する研究

■研究費採択状況(厚生労働省及び他省庁補助金)

2006, (財)テコム先端技術研究支援センター委託事業(総務省), ミリ波による眼球への影響評価に関する研究

2005, (財)テコム先端技術研究支援センター委託事業(総務省), ミリ波による眼球への影響評価に関する研究

2004, (財)テコム先端技術研究支援センター委託事業(総務省), 電波の眼への影響評価試験

■研究費採択状況(その他の助成金)

1998, 日本眼科医会研究助成金, 老人保健健康増進対策事業:老人の生活機能向上を目指した視覚障害対策事業のあり方について

1995, 日本眼科医会アレルギー眼疾患調査研究費, アレルギー結膜疾患の疫学調査

索引 <五十音索引>

	氏名	所属	職名	ページ
ア	相川 広一	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	助教	361
	相野田 紀子	医学教育学【旧 医学教育・情報学】	准教授	73
	赤井 卓也	脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	准教授	243
	赤尾 浩慶	循環制御学(循環器内科学)	助教	82
	赤澤 純代	生活習慣病センター	助教	391
	秋田 利明	心血管外科学(胸部外科学)	教授	198
	朝井 悦夫	生命科学科目(自然科学)【旧 生物学】	准教授	10
	浅香 充宏	腎機能治療学(腎臓内科学)	准教授	116
	浅地 孝能	循環制御学(循環器内科学)	准教授	78
	足立 浩樹	腎機能治療学(腎臓内科学)	助教	119
	渥美 浩克	腎機能治療学(腎臓内科学)	助教	125
	阿部 真也	環境皮膚科学(皮膚科学)	学内講師	299
	天津 榮子	高齢看護学	教授	368
イ	飯田 隆昭	脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	講師	245
	飯塚 秀明	脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	教授	242
	伊川 廣道	臓器機能再建学(小児外科学)	教授	268
	井口 晶晴	呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	学内講師	94
	池田 照明	生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 医動物学】	准教授	57
	池田 友美	発生発達医学(小児科学)	助教	172
	石井 健夫	泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	助教	316
	石川 暁	精神神経科学(神経精神医学)	助教	185
	石垣 靖人	共同利用部門(RI センター)	講師	398
	石神 慶一郎	高齢医学(老年病学)	助教	160
	石崎 宏	皮膚真菌学研究部門	客員教授	410
	石崎 昌夫	社会環境保健医学(衛生学)	准教授	65
	石崎 康子	環境皮膚科学(皮膚科学)	学内講師	301
	石橋 隆治	人間科学領域	教授	374
	石政 寛	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	助教	288
	市川 秀隆	生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 医動物学】	学内講師	59
	市堰 徹	運動機能病態学(整形外科)	助教	234
	伊藤 透	内視鏡科	准教授	382
	伊藤 智彦	内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	学内講師	132
	伊藤 順庸	発生発達医学(小児科学)	助教	167
	井上 弘一	生殖周産期医学(産科婦人科学)	助教	324
	井上 義人	人類遺伝学研究部門(生化)	講師	396
	今泉 範子	内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	助教	133

	氏名	所属	職名	ページ
	今村 秀嗣	腎機能治療学(腎臓内科学)	助教	118
	井村 淳子	腎機能治療学(腎臓内科学)	助教	126
	岩井 邦充	高齢医学(老年病学)	准教授	154
	岩崎 真三	精神神経科学(神経精神医学)	講師	175
	岩崎 紀子	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	助教	289
	岩淵 邦芳	ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅰ】	准教授	35
ウ	上田 忠司	先進医療研究部門	助教	406
	上田 文夫	生命科学科目(体育学)	講師	18
	上田 善道	病理病態学(病理学Ⅱ)	教授	47
	上西 博章	循環制御学(循環器内科学)	学内講師	81
	上原 啓吾	内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	助教	138
	薄田 勝男	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	准教授	360
	内田 真紀	成人看護学	助教	367
	梅原 久範	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	教授	139
エ	江夏 偉岳	精神神経科学(神経精神医学)	助教	179
	榎本 仁	機能再建外科学(形成外科学)	助教	263
オ	及川 卓	呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	助教	97
	及川 陽三郎	生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 医動物学】	学内講師	58
	及川 理恵子	呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	助教	100
	大黒 正志	高齢医学(老年病学)	助教	159
	大口 学	放射線診断治療学(放射線医学)	講師	193
	太田 清隆	放射線診断治療学(放射線医学)	助教	196
	太田 隆英	分子腫瘍学研究部門	准教授	408
	大塚 俊美	消化器機能治療学(消化器内科学)	助教	112
	大原 義朗	生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 微生物学】	教授	49
	岡田 直樹	発生発達医学(小児科学)	助教	171
	岡田 正人	人間科学領域	教授	375
	岡村 英之	消化器機能治療学(消化器内科学)	助教	105
	岡本 一也	脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	学内講師	247
	小川原 雅隆	運動機能病態学(整形外科)	助教	231
	奥田 鉄人	運動機能病態学(整形外科)	講師	228
	奥山 宏	腎機能治療学(腎臓内科学)	助教	120
	長内 和弘	呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	准教授	91
	尾崎 一晶	消化器機能治療学(消化器内科学)	助教	106
	表 和彦	消化器外科治療学(消化器外科学)	講師	213
	尾山 勝信	消化器外科治療学(消化器外科学)	助教	222
カ	垣内 無一	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	助教	150
	柿崎 謙一	人間科学科目(外国語)【旧 英語】	講師	12

	氏名	所属	職名	ページ
	柿沼 宏明	人間科学領域	教授	376
	梶波 康二	循環制御学(循環器内科学)	教授	76
	鮎野 健一	循環制御学(循環器内科学)	助教	87
	勝田 省吾	病理病態学(病理学Ⅱ)	教授	46
	加藤 伸郎	生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅰ】	教授	27
	兼氏 歩	運動機能病態学(整形外科科学)	講師	226
	金山 景錫	顎口腔機能病態学(口腔科学)	講師	337
	亀廣 摩弥	精神神経科学(神経精神医学)	助教	180
	鴨田 佐知子	生活習慣病センター	助教	393
	唐澤 紀幸	侵襲制御学(麻酔学)	助教	333
	Carla Jane Curry	人間科学科目(外国語)【旧 英語】	講師	13
	河合 康幸	循環制御学(循環器内科学)	講師	80
	川浦 健	内視鏡科	助教	383
	川上 重彦	機能再建外科学(形成外科学)	教授	253
	河上 裕	感覚機能病態学(眼科学)	助教	279
	河崎 昌子	環境皮膚科学(皮膚科学)	講師	297
	河南 崇典	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	助教	144
	川原 弘	消化器機能治療学(消化器内科学)	准教授	103
	川村 和之	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	助教	152
	川村 研二	泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	講師	310
	川村 友美	精神神経科学(神経精神医学)	助教	186
	神田 享勉	総合内科学(総合診療科)	教授	353
	神野 正明	心血管外科学(胸部外科学)	助教	204
キ	木越 俊和	内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	教授	129
	岸邊 美幸	機能再建外科学(形成外科学)	学内講師	256
	北岡 和代	精神看護学	教授	364
	北川 和子	感覚機能病態学(眼科学)	教授	276
	北田 宗弘	生活習慣病センター	助教	392
	北村 修	法医学	教授	71
	北村 憲司	運動機能病態学(整形外科科学)	助教	235
	北村 みわ	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	助教	292
	北本 福美	精神神経科学(神経精神医学)	学内講師	178
	北山 道彦	循環制御学(循環器内科学)	准教授	79
	木下 英理子	病態診断医学(臨床病理学)	助教	64
	清澤 旬	心血管外科学(胸部外科学)	助教	208
	金 哲雄	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	助教	145
ク	釘抜 康明	健康管理センター	学内講師	387
	日下 一也	健康管理センター	助教	388

	氏名	所属	職名	ページ
	久原 とみ子	人類遺伝学研究部門(生化)	教授	394
	窪田 孝	精神神経科学(神経精神医学)	准教授	174
	倉田 康孝	生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅱ】	准教授	31
	栗原 孝行	共同利用部門(形態機器センター)	講師	400
	黒澤 智子	機能再建外科学(形成外科学)	助教	260
	黒瀬 望	病態診断医学(臨床病理学)	助教	63
	黒田 尚宏	医学教育学【旧 医学教育・情報学】	助教	75
	黒田 雅利	消化器外科治療学(消化器外科学)	助教	221
コ	小泉 葉月	精神神経科学(神経精神医学)	助教	181
	小岩 大輔	精神神経科学(神経精神医学)	助教	182
	高 永煥	発生発達医学(小児科学)	教授	162
	公地 宗弘	人間科学科目(外国語)【旧 ドイツ語】	講師	15
	甲野 裕之	人間科学領域	教授	377
	河野 美幸	臓器機能再建学(小児外科学)	准教授	269
	小坂 健夫	消化器外科治療学(消化器外科学)	教授	211
	小島 好司	呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	助教	101
	小島 正美	人間科学領域	准教授	380
	小西 一典	内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	助教	137
	小沼 邦男	臓器機能再建学(小児外科学)	講師	270
	小畑 貴司	心血管外科学(胸部外科学)	助教	205
	小林 あずさ	発生発達医学(小児科学)	学内講師	165
	木南 利栄子	分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅱ】	学内講師	26
	古家 大祐	内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	教授	128
ゴ	後藤 哲郎	救急医学	助教	347
	権藤 雄一郎	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	助教	151
サ	斎藤 孔良	生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 微生物学】	助教	52
	斎藤 人志	消化器外科治療学(消化器外科学)	教授	212
	齊藤 峰輝	生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 微生物学】	准教授	50
	酒井 あや	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	助教	293
	坂井 恵子	基礎看護学	准教授	363
	坂本 滋	心血管外科学(胸部外科学)	教授	199
	佐川 元保	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	教授	359
	佐久間 勉	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	教授	358
	櫻井 勝	健康管理センター	助教	390
	笹川 泰生	脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	助教	248
	佐々木 一之	環境原性視覚病態研究部門	客員教授	411
	佐々木 洋	感覚機能病態学(眼科学)	教授	274
	篠倉 千早	生殖周産期医学(産科婦人科学)	助教	325

	氏名	所属	職名	ページ
	笹野 京子	母性看護学	准教授	370
	佐竹 主道	循環制御学(循環器内科学)	助教	85
	皐月 玲子	機能再建外科学(形成外科学)	助教	267
	佐藤 勝明	病理病態学(病理学Ⅱ)	講師	48
	佐藤 仁志	発生発達医学(小児科学)	助教	170
	佐藤 良子	循環制御学(循環器内科学)	助教	86
シ	四方 裕夫	心血管外科学(胸部外科学)	教授	200
	篠川 靖夫	機能再建外科学(形成外科学)	助教	262
	篠原 治道	分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅱ】	教授	23
	芝本 利重	生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅱ】	教授	30
	澁谷 良穂	人間科学科目(外国語)【旧 英語】	教授	11
	島崎 猛夫	腫瘍治療学	助教	352
	島田 賢一	機能再建外科学(形成外科学)	講師	254
	島田 ひろき	分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅰ】	講師	21
	島中 公志	消化器機能治療学(消化器内科学)	助教	107
	島村 英理子	分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅰ】	学内講師	22
	清水 聡	精神神経科学(神経精神医学)	助教	187
	清水 昌寿	代替基礎医学(血清学)	准教授	54
	霜 知浩	侵襲制御学(麻酔学)	助教	330
	下川 隆	分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅱ】	准教授	24
	下出 祐造	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	学内講師	287
	白石 美治	侵襲制御学(麻酔学)	学内講師	329
	白神 俊祐	脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	助教	249
	白枝 昌子	消化器機能治療学(消化器内科学)	助教	108
	白枝 久和	内視鏡センター	助教	381
	新家 敏弘	人類遺伝学研究部門(生化)	准教授	395
ジ	地引 逸亀	精神神経科学(神経精神医学)	教授	173
ス	菅 幸大	泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	助教	312
	須貝 外喜夫	生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅰ】	准教授	28
	菅谷 純一	消化器外科治療学(消化器外科学)	助教	217
	杉江 茂幸	腫瘍病理学(病理学Ⅰ)	教授	44
	杉谷 道男	生命科学科目(自然科学)【旧 物理学】	准教授	6
	杉森 端三	運動機能病態学(整形外科)	講師	229
	鈴鹿 有子	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	准教授	283
	鈴木 孝治	泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	教授	307
セ	瀬上 夏樹	顎口腔機能病態学(口腔科学)	教授	335
	関 純彦	侵襲制御学(麻酔学)	准教授	328
ソ	宗 志平	共同利用部門(動物飼育センター)	講師	399

	氏名	所属	職名	ページ
タ	高木 弘明	生殖周産期医学(産科婦人科学)	助教	326
	高島 茂樹	消化器外科治療学(消化器外科学)	教授	210
	高瀬 修二郎	消化器機能治療学(消化器内科学)	教授	102
	高田 久	脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	講師	246
	高野 博充	生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅱ】	助教	33
	高橋 孝	総合内科学(総合診療科)	准教授	354
	高橋 知子	放射線診断治療学(放射線医学)	助教	197
	高橋 弘昭	発生発達医学(小児科学)	教授	161
	高橋 昌克	呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	学内講師	93
	高橋 基浩	顎口腔機能病態学(口腔科学)	助教	339
	高林 晴夫	人類遺伝学研究部門(臨床)	准教授	397
	竹上 勉	分子腫瘍学研究部門	教授	407
	竹田 公信	環境皮膚科学(皮膚科学)	助教	302
	竹田 健史	循環制御学(循環器内科学)	助教	83
	竹田 浩一	人間科学科目(人文科学)	准教授	3
	舘 由貴	呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	助教	99
	刀川 信幸	環境皮膚科学(皮膚科学)	助教	303
	立花 修	脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	准教授	244
	橘 宏典	泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	助教	315
	田中 卓二	腫瘍病理学(病理学Ⅰ)	教授	43
	田中 達朗	泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	准教授	308
	田中 真生	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	講師	143
	田中 弓子	消化器外科治療学(消化器外科学)	学内講師	216
	田邊 洋	環境皮膚科学(皮膚科学)	准教授	296
	谷浦 直子	生体感染防御学(微生物学・医動物学)【旧 微生物学】	助教	51
	谷口 充	放射線診断治療学(放射線医学)	講師	194
	田村 幸子	成人看護学	教授	365
	田村 暢熙	生命科学科目(体育学)	教授	16
	俵 友恵	基礎看護学	教授	362
ダ	伊達 孝保	ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅰ】	教授	34
チ	近沢 逸平	泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	助教	313
	近澤 芳寛	腎機能治療学(腎臓内科学)	助教	121
ツ	塚田 トキエ	母性看護学	教授	369
	津川 博一	循環制御学(循環器内科学)	准教授	77
	辻 裕之	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	准教授	284
	津田 真一	内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	助教	134
	土島 睦	消化器機能治療学(消化器内科学)	学内講師	104
	土田 英昭	侵襲制御学(麻酔学)	教授	327

	氏名	所属	職名	ページ
デ ト	土原 一真	呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	助教	96
	土屋 博	高齢医学(老年病学)	講師	155
	鶴岡 直樹	ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅱ】	助教	40
	出村 昇	顎口腔機能病態学(口腔科学)	講師	338
	榑 博久	呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	教授	90
	徳永 亨介	泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	助教	314
	利波 久雄	放射線診断治療学(放射線医学)	教授	189
	戸部 勇保	呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	助教	95
	富澤 英樹	生殖周産期医学(産科婦人科学)	学内講師	321
	友杉 直久	先進医療研究部門	教授	404
ナ	友田 幸一	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	教授	282
	中泉 俊彦	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	助教	290
	中泉 裕子	感覚機能病態学(眼科学)	教授	275
	中川 淳	内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	准教授	130
	中川 研	呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	助教	98
	中川 東夫	精神神経科学(神経精神医学)	講師	176
	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	教授	68
	中川 卓	腎機能治療学(腎臓内科学)	助教	122
	中島 日出夫	腫瘍治療学	講師	351
	中田 麻里	救急医学	助教	349
	中田 実	社会環境保健医学(衛生学)	講師	66
	中西 恵美	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	助教	149
	中西 由美子	健康管理センター	講師	385
	中野 泰治	消化器外科治療学(消化器外科学)	学内講師	214
	中橋 毅	高齢医学(老年病学)	講師	156
	中村 清	生命科学科目(自然科学)【旧 物理学】	講師	7
	中村 常之	発生発達医学(小児科学)	学内講師	164
	中村 利美	発生発達医学(小児科学)	助教	166
	永井 康太	感覚機能病態学(眼科学)	助教	278
	永石 彰子	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	助教	148
	長尾 壽和	顎口腔機能病態学(口腔科学)	助教	340
	長尾 嘉信	先進医療研究部門	准教授	405
	長山 成美	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	講師	147
	永吉 靖弘	心血管外科学(胸部外科学)	学内講師	202
	南野 壽利	精神神経科学(神経精神医学)	助教	183
ニ	西浦 里英	顎口腔機能病態学(口腔科学)	助教	341
	西尾 眞友	生体情報薬理学(薬理学)	教授	41
	西川 高広	放射線診断治療学(放射線医学)	学内講師	195

	氏名	所属	職名	ページ
ノ	西澤 永晃	心血管外科学(胸部外科学)	学内講師	203
	西澤 誠	内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	講師	131
	西条 旨子	健康増進予防医学(公衆衛生学)	准教授	70
	西部 泰弘	機能再建外科学(形成外科学)	助教	259
	納富 憲二	運動機能病態学(整形外科)	助教	232
	野口 康久	心血管外科学(胸部外科学)	助教	207
	野島 孝之	病態診断医学(臨床病理学)	教授	60
	野中 利通	心血管外科学(胸部外科学)	助教	206
	登坂 由香	社会環境保健医学(衛生学)	学内講師	67
	野村 祐介	循環制御学(循環器内科学)	助教	88
ハ	萩原 健太	感覚機能病態学(眼科学)	助教	281
	橋本 光正	ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅰ】	助教	37
	長谷井 麻希	環境皮膚科学(皮膚科学)	助教	306
	長谷川 泰介	消化器外科治療学(消化器外科学)	助教	218
	長谷川 広樹	心血管外科学(胸部外科学)	助教	209
	波多野 栄重	運動機能病態学(整形外科)	助教	236
	八田 稔久	分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅰ】	教授	19
	浜崎 優子	地域看護学	助教	372
	林 圭	消化器外科治療学(消化器外科学)	助教	223
	林 伸彦	消化器機能治療学(消化器内科学)	助教	113
	林 信行	救急医学	助教	345
	早瀬 満	健康管理センター	講師	386
	羽山 智之	腎機能治療学(腎臓内科学)	助教	123
	原 亮	人間科学科目(外国語)【旧 ドイツ語】	准教授	14
	原島 要人	機能再建外科学(形成外科学)	助教	264
	東 光太郎	放射線診断治療学(放射線医学)	教授	190
	東 伸明	分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅰ】	講師	20
	飛田 研二	心血管外科学(胸部外科学)	准教授	201
	氷見 祐二	機能再建外科学(形成外科学)	助教	261
ヒ	平口 哲夫	人間科学科目(人文科学)	教授	2
	平山 恵美子	成人看護学	准教授	366
	廣瀬 優子	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	教授	140
	廣村 健太郎	運動機能病態学(整形外科)	助教	237
	廣保 究	精神神経科学(神経精神医学)	助教	184
フ	黄 正寿	呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	講師	92
	福井 清数	運動機能病態学(整形外科)	助教	238
	福岡 直	侵襲制御学(麻酔学)	助教	331
	福島 俊洋	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	准教授	141

	氏名	所属	職名	ページ
	福田 正道	感覚機能病態学(眼科学)	講師	277
	福永 壽晴	病態診断医学(臨床病理学)	講師	62
	福岡 和美	地域看護学	教授	371
	福村 敦	消化器機能治療学(消化器内科学)	助教	109
	福本 泰規	臓器機能再建学(小児外科学)	助教	272
	福羅 匡普	消化器機能治療学(消化器内科学)	助教	110
	藤井 俊樹	環境皮膚科学(皮膚科学)	学内講師	300
	藤井 亮太	生殖周産期医学(産科婦人科学)	講師	319
	藤岡 央	循環制御学(循環器内科学)	助教	84
	藤川 孝三郎	細胞医学研究部門	教授	401
	藤木 拓磨	発生発達医学(小児科学)	助教	169
	藤田 智子	生殖周産期医学(産科婦人科学)	助教	322
	藤田 純	環境皮膚科学(皮膚科学)	助教	305
	藤田 拓也	運動機能病態学(整形外科)	講師	225
	藤田 信之	感覚機能病態学(眼科学)	助教	280
	藤本 圭司	腎機能治療学(腎臓内科学)	助教	127
	古屋 圭介	内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	助教	135
木	細川 栄隆	運動機能病態学(整形外科)	助教	233
	堀 有行	医学教育学【旧 医学教育・情報学】	准教授	74
	堀 功	生命科学科目(自然科学)【旧 生物学】	教授	9
	堀内 桂	侵襲制御学(麻酔学)	助教	332
	堀口 章子	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	学内講師	286
	本庄 美穂	顎口腔機能病態学(口腔科学)	助教	342
	本多 隆文	人間科学領域	准教授	379
マ	前岡 勇人	運動機能病態学(整形外科)	学内講師	230
	前島 勝之	内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	助教	136
	前田 修子	在宅看護学	講師	373
	前田 雅代	生命科学科目(自然科学)【旧 化学】	講師	8
	牧野田 知	生殖周産期医学(産科婦人科学)	教授	318
	正木 康史	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	准教授	142
	真柴 智	救急医学	学内講師	344
	増田 信二	精神神経科学(神経精神医学)	助教	188
	増山 宏明	臓器機能再建学(小児外科学)	学内講師	271
	松井 忍	先進医療研究部門	教授	403
	松井 理	ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅰ】	助教	36
	松井 真	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	教授	146
	松田 博男	人間科学科目(数学)	教授	4
	松田 芳郎	健康管理センター	教授	384

	氏名	所属	職名	ページ
	松野 栄雄	代替基礎医学(血清学)	講師	55
	松葉 慎太郎	代替基礎医学(血清学)	助教	56
	松本 忠美	運動機能病態学(整形外科学)	教授	224
	的場 宗孝	放射線診断治療学(放射線医学)	准教授	191
ミ	三秋 恒平	運動機能病態学(整形外科学)	助教	241
	三浦 克之	健康増進予防医学(公衆衛生学)	准教授	69
	水沼 真理子	救急医学	助教	348
	湊 宏	病態診断医学(臨床病理学)	教授	61
	宮内 英二	高齢医学(老年病学)	講師	157
	宮越 稔	細胞医学研究部門	助教	402
	宮澤 克人	泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	准教授	309
	宮澤 徹	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	助教	291
	宮下 松樹	機能再建外科学(形成外科学)	助教	266
	宮前 俊一	生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅱ】	講師	32
ム	向井 弘圭	消化器外科治療学(消化器外科学)	助教	219
	村井 裕	高齢医学(老年病学)	学内講師	158
	村上 学	分子腫瘍学研究部門	助教	409
	村坂 憲史	脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	助教	250
	村田 英之	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	講師	285
モ	望月 隆	環境皮膚科学(皮膚科学)	教授	295
	元雄 良治	腫瘍治療学	教授	350
	本山 敦士	循環制御学(循環器内科学)	助教	89
	森河 裕子	人間科学領域	教授	378
	森田 恭子	腎機能治療学(腎臓内科学)	助教	124
	森田 展代	泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	助教	317
	盛田 英樹	救急医学	助教	346
	森田 礼時	機能再建外科学(形成外科学)	助教	265
	森村 絵里	臓器機能再建学(小児外科学)	助教	273
	森本 茂人	高齢医学(老年病学)	教授	153
	守屋 純二	総合内科学(総合診療科)	助教	356
	森山 学	泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	講師	311
ヤ	安井 由美子	腫瘍病理学(病理学Ⅰ)	助教	45
	安高 悟	分子細胞形態科学(解剖学)【旧 解剖学Ⅱ】	学内講師	25
	安田 幸雄	医学教育学【旧 医学教育・情報学】	教授	72
	安田 佳史	運動機能病態学(整形外科学)	助教	239
	柳瀬 卓也	発生発達医学(小児科学)	学内講師	163
	矢野 博一	消化器機能治療学(消化器内科学)	助教	111
	藪野 喜利	健康管理センター	助教	389

	氏名	所属	職名	ページ
	山岡 祐子	侵襲制御学(麻酔学)	助教	334
	山川 淳一	総合内科学(総合診療科)	助教	355
	山口 宣夫	代替基礎医学(血清学)	教授	53
	山口 昌夫	運動機能病態学(リハビリ科)	教授	357
	山下 昌信	機能再建外科学(形成外科学)	助教	258
	山科 忠彦	生命科学科目(体育学)	准教授	17
	山田 奏子	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	助教	294
	山田 兼吾	運動機能病態学(整形外科)	助教	240
	山田 真善	消化器機能治療学(消化器内科学)	助教	114
	山田 裕一	金沢医科大学	学長	1
	山村 淳一	発生発達医学(小児科学)	助教	168
	山本 謙二	脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	助教	251
	山本 治郎	脳脊髄神経治療学(脳神経外科学)	助教	252
	山元 康德	機能再建外科学(形成外科学)	学内講師	257
	山本 亮	生理機能制御学(生理学)【旧 生理学Ⅰ】	助教	29
	山谷 秀喜	腎機能治療学(腎臓内科学)	学内講師	117
ヨ	横井 美樹	消化器外科治療学(消化器外科学)	助教	220
	横田 啓	放射線診断治療学(放射線医学)	准教授	192
	横山 仁	腎機能治療学(腎臓内科学)	教授	115
	横山 光輝	運動機能病態学(整形外科)	講師	227
	吉竹 佳の	ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅱ】	准教授	39
	吉谷 新一郎	消化器外科治療学(消化器外科学)	学内講師	215
	吉田 純	機能再建外科学(形成外科学)	学内講師	255
	吉田 純子	生体情報薬理学(薬理学)	講師	42
	吉野 健一	人間科学科目(数学)	准教授	5
	吉村 弘	顎口腔機能病態学(口腔科学)	准教授	336
	米倉 秀人	ゲノム医科学(生化学)【旧 生化学Ⅱ】	教授	38
ワ	若松 伸彦	環境皮膚科学(皮膚科学)	助教	304
	早稻田 智夫	生殖周産期医学(産科婦人科学)	助教	323
	渡辺 健一郎	精神神経科学(神経精神医学)	講師	177
	渡邊 晴二	環境皮膚科学(皮膚科学)	講師	298
	渡邊 之夫	生殖周産期医学(産科婦人科学)	講師	320
	和藤 幸弘	救急医学	教授	343

金沢医科大学 研究者一覧 2007年版

平成20年2月発行

編 集	研究業績管理委員会
発 行 所	金沢医科大学出版局
	〒920-0293
	石川県河北郡内灘町大学1丁目1番地
	電話 (076)286-2211(代表)

禁 無 断 転 載